

Canon

EOS *Kiss*
X10i



詳細ガイド

J

目次

はじめに	9
カメラと主な付属品	10
使用説明書について	11
すぐ撮影するには	12
このガイドについて	16
使用できるカードについて	18
安全上のご注意	19
取り扱い上のご注意	22
各部の名称	24
ソフトウェア	34
準備と基本操作	38
バッテリーを充電する	39
バッテリーを入れる／取り出す	42
カードを入れる／取り出す	45
モニターを使う	49
電源を入れる	51
レンズを取り付ける／取り外す	54
基本操作	58
画面の表示レベルを設定する	70
メニュー機能の操作と設定	81
クイック設定	88
画面にタッチして操作する	95
モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）	97
自分を撮影する（自分撮り）	101
かんたん撮影ゾーン	103
全自動撮影（シーンインテリジェントオート）	104
スペシャルシーンモード	115
ポートレートモード	118
美肌モード	119
集合写真モード	120

風景モード	121
クローズアップモード	122
スポーツモード	123
キッズモード	124
料理モード	126
キャンドルライトモード	127
夜景ポートレートモード	128
手持ち夜景モード	130
HDR逆光補正モード	132
クリエイティブフィルターモード	133
応用撮影ゾーン	139
プログラムAEモード (P)	140
シャッター優先AEモード (Tv)	143
絞り優先AEモード (Av)	146
マニュアル露出モード (M)	150
長時間露光 (バルブ) 撮影	154
ミラーアップ撮影	156
AF/ドライブ/露出の設定	158
AF動作	159
測距エリアとAFフレームの選択 (ファインダー撮影)	165
AF方式の選択 (ライブビュー撮影)	172
手動ピント合わせ (マニュアルフォーカス)	184
ドライブモード	189
セルフタイマー撮影	191
リモコン撮影	193
測光モード	195
露出補正	197
露出の固定 (AEロック)	199
ストロボ撮影	201
内蔵ストロボ撮影	202
ストロボ機能の設定	207
外部ストロボ撮影	224

光通信ワイヤレスストロボ撮影	226
簡単ワイヤレス	229
詳細ワイヤレス	234
撮影	248
静止画撮影	249
メニュー目次：静止画撮影（ファインダー撮影）	250
メニュー目次：静止画撮影（ライブビュー撮影）	254
記録画質	258
静止画アスペクト比	262
撮影画像の確認時間	264
カードなしリリース	265
レンズ光学補正	266
露出補正/AEB設定	272
ISO感度に関する設定（静止画）	274
オートライティングオブティマイザ	279
高輝度側・階調優先	281
測光タイマー（ライブビュー撮影）	282
ホワイトバランスの設定	283
ホワイトバランスの補正	290
色空間	293
ピクチャースタイルの選択	294
ピクチャースタイルの調整	298
ピクチャースタイルの登録	303
ノイズ低減機能	306
ゴミ消し情報の付加	310
フリッカーレス撮影	315
コンティニュアスAF（ライブビュー撮影）	317
レンズの電子式手動フォーカス	318
AF補助光の投光	319
静止画撮影全般の注意事項	321
動画撮影	325
メニュー目次：動画撮影	326

動画撮影	329
HDR動画	339
クリエイティブフィルター	341
動画記録サイズ	346
デジタルズーム	353
動画セルフタイマー	355
録音	356
動画電子IS	359
タイムラプス動画	361
ビデオスナップ	372
動画サーボAF	380
その他のメニュー機能	382
動画撮影全般の注意事項	387
再生	389
メニュー目次：再生タブ	391
画像の再生	394
インデックス表示（複数画像表示）	397
画像の拡大表示	402
動画の再生	404
動画の前後部分のカット	408
4K動画／4Kタイムラプス動画からのフレームの切り出し	411
テレビで見る	414
画像プロテクト	416
静止画の回転	420
動画の回転情報の変更	422
画像消去	424
印刷指定／DPOF	431
フォトブック指定	437
クリエイティブフィルター	441
RAW現像	444
クリエイティブアシスト	453
クイック設定からのRAW現像	456
赤目補正	457

アルバム編集.....	459
トリミング.....	463
リサイズ.....	466
レーティング.....	468
スライドショー.....	474
画像検索の条件設定.....	478
メイン電子ダイヤルでの画像送り.....	481
ヒストグラム.....	483
AFフレーム表示.....	485
前回の画像から再生.....	486
HDMI HDR出力.....	487
無線通信機能.....	488
メニュー目次：無線通信設定タブ.....	490
Wi-Fi/Bluetooth接続.....	492
スマートフォンと通信.....	494
パソコンとWi-Fi接続.....	535
プリンターとWi-Fi接続.....	546
Webサービスへ画像を送信.....	560
アクセスポイントを使用したWi-Fi接続.....	576
ワイヤレスリモコンと接続.....	584
2回目以降のWi-Fi接続.....	588
複数の接続設定の登録.....	590
Wi-Fi設定.....	591
Bluetooth設定.....	592
ニックネーム.....	593
GPS機器の設定.....	594
接続設定の変更／削除.....	599
機内モード.....	601
無線通信の設定初期化.....	602
情報表示画面.....	603
仮想キーボードの操作方法.....	604
エラー表示の対応.....	605
無線通信機能での注意事項.....	613

セキュリティについて.....	617
ネットワークの設定を確認する.....	618
無線通信機能の接続状態.....	619
機能設定.....	621
メニュー目次：機能設定タブ.....	622
フォルダ選択.....	627
画像番号.....	630
縦位置画像回転表示.....	635
動画縦位置情報の付加.....	637
カード初期化.....	638
オートパワーオフ.....	641
画面の明るさ.....	642
モニター消灯／点灯.....	643
日付／時刻／エリア.....	644
言語.....	649
ビデオ方式.....	650
タッチ操作.....	651
電子音.....	652
バッテリー情報.....	653
センサークリーニング.....	655
ファインダー内表示.....	659
INFOボタンで表示する内容.....	662
撮影時のグリッド.....	664
動画撮影時のシャッターボタンの機能.....	666
AFフレーム選択ボタンとAEロックボタンの入換.....	668
HDMI出力解像度.....	669
マルチ電子ロック.....	670
カスタム機能（C.Fn）.....	672
設定解除.....	684
著作権情報.....	686
その他の情報.....	689
マイメニュー.....	690

メニュー目次：マイメニュータブ.....	691
マイメニューの登録.....	692
資料.....	698
パソコンへの画像の取り込み.....	699
家庭用電源アクセサリ.....	701
故障かな？と思ったら.....	703
エラー表示.....	719
システム図.....	720
動画撮影時のISO感度.....	722
情報表示.....	723
AFセンサーについて.....	736
使用レンズとAF測距（ファインダー撮影）.....	737
主な仕様.....	752
商標・ライセンスについて.....	764

はじめに

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに[安全上のご注意](#)、および[取り扱い上のご注意](#)をお読みください。また、この「詳細ガイド」をよく読んで正しくお使いください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- [カメラと主な付属品](#)
- [使用説明書について](#)
- [すぐ撮影するには](#)
- [このガイドについて](#)
- [使用できるカードについて](#)
- [安全上のご注意](#)
- [取り扱い上のご注意](#)
- [各部の名称](#)
- [ソフトウェア](#)

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ
(アイカップ、ボディキャップ付き)



バッテリーパック LP-E17
(保護カバー付き)



充電器 バッテリーチャージャー LC-E17



ストラップ

- メモリーカード (📁)、インターフェースケーブル、HDMIケーブルは付属していません。
- レンズキットをお買い上げのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。

⚠ 注意

- レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください (📄)。
なお、レンズの使用説明書 (PDFファイル) は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリーが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

使用説明書について



製品に付属している冊子は、カメラとWi-Fi機能の基本的な使い方をまとめた「使用説明書」です。

- **詳細ガイド**

すべての使い方は、この「詳細ガイド」で説明しています。
最新の詳細ガイドは、下記のサイトでご確認ください。

<https://cam.start.canon/C002/>



- **レンズ/ソフトウェア使用説明書**

下記のサイトからダウンロードしてください。

<https://cam.start.canon/>

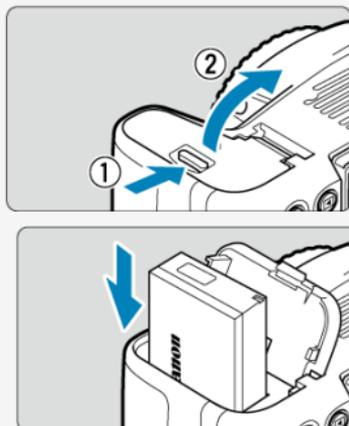


参考

- [📄: 使用説明書・ソフトウェア URL] を選ぶと、カメラのモニターにQRコードを表示できます。

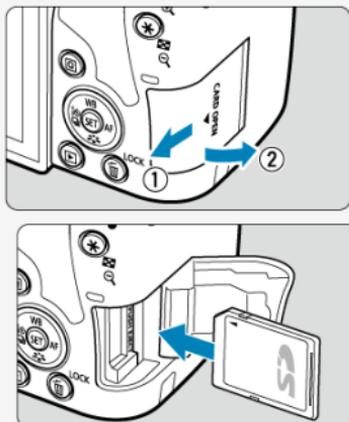
すぐ撮影するには

1. バッテリーを入れる (🔋)



- 購入時はバッテリーを充電してからお使いください (🔋)。

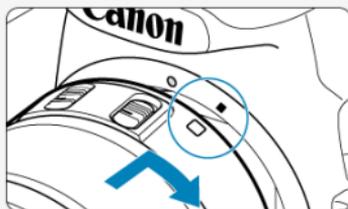
2. カードを入れる (💾)



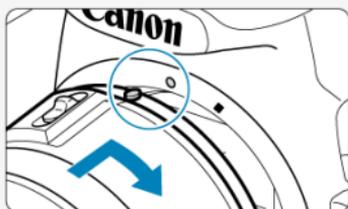
- カードの表を、カメラの背面側にして差し込みます。

3. レンズを取り付ける (🔗)

白い指標

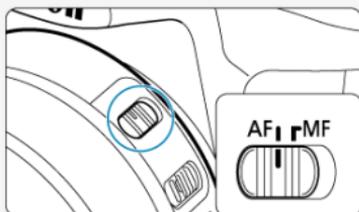


赤い指標

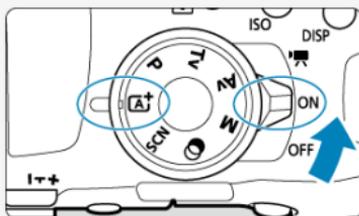


- レンズとカメラのレンズ取り付け指標（白または赤）を合わせて取り付けます。

4. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする (🔗)

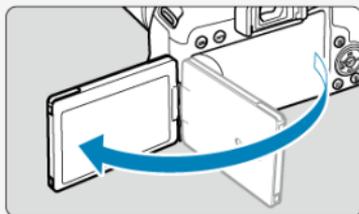


5. 電源スイッチを〈ON〉にして、モードダイヤルを〈A+〉にする (☑、☑)



- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

6. モニターを開いてセットする (☑)



- モニターに「日付/時刻/エリア」の設定画面が表示されたときは、[日付](#) / [時刻](#) / [エリア](#)を参照してください。

7. ピントを合わせる (☑)



- ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。
- ファインダー内に〈〉が点滅するときは、内蔵ストロボを手で上げてください。

8. 撮影する (📷)



- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9. 撮影した画像を確認する



- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます (📷)。
 - <▶> ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます (📷)。
-
- モニターを見ながら撮影するときは、[モニターを見ながら撮影する \(ライブビュー撮影\)](#)を参照してください。

このガイドについて

- [☑ 本文中の絵文字について](#)
- [☑ 操作説明の前提と作例写真について](#)

本文中の絵文字について

	メイン電子ダイヤルを示しています。
	サブ電子ダイヤルを示しています。
	サブ電子ダイヤルを押す方向を示しています。
	設定ボタンを示しています。
	クイック設定ボタンを示しています。
	操作ボタンから指を離したあと、タイマー機能により、ボタンを押した状態が*秒間保持されることを示しています。

- その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやモニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

	ページタイトル右の  は、応用撮影ゾーン (<P> <Tv> <Av> <M> モード) および動画マニュアル露出撮影限定の機能であることを示しています。
	関連トピックへのリンクを示しています。
	撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
	補足説明や補足事項を記載しています。
	上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
	困ったときの助けになる内容を記載しています。

操作説明の前提と作例写真について

- 電源スイッチが〈ON〉、マルチ電子ロック機能がオフになっていることを前提に説明しています (②、③)。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF-S18-55mmレンズを取り付けた状態で説明しています。
- カメラに表示される作例写真や、このガイドで使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。

使用できるカードについて

カードの容量に関わらず下記のカードが使用できます。なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（🔗）。

- SD/SDHC/SDXCメモリーカード
UHS-I対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録サイズに適応する性能（書き込み/読み取り速度）を備えた、大容量のカードを使用してください。詳しくは[動画が記録できるカード](#)を参照してください。



このガイドでは、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

* 画像を記録するカードは付属していません。別途ご購入ください。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。
お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。



警告

死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- 乳幼児の手の届くところに置かない。
ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
カメラ、アクセサリーの部品や付属品を飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。
- 電池を飲み込むと危険です。飲み込んだときは、すぐ医師に相談してください。
 - 指定外の電源は使わない。
 - 分解や改造をしない。
 - 強い衝撃や振動を与えない。
 - 破損したときは、内部に触れない。
 - 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
 - アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
 - 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
 - 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。
- 感電、破裂、火災の原因となります。
 - レンズやレンズを付けたカメラは、レンズキャップを外した状態で放置しない。
光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。
 - ファインダーがある製品では、ファインダーで強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）を見ない。
- 視力障害の原因となります。
 - 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。
感電の原因となります。
 - バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
 - 指定外の製品で使わない。
 - 熱したり、火中投入しない。
 - 指定外の製品で充電しない。
 - 端子に他の金属や金属製のピンやゴミを触れさせない。
 - 液漏れしたものは使わない。
 - 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。
- 感電、破裂、火災の原因となります。
液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。
- バッテリーチャージャーを使うときは、次のことに注意する。
 - 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
 - ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
 - 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
 - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
- 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
- 使用中および使用后すぐに、製品に布などをかけない。

- コードを引っ張って電源プラグを抜かない。
- 電源に長時間つないだままにしない。
- 5°C~40°Cの範囲外で充電しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

- 長時間、身体と同じ部位に触れさせたまま使わない。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。

- 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。

電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となる恐れがあります。

⚠️注意

傷害を負う可能性がある内容です。

- ストロボを目に近付けて発光しない。

目をいためる恐れがあります。

- 長い時間、ファインダーや画面を見続けたい。

乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。

- ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。

やけどや故障の原因となります。

- 製品を高温や低温となる場所に放置しない。

製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。

- ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。

- レンズを強く押ししたり、ぶつけたりしない。

けがやカメラの故障の原因となります。

- 三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。

- カメラを三脚につけたまま移動しない。

けがや事故の原因となります。

- 製品の内部には手を入れない。

けがの原因となります。

- 使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風に当たったときは固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のプロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行くと、カメラの温度が高くなる場合があります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

モニターについて

- モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくとも自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

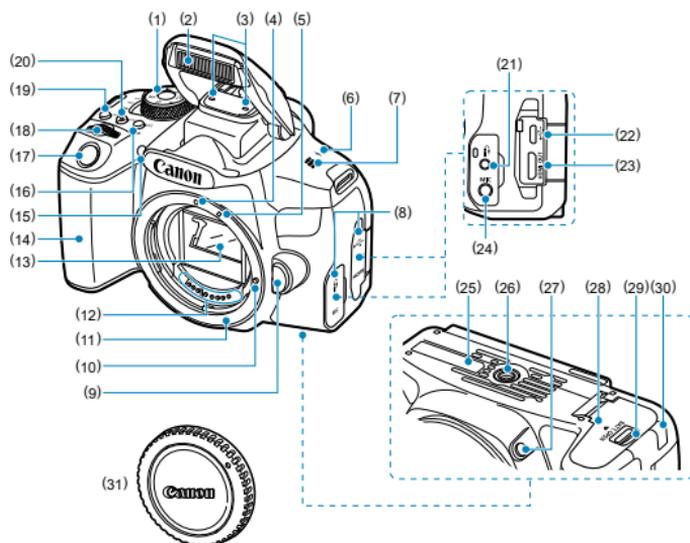
撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかにも、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。汚れが画像に写り込むときは、できるだけ修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

レンズについて

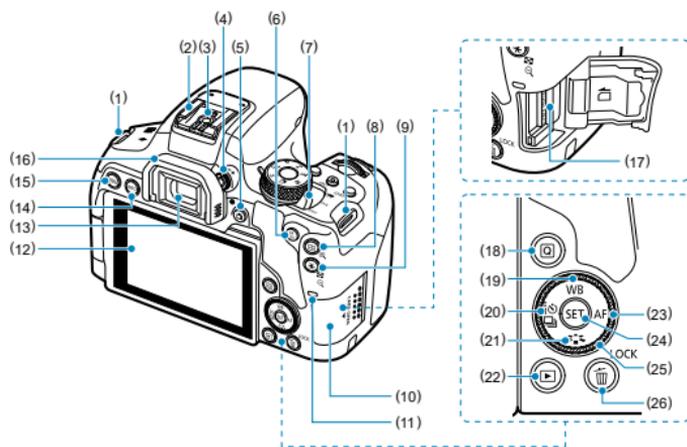
- レンズを取り外したときは、接点 (1) やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



各部の名称

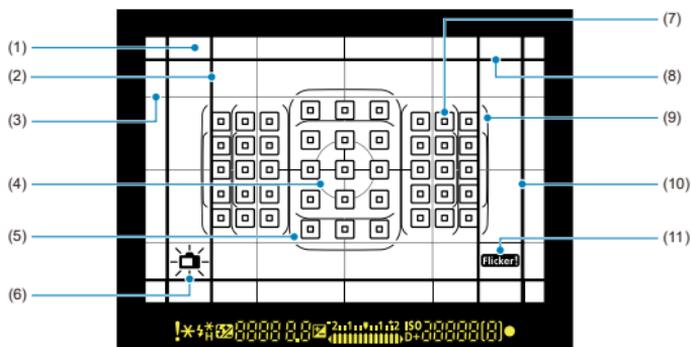


-
- (1) モードダイヤル
 - (2) 内蔵ストロボ/AF補助光投光部
 - (3) マイク
 - (4) EFレンズ取り付け指標
 - (5) EF-Sレンズ取り付け指標
 - (6)  撮像面マーク
 - (7) スピーカー
 - (8) 端子カバー
 - (9) レンズロック解除ボタン
 - (10) レンズロックピン
 - (11) レンズマウント
 - (12) 接点
 - (13) ミラー
 - (14) グリップ
 - (15) 赤目緩和/セルフタイマーランプ
 - (16)  測距エリア/AF方式選択ボタン
 - (17) シャッターボタン
 - (18)  メイン電子ダイヤル
 - (19) **<DISP>** ディスプレイボタン
 - (20) **<ISO>** ISO感度設定ボタン
 - (21)  リモコン端子
 - (22)  デジタル端子
 - (23) **<HDMI OUT>** HDMIミニ出力端子
 - (24) **<MIC>** 外部マイク入力端子
 - (25) シリアル番号
 - (26) 三脚ねじ穴
 - (27) 絞り込みボタン
 - (28) バッテリー収納部ふた
 - (29) バッテリー収納部ふたロック
 - (30) DCコード通し部
 - (31) ボディキャップ
-



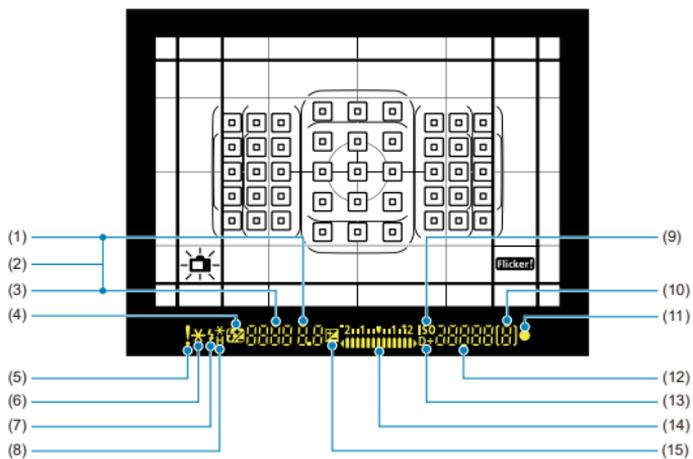
-
- (1) ストラップ取り付け部
 - (2) アクセサリーシュー
 - (3) シンク口接点
 - (4) 視度調整つまみ
 - (5)  ライブビュー撮影／動画撮影ボタン
ファインダー表示から、ライブビュー表示に切り換えます。電源スイッチが  のときは、動画が撮影できます。
 - (6)  AFスタートボタン
 - (7) 電源スイッチ
 - (8)  AFフレーム選択／ 拡大ボタン
 - (9)  AEロック／FEロック／  インデックス／縮小ボタン
 - (10) カードスロットカバー
 - (11) アクセスランプ
 - (12) モニター
 - (13) ファインダー接眼部
 - (14)  インフォボタン
 - (15)  メニューボタン
 - (16) アイカップ
 - (17) カードスロット
 - (18)  クイック設定ボタン
 - (19)  上／ホワイトバランス選択ボタン
 - (20)  左／セルフタイマー／ドライブモード選択ボタン
 - (21)  下／ピクチャースタイル選択ボタン
 - (22)  再生ボタン
 - (23)  右／AF動作選択ボタン
 - (24)  設定ボタン
 - (25)  サブ電子ダイヤル
 - (26)  消去／ LOCKボタン
-

ファインダー内表示



- (1) フォーカシングスクリーン
- (2) アスペクト線 (1:1)
- (3) グリッド
- (4) スポット測光範囲
- (5) ラージゾーンAFフレーム
- (6) 水準器
- (7) 〈回〉1点AFフレーム
- (8) アスペクト線 (16:9)
- (9) エリアAFフレーム
- (10) アスペクト線 (4:3)
- (11) 〈Flicker!〉フリッカー検知

* 設定に応じた部分のみ表示されます。



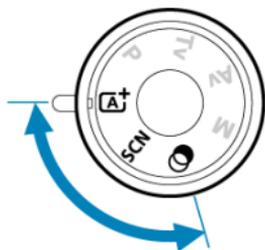
-
- (1) 絞り数値
-
- (2) AFフレーム選択表示
(**[]** AF, SEL **[]**, SEL AF)
-
- (3) シャッタースピード
バルブ (**buLb**)
FEロック (**FEL**)
データ処理中/内蔵ストロボ充電中 (**buSY**)
マルチ電子ロック警告 (**L**)
カード未装填警告 (**Card**)
カードフル警告 (**FuLL**)
カードエラー警告 (**Card**)
エラー表示 (**Err**)
AIバウンスモード中 (**AI_b**)
-
- (4) **[]** ストロボ調光補正
-
- (5) **[!]** 警告表示
-
- (6) **[*]** AEロック
AEB撮影中
-
- (7) **[⚡]** ストロボ使用勧告 (点滅)
ストロボ充電完了 (点灯)
FEロック連動範囲外警告 (点滅)
-
- (8) **[*]** FEロック
FEB撮影中
[H] ハイスピードシンクロ
-
- (9) **[ISO]** ISO表示
-
- (10) 連続撮影可能枚数
-
- (11) **[●]** 合焦マーク
-
- (12) ISO感度
-
- (13) **[D+]** 高輝度側・階調優先
-
- (14) 露出レベル表示
露出補正量
AEBレベル
赤目緩和ランプ点灯
-
- (15) **[]** 露出補正
-

モードダイヤル

モードダイヤルには、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンがあります。

(1) かんたん撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。



A+ : シーンインテリジェントオート (📷)

SCN : スペシャルシーン (📷)

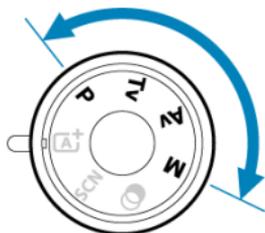
	ポートレート		キッズ
	美肌		料理
	集合写真		キャンドルライト
	風景		夜景ポートレート
	クローズアップ		手持ち夜景
	スポーツ		HDR逆光補正

📷 : クリエイティブフィルター (📷)

	ラフモノクロ		ジオラマ風
	ソフトフォーカス		HDR絵画調標準
	魚眼風		HDRグラフィック調
	水彩風		HDR油彩調
	トイカメラ風		HDRビンテージ調

(2) 応用撮影ゾーン

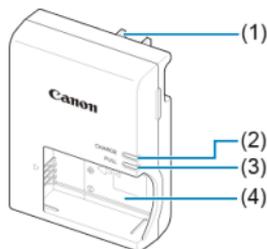
思いどおりのさまざまな撮影ができます。



P	プログラムAE (P)
Tv	シャッター優先AE (Tv)
Av	絞り優先AE (Av)
M	マニュアル露出 (M)

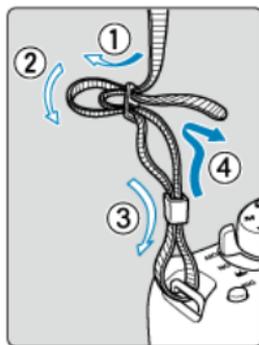
バッテリーチャージャーLC-E17

バッテリーパックLP-E17用の充電器です (🔌)。



- | | |
|-----|------------|
| (1) | 電源プラグ |
| (2) | 充電ランプ |
| (3) | 充電完了ランプ |
| (4) | バッテリー取り付け部 |

ストラップ（吊りひも）の取り付け方



ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

ソフトウェア

- [☑ ソフトウェアの概要](#)
- [☑ EOS用または専用ソフトウェアのダウンロード/インストール](#)
- [☑ ソフトウェア使用説明書のダウンロード](#)

ソフトウェアの概要

EOS用各種ソフトウェアの概要を説明します。なお、ソフトウェアのダウンロード/インストールは、インターネットに接続して行います。インターネット非接続の環境では、ダウンロード/インストールはできません。

EOS Utility (イオスユーティリティ)

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画/動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。また、EOS Sample Music*などのBGMを、カードにコピーすることができます。

*カメラでビデオスナップアルバム、動画、スライドショーを再生するときのBGMとして楽しむことができます。

Digital Photo Professional (デジタルフォトプロフェッショナル)

RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。画像の閲覧・編集・印刷などができます。

Picture Style Editor (ピクチャースタイルエディター)

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

EOS用または専用ソフトウェアのダウンロード/インストール

ソフトウェアは必ず最新版をインストールしてください。
旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合は、上書きインストールしてください。

⚠ 注意

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- インターネットに接続していない状態では、パソコンにソフトウェアをインストールすることはできません。
- 旧バージョンのソフトウェアでは、このカメラで撮影した画像をパソコンで正しく表示できません。また、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。

1. ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。
<https://cam.start.canon/>



- カメラ底面に記載のシリアル番号を入力して、ソフトウェアをダウンロードします。
- パソコン上で解凍します。

- **Windows**

表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。

- **macOS**

dmgファイルが生成/表示されるので、次の手順でインストーラーを起動してください。

- 1.dmgファイルをダブルクリックする

- デスクトップにドライブアイコンと、インストーラーファイルが表示されます。
インストーラーファイルが表示されないときは、ドライブアイコンをダブルクリックすると、インストーラーファイルが表示されます。

- 2.インストーラーファイルをダブルクリックする

- インストーラーが起動します。

2. 画面の指示に従ってインストールする

ソフトウェア使用説明書のダウンロード

ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

- ソフトウェア使用説明書のダウンロードサイト

<https://cam.start.canon/>



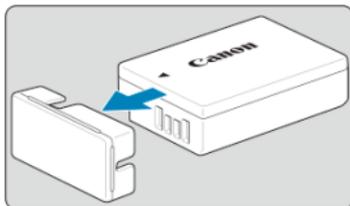
準備と基本操作

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、基本の操作について説明しています。

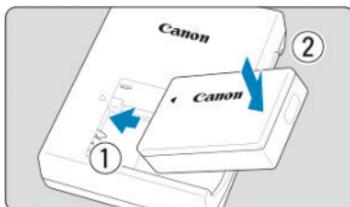
- [バッテリーを充電する](#)
- [バッテリーを入れる／取り出す](#)
- [カードを入れる／取り出す](#)
- [モニターを使う](#)
- [電源を入れる](#)
- [レンズを取り付ける／取り外す](#)
- [基本操作](#)
- [画面の表示レベルを設定する](#)
- [メニュー機能の操作と設定](#)
- [クイック設定](#)
- [画面にタッチして操作する](#)
- [モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）](#)
- [自分を撮影する（自分撮り）](#)

バッテリーを充電する

1. 付属の保護カバーを外す

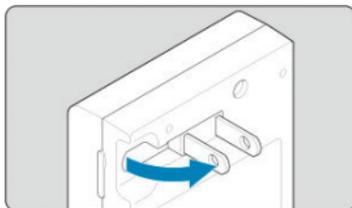


2. バッテリーを充電器にしっかりと取り付ける

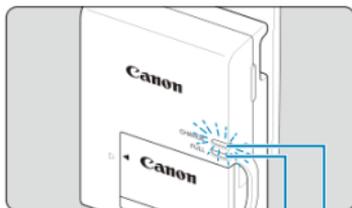


- 取り外しは逆の手順で行います。

3. 充電する



- 充電器のプラグを矢印の方向に起こし、プラグをコンセントに差し込みます。



(2) (1)

- 自動的に充電が始まり、充電ランプ (1) がオレンジ色に点灯します。
- 充電が完了すると、充電完了ランプ (2) が緑色に点灯します。
- **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、常温 (+23°C) で約2時間です。**
なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下 (+5°C~+10°C) では充電時間が長くなります (最長約4時間)。

- **購入時、バッテリーはフル充電されていません**
充電してからお使いください。
- **充電は使用する当日か前日にする**
充電して保管していても、自然放電により少しずつバッテリーの容量が少なくなっています。
- **充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜く**
- **カメラを使わないときは、バッテリーを取り出しておく**
バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態となり、バッテリー寿命短縮の原因となります。バッテリーの保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。
- **充電器は海外でも使うことができる**
充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。
- **フル充電したのにすぐ使えなくなる時はバッテリーの寿命です**
バッテリーの劣化度を確認した上で (☑)、新しいバッテリーをお買い求めください。

! 注意

- 充電器をコンセントから取り外したときは、約5秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E17以外は充電できません。

バッテリーを入れる／取り出す

☑ [入れ方](#)

☑ [取り出し方](#)

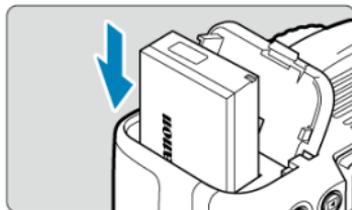
充電したバッテリーパック LP-E17をカメラに入れます。
このカメラのファインダーは、バッテリーを入れると明るくなり、バッテリーを取り出すと暗くなります。また、バッテリーが入っていないときは、ファインダー像がぼやけた状態になるため、ピント合わせはできません。

入れ方

1. バッテリー収納部ふたロックをスライドして、ふたを開ける



2. バッテリーを入れる



- バッテリー接点の方から入れます。
- ロック位置まで入れてください。

3. ふたを閉める



- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

⚠ 注意

- バッテリーパック LP-E17以外は使用できません。

1. ふたを開けて、バッテリーを取り出す



- バッテリーロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、バッテリーを取り出します。
- ショート防止のため、必ずバッテリーに付属の保護カバー (🔒) を取り付けてください。

カードを入れる／取り出す

☑ [入れ方](#)

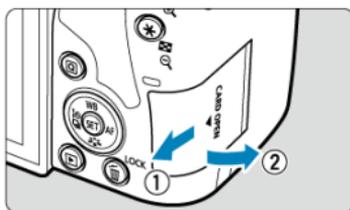
☑ [カードを初期化する](#)

☑ [取り出し方](#)

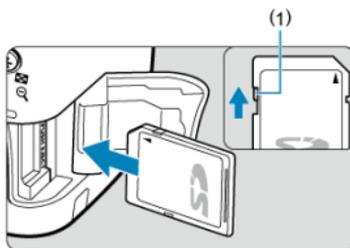
撮影した画像は、カードに記録されます。

入れ方

1. カバーをスライドして、開ける



2. カードを入れる

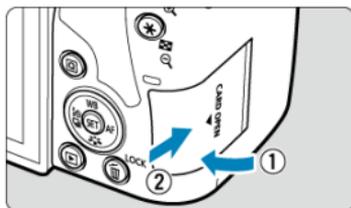


- 図のようにカードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠ 注意

- カードの書き込み禁止スイッチ（1）が上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

3. カバーを閉める

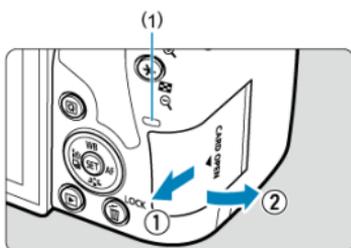


- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでスライドさせます。

カードを初期化する

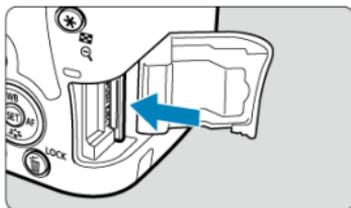
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください (🔗)。

1. カバーを開ける

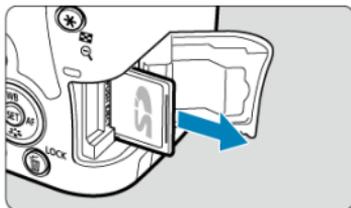


- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- アクセスランプ (1) が消えていることを確認して、カバーを開きます。
- モニターに [書き込み中...] と表示されたときは、カバーを閉じてください。

2. カードを取り出す



- カードを軽く押し込んで離すと出てきます。



- カードをまっすぐに取り出して、カバーを閉じます。

参考

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などの設定により変わります。
- [📷: カードなしレリーズ] を [しない] に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます (🔗)。

注意

- アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。
 - カードを取り出す
 - バッテリーを取り出す
 - カメラ本体に振動や衝撃を与える
 - 電源コードの抜き差しを行う
([家庭用電源アクセサリ](#) (別売) 使用時)
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります (🔗)。
- モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください (🔗)。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード (MMC) は使用できません (カードエラー表示)。

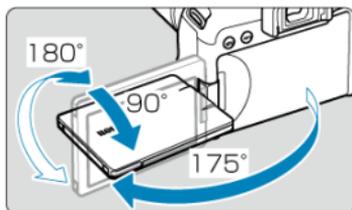
モニターを使う

モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

1. モニターを開く

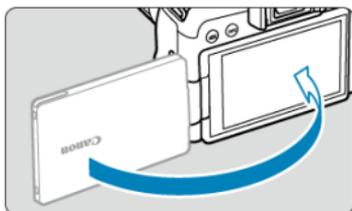


2. モニターを回転させる



- モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。

3. 画面を表向きにする



- 通常は画面を表向きにして使用します。

ⓘ 注意

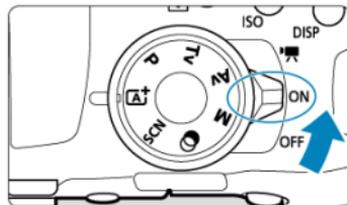
- モニターを無理に回転させて、軸の部分（ヒンジ部）に強い力がかからないようにしてください。
- カメラの端子にケーブルを接続しているときは、モニターを開いた状態での回転範囲が制限されます。

 参考

- カメラを使わないときは、モニターを内側にして閉じてください。画面を保護することができます。

電源を入れる

- ☑ [日付/時刻/エリアの設定](#)
- ☑ [表示言語の変更](#)
- ☑ [撮像素子の自動清掃](#)
- ☑ [バッテリー残量表示](#)



- **<映像>**
カメラが作動します。動画を撮影することができます (📹)。
- **<ON>**
カメラが作動します。静止画を撮影することができます。
- **<OFF>**
カメラは作動しなくなります。カメラを使用しないときはこの位置にします。

日付/時刻/エリアの設定

電源スイッチを入れたときに、**[日付/時刻/エリア]** の設定画面が表示されたときは、[日付/時刻/エリア](#)を参照して日付/時刻/エリアを設定してください。

表示言語の変更

表示言語を変更するときは、[言語](#)を参照してください。

撮像素子の自動清掃

- 電源スイッチを〈ON〉または〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、モニターに [🧹] が表示されます。
- 電源スイッチの〈ON〉 〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、[🧹] が表示されないことがあります。故障ではありません。

参考

- カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、[書き込み中...] が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

バッテリー残量表示

バッテリーの残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたときに表示されます。



	バッテリーの残量は十分です。
	バッテリーの残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。
	まもなくバッテリー切れになります（点滅表示）。
	バッテリーを充電してください。

注意

- 下記の操作を行うとバッテリーが早く消耗します。
 - シャッターボタン半押し状態を長く続ける
 - AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - レンズの手ブレ補正機能を使用する
 - Wi-Fi機能、Bluetooth機能を使用する
 - モニターを頻繁に使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、バッテリーが早く消耗することがあります。
- 低温下ではバッテリーの残量があっても撮影できないことがあります。

参考

- [🔋: バッテリー情報] でバッテリーの状態を確認することができます (🔗)。

レンズを取り付ける／取り外す

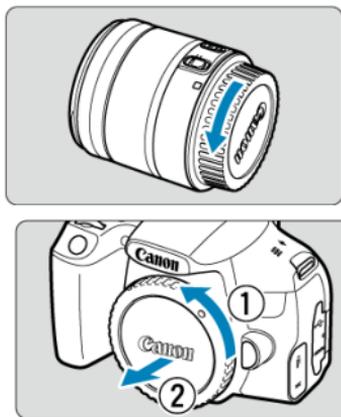
☑ [取り付け方](#)

☑ [取り外し方](#)

すべてのEFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。なお、RFレンズ、EF-Mレンズは使用できません。

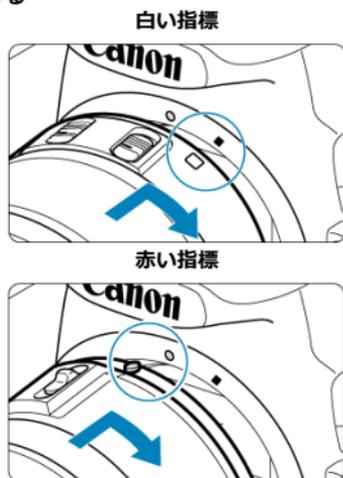
取り付け方

1. キャップを外す



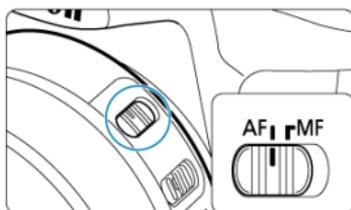
- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2. レンズを取り付ける



- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

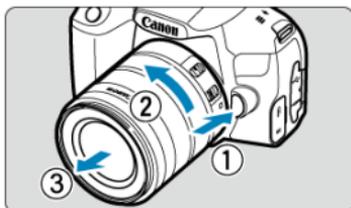
3. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする



- 〈AF〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈MF〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

4. レンズキャップを外す

1. レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す



- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

⚠ 注意

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け/取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

📖 参考

- レンズの使用方法については、レンズの使用説明書を参照してください (📖)。

撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。



- (1) 撮影画面 (約) (22.3 × 14.8mm)
- (2) 35mm判フィルム撮影画面 (36 × 24mm)

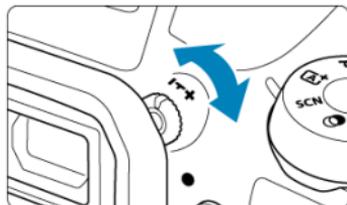
ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください。

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

基本操作

- ☑ [ファインダーの調整](#)
- ☑ [カメラの構え方](#)
- ☑ [シャッターボタン](#)
- ☑ [メイン電子ダイヤル](#)
- ☑ [サブ電子ダイヤル](#)
- ☑ [AFスタートボタン](#) **応用**
- ☑ [LOCKボタン](#)
- ☑ [INFOボタン](#)
- ☑ [DISPボタン](#)

ファインダーの調整



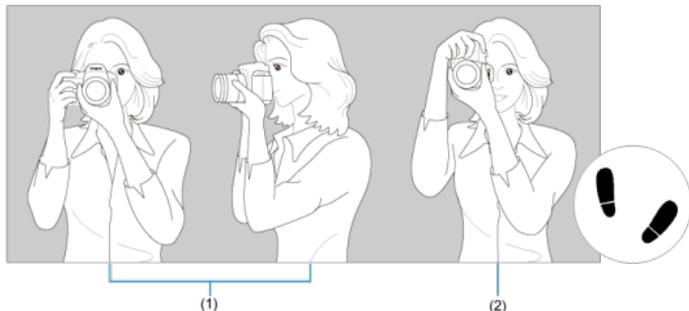
- ファインダー内のAFフレームが最も鮮明に見えるように、視度調整つまみを右または左に回します。
- つまみが回しにくいときは、アイカップを取り外します。

参考

- 視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、視度補正レンズ E（別売）の使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るため、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



(1) 横位置

(2) 縦位置

1. 右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
2. 左手でレンズを下から支えるように持ちます。
3. 右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
4. 脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
5. 片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
6. カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

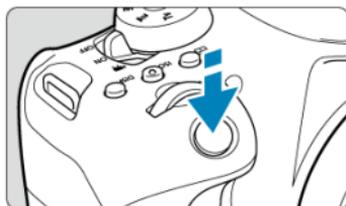
参考

- モニターを見ながら撮影するときは、[モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）](#)を参照してください。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

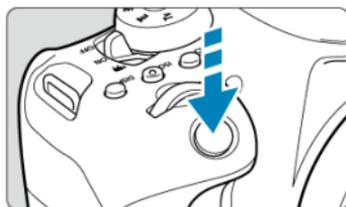
半押し



自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッタースピードと絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッタースピードと絞り数値）が、ファインダー内に約4秒間表示されます（測光タイマー/4）。

全押し



シャッターが切れて撮影されます。

● 手ブレしにくい撮影のしかた

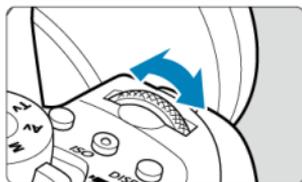
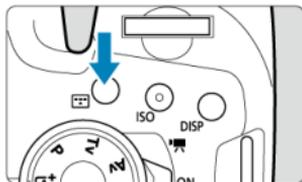
手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るため、次の点に注意してください。

- [カメラの構え方](#)のように、カメラが動かないように構える。
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

 参考

- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

(1) ボタンを押したあと〈〉を回す



〈〉 〈ISO〉 ボタンなどを押すと、その機能の選択状態がタイマーで約6秒間保持されます (6)。その間に〈〉を回します。

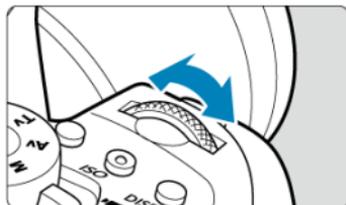
タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 測距エリア選択、ISO感度、AFフレーム、ドライブモード、AF動作、ピクチャースタイルの選択などに使用します。

参考

- マルチ電子ロックがロックの状態 (🔒) でも行うことができます。

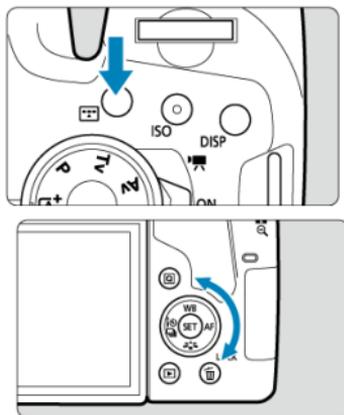
(2) < >のみを回す



ファインダー内の表示を見ながら <  > を回します。

- シャッタースピードや絞り数値の設定などに使用します。

(1) ボタンを押したあと〈○〉を回す



〈〉 〈ISO〉 ボタンなどを押すと、その機能の選択状態がタイマーで約6秒間保持されます (6)。その間に〈○〉を回します。

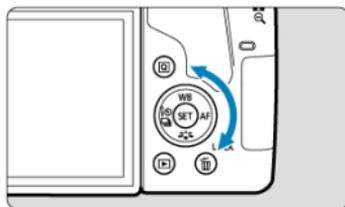
タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 測距エリア選択、ISO感度、AFフレーム、ドライブモード、ホワイトバランス、AF動作、ピクチャスタイルの選択などに使用します。

参考

- マルチ電子ロックがロックの状態 (🔒) でも行うことができます。

(2) 〈○〉のみを回す

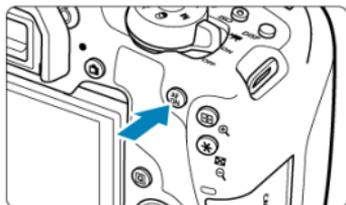


ファインダー内の表示を見ながら〈○〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。
- サブ電子ダイヤルを回すと、項目を選んだり画像の切り換えなどができます。また、一部の操作を除き、〈▲〉 〈▼〉 〈◀〉 〈▶〉と同じ操作ができます。

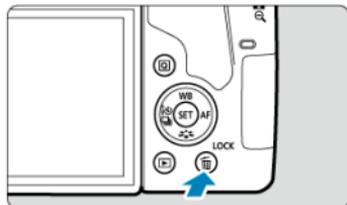
静止画撮影時に撮影モードが応用撮影ゾーンのときは、シャッターボタン半押しと同じ操作を行うことができます (☑)。

また、動画撮影時も、撮影モードが応用撮影ゾーンのときに、ピント合わせを行うことができます。



LOCKボタン

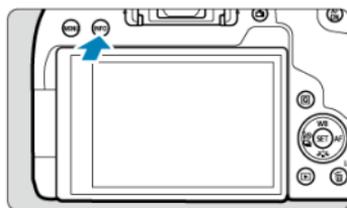
[: マルチ電子ロック] を設定し ()、〈LOCK〉ボタンを押すと、〈〉 〈〉が不用意に動いたり、タッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。



参考

- 〈LOCK〉ボタンを押した状態で、禁止した操作部材を操作すると、ファインダー内に〈L〉、クイック設定画面 () に [**LOCK**] が表示されます。
- 初期状態でロックしたときは、〈〉がロックされます。

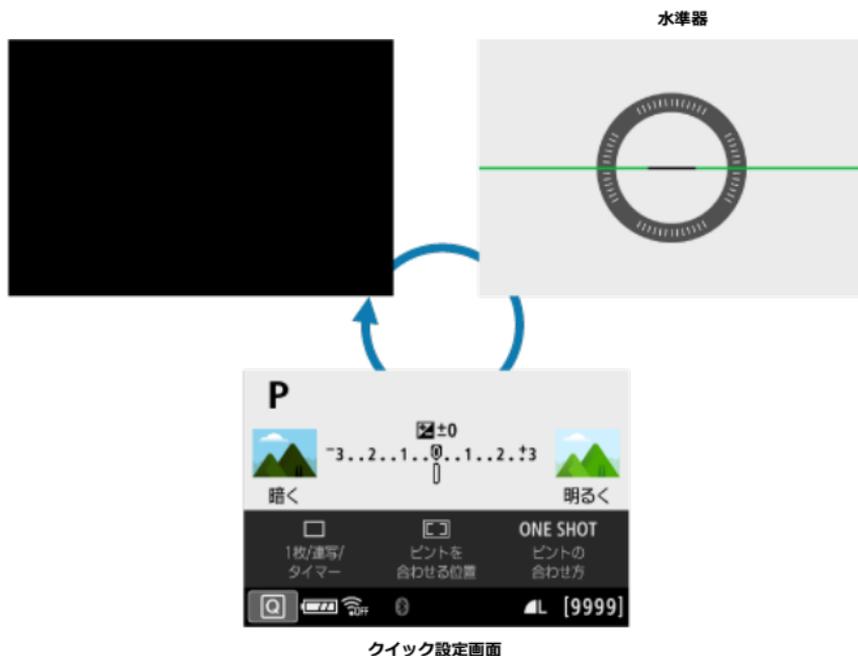
INFOボタン



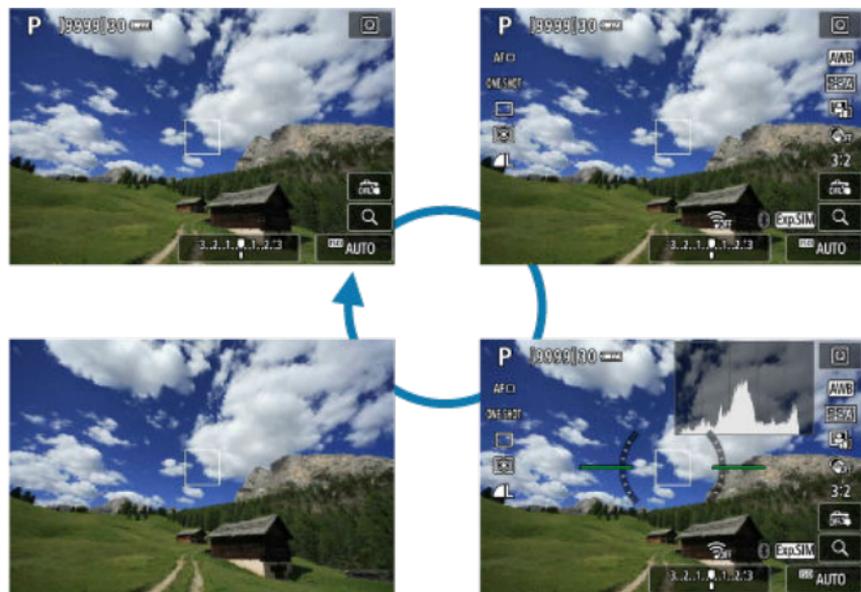
〈INFO〉ボタンを押すたびに情報表示内容が切り換わります。
下記は、静止画撮影時の画面例です。

クイック設定画面の表示中に〈Q〉ボタンを押すと、撮影機能をクイック設定することができます (📷)。

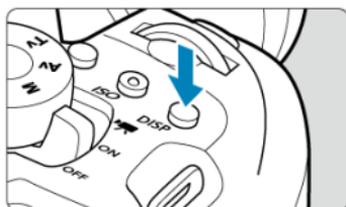
ファインダー撮影時



ライブビュー撮影時



DISPボタン



ファインダー撮影時に、〈DISP〉ボタンを押してモニターの表示・非表示を切り換えることができます。

画面の表示レベルを設定する

- [撮影画面表示](#)
- [メニュー表示](#)
- [撮影モードガイド](#)
- [機能ガイド](#)

自分の好みに合わせて、画面の表示方法を設定することができます。必要に応じて設定を変更してください。

1. メインタブを表示する



- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2. [🔧] タブを選ぶ



- 〈🔧〉を回すか、〈🔍〉の〈◀〉 〈▶〉を押して [🔧] タブを選び、〈SET〉を押します。

撮影画面表示

ファインダー撮影時のクイック設定画面を【標準】、【やさしい】（簡単な表示）から選ぶことができます。初期状態では、【やさしい】に設定されています。

1. [🔧] : 撮影画面表示] を選ぶ



2. 表示方法を選ぶ



画面例

<Q>: やさしい



<Q>: 標準



<Av>: やさしい



<Av>: 標準



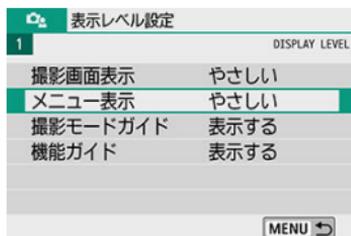
参考

- 応用撮影ゾーンでは、【やさしい】に設定すると、クイック設定画面に表示される項目は、その撮影モードの特徴的な機能に限定されます。なお、【やさしい】設定時にクイック設定画面で設定できない項目は、メニュー画面から設定することができます (☑)。

メニュー表示

メニューの表示方法を [標準]、[やさしい] から選ぶことができます。[やさしい] 設定時は (MENU) ボタンを押すとメニューのメインタブの説明が表示されます。[標準] 設定時は (MENU) ボタンを押すと、そのままメニュー画面に進みます。初期状態では、[やさしい] に設定されています。

1. [🔧:メニュー表示] を選ぶ



2. 表示方法を選ぶ



(1) メインタブ

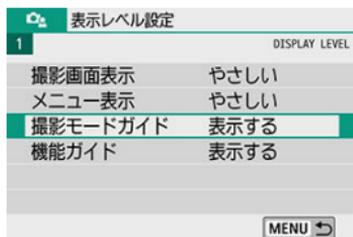
 参考

- [やさしい] に設定しているときは、[★] タブ（マイメニュータブ）は表示されません。マイメニュー (🔗) の設定をするときは、[標準] に変更してください。

撮影モードガイド

撮影モードを変更したときに、撮影モードの説明（撮影モードガイド）を表示することができます。初期状態では、**【表示する】**に設定されています。

1. **【 : 撮影モードガイド】**を選ぶ



2. **【表示する】**を選ぶ

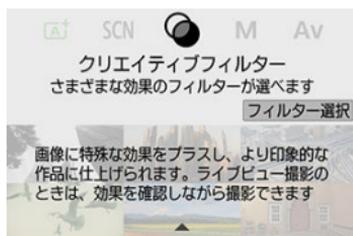


3. モードダイヤルを回す



- 設定した撮影モードの説明が表示されます。

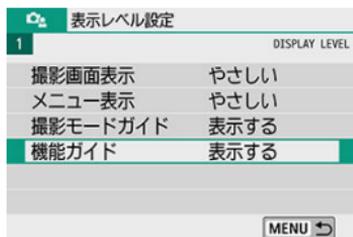
4. 〈▼〉を押す



- さらに、説明が表示されます。
- 〈SET〉を押すと、撮影モードガイドは消えます。
- 〈SCN〉 〈📷〉モードのときは、撮影モードの選択画面が表示されます。

クイック設定時やメニュー設定時に、機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）を表示することができます。初期状態では、**【表示する】**に設定されています。

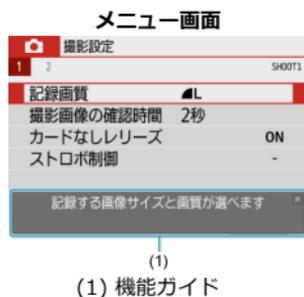
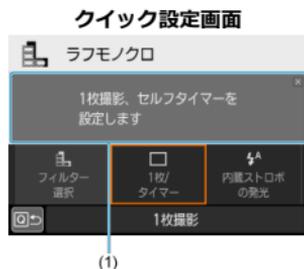
1. **【機能ガイド】**を選ぶ



2. **【表示する】**を選ぶ



画面例



参考

- 説明の表示中に、説明をタッチしたり、操作を続けると説明は消えます。

🔦 撮影のヒント

[📷: 撮影画面表示] を [やさしい] に設定しているとき (🔦)、カメラの設定が下記の場合の場合に、撮影のヒントが表示されます。なお、かんたん撮影ゾーンでは [📷: 撮影画面表示] の設定に関わらず、表示されます。

- 背景をさらにぼかしたいとき (Av モードで絞り数値を最も小さくしたとき)
- 明るすぎる写真になりそうとき
- 暗すぎる写真になりそうとき
- 手ブレしそうとき (かんたん撮影ゾーン時のみ)

1. 枠で囲んだ部分をタッチする



- 撮影のヒントが表示されます。

2. 撮影のヒントを確認する



- 撮影のヒントが長いときは、タッチで画面をスクロールすることができます。
- <🔄> を回すか、<▲> <▼> を押して画面をスクロールすることもできます。

3. [↶] をタッチする



- 表示が消え、手順1の画面に戻ります。
- 〈SET〉を押して表示を消すこともできます。

⚠ 注意

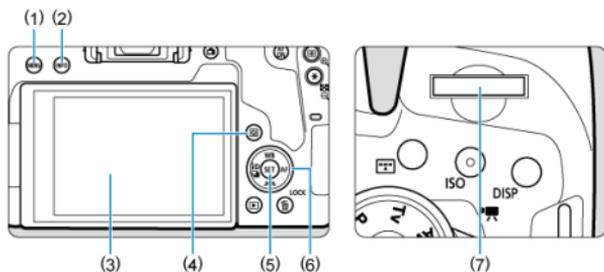
- タッチ操作が無効に設定されているときは、撮影のヒントは表示されません。

メニュー機能の操作と設定

[メニュー画面](#)

[メニュー機能の設定操作](#)

[メニュー項目の灰色表示](#)



(1) 〈MENU〉ボタン

(2) 〈INFO〉ボタン

(3) モニター

(4) 〈〉ボタン

(5) 〈〉ボタン

(6) 〈〉サブ電子ダイヤル

(7) 〈〉メイン電子ダイヤル

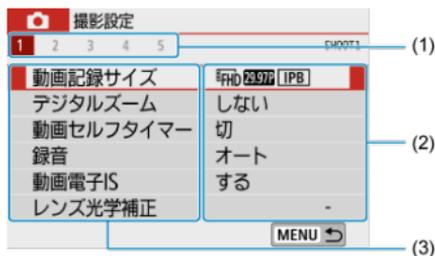
メニュー画面

撮影モードによって、表示されるタブやメニュー項目は異なります。

かんたん撮影ゾーン



動画撮影



応用撮影ゾーン



- (1) サブタブ
- (2) 設定内容
- (3) メニュー項目

[📷 : メニュー表示 : やさしい] 設定時

1. メインタブを表示する



- 〈MENU〉ボタンを押すとメインタブ (1) の説明が表示されます。

2. メインタブを選ぶ

- 〈🌞〉を回すと、メインタブ (系統) が切り換わります。
- 〈📷〉ボタンまたは〈INFO〉ボタンを押して、メインタブを切り換えることもできます。

3. メニューを表示する

- 〈SET〉を押すと表示されます。
- メインタブの画面に戻るときは〈MENU〉ボタンを押します。

4. サブタブを選ぶ



- ◀ (🔍) を回してサブタブを選びます。

5. 項目を選ぶ



- ◀ (🔍) を回して項目を選び、<(SET) を押します。

6. 内容を選ぶ



- ◀ (🔍) を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

7. 内容を設定する



- 〈SET〉を押すと設定されます。
- 初期状態から設定を変更すると、青色で表示されます ([] タブのメニューのみ)。

8. 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを2回押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。

参考

- これ以降のメニュー機能の説明は、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- メニュー画面にタッチしたり、〈▲〉 〈▼〉 〈◀〉 〈▶〉 でメニュー機能の操作を行うこともできます。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

[📷] : メニュー表示 : 標準] 設定時

1. メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

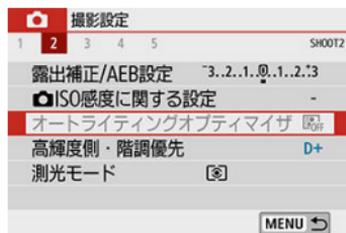
2. タブを選ぶ



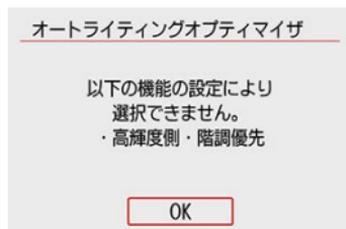
- 〈[Q]〉ボタンまたは〈INFO〉ボタンを押すと、メインタブ (1) が切り換わります。
- 〈[MENU]〉を回してサブタブを選びます。
- これ以降の操作は [📷] : メニュー表示 : やさしい] 設定時と同じです。
[\[📷\] : メニュー表示 : やさしい\] 設定時](#)の手順5から参照してください。
- 設定を終了するときには〈MENU〉ボタンを1回押します。

メニュー項目の灰色表示

例：[高輝度側・階調優先] 設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び(SET)を押すと、優先されている機能を確認することができます。

優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

注意

- 項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

参考

- [設定解除] の [カメラ設定初期化] でメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます (OK)。

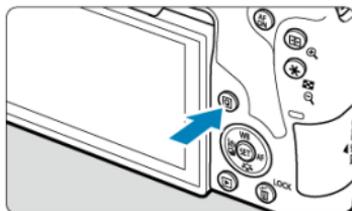
クイック設定

- [ファインダー撮影時](#)
- [ライブビュー／動画撮影時](#)
- [再生時](#)

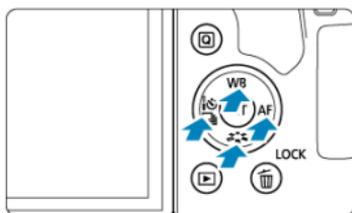
モニターに表示されている項目を直接選択して、設定することができます。

ファインダー撮影時

1.  ボタンを押す (10)



2. 項目を選ぶ



- 〈▲〉 〈▼〉 〈◀〉 〈▶〉 を押して選びます。

応用撮影ゾーン



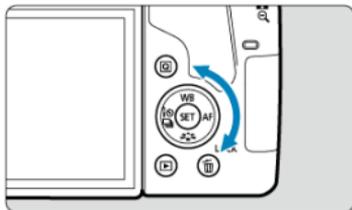
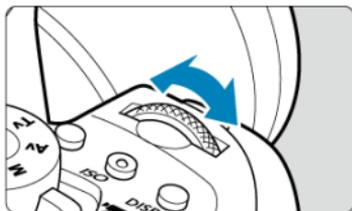
- 〈SET〉 を押します。
- 項目によっては、〈SET〉 を押さずに 〈〉 〈〉 を回して設定することができます。

かんたん撮影ゾーン

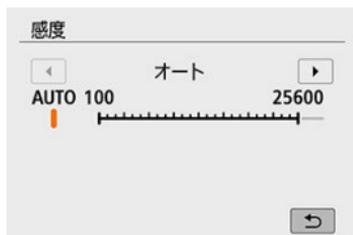


- 〈SET〉 を押します。
- 項目によっては、〈SET〉 を押さずに 〈〉 〈〉 を回して設定することができます。

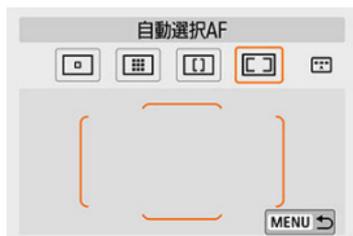
3. 内容を選ぶ



- 〈〉または〈〉を回して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈〉を押すと元の画面に戻ります。



- クイック設定画面の表示中に〈ISO〉ボタンを押すと、設定画面が表示され、〈〉または〈〉を回して設定を変更することができます。



- [] を選んだときは、〈〉ボタンで設定を変更します。設定を終了するときは、〈MENU〉ボタンを押します。

1. 〈Q〉ボタンを押す

2. 項目を選ぶ



- 〈▲〉 〈▼〉を押して選びます。

3. 内容を選ぶ

- 〈☀️〉または〈🕒〉を回して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。
- 画面下側に [SET] が表示される項目は、〈SET〉を押して設定します。
- キャンセルするときは〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈Q〉ボタンを押すと元の画面に戻ります。

⚠️ 注意

- 画像回転を行うときは、[👉：縦位置画像回転表示] を [する📷] に設定してください (👉)。[👉：縦位置画像回転表示] が [する📷] [しない] に設定されているときは、[📷静止画の回転] で選んだ内容は画像に記録されますが、カメラで回転表示は行われません。

 参考

- インデックス表示中に〈Q〉ボタンを押すと、1枚表示に切り換わり、クイック設定状態になります。再度〈Q〉ボタンを押すと、インデックス表示に戻ります。
- 他のカメラで撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

画面にタッチして操作する

☑ [タッチ](#)

☑ [ドラッグ](#)

タッチ

画面例（クイック設定）



- モニターに指を触れて、指を離します。
- 例えば [Q] をタッチすると、クイック設定の状態になります。[Q] をタッチすると、元の画面に戻ります。

参考

- [電子音] を [タッチ音切] に設定すると、タッチ操作時に電子音が鳴らないようになります (☑)。
- [電子音] でタッチしたときの反応を設定することができます (☑)。

ドラッグ

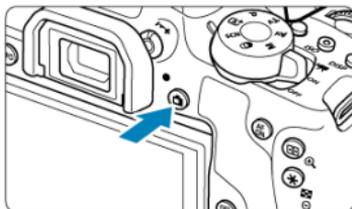
画面例（メニュー画面）



- モニターに指を触れたまま動かします。

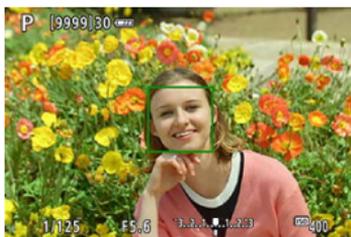
モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）

1. ライブビュー映像を表示する



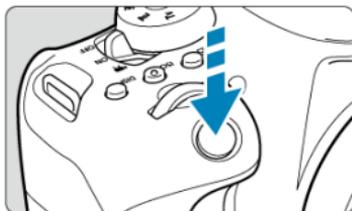
- 〈〉 ボタンを押します。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。

2. ピントを合わせる

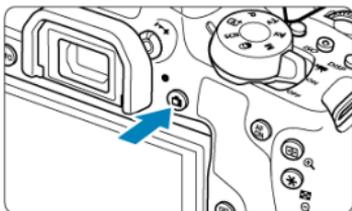


- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- 〈〉 が点滅するときは、内蔵ストロボを手で上げてください。
- 画面にタッチして人物の顔や被写体を選ぶこともできます ()。

3. 撮影する



- シャッターボタンを全押しします。



- 〈〉 ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。

1. タッチシャッター機能を設定する



- 画面右下の [OFF] にタッチします。タッチするたびに、[OFF] と [ON] が切り換わります。
- [ON] (タッチシャッター:する)
タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
- [OFF] (タッチシャッター:しない)
タッチした位置にピントを合わせることができます。シャッターボタンを全押しして撮影します。

2. 画面にタッチして撮影する



- 画面上の顔や被写体にタッチします。設定されているAF方式 (AF-C) で、タッチした位置でピント合わせが行われます (タッチAF)。
- [ON] に設定したときは、ピントが合うとAFフレームが緑色になり、自動的に撮影されます。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色になり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

ⓘ 注意

- ドライブモードの設定にかかわらず、1枚撮影になります。
- AF動作の設定にかかわらず、[ワンショットAF] でピント合わせが行われます。
- 拡大表示中に画面にタッチしても、ピント合わせや撮影は行われません。
- <Q>モードの[魚眼風]設定時は、タッチした位置に関わらず、画面中央のAFフレームでピント合わせが行われます。
- <Q>モードの[シオラマ風]設定時は、タッチシャッターは機能しません。
- [📷: 撮影画像の確認時間]を[ホールド]に設定して撮影を行ったときは、シャッターボタンを半押しすると、次の撮影を行うことができます。

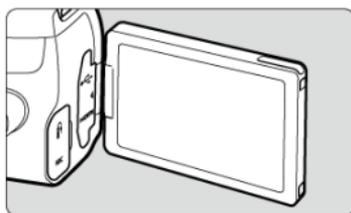
📖 参考

- バルブ撮影時 (🔘) は、1回目のタッチで露光を開始し、2回目のタッチでバルブ撮影が終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。
- [自分撮り] モードでモニターを対面状態をしているときは、セルフタイマーランプ (🔘) は点滅しません。

自分を撮影する（自分撮り）

自分撮り機能では、人物撮影に適した画像処理が行われます。また、背景のぼかしや、明るさ、美肌効果を設定して撮影することができます。

1. モニターを対面状態にする



2. 画面の [📷] にタッチする



- 画面の [📷] にタッチして、[自分撮り] モードにします。

3. 自分撮り機能を設定する



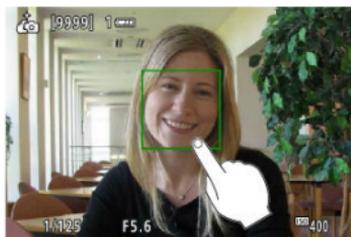
(1) (2)

- 各機能 (1) をタッチして選び、効果を設定します。

4. 撮影する

タッチシャッターを使用する場合

- [OFF] (2) をタッチして [📷] (タッチシャッター:する) に設定します (🔘)。



- ピントを合わせたい位置をタッチして撮影します。

シャッターボタンを使用する場合

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影します。

⚠ 注意

- ピントが合ってから撮影が終了するまで、カメラと自分との距離が変わらないようにしてください。
- カメラを落とさないように注意してください。
- ストロボ撮影はできません。暗い場所などでは手ブレに注意してください。

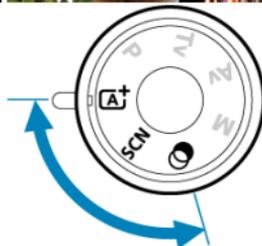
📖 参考

- [自分撮り] は、電源スイッチの〈OFF〉または次の操作で終了します。
 - 画面の [📷] にタッチする
 - モニターの向きを元に戻す
 - 〈📷〉 ボタンを押す
- [自分撮り] モードでモニターを対面状態にしているときは、セルフタイマーランプ (🔘) は点滅しません。

かんたん撮影ゾーン

この章では、モードダイヤルの「かんたん撮影ゾーン」を使って上手に撮影する方法を説明しています。

「かんたん撮影ゾーン」では、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます。



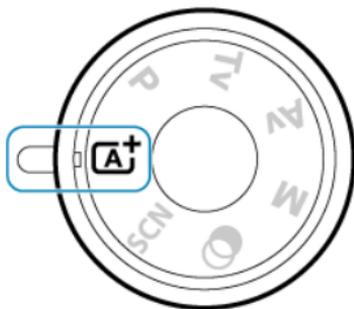
- [全自動撮影（シーンインテリジェントオート）](#)
- [スペシャルシーンモード](#)
- [ポートレートモード](#)
- [美肌モード](#)
- [集合写真モード](#)
- [風景モード](#)
- [クローズアップモード](#)
- [スポーツモード](#)
- [キッズモード](#)
- [料理モード](#)
- [キャンドルライトモード](#)
- [夜景ポートレートモード](#)
- [手持ち夜景モード](#)
- [HDR逆光補正モード](#)
- [クリエイティブフィルターモード](#)

全自動撮影（シーンインテリジェントオート）

- [構図を変えて撮影する](#)
- [動いているものを撮影する](#)
- [シーン判別アイコン](#)
- [設定の変更](#)
- [効果を付けて撮影する（クリエイティブアシスト）](#)

〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的にを行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます (ⓐ)。

1. モードダイヤルを〈A+〉にする

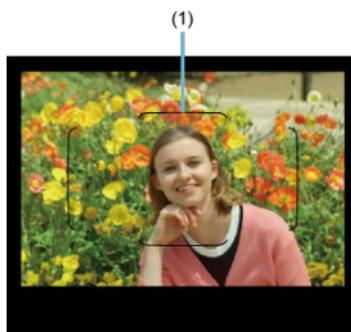


2. 〈SET〉を押す



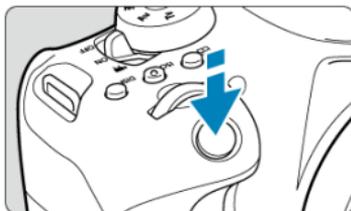
- メッセージを確認して [OK] を選びます。

3. カメラを被写体（写したいもの）に向ける



- 基本的に一番近くにある被写体にピントが合います。
- ファインダー撮影時は、エリアAFフレーム（1）の中央を被写体に重ね合わせると、ピントが合いやすくなります。
- ライブビュー撮影時に、画面に枠（AFフレーム）が表示されているときは、AFフレームを被写体に合わせます。

4. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
が点滅するときは、内蔵ストロボを手で上げてください。

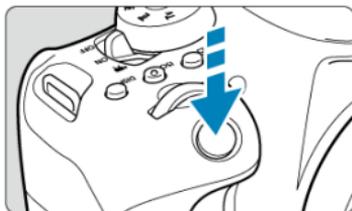
ファインダー撮影時

- ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが表示されます。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク（●）が点灯します。暗い場所では、AFフレームが一瞬赤く光ります。
- 内蔵ストロボが上がっていれば、暗い場所では、必要に応じてAF補助光（ストロボの連続発光）が自動投光されます。

ライブビュー撮影時

- ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが緑色で表示され、同時に「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- 被写体が動いているときは、ピントが合うと、AFフレームが青色で表示され、AFフレームが被写体の動きに追従して動きます。

5. 撮影する



- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。
- 内蔵ストロボを収納するときは、手で押し下げます。

⚠ 注意

- 撮影する被写体や撮影状況などにより、被写体の動き（止まっている／動いている）を適切に検知できないことがあります。

📖 参考

- 〈A+〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮影すると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、撮影モードを応用撮影ゾーン (📷) にして、[A+] 以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください (📷)。

📷ブレの少ない画像の撮影

- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。手ブレを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。撮影機材の重さに耐えられる三脚を使用してください。また、カメラを三脚に確実に固定してください。
- リモートスイッチ (別売/📷)、ワイヤレスリモートコントローラー (別売/📷) などの使用をおすすめします。

?こんなときは

- **ピントが合わない（ファインダー撮影時はファインダー内に〈●〉が点滅、ライブビュー撮影時はAFフレームがオレンジ色に点灯）**
明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（☑）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。
- **複数のAFフレームが同時に表示される**
表示されているすべての位置にピントが合っています。
- **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせが行われない**
レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉になっているときは、〈AF〉にしてください。
- **シャッタースピード（数字）が点滅している**
光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、内蔵または外部ストロボ（☑）を使用して撮影することをおすすめします。
- **暗い写真になった**
あらかじめ内蔵ストロボを上げておくと、日中逆光時や暗い場所で自動的にストロボ撮影となります。
- **暗い場所で内蔵ストロボを上げて撮影したら、内蔵ストロボが連続発光した**
AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続発光することがあります（☑）。
- **ストロボ撮影で、明るい写真になった**
ストロボ撮影時に、被写体が近いと、明るい写真（露出オーバー）になることがあります。被写体から離れて撮影してください。
- **ストロボ撮影で、画面の下側が不自然に暗くなった**
被写体に近づきすぎると、レンズの影が写り込むことがあります。被写体から離れて撮影してください。また、レンズフードは外して撮影してください。

参考

内蔵ストロボを使用しないときは、下記の説明を参考にしてください。

- 手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッタースピード）が点滅します。カメラが動かないように構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズを使用するときは、広角側にすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。
- 暗い場所で人物を撮影するときは、撮影が終わるまで動かないように、写される人に声をかけてください。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

構図を変えて撮影する



シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。

参考

- ライブビュー撮影時に、人の顔を検知してピント合わせが行われたときは、構図を変えても、その顔にピントを合わせ続けます。

動いているものを撮影する



シャッターボタンを半押しすると、被写体の動きに追従してピント合わせが行われます。シャッターボタンを半押ししたまま、被写体をエリアAFフレーム（ファインダー撮影時）または画面内（ライブビュー撮影時）に捉え続け、シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

シーン判別アイコン



カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。ライブビュー撮影時は、判別したシーンのアイコンが画面の左上に表示されます (👤)。

設定の変更



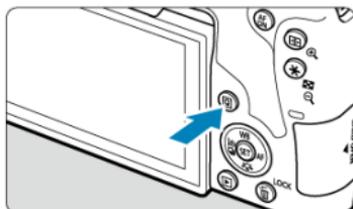
ファインダー撮影時は、〈Q〉ボタンを押して、ドライブモード、内蔵ストロボの発光、クリエイティブアシストの設定を変更することができます。



ライブビュー撮影時は、アイコンにタッチして、内蔵ストロボの発光、ドライブモード、記録画質、タッチシャッター、クリエイティブアシストの設定を変更することができます。

効果を付けて撮影する（クリエイティブアシスト）

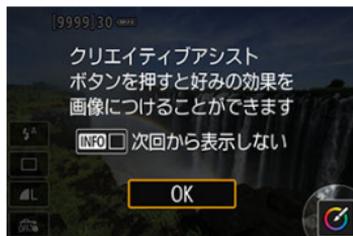
1. 〈Q〉ボタンを押す



- ファインダー撮影時は、〈◀〉 〈▶〉で [クリエイティブアシスト] を選びます。

参考

- ファインダー撮影時は、〈ISO〉ボタンを押して [クリエイティブアシスト] を選ぶこともできます。



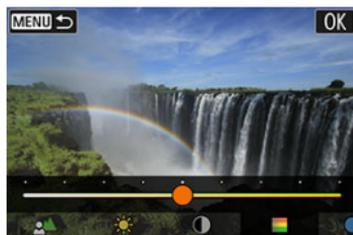
- ライブビュー撮影時は、メッセージを確認して [OK] を選びます。

2. 効果を選ぶ



- 〈〉または〈〉で効果を選び、〈〉を押します。

3. 効果の度合い・内容を選ぶ



- 〈〉または〈〉を回して設定し、〈〉を押します。
- 設定をリセットしたいときは、〈〉ボタンを押して [OK] を選びます。

クリエイティブアシストの効果

- **[] プリセット**
用意された効果の中から選ぶことができます。
[B&W] を設定したときは [鮮やかさ] [色あい1] [色あい2] は選べません。
- **[] 背景ぼかし**
背景のボケ具合を設定することができます。設定値が大きいほど背景がくっきりした画像になります。設定値が小さいほど背景がぼけた画像になります。[オート] に設定したときは、明るさに応じて背景のボケ具合が変わります。レンズの明るさ (F値) によっては、設定できない位置があります。
- **[] 明るさ**
画像の明るさを設定することができます。
- **[] コントラスト**
コントラスト (明暗差) の強さを設定することができます。
- **[] 鮮やかさ**
色の鮮やかさを設定することができます。
- **[] 色あい1**
アンバーとブルーの色あいを設定することができます。
- **[] 色あい2**
グリーンとマゼンタの色あいを設定することができます。
- **[] モノクロ**
モノクロで撮影するときの色調を設定することができます。

参考

- ストロボ撮影時、[背景ぼかし] は設定できません。
- 撮影モードを変更したり電源スイッチを〈OFF〉にすると、設定した内容は初期設定に戻ります。なお、[ : クリエイティブアシスト設定記憶] を [する] に設定しておく、設定が保持されます。

効果の登録

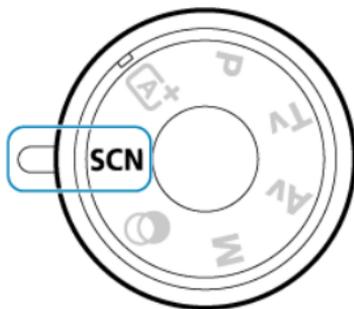
現在の効果をカメラに登録したいときは、[クリエイティブアシスト] の設定画面で〈INFO〉ボタンを押して [OK] を選びます。最大3つまで [プリセット] の [USER*] に登録することができます。すでに3つ登録されているときは、[USER*] のいずれかを上書きする必要があります。

スペシャルシーンモード

被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、撮影に適した機能が自動設定され、カメラまかせで撮影することができます。

* 〈SCN〉はSpecial Scene（スペシャルシーン）の略です。

1. モードダイヤルを〈SCN〉にする



2. 〈SET〉を押す



3. 撮影モードを選ぶ



● 〈〉または〈〉を回して撮影モードを選び、〈SET〉を押します。

 参考

- [: 撮影モードガイド] を [表示しない] に設定しているときは、手順1のあと、
〈Q〉ボタンを押して 〈◀〉 〈▶〉 で [シーン選択] を選び、〈〉 または
〈〉 を回して撮影モードを選び、〈SET〉 を押します。

〈SCN〉モードで設定できる撮影モード

撮影モード			
	ポートレート		キッズ
	美肌		料理
	集合写真		キャンドルライト
	風景		夜景ポートレート
	クローズアップ		手持ち夜景
	スポーツ		HDR逆光補正

参考

-  モードで、ライブビュー撮影を行うことはできません。

ポートレートモード

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、**[👤]**（ポートレート）モードを使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。



🔦 撮影のポイント

- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**

人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

- **望遠レンズを使用する**

ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

- **顔にピントを合わせる**

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが表示されるか（ファインダー撮影時）、AFフレームが緑色になったこと（ライブビュー撮影時）を確認して撮影します。

なお、ライブビュー撮影時に顔をアップで写すときは、**[📷:瞳AF]**を**[する]**に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます。

- **連続撮影する**

初期状態では、**[📷]**（低速連続撮影）に設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続して撮影が行われ、被写体の表情やポーズの変化を写すことができます。

美肌モード

人物の肌をきれいに写したいときは、[美肌] (美肌) モードを使用します。画像処理によって肌がなめらかに見えるような効果を加えることができます。



撮影のポイント

- **顔が検出されるようにする**

美肌効果を加える主被写体が検出されたときに顔に枠が表示されます。被写体の顔に枠が表示されるよう被写体との距離を調整すると、効果的に美肌効果を加えることができます。

- **顔にピントを合わせる**

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが表示されるか（ファインダー撮影時）、AFフレームが緑色になったこと（ライブビュー撮影時）を確認して撮影します。

なお、ライブビュー撮影時に顔をアップで写すときは、[瞳AF] を [する] に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます。

注意

- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正されることがあります。

集合写真モード

集合写真を撮るときは [👥] (集合写真) モードを使用します。手前から奥の人物までピントが合った写真を撮ることができます。



💡撮影のポイント

● 広角レンズを使用する

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、手前から奥の人物までピントが合いやすくなります。また、(人物の全身が写るくらいに) 人物から少し離れると、ピントの合う範囲が前後に広がります。

● 同じシーンを何枚か撮影する

目を閉じてしまう人がいることがあるため、何枚か撮影しておくことをおすすめします。

⚠️ 注意

- 歪曲収差補正が行われるため、画角がわずかに変化します。
- 撮影条件により、手前から奥の人物までピントが合わないことがあります。

📖 参考

- 室内や暗い場所で撮影するときは、三脚の使用をおすすめします。

風景モード

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、 (風景) モードを使用します。空や緑が鮮やかな、くっきりした写真になります。



撮影のポイント

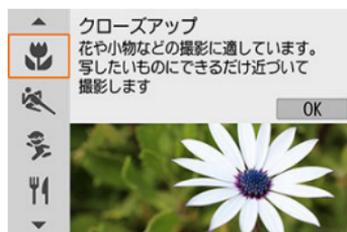
- **ズームレンズは広角側にする**
ズームレンズのときは、レンズを広角側にする、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。
- **夜景を撮影するときは**
三脚の使用をおすすめします。

注意

- 内蔵ストロボが上がった状態で撮影してもストロボは発光しません。
- 外部ストロボ使用時も、ストロボは発光しません。

クローズアップモード

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、**[🌸]** (クローズアップ) モードを使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。



💡撮影のポイント

- **すっきりした背景を選ぶ**
背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。
- **写したいものにできるだけ近づく**
最も近づくことができる距離 (最短撮影距離) は、使用しているレンズで確認してください。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の **(⊖)** (撮像面マーク) から被写体までの距離です。近づきすぎるとピントが合いません。
- **ズームレンズは望遠側にする**
ズームレンズのときは、望遠側になると大きく写すことができます。
- **[🔍] が点滅するとき**
内蔵ストロボを手で上げてください。

スポーツモード

人の走っている姿や乗り物などを撮りたいときは、 (スポーツ) モードを使用します。



☀️ 撮影のポイント

● 望遠レンズを使用する

遠くからでも撮影できるように、望遠レンズの使用をおすすめします。

● エリアAFフレームで被写体を捉え続ける

ファインダー撮影では、エリアAFフレームで被写体を捉えてから、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク (●) が点滅します。

ライブビュー撮影では、シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレームが表示されます。ピントが合うと、AFフレームが青色で表示されます。

● 連続撮影する

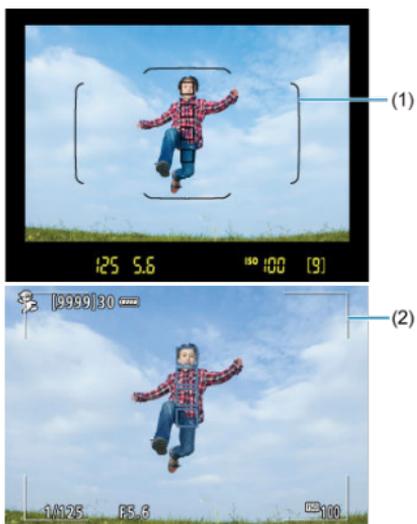
初期状態では、 (高速連続撮影) に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われ、被写体の動きの変化を写すことができます。

❗ 注意

- 手ブレしやすい暗い場所では、左下の数値 (シャッタースピード) が点滅します。カメラが動かないように構えて撮影してください。
- ストロボを使用したときは、連続撮影速度が低下します。

キッズモード

動き回る子供を撮りたいときは、[👶]（キッズ）モードを使用します。肌色が健康的な写真になります。



📷 撮影のポイント

● エリアAFフレームで被写体を捉え続ける

ファインダー撮影では、エリアAFフレーム (1) で被写体を捉えてから、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク (●) が点滅します。ライブビュー撮影では、シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレーム (2) が表示されます。ピントが合うと、AFフレームが青色で表示されます。

● 連続撮影する

初期状態では、[C/H] (高速連続撮影) に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われ、被写体の表情や動きの変化を写すことができます。

● [4] が点滅するとき

内蔵ストロボを手で上げてください。

⚠ 注意

- ライブビュー撮影時、連続撮影中にストロボが発光したときは、連続撮影速度が低下します。その後、ストロボが発光しなくても、連続撮影速度は低下したまま撮影されます。

料理モード

料理を撮りたいときは、[🍴] (料理) モードを使用します。明るく、おいしそうな色あいの写真になります。また、白熱電球下などで撮影するときは、光源による赤みを抑えた写真になります。



📷撮影のポイント

● 色あいを変える

[色あい] を変えることができます。料理の赤みを強めたいときは [暖色] (赤) 側に、赤みが強すぎるときは [寒色] (青) 側に設定を変更して撮影してください。

⚠ 注意

- 赤みのある被写体の色が薄くなる場合があります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボを使用したときは、[色あい] が標準設定に切り換わります。
- 人物を入れて撮影すると、人物が適切な色あいにならないことがあります。

キャンドルライトモード

キャンドルライトに照らされた人物を撮りたいときは、**[Fn]** (キャンドルライト) モードを使用します。キャンドルライトの雰囲気を生かした色あいの写真になります。



撮影のポイント

- **中央のAFフレームでピントを合わせる**
ファインダー中央のAFフレームを人物に合わせて撮影します。
- **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**
手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値 (シャッタースピード) が点滅します。ズームレンズのときは広角側にして、カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚の使用をおすすめします。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。
- **色あいを変える**
[色あい] を変更することができます。キャンドルライトの赤みを強めたいときは [暖色] (赤) 側に、赤みが強すぎるときは [寒色] (青) 側に設定を変更してください。
- **明るさを変える**
[明るさ] を変更することができます。画面が暗いときは+側に、画面が明るいときは-側に設定を変更してください。

注意

- ライブビュー撮影はできません。
- ストロボは発光しません。なお、暗い場所ではAF補助光が光るよう、あらかじめストロボを上げておくことをおすすめします (🔦)。

参考

- AF方式は、[1点AF] 固定です。

夜景ポートレートモード

人物と、その背景にある夜景を明るくきれいに写したいときは、**[P]**（夜景ポートレート）モードを使用します。なお、**撮影には内蔵ストロボまたは外部ストロボが必要です**。三脚の使用をおすすめします。



撮影のポイント

● 広角レンズと三脚を使用する

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚の使用をおすすめします。

● 画像の明るさを確認する

撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。

● 他の撮影モードでも撮影しておく

ブレた写真になりやすいので、**[A+]**モードと**[P]**モードでも撮影しておくことをおすすめします。

⚠ 注意

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- ライブビュー撮影時に人物の顔が暗いときは、ピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを**〈MF〉**にして手動でピントを合わせてください。
- 夜景などをライブビュー撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを**〈MF〉**にして手動でピントを合わせてください。
- ライブビュー映像で表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。

 参考

- セルフタイマー併用時に、ストロボが発光するときは、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

手持ち夜景モード

[📷] (手持ち夜景) モードを使用すると、カメラを手に持ったまま夜景を撮影することができます。この撮影モードでは、1回の撮影で4枚連続撮影し、手ブレを抑えた画像が1枚記録されます。



📷撮影のポイント

- **カメラが動かないように構える**

カメラが動かないように、脇を締めて構えます (📷)。この撮影モードは、4枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われなかったりすることがあります。

- **人物も一緒に撮るときはストロボを使用する**

人物も一緒に撮るときは、内蔵ストロボまたは外部ストロボを使用します。人物もきれいに写るように、初めの1枚がストロボ撮影になります。4枚撮影し終わるまで人物が動かないように注意してください。

注意

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- 夜景などをライブビュー撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動でピントを合わせてください。
- ライブビュー映像で表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。
- ストロボ使用時に、被写体との距離が近いと、露出オーバーになることがあります。
- ストロボ使用時に、明かりが少ない夜景を撮影すると、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。
- ストロボ使用時に、人物と背景が近く、背景にもストロボ光が当たっているときは、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。また、不自然な影ができたり、適切な色あいにならないことがあります。
- 外部ストロボ使用時の照射角について
 - 照射角の自動設定に対応したストロボのときは、レンズのズーム位置に関わらず、ストロボのズーム位置がワイド（広角）端に固定されます。
 - 照射角を手動で設定するストロボのときは、発光部を通常状態にして撮影してください。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいたときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内に「buSY」、モニターに「BUSY」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

HDR逆光補正モード

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、 (HDR) (HDR逆光補正) モードを使用します。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が1枚記録されます。

* 「HDR」はHigh Dynamic Range (ハイダイナミックレンジ) の略です。



撮影のポイント

● カメラが動かないように構える

カメラが動かないように、脇を締めて構えます ()。この撮影モードは、3枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

⚠ 注意

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。
- 順光シーンなど、被写体がもともと明るいシーンでは、HDR効果で不自然な画像になることがあります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大いときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内に「buSY」、モニターに「BUSY」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

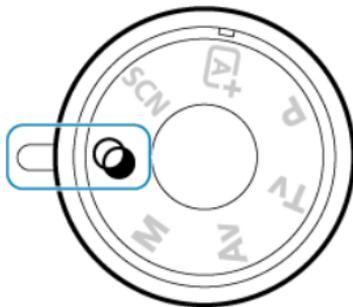
クリエイティブフィルターモード

☑ [各クリエイティブフィルターの特徴](#)

☑ [シオラマ風の操作](#)

フィルター効果を付けた画像を撮影することができます。ライブビュー撮影では、撮影前にフィルター効果を確認することができます。

1. モードダイヤルを〈Q〉にする



2. ライブビュー映像を表示する



- 〈〉 ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します。

3. クイック設定で [クリエイティブフィルター] を選ぶ



- 〈Q〉 ボタンを押します (10)。
- 〈▲〉 〈▼〉 で画面左上のアイコンを選び、〈SET〉 を押します。

4. フィルター効果を選ぶ



- 〈☀️〉 または 〈🌀〉 を回してフィルター効果 (☑️) を選び 〈SET〉 を押します。
- フィルター効果が反映された映像が表示されます。

📖 参考

- 設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと 〈Q〉 ボタンを押して、[フィルター選択] を選択します。

5. 効果を調整して撮影する



- 〈Q〉ボタンを押し、[クリエイティブフィルター]の下のアイコンを選びます（, , , , を除く）。
- 〈〉または〈〉を回して効果を調整し、〈〉を押します。

注意

- RAW、RAW+JPEGは選択できません。RAW画質が設定されているときは、の画質で記録されます。また、RAW+JPEG画質が設定されているときは、設定されているJPEG画質で記録されます。
- [] [] [] [] [] [] 設定時は、連続撮影は設定できません。

参考

ライブビュー撮影時について

- ラフモノクロのときは、モニターに表示される映像と撮影画像のざらつき感が異なります。
- ソフトフォーカス、ジオラマ風のときは、モニターに表示される映像と撮影画像でぼかし具合が異なることがあります。
- ヒストグラムは表示されません。
- 拡大表示はできません。
- ライブビュー撮影時、応用撮影ゾーンの場合は、クイック設定で一部のクリエイティブフィルターを設定することができます。

各クリエイティブフィルターの特徴

-  **ラフモノクロ**
ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。
-  **ソフトフォーカス**
やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。
-  **魚眼風**
魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、映像を確認しながら設定してください。AFフレームは、中央1点固定になります。
-  **水彩風**
水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
-  **トイカメラ風**
トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。
-  **ジオラマ風**
ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。画面の中央をはっきり見せたい場合は、そのまま撮影します。ライブビュー撮影時にはっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合は[ジオラマ風の操作](#)を参照してください。AF方式は**[1点AF]**になります。AFフレームとジオラマ枠の位置を合わせて撮影することをおすすめします。ファインダー撮影時は、ファインダー内の中央に表示されたAFフレームを写したいものに合わせて撮影します。
-  **HDR 絵画調標準**
白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。
-  **HDR グラフィック調**
[HDR 絵画調標準] よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。
-  **HDR 油彩調**
最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

● HDRピンテージ調

鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

❗ 注意

の注意事項

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- ライブビュー映像で表示されるフィルター効果の仕上がりがイメージは、撮影画像と完全には同じになりません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大いときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意して撮影してください。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED 照明などの光源下で撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内に「buSY」、モニターに「BUSY」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ストロボ撮影はできません。なお、暗い場所ではAF補助光が光るよう、あらかじめストロボを上げておくことをおすすめします (🔧)。

📖 参考

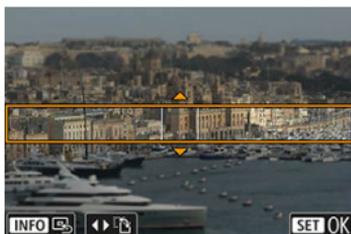
-     は、明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、1枚の画像を作成します。    の注意事項を参照してください。

1. AFフレームを移動する



- ピントを合わせたい位置に、AFフレームを移動します。

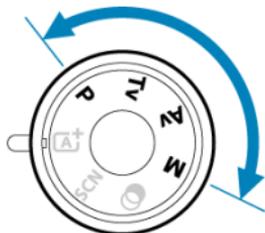
2. ジオラマ枠を移動して撮影する



- AFフレームがジオラマ枠から出たときは、ジオラマ枠を移動させてAFフレームの位置に合わせます。
- <[☰]> ボタンを押すか画面右下の [☰] をタッチすると、ジオラマ枠がオレンジ色に変わり、移動させることができます。なお、[☰] をタッチすると、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。また、ジオラマ枠が横向きの場合は <◀> <▶>、縦向きの場合は <▲> <▼> でも、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。
- <[☀]> または <[☉]> を回すと、ジオラマ枠が移動します。<[INFO]> ボタンを押すと、ジオラマ枠が中央に戻ります。
- <[SET]> を押すと、ジオラマ枠の位置が確定します。

応用撮影ゾーン

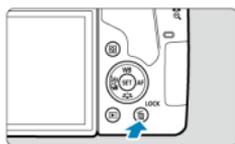
応用撮影ゾーンでは、シャッタースピードや絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。



- モードダイヤルを回したあとに、撮影モードの説明が表示されたときは、〈SET〉を押すと説明が消えます (☑)。

参考

- あらかじめマルチ電子ロック機能がオフになっていることを確認してください (☑)。



- [プログラムAEモード \(P\)](#)
- [シャッター優先AEモード \(Tv\)](#)
- [絞り優先AEモード \(Av\)](#)
- [マニュアル露出モード \(M\)](#)
- [長時間露光 \(バルブ\) 撮影](#)
- [ミラーアップ撮影](#)

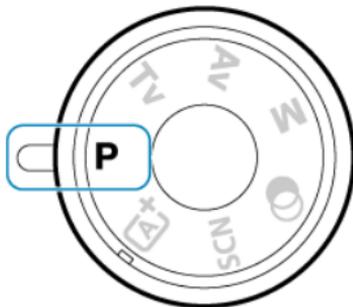
プログラムAEモード (P)

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞り数値を自動的に設定します。

* 〈P〉はProgram (プログラム) の略です。

* 「AE」はAuto Exposure (オートエクスポージャー) の略で自動露出のことです。

1. モードダイヤルを〈P〉にする



2. ピントを合わせる



- ファインダーをのぞいて、AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ピントが合うと、ファインダー内右下に合焦マーク (●) が点灯します (ワンショットAF時)。
- シャッタースピードと絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内に表示されます。

3. 表示を確認する



- シャッタースピードと絞り数値が点滅していなければ、標準露出です。

4. 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

ⓘ 注意



- シャッタースピードの「30"」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。



- シャッタースピードの「4000」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

〈P〉モードと〈A+〉モードの違いについて

- 〈A+〉モードのときは失敗を防ぐために、AF方式や測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈P〉モードのときは、自動的に設定されるのはシャッタースピードと絞り数値だけで、AF方式や測光モードなどの機能を自由に設定することができます。

プログラムシフトについて

- プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッタースピードと絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままに自由に変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッタースピード、または絞り数値が表示されるまで  を回します。
- プログラムシフトは、撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

シャッター優先AEモード (Tv)

シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッタースピードを遅くすると、流動感を表現することができます。

* 〈**Tv**〉はTime value (タイムバリュー) の略で時間量のことです。

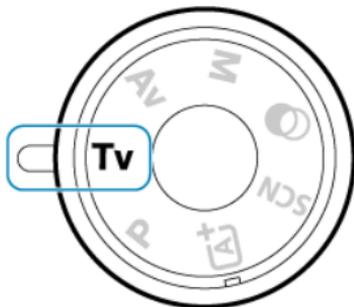


流動感のある写真
(遅いシャッタースピード：1/30秒)

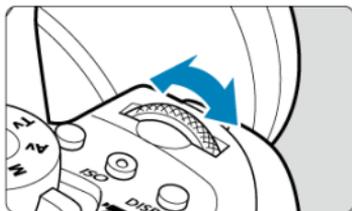


動きを止めた写真
(速いシャッタースピード：1/2000秒)

1. モードダイヤルを〈Tv〉にする



2. シャッタースピードを設定する



- 〈〉で設定します。

3. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

4. 表示を確認して撮影する



- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。

注意



- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッタースピードを遅くするか、ISO感度を上げます。



- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッタースピードを速くするか、ISO感度を下げます。

 参考

シャッタースピードの表示について

- モニターでは、シャッタースピードを分数で表示していますが、ファインダー内では、その分母のみ表示しています。例えばファインダー内の「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

絞り優先AEモード (Av)

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッタースピードを自動的に設定します。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

* 〈Av〉はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。

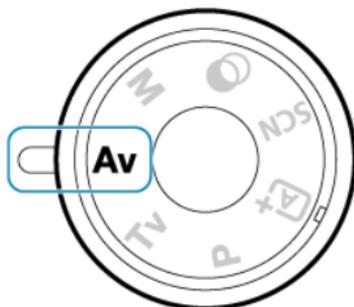


背景をぼかした写真
(小さい絞り数値：F5.6)

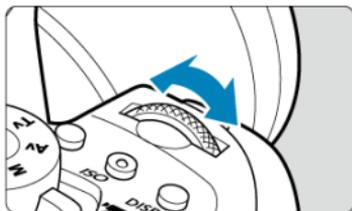


背景にもピントが合った写真
(大きい絞り数値：F32)

1. モードダイヤルを〈Av〉にする



2. 絞り数値を設定する



- 〈〉で設定します。

3. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

4. 表示を確認して撮影する



- シャッタースピードが点滅していなければ標準露出です。

注意



- シャッタースピードの「30"」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。シャッタースピードの点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。



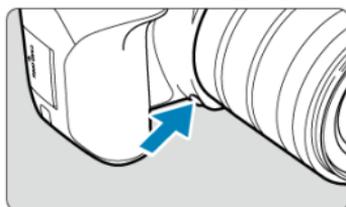
- シャッタースピードの「4000」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。シャッタースピードの点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

 参考

絞り数値の表示について

- 数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「00」になります。

ピントの合う範囲を確認する



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

参考

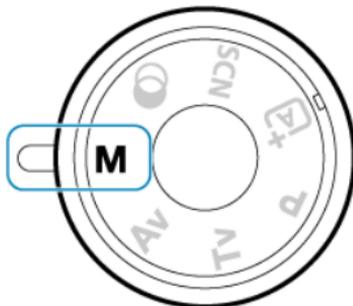
- 絞り数値が大きいほどピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーは暗くなります。
- ライブビュー映像を見ながら (☑)、絞り数値を変えて絞り込みボタンを押すと、被写界深度の効果が分かりやすくなります。
- 絞り込みボタンを押している間は、露出が固定された (AEロック) 状態になります。

マニュアル露出モード (M)

自分でシャッタースピードや絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。

* 〈M〉はManual (マニュアル) の略です。

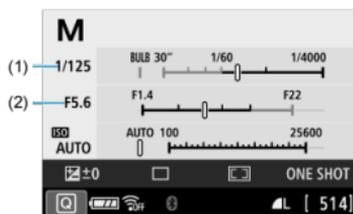
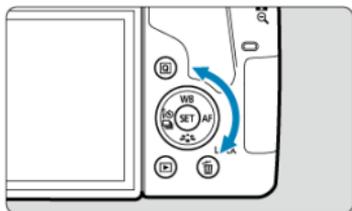
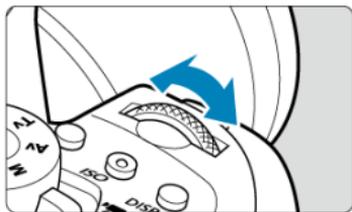
1. モードダイヤルを〈M〉にする



2. ISO感度を設定する

- ISOオート設定時は、露出補正を行うことができます (☑)。

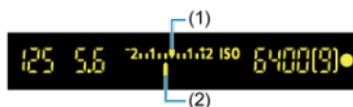
3. シャッタースピードと絞り数値を設定する



- シャッタースピード (1) は 、絞り数値 (2) は  を回して設定します。

4. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。



- (1) 標準露出指標
(2) 露出レベルマーク

- ファインダー内に露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク (↑) で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

5. 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッタースピード、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±3段（ファインダー表示では±2段）を超えるときは、露出レベル表示の端が (◀) または (▶) の表示になります。

ISOオート設定時の露出補正

マニュアル露出撮影時にISO感度を「A」(AUTO)に設定したときは、以下の方法で露出補正 (☑) を行うことができます。

- [📷: 露出補正/AEB設定]
- [🔧: カスタム機能(C.Fn)] の [13: 操作ボタン カスタマイズ] の [SET] を [☑↓露出補正 (押しながら🌞)] に設定しているとき、<SET>を押しながら<🌞>を回す
- クイック設定画面

⚠ 注意

- ISOオート設定時は、設定したシャッタースピードと絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。
- ISOオート設定時にストロボを使用したときは、露出補正量を設定しても補正は行われません。

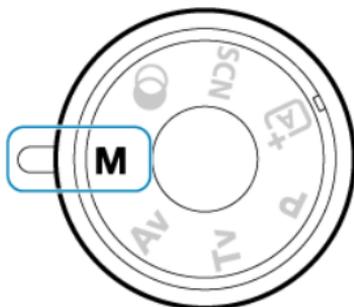
📖 参考

- [📷: オートライティング最適化] で [マニュアル露出時はOFF] の [✓] を外すと、<M>モードでもオートライティング最適化機能が設定できるようになります (☑)。
- ISOオート設定時に<★>ボタンを押すと、ISO感度を固定 (ロック) することができます。
- <★>ボタンを押して構図を変えると、<★>ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- <P> <Tv> <Av> モードで露出補正 (☑) を行っていたときは、<M>モード+ISOオートへの変更時に設定していた補正量が引き継がれます。
- ISOオート設定時に [🔧: カスタム機能(C.Fn)] の [1: 露出設定ステップ] を [1:1/2段] に設定して1/2段の露出補正を行ったときは、ISO感度 (1/3段分) とシャッタースピードで露出補正が行われます。ただし、表示上のシャッタースピードは変化しません。

長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1. モードダイヤルを〈M〉にする



2. シャッタースピードを [BULB] に設定する



- 〈〉を左に回して行くと、[BULB] に設定することができます。

3. 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- モニターに露光経過時間が表示されます。

ⓘ 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400に設定されます (🔗)。
- セルフタイマーとミラーアップ撮影機能を併用してバルブ撮影を行うときは、撮影を終了するまでシャッターボタンを全押しし続けてください（セルフタイマー作動秒時+バルブ撮影時間）。セルフタイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

📖 参考

- [📷: 長秒時露光のノイズ低減] で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます (🔗)。
- バルブ撮影を行うときは、三脚の使用をおすすめします。ミラーアップ撮影 (🔗) を併用することもできます。
- リモートスイッチRS-60E3（別売）を使用して、バルブ撮影を行うことができます (🔗)。
- ワイヤレスリモートコントローラーBR-E1（別売）を使用してバルブ撮影を行うこともできます (🔗)。リモートコントローラーのリリース（送信）ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、再度押すと終了します。

ミラーアップ撮影

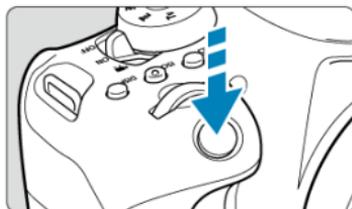
超望遠レンズを使用した撮影のときや、近接（マクロ）撮影のときに、機械的な振動（ミラーショック）が気になるときは、ミラーアップ撮影という方法を使います。

1. ミラーアップの設定をする



- [F: カスタム機能(C.Fn)] の [10: ミラーアップ撮影] を [1:する] に設定します (☑)。

2. ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする



- ミラーが上がります。

3. もう一度シャッターボタンを全押しする

- 撮影が行われ、ミラーが下がります。
- 撮影が終わったら、[ミラーアップ撮影] を [0:しない] に設定します。

📖 撮影のポイント

● セルフタイマー [📷] [🕒] を併用する

シャッターボタンを1回全押しするとミラーが上がり、10秒後または2秒後にセルフタイマー撮影が行われます。

● リモコン撮影する

カメラに手を触れずに撮影できますので、ミラーアップ撮影と併用することで、より効果的にカメラブレを防止できます (🔒)。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 (別売) では、2秒後リリースに設定してリリースボタンを押すとミラーが上がり、2秒後に撮影されます。

リモートスイッチ RS-60E3 (別売) では、リリースボタンを全押しするとミラーが上がリ、もう一度全押しすると撮影されます。

🚫 注意

- カメラを強い光源 (太陽や人工的な強い光源など) に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- セルフタイマーとバルブ撮影を併用してミラーアップ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください (セルフタイマー作動秒時+バルブ撮影時間)。セルフタイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。
- ミラーアップ中は、撮影機能の設定、メニュー操作などはできません。
- ストロボ撮影時、赤目緩和ランプは点灯しません。

📖 参考

- ドライブモードを [📷] [📷] [📷] に設定していても、1枚撮影になります。
- [📷: 高感度撮影時のノイズ低減] が [マルチショットノイズ低減機能] に設定されているときは、[ミラーアップ撮影] の設定に関係なく、1回の撮影で4枚連続撮影できます。
- ミラーアップしてから約30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、三脚とワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 (別売/🔒) またはリモートスイッチ RS-60E3 (別売/🔒) の使用をおすすめします。

AF／ドライブ／露出の設定

この章では、AF、ドライブモード、測光モードなどの設定方法について説明しています。

⚠ 注意

- 〈AF〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。
〈MF〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

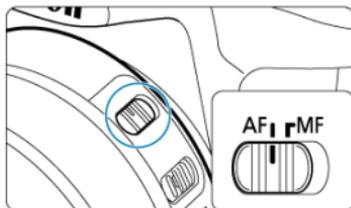
- [AF動作](#)
- [測距エリアとAFフレームの選択（ファインダー撮影）](#)
- [AF方式の選択（ライブビュー撮影）](#)
- [手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）](#)
- [ドライブモード](#)
- [セルフタイマー撮影](#)
- [リモコン撮影](#)
- [測光モード](#) **応用**
- [露出補正](#) **応用**
- [露出の固定（AEロック）](#) **応用**

AF動作

- ☑ 止まっている被写体を撮る：ワンショットAF **応用**
- ☑ 動いている被写体を撮る：AIサーボAF（ファインダー撮影）/サーボAF（ライブビュー撮影）
- ☑ AF動作を自動的に切り換える：AIフォーカスAF（ファインダー撮影）
- ☑ AF補助光
- ☑ AFフレームの赤色照明（ファインダー撮影）

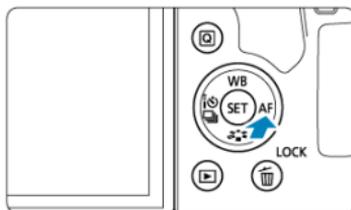
撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAF動作が自動設定されます。

1. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする



2. モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする

3. 〈AF〉 ボタンを押す



4. AF動作を選ぶ



- <◀> <▶> を押します。
ONE SHOT : ワンショットAF
AI FOCUS : AIフォーカスAF
AI SERVO : AIサーボAF



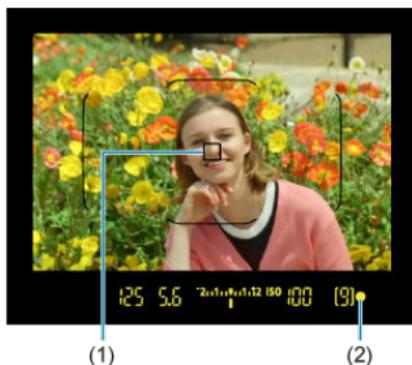
- ライブビュー撮影時は、<Q> ボタンを押して [AF動作] を選びます。
ONE SHOT : ワンショットAF
SERVO : サーボAF

参考

- <AF ON> ボタンでAFを行うこともできます。

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

● ファインダー撮影



- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレーム (1) が表示され、ファインダー内に合焦マーク (●) (2) が点灯し、電子音が鳴ります。ピントが合わないときは、合焦マーク (●) が点滅します。
- 評価測光 (☉) のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。

● ライブビュー撮影

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが緑色に変わり、電子音が鳴ります。ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

📖 参考

- [🔊：電子音] を [切] に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。これを「フォーカスロック撮影」といいます。
- 電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時は、[レンズの電子式手動フォーカス](#)を参照してください。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF（ファインダー撮影）/ サーボAF（ライブビュー撮影）

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

● AIサーボAF（ファインダー撮影）

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが表示されます。ピントが合っても、ファインダー内の合焦マーク（●）は点灯しません。

● サーボAF（ライブビュー撮影）

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが青色に変わります。



参考

- ピントが合っても電子音は鳴りません。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

AF動作を自動的に切り換える：AIフォーカスAF（ファインダー撮影）

被写体の状態に応じて、[ワンショットAF] から [AIサーボAF] へと作動特性が自動的に切り換わります。

- [ワンショットAF] でピントを合わせたあと、被写体の移動や距離の変化などをカメラが検知すると [AIサーボAF] に切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

参考

- サーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴り続けます。
- サーボ状態でピントが合っても、ファインダー内の合焦マーク（●）は点灯しません。
- サーボ状態でのフォーカスロック撮影はできません。
- ライブビュー撮影時の（**A+**）モードでは [AIフォーカスAF] でピント合わせを行います。なお、動いている被写体のときは、[サーボAF] でピント合わせを行います。被写体にピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。ただし、連続撮影中に被写体が動いた場合は [サーボAF] には切り替わりません。

AF補助光

ファインダー撮影時に、暗い場所などでAFでピントが合いにくいときは、内蔵ストロボ、またはEOS用の外部ストロボからAF補助光を投光して、ピントを合わせやすくすることができます。

- 内蔵ストロボを使用しているときは、ストロボを上げてシャッターボタンを半押しすると、必要に応じてAF補助光が投光されます。
- 外部ストロボを使用しているときは、必要に応じて外部ストロボで設定を行います。

⚠ 注意

- AF動作が[AIサーボAF]に設定されているときは、ストロボからのAF補助光は投光されません。

📖 参考

- AF補助光を投光したくないときは、[📷: AF補助光の投光]を[しない]に設定してください。

AFフレームの赤色照明（ファインダー撮影）

暗い場所で撮影するときや、暗い被写体にピントが合ったときに、AFフレームが赤く照明されます。なお、応用撮影ゾーンのときは、照明しないように設定することができます (🔗)。

測距エリアとAFフレームの選択（ファインダー撮影）

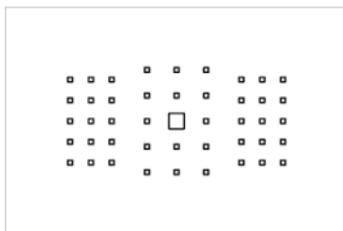
- [測距エリア選択モード](#)
- [測距エリア選択モードの選択](#)
- [AFフレーム／ゾーンの任意選択](#)
- [AFフレームの点灯／点滅](#)
- [ピントが合いにくい撮影条件](#)

使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。詳しくは[使用レンズとAF測距（ファインダー撮影）](#)を参照してください。

測距エリア選択モード

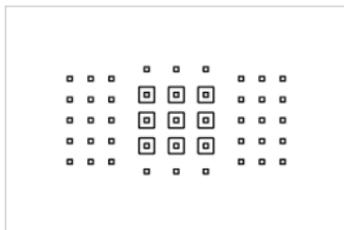
測距エリア選択モードを4種類の中から選ぶことができます。選択方法は[測距エリア選択モードの選択](#)を参照してください。

1点AF（任意選択）



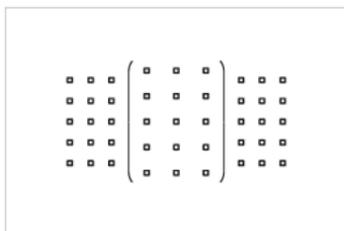
1つのAFフレームでピント合わせを行います。

☒ ゾーンAF (ゾーン任意選択)



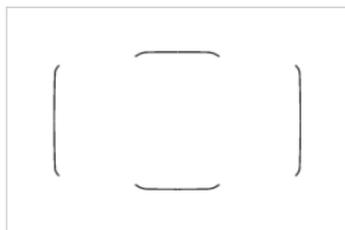
- 9点のAFフレームでピント合わせを行います。1点AFよりも被写体を捉えやすくなります。
- 基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。なお、人の顔を検知したときは、顔を優先してピントを合わせます。
- [AIサーボAF] のときは、ゾーンで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

☒ ラージゾーンAF (ゾーン任意選択)



- AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。
- ゾーンAFよりも被写体を捉えやすくなります。
- 基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。なお、人の顔を検知したときは、顔を優先してピントを合わせます。
- [AIサーボAF] のときは、ラージゾーンで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

㊦ 自動選択AF



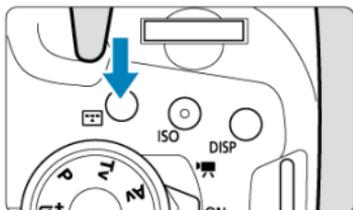
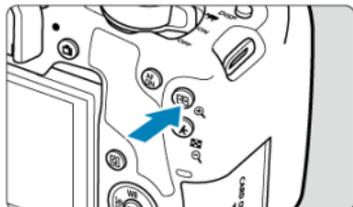
- エリアAFフレーム（AF領域全体）でピント合わせを行います。
- **[ワンショットAF]** のときは、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。なお、人の顔を検知したときは、顔を優先してピントを合わせます。
- **[AIサーボAF]** のときは、エリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

⚠ 注意

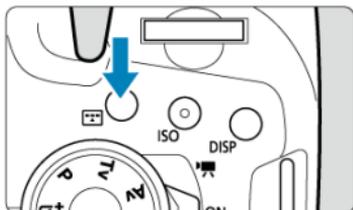
- **[ゾーンAF (ゾーン任意選択)]** **[ラージゾーンAF (ゾーン任意選択)]** **[自動選択AF]** で **[AIサーボAF]** を行うとき、撮影条件によってはAFフレームが追従しないことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときや、広角／望遠レンズを使用しているときは、ピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央のAFフレーム、または中央寄りのAFフレームを選択してください。
- AFフレーム照明時に、ファインダー内の一部または全体が赤く見えることがありますが、これはAFフレーム表示装置の特性によるものです。
- 低温下では、AFフレーム表示装置（液晶）の特性上、AFフレームの表示が見えにくくなったり、追従応答性が遅くなる場合があります。

測距エリア選択モードの選択

1. <Fn>または<Fn2>ボタンを押す (6)



2. <Fn2>ボタンを押す

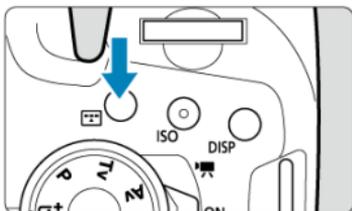
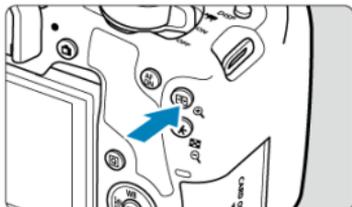


- <Fn2> ボタンを押すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。

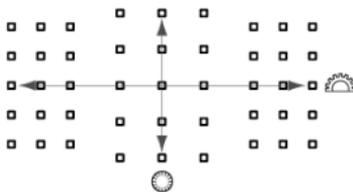
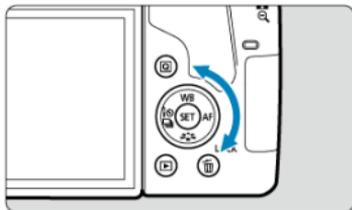
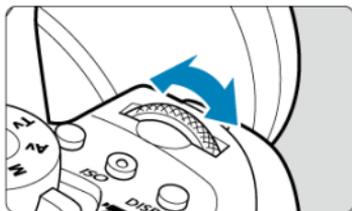
参考

- 応用撮影ゾーンでは、[Fn: カスタム機能(C.Fn)] の [7: 測距エリア/AF方式の切り換え] を [1: Fn→メイン電子ダイヤル] に設定すると、<Fn> または <Fn2> ボタンを押したあと <Fn2> で測距エリア選択モードを選ぶことができます (6)。

1.  または  ボタンを押す (6)



2. AFフレーム/ゾーンを選択する



- 〈〉で横方向、〈〉で縦方向のAFフレームを選択することができます。
- ゾーンAF、ラージゾーンAFのときは、〈〉または〈〉を回すと、ゾーンが切り換わります（ゾーンAF時は循環）。

参考

- 〈〉ボタンを押しながら〈〉を回すと、縦方向のAFフレームを選択することができます。
- 〈〉または〈〉ボタンを押したときに、ファインダー内に表示される内容は、次のとおりです。
 - ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、自動選択AF：AF
 - 1点AF（任意選択）：SEL（中央）／SEL AF（中央以外）

AFフレームの点灯／点滅

〈〉または〈〉ボタンを押したときに、「点灯」しているAFフレームは、高精度なピント合わせができる「クロス測距点」です。「点滅」しているAFフレームは、横線または縦線を検出できる測距点です。

ピントが合いにくい撮影条件

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
（例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
（例：反射光の強い車のボディなど）
- 遠いところと近いところにある被写体がAFフレームの近くにある場合
（例：おりの中の動物など）
- 点状の光源などがAFフレームの近くにある場合
（例：夜景など）
- 繰り返し模様の被写体
（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- AFフレームに対してパターンが細かい被写体
（例：AFフレームと同じサイズ、または小さいサイズの顔や花など）

これらの場合は、次のいずれかの方法でピントを合わせます。

1. [ワンショットAF] のときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する ()。
2. レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動ピント合わせを行う ()。

参考

- 被写体によっては、構図をわずかにずらして再度AFを行うと、ピント合わせができることがあります。

AF方式の選択（ライブビュー撮影）

- [AF方式](#)
- [AF方式の選択](#)
- [拡大表示](#)
- [AF撮影のヒント](#)
- [ピントが合いにくい撮影条件](#)
- [AF範囲](#)

AF方式

: + 追尾優先AF



人の顔を検知してピント合わせを行います。顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム [「」] が顔の部分に表示され、顔を追尾します。顔を検知しないときは、AF領域全体でピント合わせを行います。

: スポット1点AF



[1点AF] よりも狭い範囲でピント合わせを行います。

□ : 1点AF



1つのAFフレーム [□] でピント合わせを行います。

[] : ゾーンAF



AF範囲が広い「ゾーンAFフレーム」でピント合わせを行うため、[1点AF] よりも被写体を捉えやすくなります。

最も近距離の被写体を優先してピントを合わせます。また、ゾーンAFフレーム内に人物がいる場合は、顔を優先してピントを合わせます。

ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。

1. <AF-ON> ボタンを押す



2. AF方式を選ぶ



- <AF-ON> ボタンを押すたびに、AF方式が切り換わります。

撮影設定					
1	2	3	4	5	SHOOT5
AF方式	AF				
瞳AF	しない				
コンティニューアスAF	しない				
レンズの電子式手動フォーカス	☉+OFF				
AF補助光の投光	ON				
MFピーキング設定	-				
MENU					

- [: AF方式] から選択することもできます。

参考

- <A>モードのときは、[+追尾優先AF] に自動設定されます。
- タッチシャッター（タッチ操作によるAFと撮影）については、[タッチシャッターで撮影する](#)を参照してください。

追尾優先AF : 追尾

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム [] も動いて顔を追尾します。

[瞳AF] を [する] に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます ()。

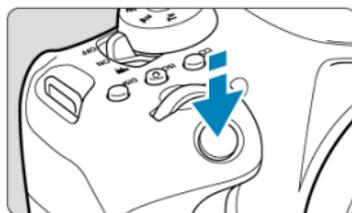
* AF動作が [ワンショットAF] () に設定されていることを前提に説明しています。[サーボAF] () に設定しているときは、被写体にピントが合うとAFフレームが青色に変わります。

1. AFフレームを確認する



- 顔を検知すると、AFフレーム [] が表示されます。
- [] が表示されるときは、<◀> <▶> でピントを合わせたい顔を選ぶことができます。
- <SET> を押すと、画面中央の人物の顔にAFフレームが移動します。

2. ピントを合わせて撮影する



- シャッターボタンを半押しして、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色で表示されます。

顔にタッチしてピントを合わせる

ピントを合わせたい顔や被写体にタッチすると、AFフレームが [F] に変わりピント合わせが行われます。

画面内で顔や被写体が動いても、被写体を追尾してAFフレーム [F] も動きます。

注意

- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔を検知できる位置まで手動でピントを動かしてから (☑)、AFを行ってください。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい/大きい」「顔が明るすぎる/暗すぎる」「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- 画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFができません。被写体が中央または中央寄りになるように構図を変えて撮影してください。

参考

- ピント合わせを行う [] が、顔全体ではなく、顔の一部にだけ表示されることがあります。
- AFフレームは被写体により大きさが変化します。

スポット1点AF/1点AF/ゾーンAF

AFフレーム、またはゾーンAFフレームを任意設定することができます。ここでは、1点AF時の画面を例に説明します。

1. AFフレームを確認する



(1)

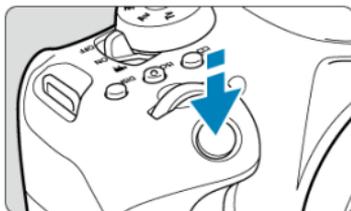
- AFフレーム (1) が表示されます。ゾーンAFのときは、ゾーンAFフレームが表示されます。

2. AFフレームを移動する



- ピントを合わせたい位置に、〈▲〉 〈▼〉 〈◀〉 〈▶〉 でAFフレームを移動します（使用するレンズによっては、画面の一番端まで動かないことがあります）。
画面にタッチしてAFフレームを移動することもできます。
〈SET〉を押すと、AFフレームまたはゾーンAFフレームが画面中央に戻ります。
- 〈☰〉をタッチすることでも、AFフレームが中央に戻ります。

3. ピントを合わせて撮影する



- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

⚠ 注意

- ゾーンAFで「サーボAF」を行うとき、撮影条件によってはAFフレームが追従しないことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときは、ピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央のAFフレームを選択してください。

瞳AF

AF方式が [L+追尾優先AF] のとき、人物の目にピントが合うように撮影することができます。

1. [カメラ]: 瞳AF を選ぶ



2. [する] を選ぶ



3. 被写体にカメラを向ける



- 目の周囲にAFフレームが表示されます。
- 画面にタッチして、ピントを合わせたい目を選ぶことができます。鼻や口などをタッチしたときは顔が選ばれます。ピントを合わせる目はカメラが自動的に選びます。
- [L/R] が表示されるときは、[瞳AF] の設定に応じて <◀> <▶> でピントを合わせたい目または顔を選ぶことができます。

4. 撮影する

⚠ 注意

- 撮影シーンや被写体によっては、被写体の目が正しく検出されないことがあります。

📖 参考

- 〈〉ボタン、〈INFO〉ボタンの順に押すと、メニューを操作しなくても【瞳AF：しない】に変更できます。もう一度〈INFO〉ボタンを押すと、【瞳AF：する】に設定することができます。

拡大表示

[**L**+**+**追尾優先AF]以外のときに**(Q)** ボタンを押すと（または画面の「**Q**」をタッチすると）、映像を約5倍、約10倍に拡大してピントを確認することができます。

- [スポット1点AF] [1点AF] 設定時はAFフレームの位置、[ゾーンAF] 設定時は、ゾーンAFフレームの中央部が拡大表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、[スポット1点AF] [1点AF] 設定時は拡大表示のままAFが行われます。[スポット1点AF] [1点AF] 以外を設定しているときは、通常表示に戻って、AFが行われます。
- サーボAF時に、拡大表示を行った状態でシャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。

❗ 注意

- 拡大表示の状態ではピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。
- 通常表示の状態ではAFを行ったあとに拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AFの速度は通常表示と拡大表示の状態では異なります。
- 拡大表示中、コンティニューAF、動画サーボAFは行われません。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

AF撮影のヒント

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AFの前後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- 撮影中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、電源を入れ直し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- AFでピントが合わないときは、手動でピント合わせを行ってください (M/AF-ON)。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズれているときは、被写体（またはAFフレーム/ゾーンAFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピントがぼけた状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

AF範囲

使用するレンズやアスペクト比、動画電子ISなどの設定によって、AF可能な範囲は変わります。

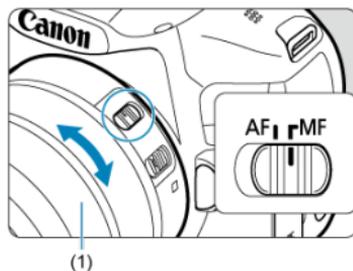
手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）

- ☑ [ファインダー撮影](#)
- ☑ [ライブビュー撮影](#)
- ☑ [MFピーキング設定（輪郭強調）](#)

AFでピント合わせができないときは、以下の操作で手動ピント合わせを行うことができます。

ファインダー撮影

1. レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする



2. ピントを合わせる

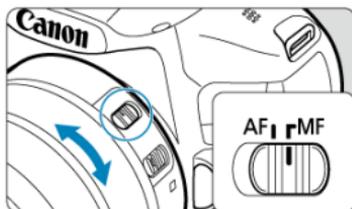
- ファインダー内の被写体をはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリング (1) を回します。

参考

- シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせを行うと、ピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 自動選択AF時は、中央のAFフレームでピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。

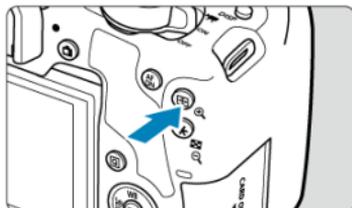
映像を拡大表示して、ピントを合わせることができます。

1. レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする



- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。

2. 映像を拡大する



- 〈Q〉ボタンを押すたびに、通常表示→5倍→10倍→通常表示と、画面が切り換わります。

3. 拡大位置を移動する



- 〈▲〉 〈▼〉 〈◀〉 〈▶〉 を操作して、ピントを合わせたい位置に移動します。
- 〈SET〉 を押すと、拡大位置が画面中央に戻ります。

4. 手でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈Q〉 ボタンを押して通常表示にします。

参考

- 拡大表示中は露出が固定されます。
- 通常表示中は、タッチシャッターで撮影することができます。

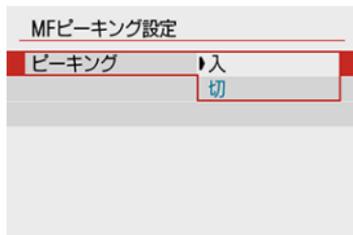
MFピーキング設定（輪郭強調）

ライブビュー撮影時に、ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることでピント合わせをしやすくすることができます。また、輪郭の検出感度（レベル）や輪郭の色を変えることもできます（**[A+]** モードを除く）。

1. **[: MFピーキング設定]** を選ぶ

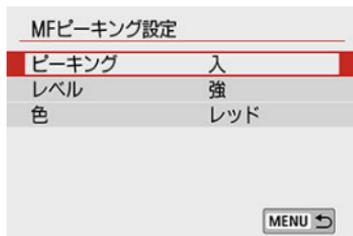


2. **[ピーキング]** を選ぶ



- **[入]** を選びます。

3. レベル、色を設定する



- 必要に応じて設定します。

⚠ 注意

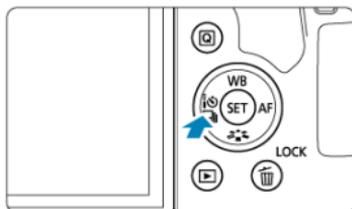
- 拡大表示中、ピーキング表示は行われません。
- HDMI出力時、HDMI出力先にピーキング表示は行われません。
- 高ISO感度設定時（特に拡張ISO感度設定時など）は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じてISO感度を下げるか、[ピーキング]を[切]に設定してください。

📖 参考

- モニターに表示される輪郭は、撮影画像には記録されません。

ドライブモード

1. <Q> ボタンを押す



2. ドライブモードを選ぶ



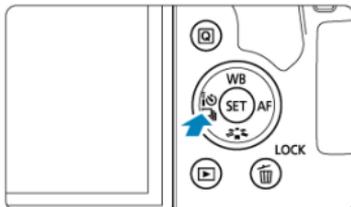
- **[□] 1枚撮影**
シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。
- **[□H] 高速連続撮影**
シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約7.0コマ/秒**（ライブビュー撮影時は**最高約7.5コマ/秒**）の連続撮影を行うことができます。なお、ライブビュー撮影時に、AF動作が「サーボAF」に設定されているときは、最高約4.5コマ/秒になります。
- **[□L] 低速連続撮影/連続撮影**
シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約3.0コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。
- **[10] セルフタイマー:10秒/リモコン撮影**
- **[2] セルフタイマー:2秒/リモコン撮影**
- **[c] セルフタイマー:連続撮影**
セルフタイマー撮影については[セルフタイマー撮影](#)、リモコン撮影については[リモコン撮影](#)を参照してください。

注意

- 〈H〉の最高連続撮影速度 (🔗) は、バッテリーパック LP-E17：フル充電、シャッタースピード：1/1000秒以上、絞り開放（レンズの種類により異なる）、手ブレ補正機能OFF（レンズの種類により異なる）、常温（+23°C）、フリッカー低減処理：なし、で連続撮影を行ったときの数値です。
- 〈H〉の連続撮影速度は、温度、バッテリー残量、フリッカー低減処理、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ライブビュー撮影、内蔵ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。
- [：フリッカーレス撮影] を [する] に設定して (🔗)、フリッカー光源下で撮影を行うと、最高連続撮影速度が遅くなります。また、連続撮影間隔にばらつきが生じたり、シャッターが切れるまでのタイムラグが長くなることがあります。
- AIサーボAF/サーボAF時は、被写体条件や使用レンズにより、最高連続撮影速度が低下することがあります。
- 低温下でバッテリー自体の温度が低いときは、最高連続撮影速度が低下することがあります。
- 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため (🔗)、連続撮影速度が途中から遅くなる場合があります。

セルフタイマー撮影

1. ボタンを押す



2. セルフタイマーを選ぶ



-  /  : 10秒後に撮影
リモコン撮影を行うこともできます (📷)。
-  /  : 2秒後に撮影
リモコン撮影を行うこともできます (📷)。
-  c : 10秒後に設定枚数を連続撮影
<▲> <▼> を押して、撮影する枚数 (2~10) を設定します。リモコン撮影はできません。
- カメラとワイヤレスリモートコントローラー (別売/📷) がペアリングされているときは、[] [] のアイコンが表示されます。

3. 撮影する



- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- セルフタイマーランプと電子音、モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。
- 撮影の約2秒前にセルフタイマーランプの点滅が速くなります。

⚠ 注意

- [C] のときは、記録画質やストロボ使用などの撮影条件により、連続撮影の間隔が長くなることがあります。
- ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

📖 参考

- [2] は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）に使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して (🔍)、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します (🔒)。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、モニターにタッチするか、〈SET〉を押します。
- [🔌 : オートパワーオフ] を1分以下に設定していても、リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が約2分になります。

リモコン撮影

☑ [ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1](#)

☑ [リモートスイッチRS-60E3](#)

「ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1」（別売/Bluetooth接続）を使用したリモコン撮影を行うことができます。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1

カメラから最大約5m離れてリモコン撮影を行うことができます。最初にカメラとBR-E1のペアリングを行ってから (☑)、ドライブモードを [i📷] に設定してください (☑)。操作方法については、BR-E1の使用説明書を参照してください。

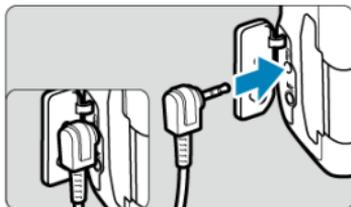
参考

- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなる場合があります。
- 動画撮影時にリモコンを使用することもできます (☑)。

リモートスイッチRS-60E3

カメラに取り付けて、有線でリモコン撮影を行うことができます。
操作方法については、RS-60E3の使用説明書を参照してください。

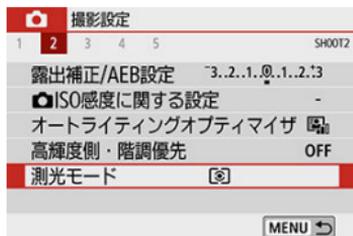
1. 端子カバーを開ける



2. リモコン端子にプラグを取り付ける

被写体の明るさの測り方（測光モード）を、4種類の中から選ぶことができます。通常は、評価測光をおすすめします。かんたん撮影ゾーンでは、評価測光に自動設定されます（〈SCN : 〉 〈 : 〉モード時は、中央部重点平均測光）。

1. [: 測光モード] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



-  : **評価測光**
逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。
-  : **部分測光**
逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。画面中央部の約6.5%（ファインダー撮影時）または約5.8%（ライブビュー撮影時）の範囲を測光します。
-  : **スポット測光**
被写体の特定の部分を測光するときに有効です。画面中央部の約2.0%（ファインダー撮影時）または約2.9%（ライブビュー撮影時）の範囲を測光します。ファインダー内にスポット測光範囲が表示されます。
-  : **中央部重点平均測光**
画面中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

⚠ 注意

-  (評価測光) は、シャッターボタン半押しでピントが合うと、半押ししている間、露出値が固定 (AEロック) されます ([ワンショットAF] 時)。 (部分測光) /  (スポット測光) /  (中央部重点平均測光) は、撮影する瞬間に露出が決まります (半押しによる露出値の固定なし)。

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを「露出補正」といいます。

〈P〉 〈Tv〉 〈Av〉 〈M〉モードのときに露出補正を行うことができます。なお、〈M〉モード+ISOオート設定時の露出補正については、[ISOオート設定時の露出補正](#)を参照してください。

1. 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を確認します。

2. 補正量を設定する

明るく（プラス）補正



暗く（マイナス）補正



- 〈〉で設定します。
- 補正範囲は、ライブビュー撮影時/動画撮影時、または [：撮影画面表示] を [やさしい] に設定しているときは±3段です。
- [：撮影画面表示] を [標準] に設定しているときのファインダー撮影時の補正範囲は±5段です。
- ファインダー内の露出補正表示は±2段です。

3. 撮影する

- 露出補正を解除するとき、露出レベル〈〉を〈〉標準露出指標の位置に戻します。

ⓘ 注意

- [📷: オートライティングオプティマイザ] (🔒) が、[しない] 以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

📖 参考

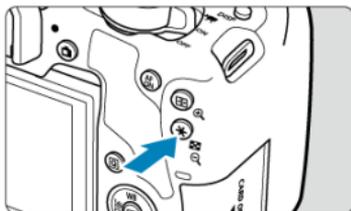
- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にすると設定が解除されます。電源スイッチを〈OFF〉にしても設定が解除されないようにするには、[🔧: カスタム機能(C.Fn)] の [5: 露出補正の自動解除] を [1: しない] に設定してください。
- 露出補正量が±3段（ファインダー内では±2段）を超えるときは、露出レベル表示の端が [◀] または [▶] になります。
- ±2段を超える補正を行うときは、クイック設定 (🔒) または [📷: 露出補正/AEB設定] (🔒) で設定することをおすすめします。

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。
〈*〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。逆光下の撮影などで有効です。

1. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

2. 〈*〉ボタンを押す (あ4)



- ファインダーまたはモニターに〔*〕が表示され、露出が固定 (AEロック) されます。
- 〈*〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3. 構図を決めて撮影する

- 続けてAEロック撮影を行うときは、〈*〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

⚠ 注意

- [📷: オートライティングオプティマイザ] (🔘) が、[しない] 以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

AEロックの効果

測光モード (🔘)	AFフレーム選択 (🔘、🔘)	
	自動選択	任意選択
🔘	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
🔘 [●] []	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* <🔘> 設定時に、レンズのフォーカスモードスイッチが <MF> のときは、中央のAF フレームを中心にした露出値でAEロックされます。

📖 参考

- バルブ撮影時はAEロックできません。

ストロボ撮影

この章では、内蔵ストロボ、または外部ストロボ（EL/EXスピードライト）を使った撮影について説明しています。

- ページタイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉モード限定の機能であることを示しています。

⚠ 注意

- 動画撮影時はストロボ撮影はできません。
- ストロボ撮影時はAEB撮影はできません。

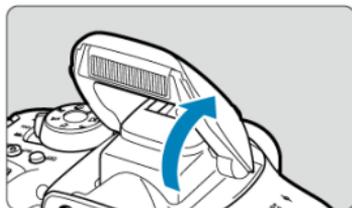
- [内蔵ストロボ撮影](#)
- [ストロボ機能の設定](#)
- [外部ストロボ撮影](#) **応用**
- [光通信ワイヤレスストロボ撮影](#) **応用**
- [簡単ワイヤレス](#) **応用**
- [詳細ワイヤレス](#) **応用**

内蔵ストロボ撮影

- ☑ [内蔵ストロボ撮影できる距離の目安](#)
- ☑ [ストロボ撮影時のシャッタースピードと絞り数値](#)
- ☑ [FEロック撮影](#) **応用**

ファインダーやモニターに [⚡] が表示されたときや、日中逆光時、暗い場所などでは、内蔵ストロボの使用をおすすめします。

1. ストロボを手で上げる



- 応用撮影ゾーンではストロボを上げると、いつでもストロボ撮影ができます。
- ストロボ充電中は、ファインダー内に「buSY」、モニターに [BUSY] が表示されます。

2. シャッターボタンを半押しする



- ファインダーまたはモニターに [⚡] が表示されていることを確認します。

3. 撮影する



- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、常にストロボが発光します。
- 撮影が終わったら、内蔵ストロボを「カチッ」と音がするまで手で押し下げて収納します。

💡撮影のポイント

- **明るい日中では、ISO感度を下げる**
ファインダー内の数値が点滅するときは、ISO感度の数値を小さくします。
- **レンズのフードを外す。被写体に近づきすぎない**
レンズ先端にフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、ストロボの光がさえぎられて、写真の下側が暗くなることがあります。大切な撮影のときは、画像を再生して写真の下側が不自然に暗くなっていないか確認してください。

内蔵ストロボ撮影できる距離の目安

(約・m)

ISO感度 (☑)	EF-S18-55mm F4-5.6 IS STM	
	広角側	望遠側
	F4	F5.6
100	1.0 ~ 3.0	1.0 ~ 2.1
1600	1.5 ~ 12.0	1.1 ~ 8.6
25600	6.0 ~ 48.0	4.3 ~ 34.3

* 小数第2位で四捨五入

* 高ISO感度設定時に撮影距離が遠いとき、被写体条件などによっては、適正な露出が得られないことがあります。

ストロボ撮影時のシャッタースピードと絞り数値

撮影モード	シャッタースピード	絞り数値
P	自動設定 (1/200~30秒) *	自動設定
Tv	手動設定 (1/200~30秒)	自動設定
Av	自動設定 (1/200~30秒) *	手動設定
M	手動設定 (1/200~30秒)	手動設定

* [📷: ストロボ制御] の [スローシンクロ] を [1/200-30秒自動] に設定した場合

⚠ 注意

- 内蔵ストロボが上がりきっていない状態でストロボ撮影を行わないでください。
- レンズにフードが付いていたたり、被写体に近づきすぎると、内蔵ストロボの光がさえぎられて、撮影した画像の下側が暗くなることがあります。

📖 参考

- 超望遠レンズや大口径レンズ使用時に画面の下側が暗くなるときは、外部ストロボ (別売/📷) の使用をおすすめします。

画面の端に被写体を置いてストロボ撮影を行うと、背景などの影響により、被写体が明るく／暗く写ることがあります。そのようなときは、FEロック機能を使います。被写体を適切な明るさにするための発光量を決めたあと、構図を変えて（画面の端に被写体を置いて）撮影することができます。EL/EXスピードライト使用時もこの機能を使うことができます。

* FE は、Flash Exposure : フラッシュエクスポージャーの略です。

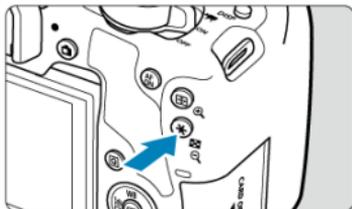
1. ストロボを手で上げる



- シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に【】が点灯していることを確認します。

2. ピントを合わせる

3. 〈*〉ボタンを押す (16)



- ファインダーの中央に被写体を置いて 〈*〉 ボタンを押します。
- ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量を記憶します。



- ファインダー内に一瞬「FEL」と表示され、[4*] が点灯します。
- 〈*〉 ボタンを押すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。

4. 撮影する



- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。

⚠ 注意

- 被写体までの距離が遠すぎて、撮影結果が暗くなる場合は [4*] が点滅します。被写体に近づいて、再度手順2~4の操作をしてください。
- ライブビュー撮影時は、FEロックできません。

ストロボ機能の設定

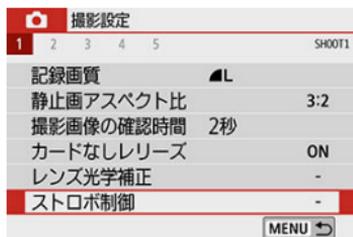
- [ストロボの発光](#)
- [E-TTL II調光方式](#) **応用**
- [赤目緩和機能](#)
- [スローシンクロ](#) **応用**
- [内蔵ストロボ機能設定](#) **応用**
- [外部ストロボ機能設定](#) **応用**
- [外部ストロボカスタム機能設定](#) **応用**
- [ストロボ機能設定初期化/ストロボカスタム機能一括解除](#) **応用**

カメラのメニュー画面から、内蔵ストロボやEL/EXスピードライト（外部ストロボ）の機能を設定することができます。

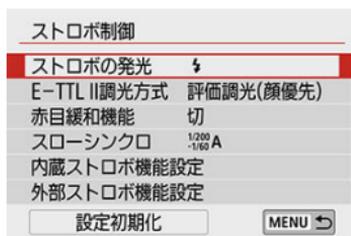
外部ストロボの場合、設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。

なお、外部ストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

1. [📷:ストロボ制御] を選ぶ



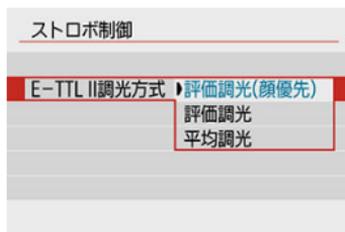
2. 項目を選ぶ



ストロボの発光



- [A] (かんたん撮影ゾーンまたは「P」モード時) に設定すると、撮影状況に応じて自動発光します。
- [] に設定すると、撮影時に常時発光します。
- [/] (応用撮影ゾーン時) は、ストロボ発光の禁止や、ストロボでのAF補助光を利用するときに選びます。



- [評価調光(顔優先)] に設定すると、人物の撮影に適した調光を行います。[連] 時の連続撮影速度が、[評価調光] または [平均調光] よりも低下します。
- [評価調光] に設定すると、連続撮影時の発光を優先した調光を行います。
- [平均調光] に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。

⚠ 注意

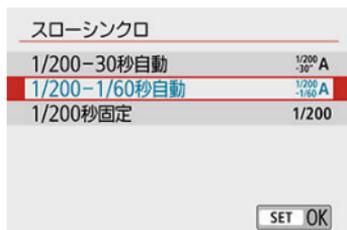
- [評価調光(顔優先)] に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。

赤目緩和機能

[入] に設定すると、ストロボ撮影する前に赤目緩和ランプを点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。



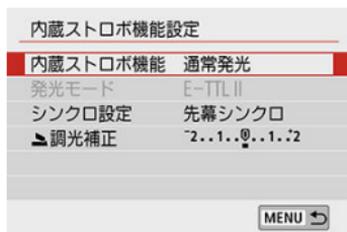
〈Av〉モード、または〈P〉モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。



- **[$\frac{1}{200}$ -30 A] 1/200-30秒自動**
明るさに応じてシャッタースピードが1/200～30秒の範囲で自動設定されます。暗い場所では（撮影状況に応じて）自動的にシャッタースピードが遅くなり、スローシンクロ撮影になります。
- **[$\frac{1}{200}$ - $\frac{1}{60}$ A] 1/200-1/60秒自動**
暗い場所でシャッタースピードが自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。
- **[1/200] 1/200秒固定**
シャッタースピードが1/200秒に固定されるため、[1/200-1/60秒自動]よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では[1/200-1/60秒自動]よりも被写体の背景が暗くなります。

⚠ 注意

- 〈Av〉 〈P〉モードでスローシンクロ撮影を行いたいときは、[1/200-30秒自動]に設定してください。

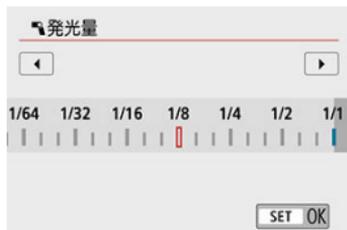


発光モード

[E-TTL II] に設定すると、カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影を行うことができます。[発光モード]を有効にするには、[内蔵ストロボ機能]で[詳細ワイヤレス]を選びます。

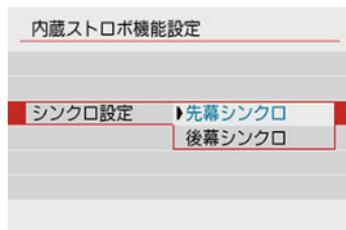


[マニュアル発光] に設定すると、発光量を任意に設定することができます。



シンクロ設定

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する**【先幕シンクロ】**に設定します。
【後幕シンクロ】に設定すると、低速シャッター時に車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。



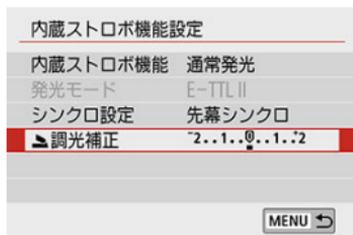
⚠ 注意

- **【後幕シンクロ】**で撮影するときは、シャッタースピードを1/80秒以下の遅い速度に設定してください。1/80秒を超える速い速度のときは、**【後幕シンクロ】**に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

調光補正 応用

ストロボ撮影のときに、被写体が思いどおりの明るさになっていない（ストロボの発光量を調整したい）ときに使用します。補正できる範囲は1/3段ステップ±2段です。

1. [調光補正] を選ぶ



2. 補正量を設定する



- 撮影結果が暗いときは、<▶>を押します（プラス補正）。
- 撮影結果が明るいときは、<◀>を押します（マイナス補正）。



- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に<+2/3>が表示されます。
- 撮影が終わったら、設定をゼロに戻して、調光補正を解除します。

ⓘ 注意

- [📷: オートライティング最適マイザ] (🔒) が、[しない] 以外に設定されているときは、露出を暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。
- 外部ストロボ側（別売/🔒）で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません（クイック設定、外部ストロボ機能設定）。なお、同時に設定されているときは、外部ストロボ側の設定が優先されます。

📖 参考

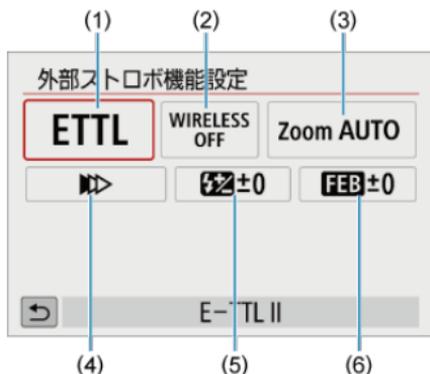
- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。

ワイヤレス機能

内蔵ストロボのセンター機能を利用して光通信ワイヤレス撮影を行うときは、[光通信ワイヤレスストロボ撮影](#)を参照してください。外部ストロボのセンター機能を利用して電波通信／光通信ワイヤレス撮影を行うときは、外部ストロボの使用説明書を参照してください。

画面に表示される内容や設定できる項目、項目の表示位置は、ストロボの機種や設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。使用するストロボの機能については、外部ストロボの使用説明書を参照してください。

表示例



- (1) 発光モード
- (2) ワイヤレス機能／光量比制御機能
- (3) ズーム（照射角）
- (4) シンクロ設定
- (5) 調光補正
- (6) FEB

⚠ 注意

- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、設定できる機能が制限されます。

発光モード

撮影目的に応じて発光モードを選択します。



- **[E-TTL II]** は、ストロボの自動露出撮影ができる、EL/EXスピードライトの標準的なモードです。
- **[マニュアル発光]** は、ストロボの **[発光量]** を自分で決めて撮影するモードです。
- **[CSP]**（連写優先モード）は、対応する外部ストロボを使用したときに設定することができます。通常のストロボ撮影時と比べ、ストロボの発光量を自動的に1段下げ、代わりにISO感度を自動的に1段上げるモードです。連続撮影を行うときや、ストロボの電池の消費を抑えたいときなどに効果的です。
- その他の発光モードについては、各発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

注意

- **<Tv>** **<M>** モードで、**[CSP]** の設定でストロボ撮影を行ったときに、撮影結果が露出オーバーになるときは、必要に応じて **露出補正** を行ってください。

参考

- **[CSP]** 設定時は、ISO感度が自動的に **[オート]** に設定されます。

ワイヤレス機能

電波通信、または光通信によるワイヤレス多灯ライティング撮影を行うことができます。詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。



光量比制御機能

マクロストロボ使用時に、発光部の光量比を設定することができます。詳しくは、光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。



ズーム（照射角）

ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。



シンクロ設定

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する**【先幕シンクロ】**に設定します。**【後幕シンクロ】**に設定すると、低速シャッター時に車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。

【ハイスピード】に設定すると、ストロボ同調最高シャッタースピードよりも速いシャッタースピードで撮影することができます。日中の屋外などで、**〈Av〉**モードで絞りを開き、被写体の背景をぼかして撮影したいときに有効です。



⚠ 注意

- 後幕シンクロで撮影するときは、シャッタースピードを1/80秒以下の遅い速度に設定してください。1/80秒を超える速い速度のときは、**【後幕シンクロ】**に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

調光補正

露出補正と同じ感覚で、外部ストロボの発光量を調整することができます。

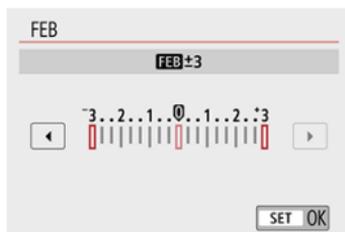


⚠ 注意

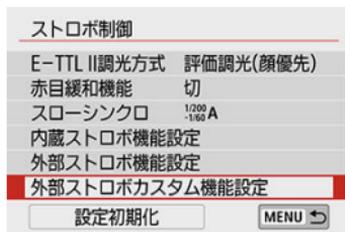
- 外部ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、外部ストロボ側の設定が優先されます。

FEB

FEB（Flash Exposure Bracketing）機能を搭載した外部ストロボを使用すると、外部ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。



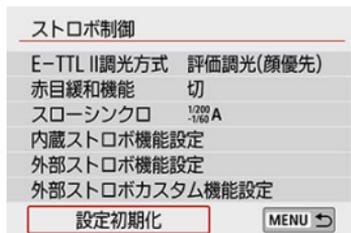
外部ストロボのカスタム機能については、ストロボの使用説明書を参照してください。



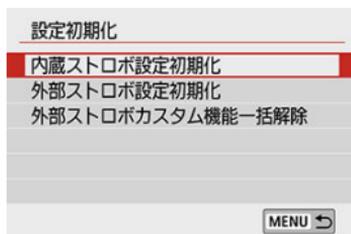
注意

- EL/EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の[調光方式]を[1:TTL] (自動調光)に設定したときは、常時フル発光します。
- [📷:外部ストロボ機能設定]の画面から、外部ストロボのパーソナル機能(P.Fn)の設定・解除はできません。外部ストロボを直接操作して設定してください。

1. [設定初期化] を選ぶ



2. 初期化する内容を選ぶ



- [内蔵ストロボ設定初期化] [外部ストロボ設定初期化] [外部ストロボカスタム機能一括解除] のいずれかを選びます。
- 確認画面で [OK] を選ぶと、ストロボの設定が初期化、またはカスタム機能がすべて解除されます。

- [EOS用EL/EXシリーズスピードライト](#)
- [EL/EXシリーズ以外のキャノン製スピードライト](#)
- [汎用ストロボ](#)

EOS用EL/EXシリーズスピードライト

このカメラは、EL/EXシリーズスピードライト（別売）の全機能を使用したストロボ撮影を行うことができます。
操作方法については、EL/EXスピードライトの使用説明書を参照してください。

EL/EXシリーズ以外のキャノン製スピードライト

- EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。
カメラの撮影モードを〈**M**〉または〈**Av**〉に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

同調シャッタースピード

小型の汎用ストロボは1/200秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60~1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

❗ 注意

- 外部ストロボを使用する時は、内蔵ストロボを手で押し下げて収納してから取り付けてください。
- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをアクセサリシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

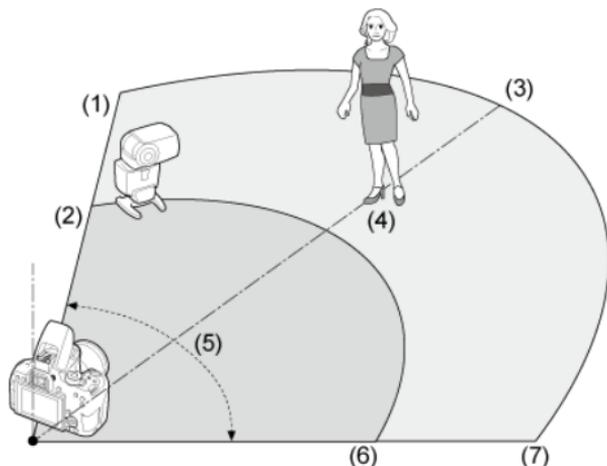
- [レシーバーの設定と配置](#)
- [レシーバーのオートパワーオフ解除](#)
- [光通信ワイヤレスストロボ撮影の方法](#)

内蔵ストロボ（セリダー）と、光通信ワイヤレス撮影機能を備えたキヤノン製スピードライト（外部ストロボ）を使用して、ワイヤレス多灯ライティング撮影を行うことができます。

レシーバーの設定と配置

外部ストロボ（レシーバー）の使用説明書を参照して、下記の設定を行います。

- スピードライトをレシーバーに設定する
- カメラとスピードライトを同じ通信チャンネルに設定する
- 光量比制御を行うときは、レシーバーの発光グループを設定する
- 下図の範囲内にカメラとレシーバーを配置する
- レシーバーのワイヤレス受信部をカメラに向ける



- | | |
|-----|------|
| (1) | 屋内 |
| (2) | 屋外 |
| (3) | 約10m |
| (4) | 約7m |
| (5) | 約80° |
| (6) | 約5m |
| (7) | 約7m |

レシーバーのオートパワーオフ解除

カメラの〈✳〉ボタンを押してください。なお、マニュアル発光のときは、レシーバーのテスト発光ボタンを押して解除してください。

光通信ワイヤレスストロボ撮影の方法

下表のワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。被写体や撮影条件、外部ストロボの台数などから撮影方法を選択してください。

	外部ストロボ		内蔵ストロボ	設定		参照先
	灯数	A:B光量比		ワイヤレス機能	発光グループ	
全自動撮影 (E-TTL II自動調光)	1灯	-	-		全部	(☑)
	1灯	-	使用		-	(☑)
	複数	-	-		全部	(☑)
	複数	設定	-		(A:B)	(☑)
	複数	-	使用	+	全部と	(☑)
	複数	設定	使用	+	(A:B)	(☑)
	<ul style="list-style-type: none"> ストロボ調光補正 FEロック 					(☑)

	外部ストロボ		内蔵ストロボ	設定		参照先
	灯数	A:B光量比		ワイヤレス機能	発光グループ	
マニュアル発光	1灯/複数	-	-		全部	(☑)
	複数	設定	-		(A:B)	
	1灯/複数	-	使用	+	全部と	
	複数	設定	使用	+	(A:B)	

* [] は外部ストロボを、 [] は内蔵ストロボを表しています。

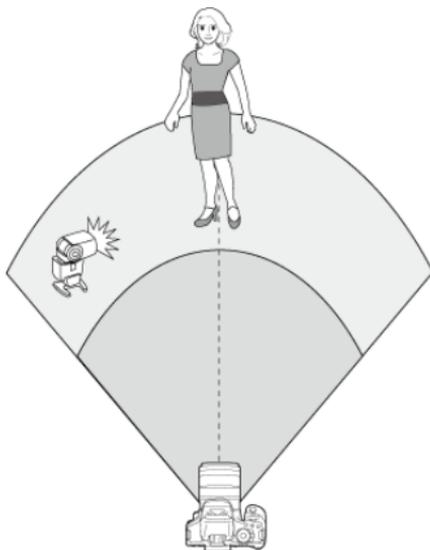
注意

- 内蔵ストロボを使用しない設定でも、レシーバーを光通信で制御するための発光が行われます。

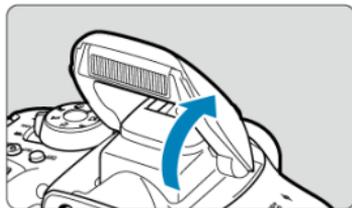
- [外部ストロボ1灯を使用した全自動撮影](#)
- [複数の外部ストロボを使用した全自動撮影](#)
- [調光補正](#)

かんたんかつ基本的な全自動ワイヤレスストロボ撮影について説明します。

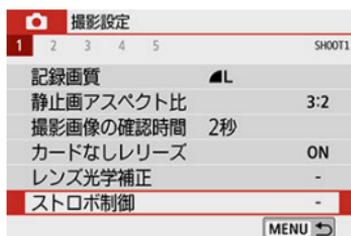
外部ストロボ1灯を使用した全自動撮影



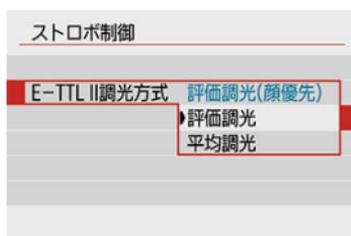
1. ストロボを手で上げる



2. [📷: ストロボ制御] を選ぶ

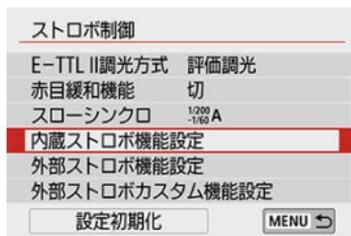


3. [評価調光] を選ぶ

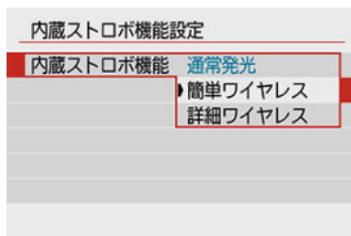


- [E-TTL II調光方式] の [評価調光] を選びます。

4. [内蔵ストロボ機能設定] を選ぶ

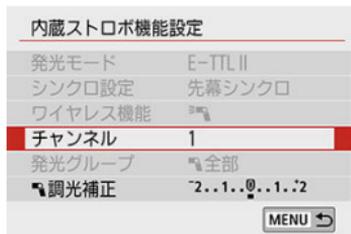


5. [簡単ワイヤレス] を選ぶ



- [内蔵ストロボ機能] の [簡単ワイヤレス] を選びます。

6. [チャンネル] を設定する



- レシーバーと同じ通信チャンネル (1~4chのいずれか) を設定します。

7. 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラを設定して撮影します。
- ワイヤレスストロボ撮影を終了するときは、[内蔵ストロボ機能] の [通常発光] に設定します。

参考

- [E-TTL II 調光方式] の設定時には、通常は標準的なストロボ露出が得られる [評価調光] に設定します。[平均調光] に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。
- [簡単ワイヤレス] は、内蔵ストロボを使用しない設定ですが、レシーバーを制御するための発光が行われます。なお、撮影条件によっては、レシーバーを制御するための発光が写真に写り込むことがあります。
- レシーバーのテスト発光機能はありません。

複数の外部ストロボを使用した全自動撮影

複数のレシーバーを1つのストロボとして発光させることができます。大きな発光量が必要なときに設定します。

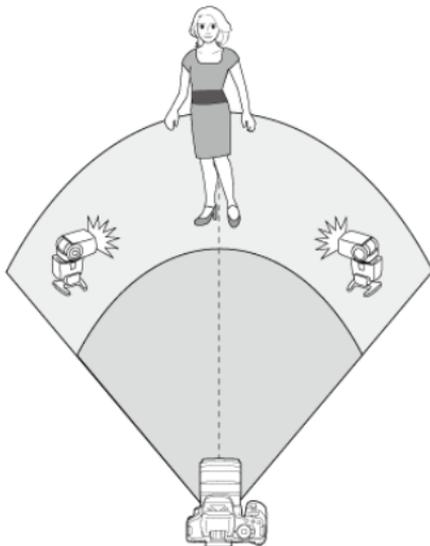
下記の基本設定を行う

- 発光モード：E-TTL II
- E-TTL II調光方式：評価調光
- 内蔵ストロボ機能：簡単ワイヤレス
- チャンネル：（レシーバーと同じ）

内蔵ストロボ機能設定	
内蔵ストロボ機能	簡単ワイヤレス
発光モード	E-TTL II
シンクロ設定	先幕シンクロ
ワイヤレス機能	☑
チャンネル	1
発光グループ	☑全部

MENU →

すべてのストロボが同じ光量で発光し、標準露出になるよう制御が行われます。発光グループがA, B, Cのどれに設定されていても、同グループのストロボとして発光します。



ストロボ撮影の結果が「暗いとき」や「明るいとき」は、調光補正でストロボの発光量を調整します。

1. [調光補正] を選ぶ



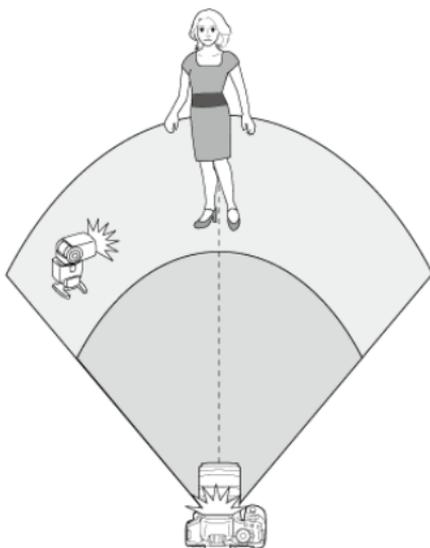
- 撮影結果が暗いときは <▶> を押すとストロボの発光量が増え、明るくなります。撮影結果が明るいときは <◀> を押すとストロボの発光量が減り、暗くなります。

- [外部ストロボ1灯と内蔵ストロボを使用した全自動撮影](#)
- [複数の外部ストロボを使用した全自動撮影](#)
- [複数の外部ストロボと内蔵ストロボを使用した全自動撮影](#)
- [ストロボ調光補正](#)
- [FEロック](#)
- [発光量を手動設定したワイヤレスストロボ撮影](#)

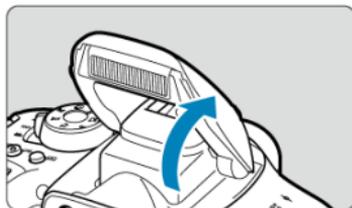
外部ストロボ1灯と内蔵ストロボを使用した全自動撮影

外部ストロボ1灯と内蔵ストロボを使った全自動ワイヤレスストロボ撮影です。外部ストロボと内蔵ストロボの発光比（発光量の割合）を変えて、被写体にできる影の濃さを調整することができます。

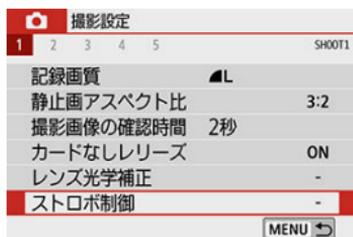
メニュー画面の [外部ストロボ] [外部ストロボ] は外部ストロボを、[内蔵ストロボ] [内蔵ストロボ] は内蔵ストロボを表しています。



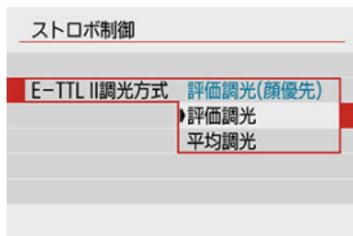
1. ストロボを手で上げる



2. [📷:ストロボ制御] を選ぶ

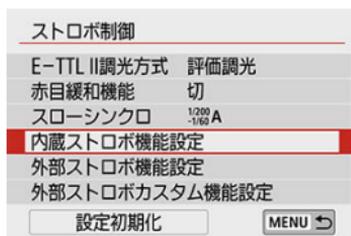


3. [評価調光] を選ぶ

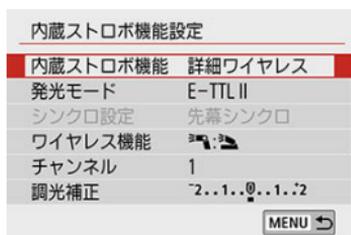


- [E-TTL II調光方式] の [評価調光] を選びます。

4. [内蔵ストロボ機能設定] を選ぶ

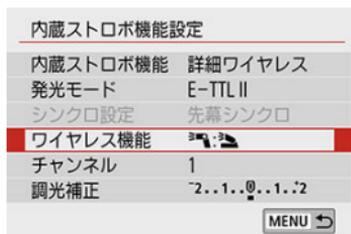


5. [詳細ワイヤレス] を選ぶ



- [内蔵ストロボ機能] の [詳細ワイヤレス] を選びます。

6. [ワイヤレス機能] を選ぶ



- [ワイヤレス機能] の [] を選びます。

7. 光量比を設定して撮影する

内蔵ストロボ機能設定	
発光モード	E-TTL II
シンクロ設定	先幕シンクロ
ワイヤレス機能	
チャンネル	1
調光補正	2..1..0..1..2
	2:1 · 1:1 · 1:2

MENU 

- [: ] を選び、8:1~1:1の範囲で光量比を設定します。1:1より右側は、設定できません。

参考

- 内蔵ストロボの発光量が足りないときは、ISO感度を上げてください (🔗)。
- 光量比の8:1~1:1は、露出段数換算で3:1~1:1 (1/2段ステップ) に相当します。

複数の外部ストロボを使用した全自動撮影

複数のレシーバーを1つのストロボとみなして発光させたり、グループ分けして光量比を変えて撮影することができます。

基本設定は下記のとおりで、[発光グループ] の設定を変えることにより、さまざまなワイヤレス多灯ストロボ撮影を行うことができます。

下記の基本設定を行う

- 発光モード：E-TTL II
- E-TTL II調光方式：評価調光
- ワイヤレス機能：
- チャンネル：(レシーバーと同じ)

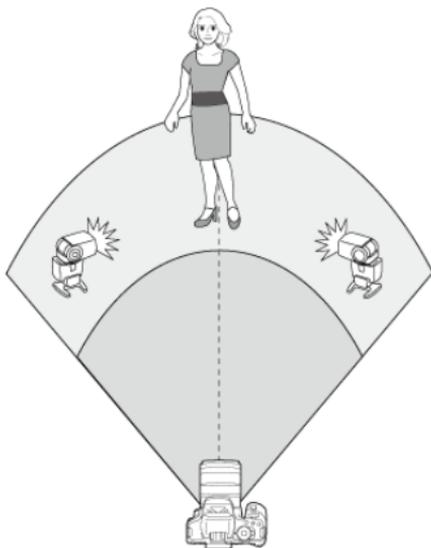
内蔵ストロボ機能設定	
内蔵ストロボ機能	詳細ワイヤレス
発光モード	E-TTL II
シンクロ設定	先幕シンクロ
ワイヤレス機能	
チャンネル	1
発光グループ	 全部

MENU 

【全部】複数のレシーバーを1つのストロボとして発光させる

大きな発光量が必要なときに設定します。すべてのストロボが同じ光量で発光し、標準露出になるよう制御が行われます。

発光グループがA, B, Cのどれに設定されていても、同グループのストロボとして発光します。



1. 【発光グループ】を【全部】に設定する

内蔵ストロボ機能設定	
発光モード	E-TTL II
シンクロ設定	先幕シンクロ
ワイヤレス機能	ON
チャンネル	1
発光グループ	全部
調光補正	2..1..0..1..2

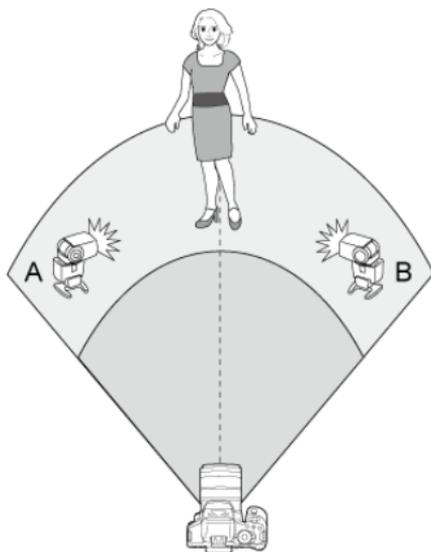
MENU ↩

2. 撮影する

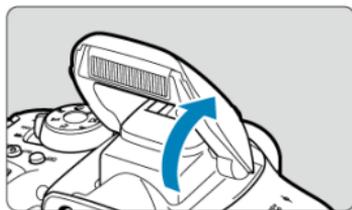
【📷(A:B)】複数のレシーバーをグループ分けして発光させる

レシーバーをAとBの2グループに分け、光量比を変えてライティングを調整することができます。

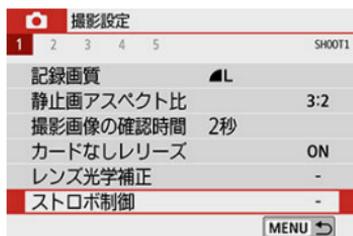
ストロボの使用説明書を参照し、片方のレシーバーを発光グループA、もう片方のレシーバーを発光グループBに設定して図のように配置します。



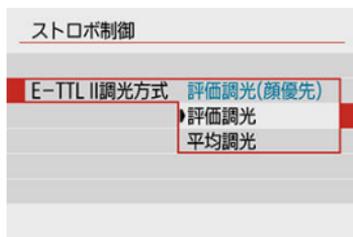
1. ストロボを手で上げる



2. [📷: ストロボ制御] を選ぶ

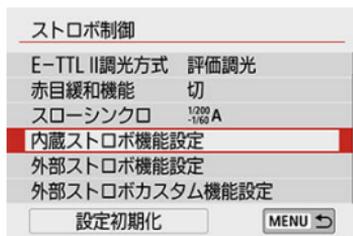


3. [評価調光] を選ぶ



- [E-TTL II調光方式] の [評価調光] を選びます。

4. [内蔵ストロボ機能設定] を選ぶ



5. [詳細ワイヤレス] を選ぶ

内蔵ストロボ機能設定	
内蔵ストロボ機能	詳細ワイヤレス
発光モード	E-TTL II
シンクロ設定	先幕シンクロ
ワイヤレス機能	
チャンネル	1
調光補正	-2..1..0..1..2

MENU

- [内蔵ストロボ機能] の [詳細ワイヤレス] を選びます。

6. [ワイヤレス機能] を選ぶ

内蔵ストロボ機能設定	
内蔵ストロボ機能	詳細ワイヤレス
発光モード	E-TTL II
シンクロ設定	先幕シンクロ
ワイヤレス機能	
チャンネル	1
発光グループ	全部

MENU

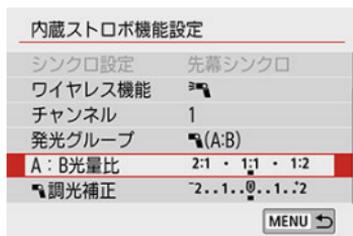
- [] を選びます。

7. [発光グループ] を [(A:B)] に設定する

内蔵ストロボ機能設定	
シンクロ設定	先幕シンクロ
ワイヤレス機能	
チャンネル	1
発光グループ	(A:B)
A : B光量比	2:1 ・ 1:1 ・ 1:2
調光補正	-2..1..0..1..2

MENU

8. A : Bの光量比を設定して撮影する



- [A : B光量比] を選び、光量比を設定します。

注意

- [発光グループ] を [(A:B)] に設定すると、Cグループに設定したストロボは発光しません。

参考

- 光量比の8:1～1:1～1:8は、露出段数換算で3:1～1:1～1:3 (1/2段ステップ) に相当します。

複数の外部ストロボと内蔵ストロボを使用した全自動撮影

複数の外部ストロボを使用した全自動撮影に、内蔵ストロボを加えることができます。基本設定は下記のとおりで、**「発光グループ」**の設定をえることにより、内蔵ストロボを加えたさまざまなワイヤレス多灯ストロボ撮影を行うことができます。

下記の基本設定を行う

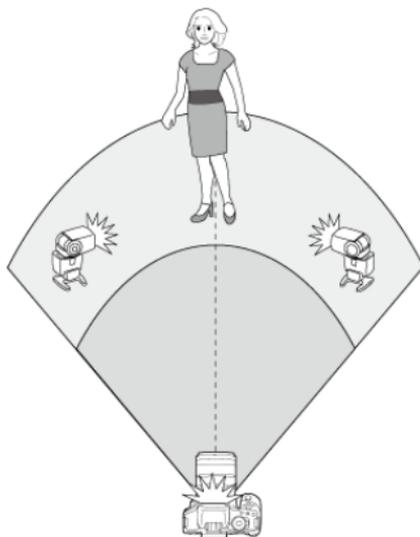
- 発光モード：E-TTL II
- E-TTL II調光方式：評価調光
- ワイヤレス機能：[ + ]
- チャンネル：(レシーバーと同じ)

内蔵ストロボ機能設定	
内蔵ストロボ機能	詳細ワイヤレス
発光モード	E-TTL II
シンクロ設定	先幕シンクロ
ワイヤレス機能	 + 
チャンネル	1
調光補正	2..1..@..1..2

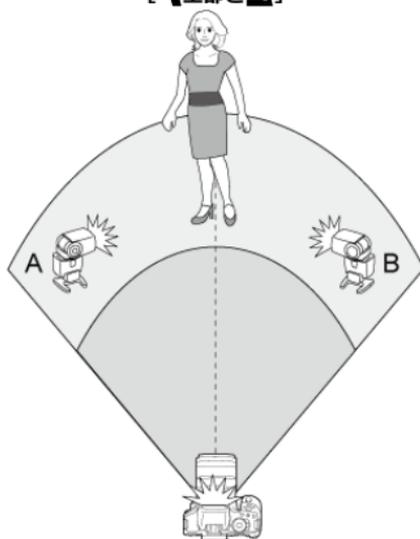
1. 「発光グループ」を選ぶ

内蔵ストロボ機能設定	
シンクロ設定	先幕シンクロ
ワイヤレス機能	 + 
チャンネル	1
調光補正	2..1..@..1..2
発光グループ	 全部と 
調光補正	2..1..@..1..2

- 発光グループを選び、光量比や調光補正などの必要な設定を行って撮影します。



【全部と】



【(A:B)】

ストロボ調光補正

【発光モード】が【E-TTL II】のときに設定することができます。なお、設定できる調光補正の項目（下記参照）は、【ワイヤレス機能】と【発光グループ】の設定内容によって変わります。

内蔵ストロボ機能設定	
シンクロ設定	先幕シンクロ
ワイヤレス機能	
チャンネル	1
調光補正	2..1..@..1..2
発光グループ	
調光補正	2..1..@..1..2

MENU

- 【調光補正】
内蔵ストロボ、およびすべての外部ストロボに対して、調光補正量が一律に設定されます。
- [調光補正]
内蔵ストロボに対して、調光補正を行うことができます。
- [調光補正]
すべての外部ストロボに対して、調光補正量が一律に設定されます。

FEロック

【発光モード】が【E-TTL II】のときに、〈〉ボタンを押すとFEロックを行うことができます。

発光量を手動設定したワイヤレスストロボ撮影

【発光モード】が【マニュアル発光】のときに設定することができます。なお、設定できる発光量の項目（【発光量】【Aグループ発光量】など）は、【ワイヤレス機能】の設定内容（下記参照）によって変わります。

内蔵ストロボ機能設定	
内蔵ストロボ機能	詳細ワイヤレス
発光モード	マニュアル発光
シンクロ設定	先幕シンクロ
ワイヤレス機能	
チャンネル	1
発光グループ	 全部

MENU 

【ワイヤレス機能：】

- 【発光グループ：全部】
すべての外部ストロボに対してマニュアル発光量が一律に設定されます。
- 【発光グループ：A:B】
レシーバーをAとBの2グループに分けて、グループごとに発光量を設定することができます。

【ワイヤレス機能：+】

- 【発光グループ：全部と】
外部ストロボと内蔵ストロボに対し、個別に発光量を設定することができます。
- 【発光グループ：A:Bと】
レシーバーをAとBの2グループに分けて、グループごとに発光量を設定することができます。また、内蔵ストロボの発光量も設定することができます。

撮影

この章では、撮影に関する内容や、メニュー機能の「：撮影タブ」に含まれる項目などについて説明しています。

- [静止画撮影](#)
- [動画撮影](#)

静止画撮影

ページタイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。

- [メニュー目次：静止画撮影（ファインダー撮影）](#)
- [メニュー目次：静止画撮影（ライブビュー撮影）](#)
- [記録画質](#)
- [静止画アスペクト比](#)
- [撮影画像の確認時間](#)
- [カードなしリリース](#)
- [レンズ光学補正](#) **応用**
- [露出補正/AEB設定](#) **応用**
- [ISO感度に関する設定（静止画）](#) **応用**
- [オートライティングオブティマイザ](#) **応用**
- [高輝度側・階調優先](#) **応用**
- [測光タイマー（ライブビュー撮影）](#) **応用**
- [ホワイトバランスの設定](#) **応用**
- [ホワイトバランスの補正](#) **応用**
- [色空間](#) **応用**
- [ピクチャースタイルの選択](#) **応用**
- [ピクチャースタイルの調整](#) **応用**
- [ピクチャースタイルの登録](#) **応用**
- [ノイズ低減機能](#) **応用**
- [ゴミ消し情報の付加](#) **応用**
- [フリッカーレス撮影](#) **応用**
- [コンティニユアスAF（ライブビュー撮影）](#)
- [レンズの電子式手動フォーカス](#) **応用**
- [AF補助光の投光](#)
- [静止画撮影全般の注意事項](#)

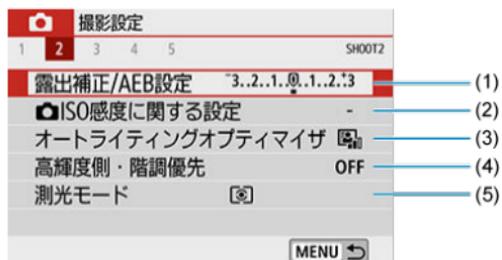
メニュー目次：静止画撮影（ファインダー撮影）

● 撮影1



- (1) [記録画質](#)
- (2) [静止画アスペクト比](#) **応用**
- (3) [撮影画像の確認時間](#)
- (4) [カードなしリリース](#)
- (5) [レンズ光学補正](#) **応用**
- (6) [ストロボ制御](#)

● 撮影2



- (1) [露出補正/AEB設定](#) **応用**
- (2) [ISO感度に関する設定](#) **応用**
- (3) [オートライティング最適マイザ](#) **応用**
- (4) [高輝度側・階調優先](#) **応用**
- (5) [測光モード](#) **応用**

● 撮影3



- (1) [ホワイトバランス](#) **応用**
- (2) [MWB画像選択](#) **応用**
- (3) [WB補正/BKT設定](#) **応用**
- (4) [色空間](#) **応用**
- (5) [ピクチャースタイル](#) **応用**
 - [ピクチャースタイルの選択](#) **応用**
 - [ピクチャースタイルの調整](#) **応用**
 - [ピクチャースタイルの登録](#) **応用**

● 撮影4



- (1) [長秒時露光のノイズ低減](#) **応用**
- (2) [高感度撮影時のノイズ低減](#) **応用**
- (3) [ダストデリートデータ取得](#) **応用**
- (4) [ライブビュー撮影](#)
- (5) [フリッカーレス撮影](#) **応用**

● 撮影5



- (1) [レンズの電子式手動フォーカス](#) **OFF**
- (2) [AF補助光の投光](#)

かんたん撮影ゾーンの場合は、以下の画面が表示されます。

● 撮影1



- (1) [記録画質](#)
- (2) [撮影画像の確認時間](#)
- (3) [カードなしリリース](#)
- (4) [ストロボ制御](#)

● 撮影2



- (1) [クリエイティブアシスト設定記憶](#)
- (2) [ライブビュー撮影](#)
- (3) [AF補助光の投光](#)

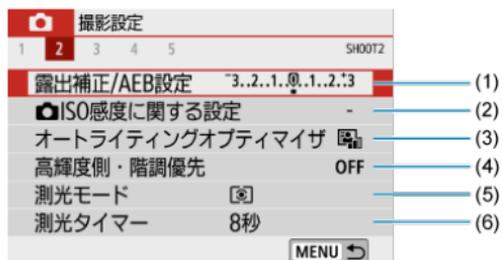
メニュー目次：静止画撮影（ライブビュー撮影）

● 撮影1



- (1) [記録画質](#)
- (2) [静止画アスペクト比](#)
- (3) [撮影画像の確認時間](#)
- (4) [カードなしリリース](#)
- (5) [レンズ光学補正](#) **応用**
- (6) [ストロボ制御](#)

● 撮影2



- (1) [露出補正/AEB設定](#) **応用**
- (2) [ISO感度に関する設定](#) **応用**
- (3) [オートライティング最適マイザ](#) **応用**
- (4) [高輝度側・階調優先](#) **応用**
- (5) [測光モード](#) **応用**
- (6) [測光タイマー](#) **応用**

● 撮影3



- (1) [ホワイトバランス](#) **応用**
- (2) [MWB画像選択](#) **応用**
- (3) [WB補正/BKT設定](#) **応用**
- (4) [色空間](#) **応用**
- (5) [ピクチャースタイル](#) **応用**
 - [ピクチャースタイルの選択](#) **応用**
 - [ピクチャースタイルの調整](#) **応用**
 - [ピクチャースタイルの登録](#) **応用**

● 撮影4



- (1) [長秒時露光のノイズ低減](#) **応用**
- (2) [高感度撮影時のノイズ低減](#) **応用**
- (3) [ダストデリートデータ取得](#) **応用**
- (4) [タッチシャッター](#)

● 撮影5



- (1) [AF方式](#)
- (2) [瞳AF](#)
- (3) [コンティニュアスAF](#)
- (4) [レンズの電子式手動フォーカス](#) **応用**
- (5) [AF補助光の投光](#)
- (6) [MFピーキング設定](#)

かんたん撮影ゾーンのときは、以下の画面が表示されます。なお、設定できる項目は撮影モードによって異なります。

● 撮影1



- (1) [記録画質](#)
- (2) [静止画アスペクト比](#)
- (3) [撮影画像の確認時間](#)
- (4) [カードなしリリース](#)
- (5) [ストロボ制御](#)

● 撮影2



(1) [クリエイティブアシスト設定記憶](#)

(2) [タッチシャッター](#)

● 撮影3



(1) [AF方式](#)

(2) [瞳AF](#)

(3) [コンティニュアスAF](#)

(4) [AF補助光の投光](#)

(5) [MFピーキング設定](#)

記録画質

- ☑ RAW画像
- ☑ 記録画質を選ぶときの目安
- ☑ 連続撮影可能枚数（バースト枚数）

1. [📷: 記録画質] を選ぶ



2. 記録画質を設定する



- RAW画質は〈〉で、JPEG画質は〈〉 〈〉で選びます。
- 〈〉を押すと設定されます。

⚠ 注意

- 記録画質の設定画面に表示される撮影可能枚数 [****] は、アスペクトの設定 (📷) に関わらず、常に [3:2] 設定時の値が表示されます。

参考

- RAW画像とJPEG画像の設定を両方 [-] にしたときは、 に設定されます。
- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG : .JPG、RAW : .CR3）で記録されます。
- **S2**は （ファイン）の画質です。
- 記録画質の読み方は、**RAW**（ロウ）、**CRRAW**（コンパクトロウ）、JPEG（ジェイベグ）、（ファイン）、（ノーマル）、**L**（ラージ）、**M**（ミドル）、**S**（スモール）です。

RAW画像

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換して記録した「生（ロウ）データ」で、**RAW**または**RAW**よりもファイルサイズが小さい**CRAW**から選ぶことができます。

RAW画像は、[▶] : **RAW現像** で現像処理を行い (🔗)、JPEG画像として保存することができます。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作成することができます。

また、RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG画像などを生成することができます。

参考

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください (🔗)。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

記録画質を選ぶときの目安

ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数などについては、[主な仕様](#)を参照してください。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）



ライブビュー撮影時は撮影画面の上、ファインダー撮影時はファインダー内の右下の数値などで、連続撮影できる枚数の目安を確認することができます。

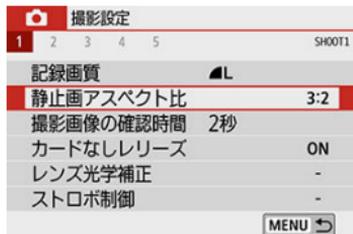
参考

- ライブビュー撮影時、連続撮影可能枚数が「99」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、数値が減っていきます。
- ファインダー撮影時、連続撮影可能枚数が「9」と表示されているときは、9枚以上の連続撮影ができます。8枚以下になると、数値が減っていきます。
- 内部メモリーがいっぱいになると、ファインダー内に「buSY」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、[主な仕様](#)の表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

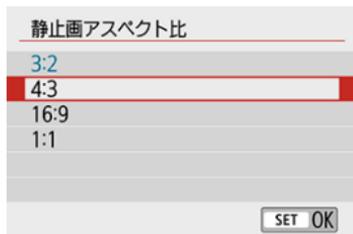
静止画アスペクト比

画像のアスペクト（縦横）比を変えて撮影することができます。

1. [📷: 静止画アスペクト比] を選ぶ



2. アスペクト比を設定する



- アスペクト比を選び、<SET>を押します。

● JPEG画像

設定したアスペクト比で記録されます。

● RAW画像

常に [3:2] のアスペクト比で記録されます。RAW画像には設定したアスペクト比情報が付加され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成することができます。

	アスペクト比	アスペクト比	アスペクト比
	4:3	16:9	1:1
ファインダー撮影時			
ライブビュー撮影時			

 参考

- [4:3] [16:9] [1:1] の設定で撮影したRAW画像を再生したときは、撮影範囲を示すアスペクト比の線が表示されます（この線は画像には記録されません）。

撮影画像の確認時間

撮影画像を表示したままにするときは **[ホールド]**、撮影画像を表示しないようにするときには **[切]** に設定します。

1. **[📷: 撮影画像の確認時間]** を選ぶ

📷 撮影設定					
1	2	3	4	5	SHOOT1
記録画質				▲L	
静止画アスペクト比				3:2	
撮影画像の確認時間				2秒	
カードなしリリース				ON	
レンズ光学補正				-	
ストロボ制御				-	

MENU ↩

2. 時間を設定する

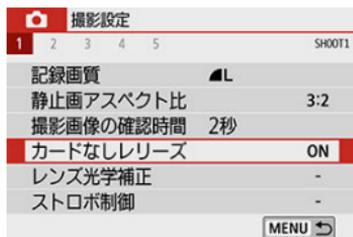
📖 参考

- **[ホールド]** に設定すると、**[🔌: オートパワーオフ]** で設定した時間まで画像が表示されます。

カードなしリリース

カードを入れ忘れた状態で、撮影できないようにすることができます。初期状態では「**する**」に設定されています。

1. [📷: カードなしリリース] を選ぶ



2. [しない] を選ぶ

レンズ光学補正

- [周辺光量補正](#)
- [歪曲収差補正](#)
- [デジタルレンズオプティマイザ](#)
- [色収差補正](#)
- [回折補正](#)

レンズの光学特性によって、画像の四隅が暗くなったり、画像にゆがみが生じたりするなどの現象が発生します。[**レンズ光学補正**]の機能を使用することで、これらの現象を補正することができます。

1. [📷: レンズ光学補正] を選ぶ

撮影設定	
1	2 3 4 5 SHOOT1
記録画質	▲L
静止画アスペクト比	3:2
撮影画像の確認時間	2秒
カードなしリリース	ON
レンズ光学補正	-
ストロボ制御	-

MENU →

2. 項目を選ぶ

レンズ光学補正	
EF-S18-55mm	
周辺光量補正	ON
歪曲収差補正	OFF
デジタルレンズオプティマイザ	ON

MENU →

3. [する] を選ぶ



- 装着しているレンズの名称と、[補正データあり] が表示されていることを確認します（ただし、[回折補正] 設定時は表示されません）。
- [補正データなし] や [魚] マークが表示されたときは、[デジタルレンズオプティマイザ](#)を参照してください。

周辺光量補正

画像の四隅が暗くなる「周辺光量の低下」を補正することができます。

⚠ 注意

- 撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

📖 参考

- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。
- 補正用データがカメラに登録されている場合は、かんたん撮影ゾーンでは自動的に周辺光量補正が行われます。

歪曲収差補正

画像にゆがみが生じる「歪曲収差」を補正することができます。

⚠ 注意

- ゆがみの補正が行われるため、撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 歪曲収差補正の設定により、画角がわずかに変化することがあります。
- 拡大表示を行ったときは、ゆがみが補正されていない映像が表示されます。
- 動画撮影では、歪曲収差補正は行われません。
- 歪曲収差補正が行われた画像には、ダストデータ（)は付加されません。また、撮影時と異なる位置にAFフレームが表示されることがあります。

📖 参考

- 補正用データがカメラに登録されている場合は、〈SCN〉モードの〈〉モードでは自動的に歪曲収差補正が行われます。

デジタルレンズオプティマイザ

レンズの光学特性により生じる諸収差や、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を補正することができます。

なお、[デジタルレンズオプティマイザ]で[補正データなし]や[無]が表示されたときは、EOS Utilityを使用して、レンズの補正用データをカメラに登録することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

注意

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くなる場合があります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、[デジタルレンズオプティマイザ]を[しない]に設定して撮影してください。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、[デジタルレンズオプティマイザ]は表示されません（補正できません）。

参考

- [デジタルレンズオプティマイザ]を[する]に設定したときは、[色収差補正][回折補正]は表示されませんが、ともに[する]の設定で撮影されます。
- 補正用データがカメラに登録されている場合は、かんたん撮影ゾーンでは自動的にデジタルレンズオプティマイザによる補正が行われます。

色収差補正

被写体の輪郭部分に色のにじみが生じる「色収差」を補正することができます。

参考

- [デジタルレンズオブティマイザ] を [する] に設定したときは、[色収差補正] は表示されません。

回折補正

絞りの影響により画像の鮮鋭さが低下する「回折現象」を補正することができます。

⚠ 注意

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、**[回折補正]** は表示されません（補正できません）。

📖 参考

- 「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。
- **[デジタルレンズオブティマイザ]** を **[する]** に設定したときは、**[回折補正]** は表示されません。

⚠ 注意

各補正共通注意事項

- 撮影したJPEG画像の周辺光量低下、色収差、歪曲収差、回折現象を、後から補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、**[補正データあり]** と表示されていても、**[しない]** に設定することをおすすめします。
- 画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります（回折補正を除く）。

📖 参考

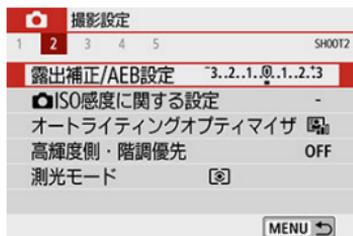
各補正共通事項

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正 **[しない]** と同じ撮影結果になります（回折補正を除く）。
- 必要に応じて、EOS Utility使用説明書をあわせて参照してください。

自動的にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これを「AEB撮影」といいます。

* 「AEB」はAuto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

1. [📷: 露出補正/AEB設定] を選ぶ



2. AEBレベルを設定する



- <🔧> でAEBレベル (1) を設定します。<◀> <▶> で露出補正量を設定することができます。
- <SET> を押すと設定されます。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダーにAEBレベルが表示されます。

3. 撮影する



- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

⚠ 注意

- [📷: オートライティングオブティマイザ] (🔒) が [しない] 以外に設定されていると、AEB撮影による露出補正の効果が小さくなる場合があります。

📖 参考

- ドライブモードが [📷] のときは、3回撮影してください。[📷H] [📷] のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。[📷10] [📷2] のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。なお、[📷C] に設定したときは、設定した枚数の3倍の枚数が連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- ストロボ使用時、マルチショットノイズ低減機能、クリエイティブフィルター撮影時、バルブ撮影時は、AEB撮影できません。
- 電源スイッチ (OFF)、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

[ISO感度の自動設定 \[AUTO\] について](#)

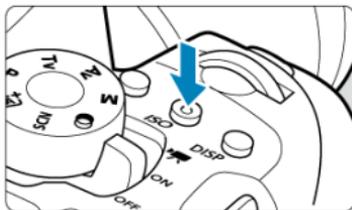
[ISO感度 \[AUTO\] 時の上限値設定について](#)

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。

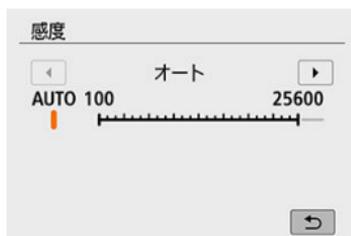
かんたん撮影ゾーンの場合は、ISO感度が自動設定されます。

なお、動画撮影時のISO感度については、[動画撮影時のISO感度](#)を参照してください。

1. 〈ISO〉 ボタンを押す (6)



2. ISO感度を設定する



- ファインダー内またはモニターを見ながら◀ ▶または $\left(\text{☀}\right)$ でISO感度を選び、 $\left(\text{SET}\right)$ を押します。
- ISO感度は、ISO100～25600の範囲で設定することができます。
- **[AUTO]** を選ぶと、ISO感度が自動設定されます $\left(\text{☑}\right)$ 。



- $\left(\text{📷}\right)$: $\left(\text{📷}\right)$ **ISO感度に関する設定** の **[ISO感度]** から設定するときは (上図)、 $\left(\text{INFO}\right)$ ボタンを押すと、**[AUTO]** に設定することができます。

ISO感度を選ぶときの目安

- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO感度の数値が大きいく（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。

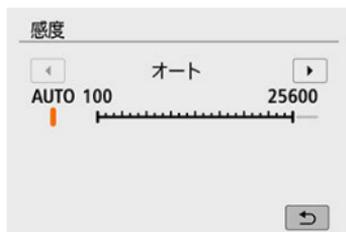
参考

-   **ISO感度に関する設定** の **[ISO感度]** の画面で設定することもできます。
-  **カスタム機能(C.Fn)** の **[ISO感度拡張]** を **[1:する]** に設定すると、「H」（ISO51200相当）も選択できるようになります (🔗)。

注意

-  **高輝度側・階調優先** を **[する]** **[強]** に設定すると、ISO100、125、160と「H」（ISO51200相当）は選択できなくなります (🔗)。
- 高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長時間露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 「H」（ISO51200相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。

ISO感度の自動設定 [AUTO] について

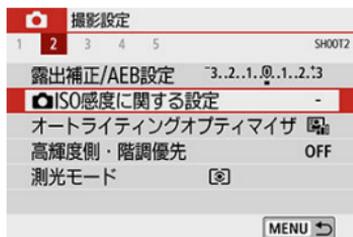


- ISO感度の設定が [AUTO] のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が、ファインダー内またはモニターに表示されます。
- [AUTO] のときのISO感度表示は1段ステップですが、実際はより細かく制御されています。そのため、撮影情報 (i) でISO感度を確認すると、ISO125や640などと表示されることがあります。

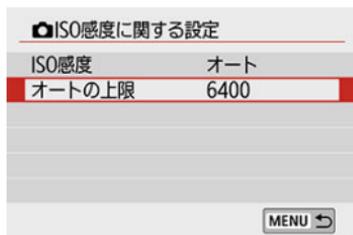
ISO感度 [AUTO] 時の上限値設定について

ISO感度オート時に自動設定される感度の上限値を、ISO400~25600の間で設定することができます。

1. [📷: 📷ISO感度に関する設定] を選ぶ



2. [オートの上限] を選ぶ



- [オートの上限] を選び、<SET>を押します。

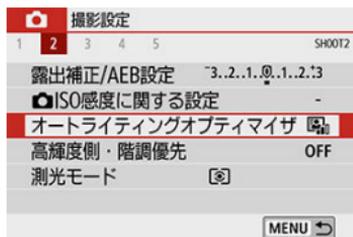
3. ISO感度を選ぶ



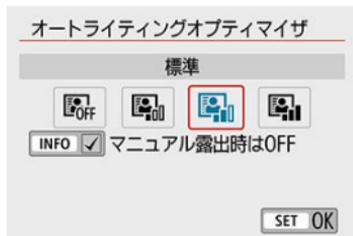
- ISO感度を選び、<SET>を押します。

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときまたは高いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。

1. [📷: オートライティングオプティマイザ] を選ぶ



2. 補正内容を設定する



⚠ 注意

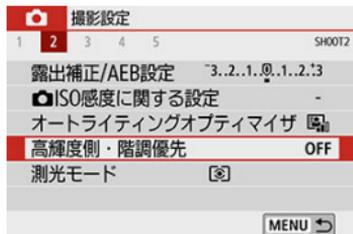
- 撮影条件により、ノイズが増えたり、解像感が変化することがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、好みの明るさにならないときは、[弱め] または [しない] に設定して撮影してください。
- [しない] 以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、[しない] に設定してください。
- [強め] 設定時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。また、カードに画像を記録する時間が長くなります。

 参考

- 手順2で〈INFO〉ボタンを押して[マニュアル露出時はOFF]の[✓]を外すと、〈M〉モードでも[:オートライティングオフティマイザ]が設定できるようになります。

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。

1. [📷: 高輝度側・階調優先] を選ぶ



2. 内容を設定して撮影する



- [する] を選んだときは、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。
- [強] 設定時は、撮影シーンによって [する] 設定時よりもさらに白とびを緩和することができます。

⚠ 注意

- ノイズが若干増えることがあります。
- ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- 動画撮影時は、[強] は選択できません。
- [強] に設定しても、撮影シーンによっては、思い通りの効果が得られないことがあります。

シャッターボタンを半押ししたときなどに自動的に作動する「測光タイマー」の作動時間（露出値の表示時間／AEロック時の保持時間）を設定することができます。

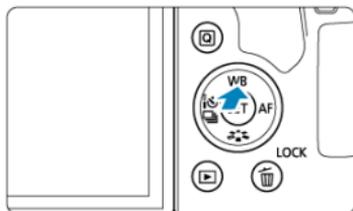
1. [📷: 測光タイマー] を選ぶ
2. 時間を設定する



- ☑ [ホワイトバランスについて](#)
- ☑ [\[AWB\] オートホワイトバランス](#)
- ☑ [\[\] マニュアルホワイトバランス](#)
- ☑ [\[K\] 色温度](#)

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート [AWB]（曇天気優先）、または [AWBW]（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいににならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

1. 〈WB〉 ボタンを押す



2. 項目を選ぶ



表示	モード	色温度 (K : ケルビン)
	オート(雰囲気優先)	3000~7000
	オート(ホワイト優先)	
	太陽光	5200
	日陰	7000
	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
	白熱電球	3200
	白色蛍光灯	4000
	ストロボ	自動設定*
	マニュアル	2000~10000
	色温度	2500~10000

* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

【AWB】オートホワイトバランス

【AWB】では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気重視してやや赤みがかった写真になります。

【AWBW】を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。

1. 【📷: ホワイトバランス】を選ぶ



2. 【AWB】を選ぶ



- 【AWB】を選んだ状態で〈INFO〉ボタンを押します。

3. 項目を選ぶ



⚠ 注意

【AWBW】設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなる場合があります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は【AWB】と同じ色あいになります。

【WB】 マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

1. 白い被写体を撮影する

- 画面全体に白い無地の被写体ができるようにします。
- 手でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。

2. 【WB: MWB画像選択】を選ぶ



3. ホワイトバランスデータを取り込む



- 手順1で撮影した画像を〈◀〉 〈▶〉で選び、〈SET〉を押します。〈OK〉を選ぶとデータが取り込まれます。

4. 【WB: ホワイトバランス】を選ぶ

5. [] を選ぶ



注意

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを【モノクロ】に設定して撮影した画像、クリエイティブフィルターで撮影した画像、撮影後にクリエイティブフィルター処理した画像、トリミングした画像、他のカメラで撮影した画像は、選択できません。
- 設定に使用できない画像が表示されることがあります。

参考

- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影する方法もあります。

1. [📷: ホワイトバランス] を選ぶ



2. 色温度を設定する



- 【K】を選びます。
- <🔧> で色温度を設定し、<SET> を押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

⚠ 注意

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ/グリーン寄りの補正）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度を【K】に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

- [ホワイトバランス補正](#)
- [ホワイトバランスを自動的に変えて撮る](#)

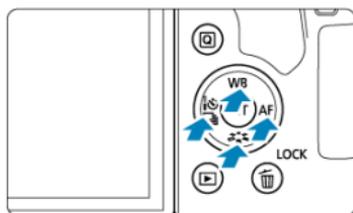
ホワイトバランスを補正して、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。

ホワイトバランス補正

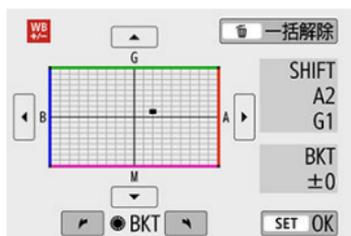
1. [📷: WB補正/BKT設定] を選ぶ



2. ホワイトバランスを補正する



設定例：A2, G1



- 〈▲〉 〈▼〉 または 〈◀〉 〈▶〉 を押して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。画面右の[SHIFT]に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈☒〉 ボタンを押すと、[WB補正/BKT設定] の設定を一括解除することができます。
- 〈SET〉 を押すと設定が終了します。

参考

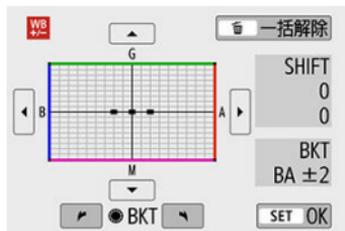
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

ホワイトバランスブラケティング (WB-BKT) 機能で、1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。

補正幅を設定する

B/A方向±3段のとき



- **ホワイトバランス補正**の手順2で を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」(3点)に変わります。
- 右に回すとB/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。画面右の[BKT]にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- ボタンを押すと[WB補正/BKT設定]の設定を一括解除することができます。
- を押すと設定が終了します。

注意

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

参考

- ①基準ホワイトバランス ②ブルー (B) 寄り ③アンバー (A) 寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ (M) 寄り ③グリーン (G) 寄りの順に画像が記録されます。
- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- ライブビュー撮影時に、WBブラケティングを設定したときは、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- 「BKT」はBracketing : ブラケティングの略です。

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。

1. [📷: 色空間] を選ぶ

2. 色空間を設定する



Adobe RGB

主に商用印刷などの業務用途で使用します。Adobe RGB対応モニターや、DCF 2.0 (Exif 2.21以上) 対応プリンターなどの使用をおすすめします。

📖 参考

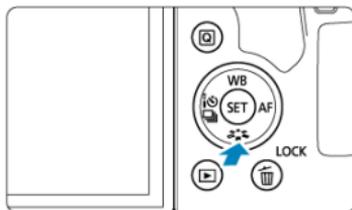
- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用説明書を参照してください。
- かんたん撮影ゾーンのときは、[sRGB] に自動設定されます。

[各スタイルの画像特性](#)

[記号の意味](#)

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

1. ボタンを押す



- スタイル選択画面が表示されます。

2. スタイルを選ぶ



- スタイルを選び、 を押します。
- スタイルが設定されます。

参考

-  : **ピクチャースタイル** から設定することもできます。

各スタイルの画像特性

● オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

参考

- [オート] で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

● スタANDARD

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

● ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

[設定内容と効果](#)の「色あい」を変えると、肌色を調整することができます。

● 風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

● デイテール重視

被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

● ニュートラル

パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

● 忠実設定

パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

- **[] モノクロ**
白黒写真になります。

! 注意

- **[モノクロ]** の設定で撮影したJPEG画像を、カラー写真に戻すことはできません。

? 参考

- **[モノクロ]** 設定時に、ファインダー内に **〈!〉** を表示することもできます ()。

- **[] ユーザー設定1~3**
[ポートレート] や [風景]、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます ()。登録されていないときは、[オート] の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号の意味

スタイル選択画面の記号は、[シャープネス]の[強さ][細かさ][しきい値]や、[コントラスト]などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。



①	シャープネス		
		④	強さ
		④	細かさ
		④	しきい値
②	コントラスト		
③	色の濃さ		
④	色あい		
⑤	フィルター効果 (モノクロ)		
⑥	調色 (モノクロ)		

⚠ 注意

- 動画撮影時、[シャープネス]の[細かさ][しきい値]は、ともに「*」と表示されます。また、[細かさ][しきい値]は動画には反映されません。

[設定内容と効果](#)

[\[P:M\] モノクロの調整](#)

各ピクチャースタイルを初期設定から変更（調整）することができます。[モノクロ]の調整については、[\[P:M\] モノクロの調整](#)を参照してください。

1. <P:M> ボタンを押す

- スタイル選択画面が表示されます。

2. スタイルを選ぶ



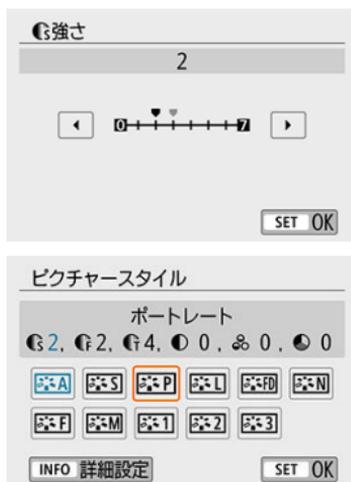
- 調整するスタイルを選び、<INFO> ボタンを押します。

3. 項目を選ぶ



- 設定内容と効果については、[設定内容と効果](#)を参照してください。

4. 効果の度合いを設定する



- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容と効果

①	シャープネス			
		強さ	0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
		細かさ ^{*1}	1：細かい	5：粗い
		しきい値 ^{*2}	1：小さい	5：大きい
	コントラスト		-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
	色の濃さ		-4：薄い	+4：濃い
	色あい		-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

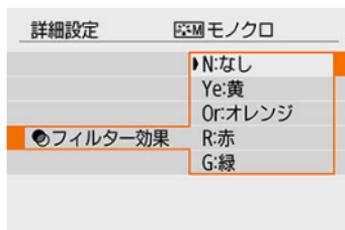
* 1：強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。

* 2：「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

参考

- 動画撮影時は「シャープネス」の「細かさ」「しきい値」の設定はできません（項目が表示されません）。
- 手順3で「初期設定」を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

【●】フィルター効果



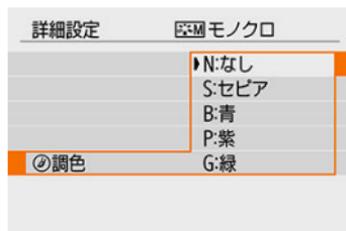
フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N:なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye:黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or:オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R:赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G:緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

参考

- **【コントラスト】** をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

【🔍】 調色



調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

[ポートレート] や [風景] などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、[ユーザー設定1] から [ユーザー設定3] に登録することができます。設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

また、EOS用ソフトウェアのEOS Utility (📷) からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

1. <📷> ボタンを押す

- スタイル選択画面が表示されます。

2. ユーザー設定を選ぶ



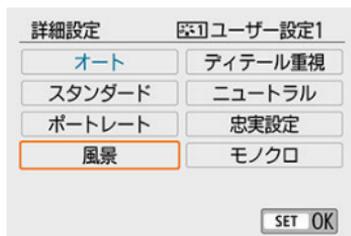
- [ユーザー設定1] ~ [ユーザー設定3] を選び、<INFO> ボタンを押します。

3. <SET> を押す



- [ピクチャースタイル] が選ばれた状態で <SET> を押します。

4. 基本にするスタイルを選ぶ

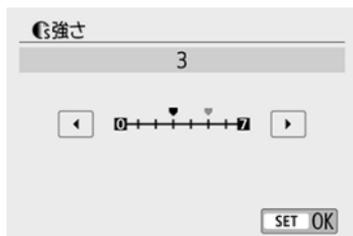


- 基本にするスタイルを選びます。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

5. 項目を選ぶ



6. 効果の度合いを設定する



- 詳しくは、[ピクチャースタイルの調整](#)を参照してください。



- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
[ユーザー設定*]の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

注意

- [ユーザー設定*] にスタイルがすでに登録されているときは、基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- [設定解除] の [カメラ設定初期化] (☑) を行うと、[ユーザー設定*] に設定した内容が初期化されます。

参考

- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した [ユーザー設定*] を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書 (☑) を参照してください。

- [長秒時露光のノイズ低減](#)
- [高感度撮影時のノイズ低減](#)

長秒時露光のノイズ低減

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。

1. [📷: 長秒時露光のノイズ低減] を選ぶ



2. 低減内容を設定する



- **[AUTO] 自動**
露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。
- **[ON] する**
露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。**[自動]** で検出できないノイズがあったときに**[する]** で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

⚠ 注意

- **[自動] [する]** 設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。
- **[しない] [自動]** 設定時よりも**[する]** 設定時の方が、画像のザラつきが多くなる場合があります。
- **[する]** 設定時に、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、**[BUSY]** が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。

1. [📷: 高感度撮影時のノイズ低減] を選ぶ



2. レベルを設定する



● [NR] マルチショットノイズ低減機能

[強め] よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。なお、記録画質がRAW、RAW + JPEGに設定されているときは、[マルチショットノイズ低減機能] は設定できません。

ⓘ 注意

[マルチショットノイズ低減機能] 設定時の注意事項

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大いときは、ノイズ低減効果が小さくなる場合があります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 4枚連続撮影中に被写体の明るさが変化したときは、画像に露出ムラが発生することがあります。
- 撮影後にノイズ低減処理と画像合成を行ってからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中はモニターに「BUSY」、ファインダー内には「buSY」が表示されます。処理が終わるまで次の撮影はできません
- バルブ撮影、AEB撮影、WBブラケティング撮影、RAW、RAW+JPEG、長秒時露光のノイズ低減などが設定されているときは、[マルチショットノイズ低減機能] は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。なお、AF補助光は、[📷 : AF補助光の投光] の設定に応じて投光されます。
- 動画撮影時は、[マルチショットノイズ低減機能] は設定できません（表示されません）。
- 電源スイッチ（OFF）、バッテリー交換、カード交換、撮影モードをかんたん撮影ゾーンに変更したり、バルブ撮影や動画撮影への切り換えを行うと、自動的に[標準] に切り換わります。

- [事前準備](#)
- [ダストデリートデータの取得](#)
- [ダストデリートデータの付加](#)

センサークリーニングでゴミが除去しきれなかった場合に備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

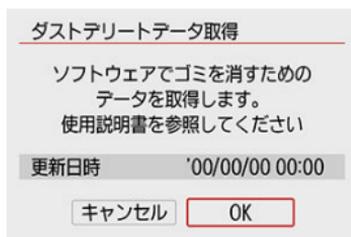
事前準備

- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、無限遠（∞）に設定する。

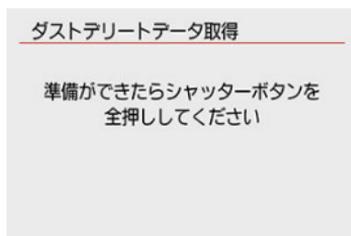
1. [📷: ダストデリートデータ取得] を選ぶ



2. [OK] を選ぶ



- 撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。



3. 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、真っ白な無地の被写体（未使用のコピー用紙など）を画面いっぱいに入れて撮影します。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていないなくてもデータを取得することができます。

ダストテリートータ取得

データの取得が完了しました

OK

- 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。[事前準備](#)の内容を確認し、**[OK]**を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータの付加

取得したダストデリートデータは、その後に撮影される静止画に付加されます。撮影の直前にデータを取得することをおすすめします。

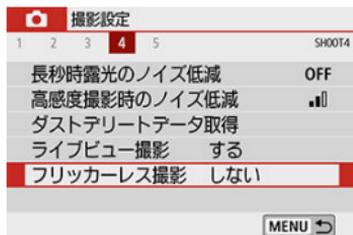
なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalによる自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。画像に付加されるダストデリートデータの容量は、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

⚠ 注意

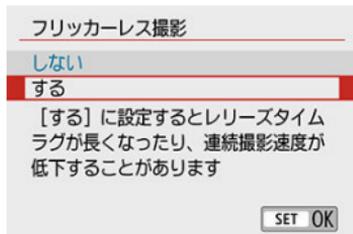
- 被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われなことがあります。
- 以下の条件で撮影された画像には、ダストデリートデータは付加されません。
 - [SCN] (SCN) モード) 撮影時
 - [H1] [H2] [H3] [H4] [H5] (H) モード) 撮影時
 - [カメラ] : レンズ光学補正 の [歪曲収差補正] を [する] に設定しているとき

蛍光灯などの光源下で、速いシャッタースピードで撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。ファインダー撮影時にフリッカーレス撮影機能を使用すると、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。

1. [📷: フリッカーレス撮影] を選ぶ



2. [する] を選ぶ



3. 撮影する

注意

- [する] 設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、リリースタイムラグが長くなることがあります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
- ミラーアップ撮影時、ライブビュー撮影時、動画撮影時は機能しません。
- 100Hz、120Hzの点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。
- 〈P〉 〈Av〉 モードで連続撮影中にシャッタースピードが変化したときや、同一シーンでシャッタースピードを変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なることがあります。色あいの変化が気になるときは、〈M〉 〈Tv〉 モードでシャッタースピードを一定にして撮影してください。
- [する] に設定したときと、[しない] に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。
- AEロック撮影時を含む撮影開始時に、シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が変化することがあります。
- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーを適切に検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。

参考

- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- フリッカーの影響が低減された状態で撮影が行われるときは、[Flicker!] が点灯します。ファインダー内に [Flicker!] が表示されないときは、[📷: ファインダー内表示] の [フリッカー検知] で [表示する] を選びます (🔘)。なお、フリッカーが発生しない光源下や、フリッカーを検知できないときは、[Flicker!] は表示されません。
- [フリッカー検知] が [表示する] の状態で、[📷: フリッカーレス撮影] を [しない] に設定し、フリッカー光源下で測光を行ったときは、ファインダー内の [Flicker!] が点滅して警告が行われます。
- かんたん撮影ゾーンのときは [Flicker!] は表示されませんが、フリッカーの影響が低減された状態で撮影されます。
- ワイヤレスストロボ撮影時は効果が得られないことがあります。

コンティニュアスAF (ライブビュー撮影)

ライブビュー撮影時に、常に被写体に対しておおまかにピントを合わせ続ける機能です。シャッターボタンを半押ししたときに素早くピントが合います。

1. [📷: コンティニュアスAF] を選ぶ



2. [する] を選ぶ



⚠ 注意

- [する] 設定時は、常にレンズが動作してバッテリーを消耗するため、撮影可能枚数が少なくなります。

電子式の手動フォーカス機能を備えたEF/EF-Sレンズを使用して、ワンショットAFを行ったときの手動ピント調整の設定ができます。

1. [📷: レンズの電子式手動フォーカス] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **ワンショットAF動作後・不可**
AF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。
- **ワンショットAF動作後・可能**
AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。

⚠ 注意

- お使いのレンズの手動フォーカス機能の仕様は、レンズの使用説明書でご確認ください。

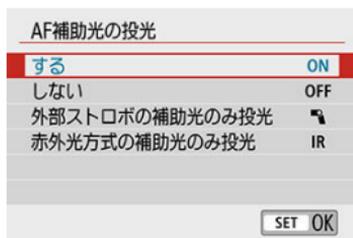
AF補助光の投光

ファインダー撮影時に、内蔵ストロボ、またはEOS用の外部ストロボから、AF補助光を投光することができます。

1. [📷: AF補助光の投光] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **[ON] する**
必要に応じてAF補助光が投光されます。
内蔵ストロボでAF補助光を投光するときは、ストロボを手で上げます。
- **[OFF] しない**
AF補助光は投光されません。AF補助光を投光したくないときに設定します。
- **[📷] 外部ストロボの補助光のみ投光**
外部ストロボ使用時のみ、必要に応じてAF補助光が投光されます。
- **[IR] 赤外光方式の補助光のみ投光**
赤外光方式のAF補助光機能を搭載した外部ストロボ使用時は、赤外光によるAF補助光が投光されます。

注意

- 外部ストロボのカスタム機能で「**AF補助光の投光**」が「**1:しない**」に設定されているときは、外部ストロボからのAF補助光は投光されません。

参考

- ライブビュー撮影時に、LEDライト付きEXスピードライトを取り付けて、「**する**」または「**外部ストロボの補助光のみ投光**」に設定すると、必要に応じてストロボのLEDライトからAF補助光が投光されます。

静止画撮影全般の注意事項

- [ファインダー撮影時、ライブビュー撮影時共通](#)
- [ライブビュー撮影時](#)
- [ライブビュー撮影時の情報表示について](#)

ファインダー撮影時、ライブビュー撮影時共通

注意

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。

❗ 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。

画質について

- 撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

白い【10】と赤い【20】表示について

- 撮影を長時間行ったり、高温下で撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い【10】または赤い【20】が表示されます。
- 白い【10】は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止することをおすすめします。
- 白い【20】が表示されたときは、高ISO感度を使用せず、低ISO感度での撮影をおすすめします。
- 赤い【20】は、もうすぐ撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで撮影ができなくなるため、撮影を一時休止するか、一旦電源を切ってしばらくカメラを休止してください。
- 高温下で撮影を長時間行くと、白い【10】または赤い【20】が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い【10】が表示されていない場合でも、カメラ内部の温度が上昇している状態で、高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッタースピードと絞り数値が赤色で表示されます。拡大表示の状態では撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態でも撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所では映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面や露出値の表示がちらつくことがあります。そのときは、撮影を一旦終了し、撮影する光源下で撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で【**☞**：画面の明るさ】を明るい設定にすると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

カスタム機能について

- 一部のカスタム機能は機能しません（設定が無効になるカスタム機能があります）。

レンズとストロボについて

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- 内蔵ストロボ使用時にFEロックはできません。また、外部ストロボ使用時にFEロック、モデリング発光はできません。



参考

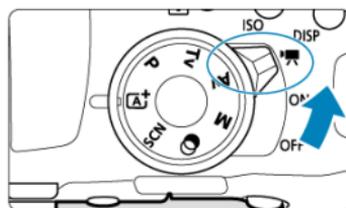
- HDMIケーブル HTC-100（別売）を使用すると、映像をテレビに表示することができます（）。ただし、音声は出力されません。

ライブビュー撮影時の情報表示について

静止画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、[ライブビュー撮影画面](#)を参照してください。

参考

- **[Exp.SIM]** が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさで映像が表示されています。
- **[Exp.SIM]** が点滅しているときは、低輝度、または高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- 撮影機能の設定条件によっては、露出シミュレーションが行われないことがあります。そのときは **[Exp.SIM]** とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき画面に表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。



動画撮影を行うときは、電源スイッチを「」にします。

- ページタイトル右の  は、応用撮影ゾーン〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉モード限定の機能であることを示しています。

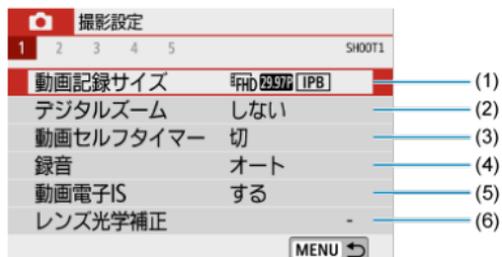
⚠ 注意

- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。

- [メニュー目次：動画撮影](#)
- [動画撮影](#)
- [HDR動画](#)
- [クリエイティブフィルター](#)
- [動画記録サイズ](#)
- [デジタルズーム](#)
- [動画セルフタイマー](#)
- [録音](#)
- [動画電子IS](#)
- [タイムラプス動画](#)
- [ビデオスナップ](#)
- [動画サーボAF](#)
- [その他のメニュー機能](#)
- [動画撮影全般の注意事項](#)

メニュー目次：動画撮影

● 撮影1



- (1) [動画記録サイズ](#)
- (2) [デジタルズーム](#)
- (3) [動画セルフタイマー](#)
- (4) [録音](#)
- (5) [動画電子IS](#)
- (6) [レンズ光学補正](#) **応用**

● 撮影2



- (1) [タイムラプス動画](#)
- (2) [リモコン撮影](#)
- (3) [ビデオスナップ](#)

● 撮影3



- (1) [露出補正](#) **応用**
- (2) [ISO感度に関する設定](#) **応用**
- (3) [オートライティング最適化](#) **応用**
- (4) [高輝度側・階調優先](#) **応用**
- (5) [オートスローシャッター](#) **応用**
- (6) [測光タイマー](#) **応用**

● 撮影4



- (1) [ホワイトバランス](#) **応用**
- (2) [MWB画像選択](#) **応用**
- (3) [WB補正](#) **応用**
- (4) [ピクチャースタイル](#) **応用**
 - [ピクチャースタイルの選択](#) **応用**
 - [ピクチャースタイルの調整](#) **応用**
 - [ピクチャースタイルの登録](#) **応用**
- (5) [HDMI出力時の情報表示](#) **応用**

● 撮影5



- (1) [AF方式](#)
- (2) [動画サーボAF](#)
- (3) [瞳AF](#)
- (4) [レンズの電子式手動フォーカス](#) **応用**
- (5) [MFピーキング設定](#)

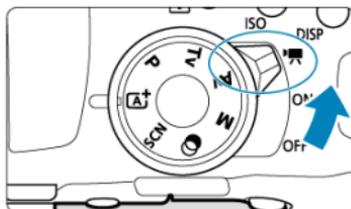
動画撮影

- ☑ [動画自動露出撮影](#)
- ☑ [動画マニュアル露出撮影](#) 応用
- ☑ [〈M〉モード設定時のISO感度](#) 応用
- ☑ [設定できるシャッタースピード](#) 応用
- ☑ [静止画撮影](#)
- ☑ [動画撮影時の情報表示](#)

動画自動露出撮影

明るさに応じて自動露出制御が行われます。

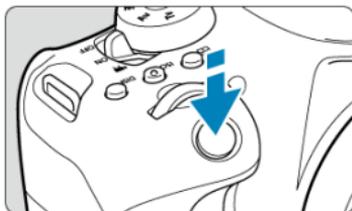
1. 電源スイッチを〈**開**〉にする



- ミラーが動く音がしたあと、モニターに映像が表示されます。

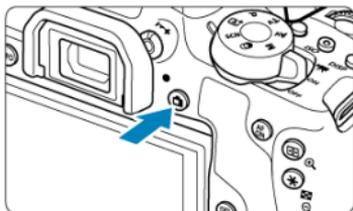
2. モードダイヤルを〈SCN〉〈**Q**〉〈M〉以外にする

3. ピントを合わせる



- 動画撮影を始める前に、AF (AF-ON) または手動 (MF) でピントを合わせます。
- 初期状態では、[カメラアイコン] : 動画サーボAF が [する] に設定されているため、常時ピント合わせが行われます (AF-ON)。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。

4. 動画を撮影する



- 〈〉 ボタンを押すと、動画撮影が始まります。
- モニターの [] をタッチしても、動画撮影が始まります。

参考

- 以下の設定時には画面に [] は表示されません。
 - [ビデオスナップ] を [撮影する] に設定しているとき
 - [タイムラプス動画] を [しない] 以外に設定しているとき
 - 〈〉 モード (動画)
 - 〈**SCN**〉 モード (HDR動画)



- 動画撮影中は画面右上に [] が表示されます。
- 音声は内蔵マイク () で記録されます。
- もう一度 〈〉 ボタンを押すと、動画撮影が終了します。
- モニターの [] をタッチすることでも、動画撮影が終了します。

かんたん撮影ゾーン時のISO感度について

- ISO100～12800の範囲で自動設定されます。

〈P〉 〈Tv〉 〈Av〉モード時のISO感度について

- ISO100～12800の範囲で自動設定されます。なお、上限値は [カメラアイコン] : [ISO感度に関する設定] の [オートの上限] の設定によって変わります (🔗)。
- [🔗 : カスタム機能(C.Fn)] の [2: ISO感度拡張] が [1: する] に設定されているときは、[オートの上限] で [H(25600)] も選択できるようになります。

⚠ 注意

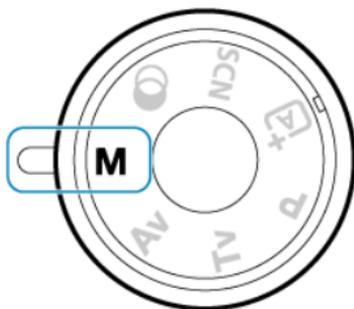
- 〈SCN〉モードに設定したときは、HDR動画撮影になります (🔗)。
- 〈Tv〉 〈Av〉モードに設定しても、シャッタースピード、絞り数値を優先した動画撮影はできません。〈P〉モードと同じ、自動露出撮影になります。

📖 参考

- 〈A+〉モードでは画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます (🔗)。
- 応用撮影ゾーンのときは、〈*〉ボタン (🔗) を押すと、露出を固定 (AEロック) することができます。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈[+]〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます (〈[+]〉ボタンを押すまで保持されます)。
- 応用撮影ゾーンのときは、±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- 動画の画像情報 (Exif情報) にISO感度、シャッタースピード、絞り数値は記録されません。
- このカメラは、自動露出で動画を撮影する際 (タイムラプス動画撮影を除く)、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、LEDライトを内蔵したEXスピードライトの使用説明書を参照してください。

任意にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。

1. 電源スイッチを〈〉にする
2. モードダイヤルを〈M〉にする

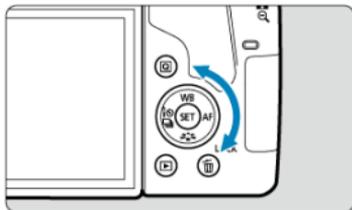
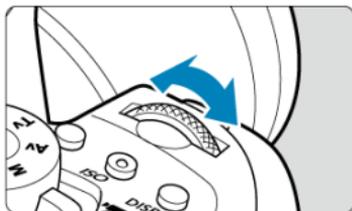


3. ISO感度を設定する



- 〈ISO〉ボタンを押します。
画面にISO感度の設定画面が表示されます。
- 〈〉または〈〉で設定します。

4. シャッタースピードと絞り数値を設定する



(1) (2)

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッタースピード (1) は , 絞り数値 (2) は  を回して設定します。

5. ピントを合わせて撮影する

- [動画自動露出撮影](#)の手順3、4と同じです。

ⓘ 注意

- 動画撮影中にシャッタースピード、絞り数値やISO感度の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25~1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

📖 参考

- ISOオート設定時に±3段までの範囲で露出補正を行うことができます (☑)。
- ISOオート設定時に〈✳〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。動画撮影中にISO感度を固定したときは、〈☑〉ボタンを押すと、ISO感度の固定を解除することができます (〈☑〉ボタンを押すまで保持されます)。
- 〈✳〉ボタンを押して構図を変えると、〈✳〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- 〈M〉モード時に撮影準備状態で〈INFO〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。

〈M〉モード設定時のISO感度

応用

ISO感度を任意に設定したり、[AUTO] を選ぶこともできます。ISO感度については、[動画撮影時のISO感度](#)を参照してください。

〈M〉モード時に設定できるシャッタースピードは1/4000~1/8秒です。

⚠ 注意

- タイムラプス動画撮影 (📷) のときは、設定できるシャッタースピードが異なります。

静止画撮影

動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、フリンダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

動画撮影時の情報表示

動画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、[動画撮影画面](#)を参照してください。

ⓘ 注意

動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 細かいパターンや被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- **[AWB]** **[AWBw]** の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカシングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、ピントがズレることがあります。
- 絞り数値が大きいときは、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。
- 動画撮影中にシャッターボタンを半押ししてAFを行うと、「一時的にピントが大きくぼける」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- カメラに内蔵されたマイク (🎙️) を指などでふさがないようにしてください。
- [動画撮影全般の注意事項](#)もお読みください。
- 必要に応じて[静止画撮影全般の注意事項](#)もお読みください。

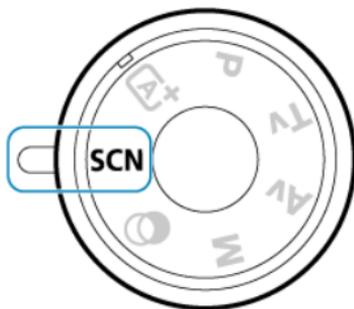
動画撮影時共通事項

- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は、4K/フルHD/HD撮影時ともに約100%です。
- **[👉: 動画撮影時シャッターボタンの機能]** の **[全押し]** を **[動画撮影の開始/終了]** に設定すると、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始/終了することができます。
- 音声はカメラに内蔵されたマイク (🔊) でステレオ録音されます。
- 外部マイク入力端子に、指向性ステレオマイクロホン DM-E1 (別売) などの外部マイクを接続すると、外部マイクが優先されます (🔊)。
- ミニプラグ (Φ3.5mm) を備えたマイクであれば、ほとんどの外部マイクが使用できます。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた (超) 望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- カラーサンプリングは、4K動画/フルHD動画/HD動画: YCbCr 4:2:0 (8bit)、色空間は、4K動画/フルHD動画/HD動画: Rec. ITU-R BT.709 で記録されます。

HDR動画

明暗差の大きいシーンで白とびが緩和された、階調の広い（ハイダイナミックレンジな）動画を撮影することができます。

1. モードダイヤルを〈SCN〉にする



2. HDR動画を撮影する



- 通常の動画撮影と同じ方法で撮影します (☑)。

⚠ 注意

- HDR動画は、複数のフレームを合成して映像を生成するため、映像の一部がゆがむことがあります。手ブレの影響により、この現象が目立つことがあるため、三脚の使用をおすすめします。なお、三脚を使用して撮影しても、コマ送りやスロー再生を行ったときは、通常の再生を行ったときに比べ、残像が目立ったり、ノイズが増えたように見えることがあります。
- 動画デジタルズーム、ビデオスナップ、タイムラプス動画、動画電子ISは設定できません。

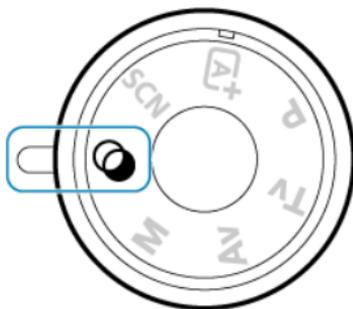
📖 参考

- 記録サイズは、**FHD 29.97P IPB** (NTSC)、または**FHD 25.00P IPB** (PAL) で記録されます。
- HDR動画撮影時のISO感度は、自動設定されます。

クリエイティブフィルター

〈Q〉（クリエイティブフィルター）モードでは、フィルター効果を付けた動画を撮影することができます。

1. モードダイヤルを〈Q〉にする



2. 〈Q〉ボタンを押す (10)

- クイック設定の状態になります。

3. [撮影モード] を選ぶ



- 〈▲〉 〈▼〉で画面左上の [撮影モード]（撮影モード）を選び、〈SET〉を押します。

4. フィルター効果を選ぶ



- 〈▲〉 〈▼〉でフィルター効果 (☑) を選び、〈SET〉を押します。
- フィルター効果が反映された映像が表示されます。
- [ジオラマ風動画] のときは、ピントを合わせたい位置に、AFフレームを移動します。AFフレームがジオラマ枠から出たときは、ジオラマ枠を移動させてAFフレームの位置に合わせます。

5. フィルター効果の強さを調整する



- 〈Q〉 ボタンを押して、[動画セルフタイマー] の下のアイコンを選びます。
- 〈◀〉 〈▶〉で効果を調整し、〈SET〉を押します。
- [ジオラマ風動画] 設定時は、再生時の速度 (倍速) を選びます。

6. 撮影する

⚠ 注意

- 拡大表示はできません。
- ヒストグラムは表示されません。
- 動画デジタルズーム、ビデオスナップ、タイムラプス動画、動画電子ISは設定できません。

📖 参考

- 記録サイズは、[FHD 29.97P] / [FHD 23.98P] (NTSC)、または [FHD 25.00P] (PAL) で記録されます。
- 応用撮影ゾーンの場合は、クイック設定でクリエイティブフィルターを設定することができます (🔗)。

各クリエイティブフィルターの特徴について

- **ファンタジー**
夢の中にいるような、幻想的でやわらかな雰囲気になります。全体的にやわらかい感じで、画面周辺にモヤがかかったような動画になります。効果を調整することで、画面周辺のモヤがかかる範囲を変えることができます。
- **オールドムービー**
映像の揺れや傷、明滅効果で古い映画のような雰囲気になります。画面の上下が黒くマスクされます。効果を調整することで、映像の揺れや傷の具合を変えることができます。
- **メモリー**
遠い昔の記憶のような雰囲気になります。全体的にやわらかい感じで、画面周辺の光量を落とした動画になります。効果を調整することで、画面全体の彩度や画面周辺の暗部の範囲を変えることができます。
- **ダイナミックモノクローム**
黒と白の階調を際立たせ、力強い臨場感のある雰囲気になります。効果を調整することで、粒子のざらついた感じや白黒の感じを変えることができます。
- **ジオラマ風動画**
ジオラマ（ミニチュア模型）風の動画が撮影できます。
手順4で〈Q〉ボタンを押す（または画面右下の〔Q〕をタッチする）と、ジオラマ枠の色が変わり、移動させることができます。画面の中央に戻したいときは〈INFO〉ボタンを押します。画面左下の〔R〕をタッチすると、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。ジオラマ枠が横向きの場合は〈◀〉 〈▶〉、縦向きの場合は〈▲〉 〈▼〉でも、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。〈Ⓜ〉を押すと、ジオラマ枠の位置が確定します。手順5で再生時の速度を、[5倍速] [10倍速] [20倍速]のいずれかに設定してから撮影します。AF方式は[1点AF]で、白枠の中央にピントが合います。撮影中、白枠は表示されません。

倍速と再生時間の目安（動画を1分間撮影したとき）

倍速	再生時間
5倍	約12秒
10倍	約6秒
20倍	約3秒

⚠ 注意

- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。

【🔊】について

- 音声は録音されません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- 再生時間が1秒未満のときは編集できません (🔒)。

動画記録サイズ

- [画像サイズ](#)
- [4K動画撮影](#)
- [フレームレート \(fps : frame per second\)](#)
- [圧縮方式](#)
- [動画記録形式](#)
- [動画が記録できるカード](#)
- [ファイルサイズが4GBを超える動画撮影](#)
- [動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安](#)
- [撮影時間の制限](#)

[📷 : 動画記録サイズ] で、画像サイズ、フレームレート、圧縮方式を設定することができます。撮影した動画は、MP4形式で記録されます。

なお、フレームレートは、[🔊 : ビデオ方式] の設定 (🔗) により、自動的に切り換わりません。



画像サイズ

- **[4K] 3840×2160**
4K画質で記録されます。画面の横縦比は**16:9**です。
- **[FHD] 1920×1080**
フルハイビジョン（Full HD）画質で記録されます。画面の横縦比は**16:9**です。
- **[HD] 1280×720**
ハイビジョン（HD）画質で記録されます。画面の横縦比は**16:9**です。

⚠ 注意

- **[🎥 : ビデオ方式]** の設定を変更したときは、**[📷 : 動画記録サイズ]** の再設定を行ってください。
- 4K動画、**[FHD 59.94P / 50.00P]** で撮影した動画は、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。
- 動画記録画質の設定により、解像感やノイズ感は異なります。

📄 参考

- VGA画質の動画を撮影することはできません。

4K動画撮影

- 4K動画を撮影するには高性能なカードが必要です。詳しくは、[動画が記録できるカード](#)を参照してください。
- 4K動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなる場合があります。動画撮影時に赤い**①**が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。
- 4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、約830万画素（3840×2160）のJPEG画像（静止画）としてカードに保存することができます（**②**）。

フレームレート (fps : frame per second)

- **【59.94P】 59.94fps / 【29.97P】 29.97fps / 【23.98P】 23.98fps**
テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。
- **【50.00P】 50.00fps / 【25.00P】 25.00fps**
テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

圧縮方式

- **[] IPB（標準）**
複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。
- **[] IPB（軽量）**
IPB（標準）よりもビットレートを低く抑えて記録するため、IPB（標準）よりもファイルサイズが小さく、再生互換性が高くなります。（同じ容量のカードであれば）IPB（標準）よりも撮影できる時間が長くなります。

動画記録形式

- **[] MP4**
このカメラで撮影した動画は、すべてMP4形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MP4」）。

動画が記録できるカード

各動画記録画質で記録できるカードの詳細は、[要求カード性能](#)を参照してください。
また、事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録サイズ (📷) で正しく記録できることを確認してください。

⚠ 注意

- 4K動画撮影を行うときは、撮影前にカードを初期化してください (📷)。
- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影を行うときは、実際の書き込み速度がビットレートを十分に上回る、高性能なカードを使用してください。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせて確認してください。

📖 参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします (📷)。
- カードの書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

ファイルサイズが4GBを超える動画撮影

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

● このカメラで初期化した「SD/SDHCカード」使用時

SD/SDHCカードをこのカメラで初期化すると、FAT32形式でフォーマットされます。FAT32形式でフォーマットされたカードを使用したときは、動画撮影を開始してファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。

なお、再生時は動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

● このカメラで初期化した「SDXCカード」使用時

SDXCカードをこのカメラで初期化すると、exFAT形式でフォーマットされます。

exFAT形式でフォーマットされたカードを使用したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、(ファイルが分割されず)1つの動画ファイルに記録されます(4GBを超える動画ファイルが作成されます)。

⚠ 注意

- 4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utilityを使用するか、カードリーダーを使用してください (🔗)。パソコン (OS) の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルが取り込めないことがあります。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

各動画記録サイズで動画記録できる時間、およびファイルサイズについては、[記録時間と映像ビットレート、ファイルサイズの目安](#)を参照してください。

撮影時間の制限

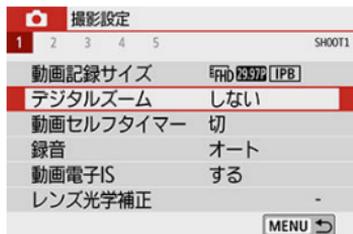
1回に撮影できる時間は最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈〉ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

デジタルズーム

記録サイズが [FHD 29.97P] / [FHD 23.98P] (NTSC)、または [FHD 25.00P] (PAL) のときに、デジタルズームで約3~10 倍の望遠撮影ができます。

1. モードダイヤルを〈SCN〉 (📷) 以外にする

2. [📷: デジタルズーム] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



- ズーム倍率を選び、〈SET〉 (📷) を押します。

4. デジタルズームを使う



- 〈▲〉 〈▼〉を押します。
- デジタルズームバーが表示されます。
- 〈▲〉を押すと望遠側、〈▼〉を押すと広角側にズームします。
- シャッターボタンを半押しすると、[1点AF] (中央固定) でピント合わせが行われます。
- デジタルズームを解除するときは、手順2で [しない] を選びます。

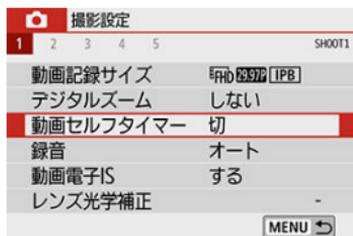
注意

- 手持ち撮影では手ブレしますので、三脚の使用をおすすめします。
- タイムラプス動画、クリエイティブフィルター、動画電子ISは設定できません。
- 上限感度は ISO6400になります。
- 拡大表示はできません。
- 動画デジタルズームでは映像をデジタル処理するため、拡大するほど映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- シーン判別のアイコンは表示されません。
- [ピントが合いにくい撮影条件](#)も参照してください。

動画セルフタイマー

セルフタイマーを使って動画撮影を開始することができます。

1. [📷: 動画セルフタイマー] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



3. 撮影する

- [●] にタッチするか、<📷> ボタンを押すと、画面に撮影開始までの秒数が表示され、電子音が鳴ります。

📖 参考

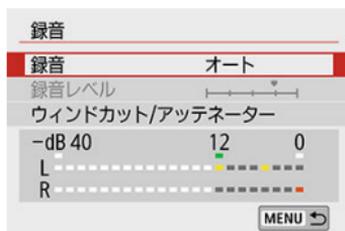
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、モニターにタッチするか、<⏏> を押します。

録音

- [録音／録音レベル](#)
- [ウィンドカット](#) **応用**
- [アッテネーター](#) **応用**
- [外部マイク](#)

内蔵のステレオマイク、または外部ステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。

[ : 録音] で録音に関する設定を行うことができます。



録音／録音レベル

● オート

録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

● マニュアル

録音レベルを任意に調整することができます。

[録音レベル] を選び、レベルメーターを見ながら〈◀〉〈▶〉を押すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」(-12dB)の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

● しない

録音は行われません。

ウィンドカット

応用

[オート] に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ポコポコ」という音を自動的に低減することができます。カメラに内蔵されたマイクを使用したときのみ機能します。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

アッテネーター

応用

音割れを抑制する機能です。[録音] を [オート] または [マニュアル] に設定して音割れするときは、[入] を選びます。

外部マイク

外部マイク入力端子に、ミニプラグ（Φ3.5mm）を備えた外部マイクを接続すると、外部マイクが優先されます。指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）などの使用をおすすめします。

注意

- 内蔵マイク/外部マイク使用時にWi-Fi（無線通信）機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- カメラに外部マイクを接続するときは、プラグが根元まで差し込まれていることを確認してください。
- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ/レンズの操作音が一緒に録音されます。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。

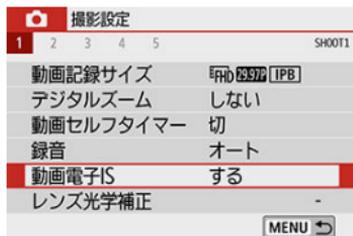
参考

- かんたん撮影ゾーンの場合は [録音] : [する] [しない] になります。なお、[する] に設定したときは、録音レベルが自動調整されます。
- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（[録音 : しない] 設定時を除く）。
- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数48kHz/16bitで記録されます。

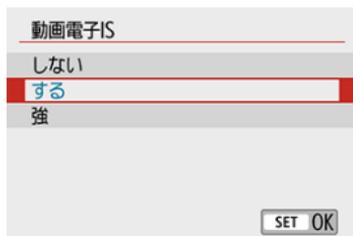
動画電子IS

動画撮影時の手ブレを、カメラの「動画電子IS」機能で軽減することができます。手ブレ補正機能が搭載されていないレンズを使用したときでも、動画電子IS機能により、手ブレ補正効果が得られます。手ブレ補正機能が搭載されているレンズを使用するときは、レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。

1. [📷: 動画電子IS] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **しない** (📷OFF)
動画電子ISによる手ブレ補正は行われません。
- **する** (📷ON)
手ブレ補正が行われます。映像がやや拡大されます。
- **強** (📷ON+)
[する] 設定時より、大きな手ブレを補正することができます。映像がさらに拡大されます。

ⓘ 注意

- レンズの（光学式）手ブレ補正スイッチが〈OFF〉のときは、動画電子ISは機能しません。
- レンズの焦点距離が800mmを超えるときは、動画電子ISは機能しません。
- 〈SCN〉 〈Q〉モード時、動画デジタルズーム、タイムラプス動画、クリエィティブフィルター設定時は、動画電子ISは設定できません。
- 画角が広くなるほど、手ブレ補正効果は大きくなり、画角が狭くなるほど、手ブレ補正効果は小さくなります。
- TS-Eレンズや魚眼レンズ使用時、または他社製レンズ使用時は〔しない〕に設定することをおすすめします。
- 拡大表示時、動画電子ISの効果は映像に反映されません。
- 動画電子ISは映像を拡大しているため、映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- 被写体や撮影条件によっては、動画電子ISの効果により、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- 動画電子ISを設定すると、AFフレームの大きさも変わります。
- 三脚使用時は〔しない〕に設定することをおすすめします。
- 一部のレンズは、この機能に対応していません。詳しくはキヤノンのホームページを参照してください。

タイムラプス動画

一定間隔で撮影した静止画を自動でつなぎ合わせて、4K動画またはフルHD動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長、星の動きなどの定点観測に効果的です。

タイムラプス動画は、4K撮影時：**4K 29.97P [ALL-I]** (NTSC) / **4K 25.00P [ALL-I]** (PAL)、フルHD撮影時：**FHD 29.97P [ALL-I]** (NTSC) / **FHD 25.00P [ALL-I]** (PAL) の設定で、ともにMP4形式で記録されます。

なお、フレームレートは、**[P:ビデオ方式]** の設定 (2) により自動的に切り換わります。

1. モードダイヤルを〈SCN〉〈〉以外にする

2. [📷:タイムラプス動画] を選ぶ



3. [タイムラプス撮影] を選ぶ



4. シーンを選ぶ



- 撮影シーンに応じて、シーンを選びます。
- 撮影間隔と回数を自由に設定して撮影したいときは **[カスタム]** を選びます。

5. 撮影間隔を設定する



- **[撮影間隔/回数]** を選びます。
- **[撮影間隔]** (秒) を選びます。〈◀〉 〈▶〉 で数値を設定し 〈SET〉 を押します。
- **[■: 撮影所要時間]** (1)、**[▶: 再生時間]** (2) を参考にして設定します。

[カスタム] 設定時

- **[撮影間隔]** (分:秒) を選びます。
- 〈SET〉 を押して 〈⏏〉 の状態にします。
- 〈▲〉 〈▼〉 で数値を設定し 〈SET〉 を押します (〈□〉 の状態に戻ります)。
- **[OK]** を選ぶと設定されます。

6. 撮影回数を設定する



- [撮影回数] を選びます。〈◀〉 〈▶〉 で数値を設定し 〈SET〉 を押します。
- [🕒：撮影所要時間] [▶：再生時間] を参考にして設定します。

[カスタム] 設定時

- 項目 (桁) を選びます。
- 〈SET〉 を押して 〈⏏〉 の状態にします。
- 〈▲〉 〈▼〉 で数値を設定し 〈SET〉 を押します (◀◻) の状態に戻ります)。
- [▶：再生時間] が赤く表示されていないことを確認します。
- [OK] を選ぶと設定されます。

⚠ 注意

- 設定した撮影回数でカードの容量が不足するときは、[再生時間] が赤く表示されます。そのまま撮影することはできますが、カードの残量がなくなった時点で撮影が終了します。
- 設定した [撮影回数] でファイルサイズが4GBを超えるときに、カードがexFAT形式でフォーマットされていないときは (🔒)、[再生時間] が赤く表示されます。そのまま撮影を行ったときは、ファイルサイズが4GBに達した時点で、タイムラプス動画撮影が終了します。

参考

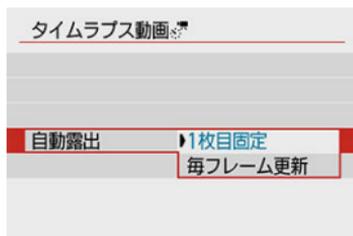
- [シーン*] 設定時は、各シーンに適切な撮影ができるように、設定できる撮影間隔/回数が限定されています。
- タイムラプス動画が記録できるカードについては、[要求カード性能](#)を参照してください。
- 撮影回数を3600回に設定したときは、NTSC設定時：約2分、PAL設定時：約2分24秒のタイムラプス動画になります。

7. 動画記録サイズを選ぶ



- **4K (3840×2160)**
4K画質で記録されます。画面の横縦比は**16:9**です。
フレームレートはNTSC: 29.97fps (**29.97P**) / PAL: 25.00fps (**25.00P**)、
圧縮方式はALL-I (**ALL-I**)、動画記録形式はMP4 (**MP4**) で記録されま
す。
- **FHD (1920×1080)**
フルハイビジョン (Full HD) 画質で記録されます。画面の横縦比は
16:9です。
フレームレートはNTSC: 29.97fps (**29.97P**) / PAL: 25.00fps (**25.00P**)、
圧縮方式はALL-I (**ALL-I**)、動画記録形式はMP4 (**MP4**) で記録されま
す。

8. [自動露出] を設定する



● 1枚目固定

1枚目を撮影するときに測光が行われ、明るさに応じて露出が自動的に決まります。2枚目以降は1枚目と同じ露出で撮影されます。また、撮影に関する設定も、1枚目と同じ設定で撮影されます。

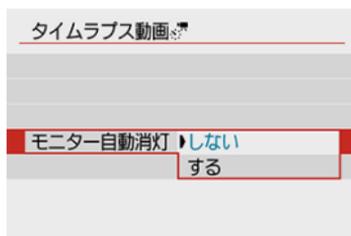
● 毎フレーム更新

2枚目以降も毎回測光が行われ、そのときの明るさに応じて露出が自動的に決まります。なお、ピクチャースタイル、ホワイトバランスなどの機能が、[オート] に設定されているときは、2枚目以降も1枚毎に自動更新されます。

⚠ 注意

- [撮影間隔] が3秒以下で、[自動露出] が [毎フレーム更新] に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。
- [自動露出] を [毎フレーム更新] に設定して撮影したときは、撮影モードにより、タイムラプス動画の画像情報 (Exif情報) に、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値が記録されないことがあります。

9. [モニター自動消灯] を設定する

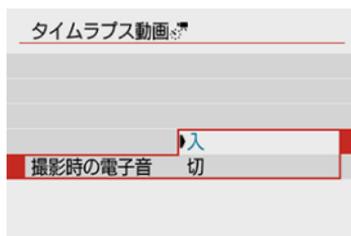


- **しない**
タイムラプス動画撮影中も、映像が表示されます（撮影のときだけ画面が消灯します）。撮影開始から約30分経過すると、画面が消灯します。
- **する**
撮影開始から約10秒経過すると、画面が消灯します。

参考

- タイムラプス動画撮影中に〈INFO〉ボタンを押すと、画面を点灯／消灯することができます。

10. 電子音を設定する



- [撮影時の電子音] を選びます。
- [切] に設定すると、撮影が行われるときに電子音が鳴らなくなります。

11. 設定内容を確認する



(1) 撮影所要時間

撮影間隔、撮影回数をもとに撮影に必要な時間が表示されます。なお、24時間を超えるときは、「***日」で表示されます。

(2) 再生時間

一定間隔で撮影した静止画から4K動画、またはフルHD動画を生成したときに、動画として記録される時間です (= 動画再生に必要な時間)。

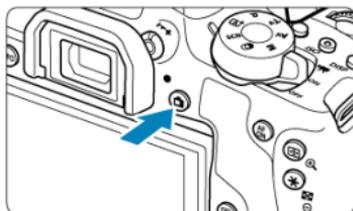
12. メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニュー画面を消します。

13. タイムラプス動画を撮影する



- 〈INFO〉ボタンを押して、画面に表示される「撮影所要時間 (1)」「撮影間隔 (2)」を再確認します。



- 〈〉を全押しすると、タイムラプス動画撮影が始まります。
- タイムラプス動画撮影中は、AFは行われません。
- タイムラプス動画撮影中は、画面右上に「REC」が表示されます。
- 設定した回数の撮影が終わると、タイムラプス動画撮影が終了します。
- タイムラプス動画撮影を解除するときは、[タイムラプス撮影]を[しない]に設定します。

ⓘ 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- インターフェースケーブルでパソコンと接続しているときや、HDMIケーブルを接続しているときは、[タイムラプス動画]で[しない]以外を選ぶことはできません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- シャッタースピードが1/30秒以下のときは、映像の露出が適切に表示されない（実際の撮影結果と異なる）ことがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズのズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したり、レンズ光学補正が適切に行われなことがあるあります。
- フリッカー光源下でタイムラプス動画撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。
- タイムラプス動画撮影時に表示される映像と、実際の撮影結果は異なることがあります（フリッカーによるちらつきや、高ISO感度撮影時のノイズなど）。
- 暗い撮影条件下でタイムラプス動画撮影を行ったときは、撮影中に表示される映像と、実際の撮影結果が異なることがあります。そのときは[Exp.SIM]マークが点滅します。
- タイムラプス動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像が強くゆがんで写ることがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声は記録されません。
- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときや、遅いシャッタースピードが自動設定されたときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。また、シャッタースピードが撮影間隔と近いときも、撮影が行われなことがあるあります。
- 次の撮影が行われるタイミングで撮影できないときは、その回の撮影がキャンセルされます。そのため、生成される動画の記録時間が短くなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- 撮影画像は静止画としては記録されません。1枚だけ撮影したあと、撮影を中止しても動画ファイルとして記録されます。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、[📷:タイムラプス動画]を[しない]に設定してください。[しない]以外を選択しているときは、パソコンと通信できません。

- タイムラプス動画撮影中は、レンズの手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源スイッチを〈OFF〉にすると、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が[しない]になります。
- ストロボを使用しても発光しません。
- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影準備状態が解除され、設定が[しない]になります。
 - [🔧: センサークリーニング] の [今すぐクリーニング]、[🔧: 設定解除] の [カメラ設定初期化] を選んだとき
 - モードダイヤルを〈SCN〉 (📷) に設定したとき
- 白い [📷] (📷) が表示されている状態で、タイムラプス動画撮影を開始すると、タイムラプス動画の画質が低下することがあります。白い [📷] が消えてから (カメラ内部の温度が下がってから) 撮影開始することをおすすめします。

📖 参考

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- 映像の視野率は、4K/フルHDタイムラプス動画撮影時ともに約100%です。
- タイムラプス動画撮影を開始したあと、途中で中止するときは、(📷) ボタンを押します。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
- 撮影所要時間が24時間超~48時間以下のときは2日と表示されます。3日以上するときも同じように、24時間単位の基準で表示されます。
- タイムラプス動画の「再生時間」が1秒未満でも、動画ファイルが生成されます。そのとき[再生時間]は「00'00"と表示されます。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリ (別売) の使用をおすすめします。
- カラーサンプリングは、4Kタイムラプス動画/フルHDタイムラプス動画: YCbCr 4:2:0 (8bit)、色空間は、4Kタイムラプス動画/フルHDタイムラプス動画: Rec. ITU-R BT.709で記録されます。

参考

ワイヤレスリモートコントローラーBR-E1（別売）を使用して、タイムラプス動画の撮影の開始／終了などを行うことができます。あらかじめ、**[カメラアイコン]: リモコン撮影**を**[する]**に設定してください。

● ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

- あらかじめ、BR-E1とペアリングを行ってください (🔗)。

カメラの状態/ リモコン設定	〈●〉「すぐに撮影」 〈2〉「2秒後撮影」	〈🎥〉「動画撮影」
撮影待機状態	動画撮影時のシャッターボタンの機能 の設定による	撮影開始
タイムラプス動画撮影中		撮影終了

タイムラプス動画撮影可能時間の目安

タイムラプス動画撮影ができる時間（撮影開始からバッテリー切れまで）の目安については、[動画撮影可能時間](#)を参照してください。

ビデオスナップ

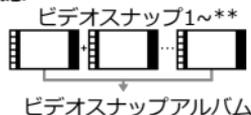
- [ビデオスナップの設定をする](#)
- [スナップを撮影してアルバムを作る](#)
- [既存のアルバムに追記する](#)

1シーンが数秒間の短い動画「ビデオスナップ」(以下スナップ)を繰り返し撮影して、旅行やイベントなどの思い出を、1つの動画に簡潔にテンポ良くまとめた「ビデオスナップアルバム」(以下アルバム)を作ることができます。

ビデオスナップは、動画記録サイズが「FHD 29.97P IPB」(NTSC)、「FHD 25.00P IPB」(PAL)のときに設定できます。

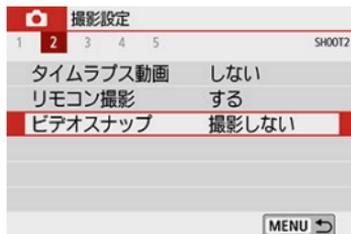
できあがったアルバムは、BGM(音楽)と一緒に再生することもできます(🎵)。

ビデオスナップアルバムの概念



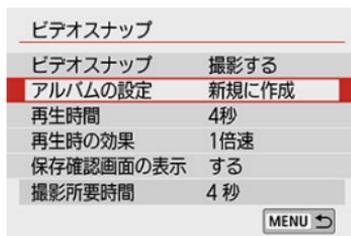
ビデオスナップの設定をする

1. モードダイヤルを〈Q〉以外にする
2. [📷: ビデオスナップ] を設定する



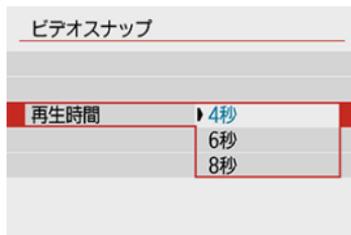
- [撮影する] を選びます。

3. [アルバムの設定] を設定する



- [アルバムを新規に作成] を選びます。
- メッセージを確認して [OK] を選びます。

4. [再生時間] を設定する



- 1スナップの再生にかかる時間です。

5. [再生時の効果] を設定する



- アルバムの再生速度です。

スナップを撮影してアルバムを作る

1. 最初のスナップを撮影する



- 〈〉 ボタンを押して撮影します。
- 撮影時間を示す青いバーが減っていき、設定時間経過後、自動的に撮影が終了します。
- 確認画面が表示されます ()。

2. アルバムとして保存する



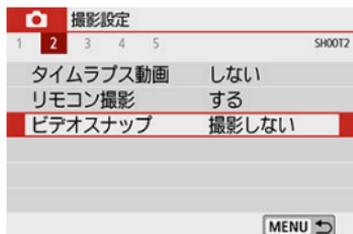
- [] **アルバムとして保存** を選びます。
- アルバムの先頭スナップとして保存されます。

3. 続けてスナップを撮影する



- 手順1と同じ操作で、次のスナップを撮影します。
- [ **アルバムに追加する**] を選びます。
- 別のアルバムを作るときは、[ **新しいアルバムとして保存**] を選びます。
- 必要に応じて手順3を繰り返します。

4. ビデオスナップ撮影を終了する



- [**ビデオスナップ**] を [**撮影しない**] に設定します。通常の動画を撮影するときは、[**撮影しない**] に設定してください。
- <MENU> ボタンを押してメニューを終了すると、通常の動画撮影に戻ります。

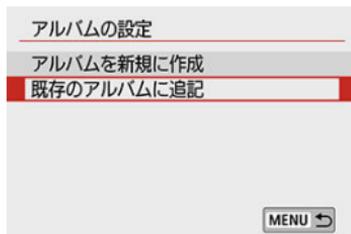
手順2、手順3の画面について

項目	内容
 アルバムとして保存 (手順2)	アルバムの最初のスナップとして保存します。
 アルバムに追加する (手順3)	いま撮影したスナップを、直前に記録したアルバムに追加します。
 新しいアルバムとして保存 (手順3)	新しいアルバムを作成し、最初のスナップとして保存します。直前に記録したアルバムとは別ファイルになります。
 撮影したスナップを再生する (手順2、手順3)	いま撮影したスナップを再生します。
 アルバムとして保存しない (手順2)  アルバムに追加しないで消去 (手順3)	いま撮影したスナップをアルバムに保存しないで消去します。確認画面で [OK] を選びます。

参考

- スナップを撮影したあと、すぐに次のスナップを撮影したいときは、**[📷: ビデオスナップ]** の **[保存確認画面の表示]** を **[しない]** に設定します。この設定にしておく、撮影直後に確認画面が表示されなくなるため、すぐに次のスナップを撮影することができます。

1. [既存のアルバムに追記] を選ぶ



- [ビデオスナップの設定をする](#)の手順3で「既存のアルバムに追記」を選びます。

2. 既存のアルバムを選ぶ



- <◀> <▶> で既存のアルバムを選び、<SET>を押します。
- [OK] を選びます。
一部の設定が、既存のアルバムの設定に変更されます。

3. メニューを終了する

- <MENU> ボタンを押してメニューを終了します。
ビデオスナップの撮影画面が表示されます。

4. スナップを撮影する

- [スナップを撮影してアルバムを作る](#)を参照し、スナップを撮影します。

⚠ 注意

- 他のカメラで撮影したアルバムは選択できません。

⚠ 注意

ビデオスナップ撮影全般の注意事項

- [再生時の効果] で、[1/2倍速] [2倍速] を選んだときは、音声は記録されません。
- 1スナップの撮影所要時間は目安です。フレームレートとの関係上、再生時に表示される撮影時間と若干ズレが生じる場合があります。

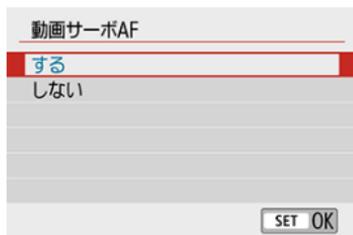
動画サーボAF

動画撮影時に被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。

1. [📷: 動画サーボAF] を選ぶ



2. [する] を選ぶ



● 【する】 設定時

- シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
- 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、画面左下の【 AF】をタッチすると、動画サーボAFを一時的に停止することができます。
- 動画サーボAFが停止しているときに、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF方式を変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。

● 【しない】 設定時

- シャッターボタンを半押しするか、〈 AF ON/OFF〉ボタンを押すと、ピント合わせが行われません。

ⓘ 注意

【動画サーボAF：する】設定時の注意事項

- **ピントが合いにくい撮影条件**
 - 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
 - 近距離で動いている被写体
 - 絞り数値が大きいとき
 - [ピントが合いにくい撮影条件](#)も参照してください。
- 常にレンズが作動してバッテリーを消耗するため、動画撮影できる時間 (🔋) が短くなります。
- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ/レンズの操作音が一緒に録音されます。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります。
- ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAFが一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり/遠ざかったり、カメラを上下/左右に動かすと(パンニング)、映像が一瞬伸縮(像倍率変化)して記録されることがあります。

その他のメニュー機能

[\[カメラ1\]](#)

[\[カメラ2\]](#)

[\[カメラ3\]](#)

[\[カメラ4\]](#)

[カメラ1]

- **レンズ光学補正** **● 応用**

動画撮影時は、周辺光量補正、色収差補正を行うことができます。レンズ光学補正については、[レンズ光学補正](#)を参照してください。

● リモコン撮影

[する] に設定すると、ワイヤレスリモートコントローラーBR-E1（別売）を使用して、動画撮影の開始/停止を行うことができます。あらかじめ、BR-E1とペアリングを行ってください (🔗)。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

通常の動画撮影を行うときは、撮影タイミング/動画撮影切り換えスイッチを〈〉の位置にして、リリースボタンを押します。
タイムラプス動画撮影を行うときは、[タイムラプス動画](#)を参照してください。

● **ISO感度に関する設定** **応用**● **ISO感度**

[M] モードのときに、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。

● **オートの上限**

[M] モード、または [M] モード+ISOオートの設定で動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。

[F: カスタム機能(C.Fn)] の [2: ISO感度拡張] が [1: する] に設定されているときは、[オートの上限] で [H(25600)] も選択できるようになります。

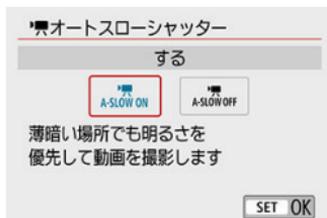
● **高輝度側・階調優先** **応用**

ハイライト部分の白とびが緩和された動画を撮影することができます。高輝度側・階調優先については、[高輝度側・階調優先](#)を参照してください。

! 注意

- 動画撮影時は、[📷: 高輝度側・階調優先] 設定時に [強] は選択できません (表示されません)。

● 自動スローシャッター **応用**



暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に遅くして、**【しない】** 設定時よりも明るい映像を記録するかどうかを選択することができます。この機能は、撮影モードが**【P/A】**のときに設定できます（機能します）。また、動画記録サイズのフレームレートが、**59.94P**、**50.00P**のときに機能します。

● しない

【する】 設定時よりも被写体のブレが少なく、自然でなめらかな動きが撮影できます。ただし、暗い場所では、**【する】** 設定時よりも映像が暗くなることがあります。

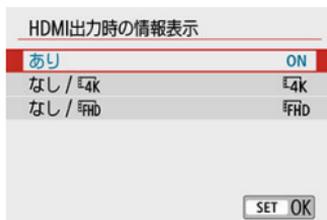
● する

暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に1/30秒（NTSC）、または1/25秒（PAL）まで遅くして、**【しない】** 設定時よりも明るい映像を撮影することができます。

参考

- 暗い場所で動きのある被写体を撮影するときや、尾を引いたような残像が出るときは、**【しない】** に設定することをおすすめします。

- HDMI出力時の情報表示 **応用**



HDMIケーブルで映像を出力するときの情報表示を設定することができます。

- **あり**

HDMI出力先に、映像および撮影情報やAFフレームなどが表示されます。なお、カメラの画面は消灯します。記録した映像はカードに保存されます。

- **なし / 4K**

4K動画の映像のみをHDMI出力します。カメラの画面には撮影情報やAFフレームなども表示されますが、カードに映像は記録されません。また、Wi-Fi通信はできません。

- **なし / FHD**

フルHD動画の映像のみをHDMI出力します。カメラの画面には撮影情報やAFフレームなども表示されますが、カードに映像は記録されません。また、Wi-Fi通信はできません。

❗ 注意

カメラ内部の温度上昇に伴う、赤い「REC」表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、赤い「REC」が表示されます。
- 赤い「REC」は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。なお、赤い「REC」が表示されてから動画撮影が自動的に終了するまでの時間は撮影状況によって異なります。
- 高温下で動画撮影を長時間行くと、赤い「REC」が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 自動露出で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されません。
- 高ISO感度、高温下、遅いシャッタースピード、暗い場所などの条件が重なった状態で動画撮影を行うと、画質が低下することがあります。
- 動画撮影を長時間行くと、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。動画撮影をしないときは、こまめに電源を切ってください。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、(MP4形式に対応していても)再生できないことがあります。
- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側にインジケータが表示されることがあります。インジケータは、カードにまだ書き込まれていないデータ量(内蔵メモリーの空き容量)を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケータ(1)がフルになると、動画撮影が自動的に停止します。



(1)

- 書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケーターがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声は正常に記録されないことがあります。
- カードの（記憶領域の断片化により）書き込み速度が低下してインジケーターが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。

音声の制約について

- 動画撮影時の音声について、以下の制約事項があります。ご了承ください。
 - 最後の約2フレームには、音声は記録されません。
 - Windowsで動画を再生すると、映像と音声が若干ズレることがあります。

再生

この章では、撮影した画像（静止画／動画）を再生する方法や、メニュー機能の「▶：再生タブ」に含まれる項目など、再生に関連する内容について説明しています。

⚠ 注意

- 他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあと、パソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示／設定できないことがあります。
- 再生機能に使用できない画像が表示されることがあります。

- [メニュー目次：再生タブ](#)
- [画像の再生](#)
- [インデックス表示（複数画像表示）](#)
- [画像の拡大表示](#)
- [動画の再生](#)
- [動画の前後部分のカット](#)
- [4K動画／4Kタイムラプス動画からのフレームの切り出し](#)
- [テレビで見る](#)
- [画像プロテクト](#)
- [静止画の回転](#)
- [動画の回転情報の変更](#)
- [画像消去](#)
- [印刷指定／DPOF](#)
- [フォトブック指定](#)
- [クリエイティブフィルター](#)
- [RAW現像](#) **（応用）**
- [クリエイティブアシスト](#)
- [クイック設定からのRAW現像](#) **（応用）**
- [赤目補正](#)
- [アルバム編集](#)
- [トリミング](#)
- [リサイズ](#)
- [レーティング](#)
- [スライドショー](#)
- [画像検索の条件設定](#)
- [メイン電子ダイヤルでの画像送り](#)
- [ヒストグラム](#)
- [AFフレーム表示](#)

- [前回の画像から再生](#)
- [HDMI HDR出力](#)

メニュー目次：再生タブ

● 再生1



- (1) [画像プロテクト](#)
- (2) [静止画の回転](#)
- (3) [動画の回転情報の変更](#)
- (4) [画像消去](#)
- (5) [印刷指定](#)
- (6) [フォトブック指定](#)

● 再生2



- (1) [クリエイティブフィルター](#)
- (2) [RAW現像](#) **応用**
- (3) [クリエイティブアシスト](#)
- (4) [クイック設定からのRAW現像](#) **応用**
- (5) [赤目補正](#)
- (6) [アルバム編集](#)

! 注意

- かんたん撮影ゾーンの場合は、[▶] : RAW現像 [▶] : クイック設定からのRAW現像 は表示されません。

● 再生3



- (1) [トリミング](#)
- (2) [リサイズ](#)
- (3) [レーティング](#)
- (4) [スライドショー](#)
- (5) [画像検索の条件設定](#)
- (6) [☀での画像送り](#)

● 再生4



- (1) [ヒストグラム](#)
- (2) [AFフレーム表示](#)
- (3) [前回の画像から再生](#)
- (4) [HDMI HDR出力](#)

画像の再生

- [1枚表示](#)
- [撮影情報表示](#)

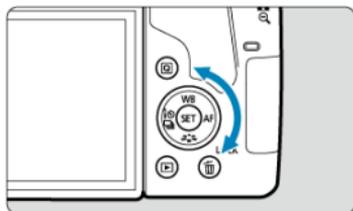
1枚表示

1. 画像を再生する



- 〈▶〉 ボタンを押します。
- 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

2. 画像を選ぶ



- 〈○〉を左に回すと、新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈◀〉 〈▶〉でも画像を選ぶことができます。
- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

情報表示なし



簡易情報表示



撮影情報表示

3. 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

参考

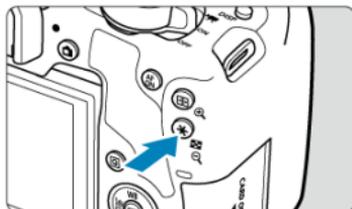
- [📷: 静止画アスペクト比] を [3:2] 以外に設定して (☑) 撮影したRAW画像は、再生したときに撮影範囲を示す線が表示されます。
- [▶: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (☑)、絞り込まれた画像だけが表示されます。

撮影情報表示

撮影情報表示の画面 (☑) が表示されている状態で (▲) (▼) を押すと、画面下側の撮影情報が切り換わります。

インデックス表示（複数画像表示）

1. インデックス表示にする



- 画像を再生した状態で〈・〉ボタンを押します。
- 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。さらに〈・〉ボタンを押すと、9枚→36枚→100枚表示になります。〈〉ボタンを押すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。



2. 画像を選ぶ

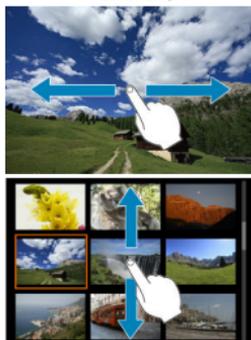


- または を回してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- インデックス表示の状態で を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

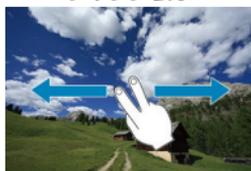
タッチ再生

カメラのモニターは、タッチ機能を備えています。スマートフォンなどと同じように、指で操作することができます。〈▶〉ボタンを押して画像を再生した状態で操作します。

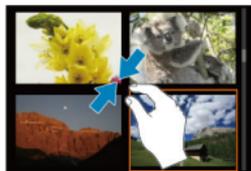
画像送り



ジャンプ表示



インデックス表示



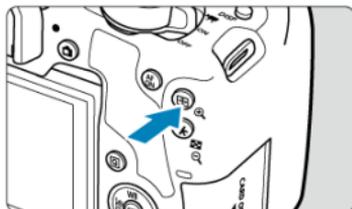
拡大表示



 参考

- 画面を指1本で素早く2回触れても（ダブルタップ）拡大表示ができます。

1. 画像を拡大する



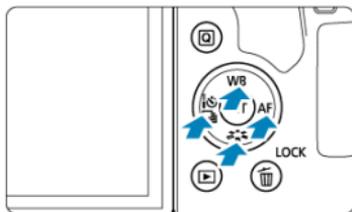
- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。



(1)

- 拡大表示になります。画面右下に拡大位置 (1) が表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押すたびに拡大します。
- 〈Q〉ボタンを押すたびに縮小します。さらに〈Q〉ボタンを押すと、インデックス表示 () になります。

2. 表示位置を移動する



- 〈▲〉 〈▼〉 〈◀〉 〈▶〉 を押した方向に表示位置が移動します。
- 〈▶〉 ボタンを押すか、[MENU ▶] をタッチすると、拡大表示が終了します。

動画の再生

1. 画像を再生する



- 〈▶〉 ボタンを押します。

2. 動画を選ぶ



- 〈○〉 で再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に「SET」が表示されている画像が動画です。

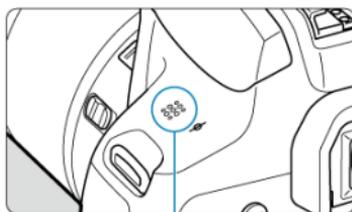


- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して1枚表示にします。

3. 1枚表示の状態では〈SET〉を押す



4. 〈SET〉を押して動画を再生する



(1)

(1) スピーカー

- 動画再生が始まります。
- 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。もう一度押すと再開します。
- 再生中に〈▶〉を押すと再生位置を約4秒送ります。また、〈◀〉を押すと再生位置を約4秒戻します。
- 〈▲〉 〈▼〉で、再生中でも音量を調整することができます。

動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生/一時停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉 〈▶〉でスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
◀ 前スキップ	〈SET〉を押すたびに約4秒戻します。
◀◀ フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると早戻しします。
▶▶ フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると早送りします。
▶ 次スキップ	〈SET〉を押すたびに約4秒送ります。
✂ 編集	編集画面を表示します (🔗)。
🔍 フレーム切り出し	4K動画/4Kタイムラプス動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画 (JPEG画像) として保存することができます (🔗)。
🎵 BGM選択	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます (🔗)。
▬	再生位置
mm' ss"	再生時間 (mm' : 分、ss" : 秒)
🔊 音量	〈▲〉 〈▼〉でスピーカー (🔗) の音量を調整することができます。

動画再生パネル（ビデオスナップアルバム）

項目	再生内容
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉 〈▶〉でスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
◀ 前のチャプター	前のスナップの先頭画面を表示します。
◀◀ フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると早戻しします。
▶▶ フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると早送りします。
▶ 次のチャプター	次のスナップの先頭画面を表示します。
🗑️ チャプター消去	再生中のスナップを削除します。
✂️ 編集	編集画面を表示します (🔗)。
🎵 BGM選択	BGMを選んで音楽と一緒にアルバムを再生できます (🔗)。
▬	再生位置
mm' ss"	再生時間 (mm' : 分、ss" : 秒)
🔊 音量	〈▲〉 〈▼〉でスピーカー (🔗) の音量を調整することができます。

⚠️ 注意

- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは (🔗)、テレビ側で音量の調整を行ってください (〈▲〉 〈▼〉を操作しても音量は変わりません)。
- カードの読み取り速度が遅いときや、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了することがあります。

📖 参考

- 動画撮影可能時間については、[動画撮影可能時間](#)を参照してください。

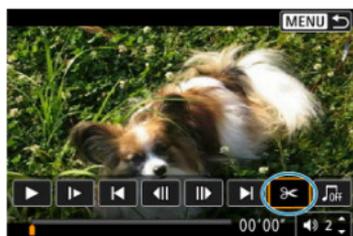
動画の前後部分のカット

1. 1枚表示の状態でも(Ⓞ)を押す

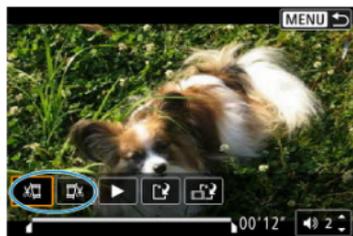


- 動画再生パネルが表示されます。

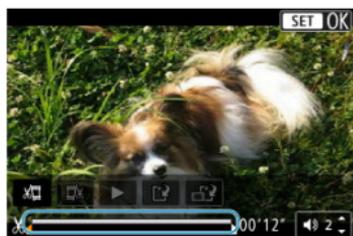
2. 動画再生パネルで[Ⓞ]を選ぶ



3. 削除する範囲を指定する



- [✂] (前部を削除) か、[⏪] (後部を削除) を選びます。



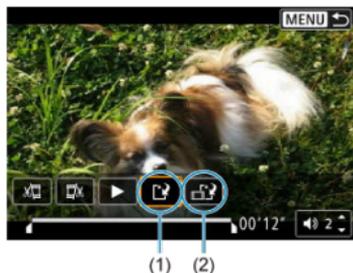
- <◀> <▶> を押すと、1フレーム (または1スナップ) ずつ送られます。<▶> を押したままにすると、早送りになります。
- 削除する範囲が決まったら、<SET> を押します。画面下部に線で表示された範囲が残ります。

4. 編集内容を確認する



- [▶] を選ぶと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順3の操作を行います。
- 編集を中止するときは、<MENU> ボタンを押します。

5. 保存する



- [] (1) を選びます。
- 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは **[新規保存]**、編集前の動画を残さないときは **[上書き保存]** を選びます。
- [] (2) を選ぶと、圧縮して別のファイルで保存します。4K動画はフルHD動画に変換して圧縮されます。
- 確認画面で **[OK]** を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。

注意

- 約1秒単位（画面下部に [X] が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。
- 動画記録サイズが **FHD 29.97P [IPB]** (NTSC) / **FHD 25.00P [IPB]** (PAL) の動画は、圧縮して新規保存はできません。

参考

- ビデオスナップアルバムの編集方法は、[アルバム編集](#)を参照してください。

4K動画／4Kタイムラプス動画からのフレームの切り出し

4K動画、4Kタイムラプス動画から任意のフレームを選び、約830万画素（3840×2160）の静止画（JPEG画像）として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し（4Kフレームキャプチャー）」と言います。

1. 画像を再生する

- 〈▶〉 ボタンを押します。

2. 4K動画または4Kタイムラプス動画を選ぶ



- 〈◀〉 〈▶〉 で選びます。
- 撮影情報表示の画面 (📷) で [4K] と表示されている画像が4K動画／4Kタイムラプス動画です。
- インデックス表示のときは、〈SET〉を押して1枚表示にします。

3. 1枚表示の状態 で 〈SET〉 を押す

- 動画再生パネルが表示されます。

4. 切り出すフレームを選ぶ



- 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。
- 動画再生パネルの操作方法については、[動画再生パネル](#)を参照してください。

5. [] を選ぶ



6. 保存する



- [OK] を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画 (JPEG画像) として保存されます。

7. 表示する画像を選ぶ

- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。
- [元の動画] または [切り出した静止画] を選びます。

⚠ 注意

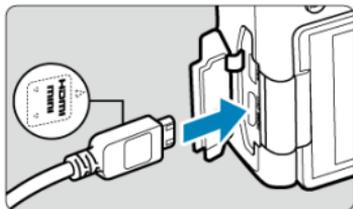
- フルHD動画やフルHDタイムラプス動画、他のカメラで撮影した4K動画／4Kタイムラプス動画からは、フレーム切り出しはできません。

テレビで見る

カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。HDMIケーブルは、別売のHTC-100の使用をおすすめします。

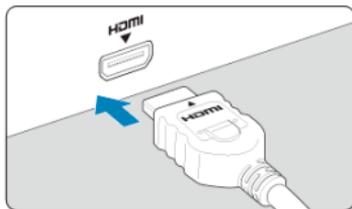
なお、テレビに映像が表示されないときは、[📺：ビデオ方式]の[NTSC][PAL]の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。

1. HDMIケーブルをカメラに接続する



- プラグの〈▲ HDMI MINI〉がカメラの前面に向くようにして、〈HDMI OUT〉端子に差し込みます。

2. テレビにHDMIケーブルを接続する

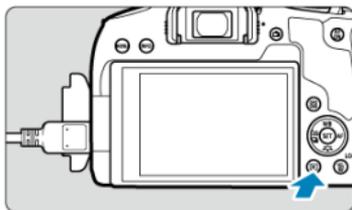


- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3. テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4. カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5. <▶> ボタンを押す



- 画像がテレビに表示されます (カメラのモニターには何も表示されません)。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

注意

- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け/取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの <HDMI OUT> 端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。
- 映像が再生されるまでに時間がかかることがあります。この現象が気になるときは、[🔊 : HDMI出力解像度] を [1080p] に設定してください (🔗)。
- カメラとテレビを接続したときは、画面にタッチして操作することはできません。

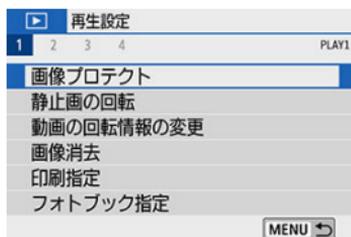
画像プロテクト

- [画像を選択して1枚ずつプロテクト](#)
- [範囲を指定してプロテクト](#)
- [フォルダ内/カード内全画像プロテクト](#)

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクト（保護）することができます。

画像を選択して1枚ずつプロテクト

1. [] : 画像プロテクト] を選ぶ



2. [画像を選択] を選ぶ



3. 画像を選ぶ

- <◀> <▶> でプロテクトする画像を選びます。

4. プロテクトする



- 〈SET〉を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に〈(1)〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈(1)〉が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

範囲を指定してプロテクト

インデックス表示された画像を見ながら、プロテクトする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてプロテクトすることができます。

1. 【範囲指定】を選ぶ



- [] : 画像プロテクト の【範囲指定】を選びます。

2. 範囲を指定する



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。指定した範囲の画像がプロテクトされ、<On>が表示されます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



- [ : 画像プロテクト] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。
- 解除するときは [フォルダ内・全解除] または [カード内・全解除] を選びます。
- [ : 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは ()、表示される内容が [検索結果・全画像] [検索結果・全解除] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がプロテクトされます。
- [検索結果・全解除] を選ぶと、絞り込まれた画像のプロテクトがすべて解除されます。

注意

- カードを初期化すると ()、プロテクトされた画像も消去されます。

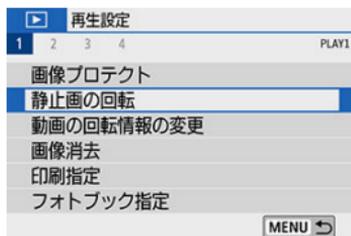
参考

- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去 () を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

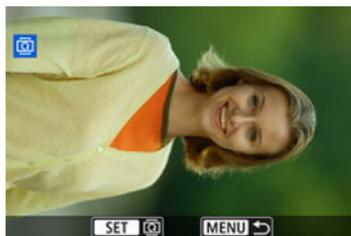
静止画の回転

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で画像を回転させることができます。

1. [] : 静止画の回転] を選ぶ



2. 画像を選ぶ



- <◀> で回転させる画像を選びます。

3. 回転させる



- <SET> を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

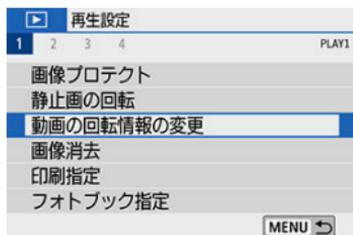
参考

- [📷：縦位置画像回転表示] を [する📷📄] (🔒) に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、[📷：縦位置画像回転表示] を [する📷📄] に設定します。

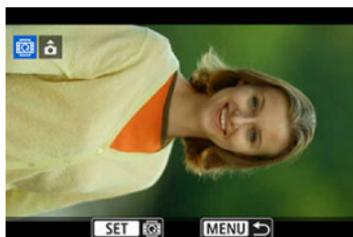
動画の回転情報の変更

動画の回転情報（上の向きの情報）を手動で変更することができます。

1. [] : 動画の回転情報の変更] を選ぶ

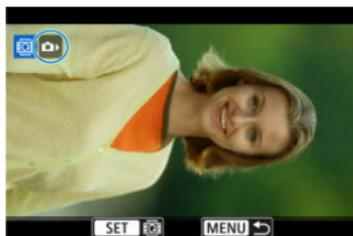


2. 動画を選ぶ



- <◀> <▶> で回転情報を変更する動画を選びます。

3. <SET> を押す



- 画面左上に表示されるカメラと三角のマークを見ながら、<SET> を押して、上の向きを設定します。

参考

- ビデオスナップアルバムは、回転情報の変更はできません。
- カメラのモニターで動画を再生したときは、 [縦位置情報の付加]  の設定に関わらず、横位置で再生されます。

画像消去

- [1枚ずつ消去](#)
- [チェック \[✓\] を付けてまとめて消去](#)
- [範囲を指定して消去](#)
- [フォルダ内/カード内全画像消去](#)

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト (🔒) をかけた画像は消去されません。

⚠ 注意

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚ずつ消去

1. 消去する画像を選ぶ

- <▶> ボタンを押します。
- <◀> <▶> で選びます。

2. <🗑> ボタンを押す



3. 消去する

JPEG画像/RAW画像/動画



- 「消去」を選びます。

RAW + JPEG画像

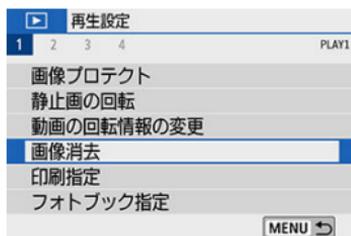


- 項目を選びます。

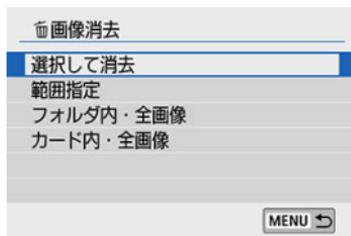
チェック [✓] を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

1. [▶] : 画像消去] を選ぶ



2. [選択して消去] を選ぶ

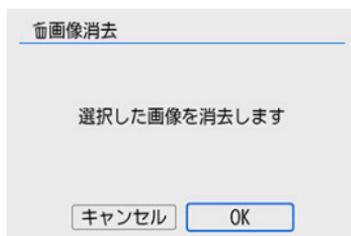


3. 画像を選ぶ



- <◀> <▶> で消去する画像を選び、<SET> を押します。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

4. 消去する

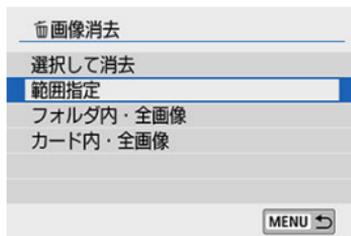


- 〈〉 ボタンを押して [OK] を選びます。

範囲を指定して消去

インデックス表示された画像を見ながら、消去する範囲（始点／終点）を指定して、まとめて消去することができます。

1. 【範囲指定】を選ぶ



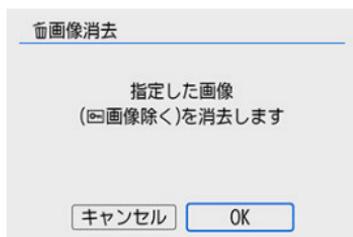
2. 範囲を指定する



- 最初の画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。

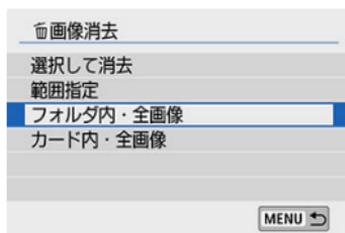
3. 〈〉ボタンを押す

4. 消去する

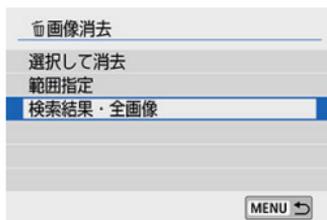


- [OK] を選びます。

フォルダ内/カード内全画像消去



- [▶]: 画像消去] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。
- [▶]: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (☑)、表示される内容が [検索結果・全画像] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が消去されます。

参考

- プロテクトがかけられた画像を含め、すべての画像を消去したいときは、カード初期化を行います (☑)。

印刷指定／DPOF

[印刷内容の設定](#)

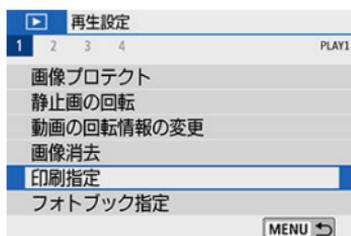
[印刷する画像の指定](#)

カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF (Digital Print Order Format) 機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

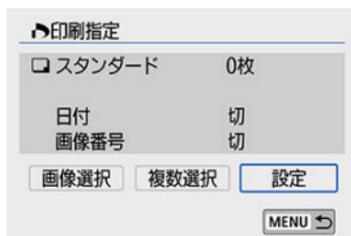
印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容の設定

1. : 印刷指定] を選ぶ



2. [設定] を選ぶ

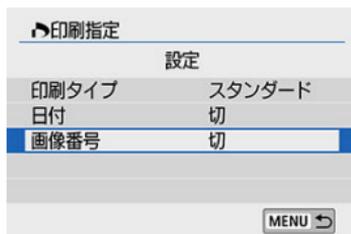


3. 項目の内容を設定する

- [印刷タイプ] [日付] [画像番号] の内容を設定します。

印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	入	[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

4. 設定を終了する



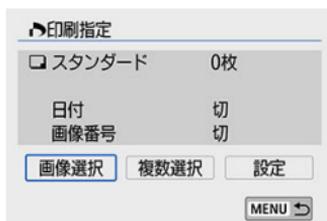
- 〈MENU〉 ボタンを押します。
- 次に印刷指定画面の [画像選択] [複数選択] で、印刷する画像を指定します。

ⓘ 注意

- 画像サイズが大きい画像を [インデックス] [両方] の設定で印刷すると (☑)、プリンターにより、インデックス印刷が行われないことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから (☑) インデックス印刷を行ってください。
- [日付] [画像番号] を [入] にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- [インデックス] に設定したときは、[日付] と [画像番号] を同時に [入] にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

印刷する画像の指定

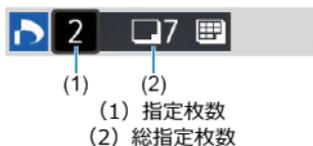
● 画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。

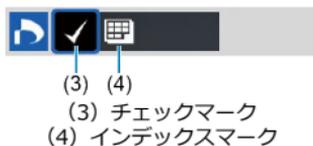
〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

● スタンダード／両方



〈SET〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈○〉を回すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

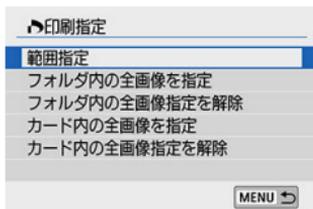
● インデックス



〈SET〉を押して [✓] を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

● 複数選択

● 範囲指定



[複数選択] の [範囲指定] を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示され、1画像1枚で印刷指定されます。

● フォルダ内の全画像

[フォルダ内の全画像を指定] を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

[フォルダ内の全画像指定を解除] を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● カード内の全画像

[カード内の全画像を指定] を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

[カード内の全画像指定を解除] を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

[▶: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (🔍)、[複数選択] を選んだときに、表示される内容が [検索結果の全画像を指定] [検索結果の全画像の指定解除] に変わります。

● 検索結果の全画像

[検索結果の全画像を指定] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

[検索結果の全画像の指定解除] を選ぶと、絞り込まれた画像の印刷指定がすべて解除されます。

⚠ 注意

- RAW画像と動画は印刷指定できません。また、[複数選択] でまとめて印刷指定を行っても、RAW画像と動画は指定されません。
- PictBridgeに対応したプリンターで印刷するときは、一度に印刷指定する画像を400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

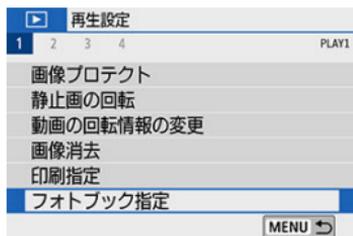
フォトブック指定

- [画像を選択して1枚ずつ指定](#)
- [範囲を指定してフォトブック指定](#)
- [フォルダ内/カード内全画像指定](#)

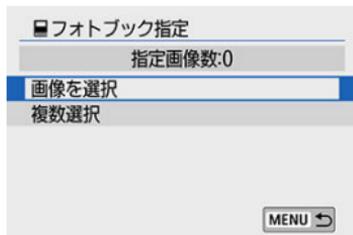
フォトブックにする画像を998枚まで指定することができます。EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、フォトブック指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブックを注文するときに便利です。

画像を選択して1枚ずつ指定

1. [再生]: フォトブック指定] を選ぶ



2. [画像を選択] を選ぶ



3. 指定する画像を選ぶ

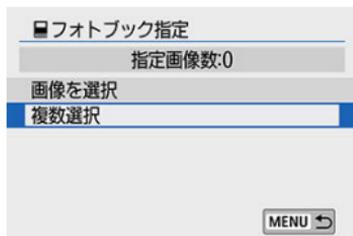


- 〈◀〉 〈▶〉で指定する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 他にフォトブック指定したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

範囲を指定してフォトブック指定

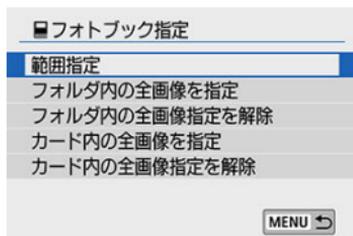
インデックス表示された画像を見ながら、フォトブックにする画像の範囲（始点／終点）を指定して、まとめてフォトブック指定することができます。

1. [複数選択] を選ぶ



- [▶]: フォトブック指定] の [複数選択] を選びます。

2. [範囲指定] を選ぶ



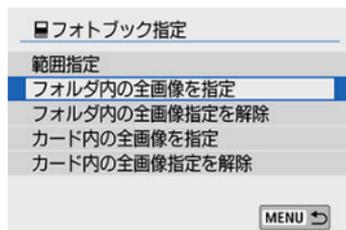
3. 範囲を指定する



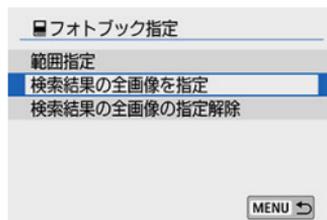
- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。

フォルダ内/カード内全画像指定

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてフォトブック指定することができます。



- [▶]: フォトブック指定] の [複数選択] で [フォルダ内の全画像を指定] または [カード内の全画像を指定] を選ぶと、その中のすべての画像がフォトブック指定されます。
- 解除するときは [フォルダ内の全画像指定を解除] または [カード内の全画像指定を解除] を選びます。
- [▶]: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (☑)、[複数選択] を選んだときに、表示される内容が [検索結果の全画像を指定] [検索結果の全画像の指定解除] に変わります。



- [検索結果の全画像を指定] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がフォトブック指定されます。
- [検索結果の全画像の指定解除] を選ぶと、絞り込まれた画像のフォトブック指定がすべて解除されます。

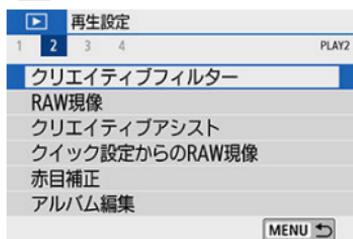
⚠ 注意

- RAW画像と動画はフォトブック指定できません。また、[複数選択] でまとめてフォトブック指定を行っても、RAW画像と動画は指定されません。
- 他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずすべて書き換えられることがあります。

クリエイティブフィルター

撮影した静止画に、ラフモノクロ/ソフトフォーカス/魚眼風/油彩風/水彩風/トイカメラ風/ジオラマ風のフィルター処理を行い、別画像として保存することができます。

1. [] : クリエイティブフィルター] を選ぶ



2. 画像を選ぶ



- <◀> <▶> で画像を選び、<SET> を押します。
- < [] > ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

3. フィルター効果を選ぶ ([])



4. フィルター効果を調整する



- フィルター効果を調整し、〈SET〉を押します。
- [ジオラマ風] は 〈〉 または 〈〉 を回して、はっきり見せたい部分 (白枠) を移動させ、〈SET〉を押します。

5. 保存する



- [OK] を選びます。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にフィルター処理を行いたい画像があるときは、手順2~5を繰り返します。

参考

- RAW+JPEGで撮影した画像は、RAW画像を使ってフィルター処理を行い、JPEG画像として保存します。
- アスペクト比を設定して撮影したRAW画像は、フィルター処理を行うと、設定したアスペクト比で保存されます。
- 魚眼風のフィルター処理を行った画像には、ダストデリートデータ () は付加されません。

各クリエイティブフィルターの特徴

● ラフモノクロ

ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。

● ソフトフォーカス

やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。

● 魚眼風

魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、手順4でフィルター効果が反映された画像を確認しながら設定してください。

● 油彩風

油絵のような写真で、被写体の立体感が強調されます。効果を調整することで、コントラストや彩度を変えることができます。なお、空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

● 水彩風

水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

● トイカメラ風

トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

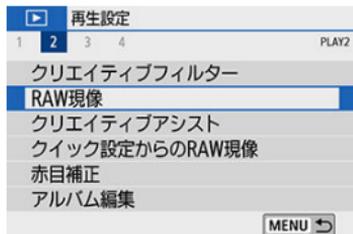
● ジオラマ風

ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。はっきり見せたい部分を変えることができます。手順4で〈◀〉〈▶〉を押す（または画面の[🔍]をタッチする）と、はっきり見せたい部分（白枠）の横／縦を切り換えることができます。

- [拡大表示](#)
- [アスペクト比を設定した画像の現像](#)
- [現像処理の項目](#)

RAWまたは**CRAW**で撮影した画像をカメラで現像して、JPEG画像を作ることができます。RAW画像はそのままなので、条件を変えて現像したJPEG画像を作ることができます。RAW画像はEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うこともできます。

1. [] : RAW現像] を選ぶ



2. 項目を選び、画像を選択する



- RAW現像を行う画像をまとめて選択（指定）することができます。

画像を選択



- 〈◀〉 〈▶〉 で現像する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈Q〉 ボタンを押します。

範囲指定



- 最初の画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押します。

3. 現像条件を設定する

撮影時の設定で現像

- 撮影を行ったときの画像設定の条件で現像されます。

細かく設定して現像



- 〈▲〉 〈▼〉 〈◀〉 〈▶〉 で項目を選びます。
- 〈〉 〈〉 を回すと、設定が切り換わります。
- 〈〉 を押すと、機能の設定画面が表示されます。
- 〈〉 ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。

比較画面について

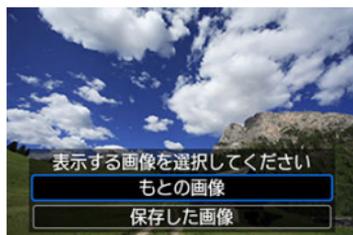
- 〈INFO〉 ボタンを押して 〈〉 を回すと、[変更後] と [撮影時設定] を切り換えることができます。
- [変更後] のときは、撮影時の設定から変更した項目がオレンジ色で表示されます。
- 〈MENU〉 ボタンを押します。

4. 保存する



- [細かく設定して現像] のときは [保存] (保存) を選びます。
- 内容を確認し、[OK] を選びます。
- 他に現像したい画像があるときは [はい] を選び、手順2~4を繰り返します。

5. 表示する画像を選ぶ



- [もとの画像] または [保存した画像] を選びます。

拡大表示

[細かく設定して現像] を選んだあと、表示された画面で〈Q〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、[記録画質] の設定により異なります。〈▲〉 〈▼〉 〈◀〉 〈▶〉 で拡大表示位置を変えることができます。

[MENU] をタッチするか、〈Q〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

アスペクト比を設定した画像の現像

[カメラ：静止画アスペクト比] (☑) を [3:2] 以外に設定して撮影したRAW画像を現像したときは、設定したアスペクト比のJPEG画像が作られます。

現像処理の項目

-  ±0 明るさ補正

1/3段ステップ±1段の範囲で明るさを補正することができます。

-  ホワイトバランス (🔗)

ホワイトバランスを選ぶことができます。[AWB]を選んだときは、[オート(雰囲気優先)] [オート(ホワイト優先)]を選ぶことができます。[K]を選んだときは、色温度を設定することができます。

-  ピクチャースタイル (🔗)

ピクチャースタイルを選ぶことができます。シャープネス、コントラストなどの調整を行うことができます。

-  オートライティング最適マイザ (🔗)

オートライティング最適マイザの内容を設定することができます。

-  高感度撮影時のノイズ低減 (🔗)

ノイズ低減処理の内容を設定することができます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (🔗) で確認してください。

-  記録画質 (🔗)

JPEG画像を生成する際の記録画質を設定することができます。

-  sRGB 色空間 (🔗)

sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラのモニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

● レンズ光学補正

● OFF 周辺光量補正 (🔍)

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (🔍) で画面の四隅を確認してください。なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。補正効果が確認できないときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。

● OFF 歪曲収差補正 (🔍)

レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。

解像感が少し低下することがあるため、必要に応じてピクチャースタイルの[シャープネス]で調整してください。

● OFF デジタルレンズオプティマイザ (🔍)

レンズの収差、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を、光学設計値を利用して補正することができます。なお、[する]を選んだときは、色収差補正、回折補正の項目は表示されませんが、ともに[する]で現像されます。

● OFF 色収差補正 (🔍)

レンズの特性によって起こる色収差（被写体の輪郭部分に現れる色ズレ）を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (🔍) で確認してください。

● OFF 回折補正 (🔍)

レンズの絞りの影響によって画像の鮮鋭さが低下する現象を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (🔍) で確認してください。

ⓘ 注意

- カメラで行うRAW現像の結果と、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。
- [明るさ補正]を行ったときは、補正効果とともにノイズや縞などが強調されることがあります。
- [デジタルレンズオブティマイザ] 設定時は、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くなる場合があります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、[デジタルレンズオブティマイザ]を[しない]に設定してください。
- [歪曲収差補正]を[する]に設定して現像を行ったときは、[ダストデリートデータ](#)は画像に付加されません。

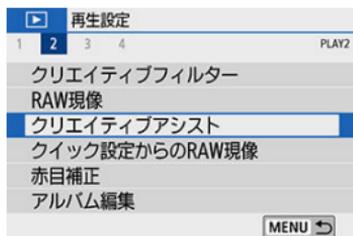
📖 参考

- レンズ光学補正に対応しているレンズの補正用データは、カメラに登録（保存）されています。
- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- デジタルレンズオブティマイザ用の補正データについては、[デジタルレンズオブティマイザ](#)を参照してください。

クリエイティブアシスト

RAW画像を現像して、好みの効果をつけたJPEG画像を作成することができます。

1. [] : クリエイティブアシスト] を選ぶ



2. 画像を選ぶ



- <◀> <▶> で現像する画像を選び、<SET> を押します。

3. 効果を選ぶ



- <◀> <▶> で効果を選びます。



- [プリセット] を選んで <SET> を押すと、[VIVID] や [SOFT] など、用意された設定から効果を選ぶことができます。なお、[AUTO1] [AUTO2] [AUTO3] は、画像の状態からカメラが判断したおすすめの効果です。



- [明るさ] [コントラスト] などは、<SET> を押して <◀> <▶> で効果を選びます。
- 調整が終了したら <SET> を押します。



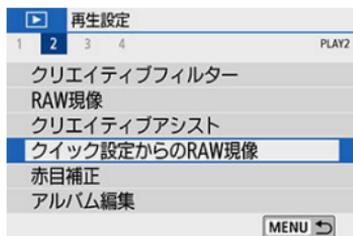
- 〈✳〉ボタンを押すと効果がリセットされます。
- 〈☑〉ボタンを押して効果を確定します。

4. [OK] を選んで保存する

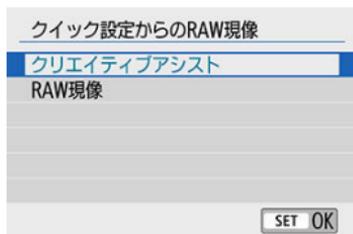


クイック設定画面から行うRAW現像の種類を選ぶことができます。

1. [再生] : クイック設定からのRAW現像] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



● クリエイティブアシスト

好みの効果を付けたRAW現像ができます (☑)。

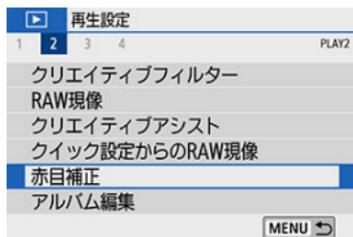
● RAW現像

条件を設定したRAW現像ができます (☑)。

赤目補正

目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正します。別画像として保存できます。

1. [▶] : 赤目補正] を選ぶ



2. <◀> <▶> で画像を選ぶ



- 画像を選んだら [👁] をタッチするか、<SET> を押します。
- 補正された部分に白枠が表示されます。

3. [OK] を選ぶ

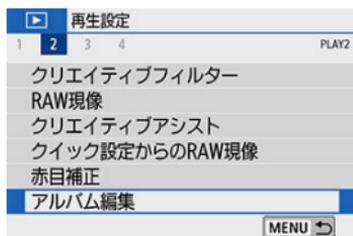


- 別画像として保存されます。

⚠ 注意

- 画像によっては正しく補正されないことがあります。

1. [再生] : アルバム編集] を選ぶ



2. 編集するアルバムを選ぶ



- 〈SET〉を押して [✓] を付けます。
- 選び終わったら 〈Q〉ボタンを押します。

3. 編集する項目を選ぶ



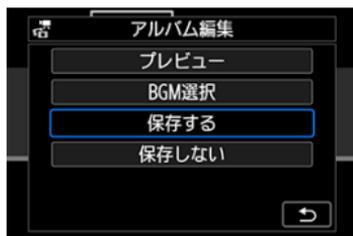
項目	内容
↔ ビデオスナップ並べ換え	〈◀〉 〈▶〉 で移動したいスナップを選び、〈SET〉を押します。〈◀〉 〈▶〉 で移動し 〈SET〉 を押します。
🗑️ ビデオスナップ削除	〈◀〉 〈▶〉 で削除したいスナップを選び、〈SET〉を押します。選択したスナップに、[🗑️] が表示されます。もう一度 〈SET〉 を押すと、選択が解除され [🗑️] が消えます。
▶ ビデオスナップ再生	〈◀〉 〈▶〉 で再生したいスナップを選び、〈SET〉を押します。〈▲〉 〈▼〉 で音量が調整できます。

4. 編集を終了する



- 〈MENU〉 ボタンを押して編集を終了します。
- [↻] (編集完了) を選びます。

5. 保存する



- アルバムの再生時にBGMと一緒に再生するときは、[**BGM選択**]でBGMを選択します (🎵)。
- 編集結果を確認するときは [**プレビュー**] を選びます。
- [**保存する**] を選ぶと編集したアルバムが新規アルバムとして保存されます。

⚠ 注意

- 編集後のアルバムを再度編集することはできません。

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、BGMをカードにコピーすると、アルバム再生時やスライドショー時にBGMを再生することができます。

1. [BGM選択] を選ぶ



- [BGM選択] で [する] を選びます。

2. 音楽を選ぶ

- <▲> <▼> で音楽を選び、<SET> を押します。[スライドショー] では、音楽を複数選ぶことができます。

3. 試聴する

- <INFO> ボタンを押すと、試聴することができます。
- <▲> <▼> で音量が調整できます。再度 <INFO> ボタンを押すと、停止します。
- 音楽を削除するときは、<▲> <▼> で音楽を選び、<削除> ボタンを押します。

参考

- BGMをカードにコピーする方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。

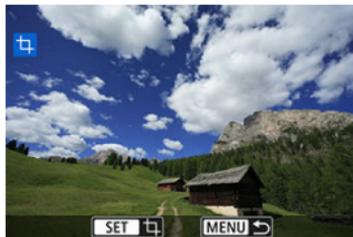
トリミング

撮影したJPEG画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。トリミングは、JPEGで撮影した画像で行うことができます。RAWで撮影した画像は、トリミングできません。

1. [] : トリミング] を選ぶ



2. 画像を選ぶ



- <◀> ◀ ▶ でトリミングする画像を選びます。

3. トリミング枠の設定を行う



- 〈SET〉を押すと、トリミング枠が表示されます。
- 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。
- **枠の大きさを変える**
〈Q〉 〈Q〉 ボタンで枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。
- **枠のアスペクト比と縦横を変える**
〈〉で〈〉を選びます。〈SET〉を押すと、枠のアスペクト比が変わります。
- **枠を移動する**
〈▲〉 〈▼〉 〈◀〉 〈▶〉で枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。
- **傾きを補正する**
±10°の範囲で傾きを補正することができます。〈〉で〈〉を選び、〈SET〉を押します。画面に表示されるグリッドで傾きを確認しながら、〈〉を回すか（0.1°単位）、画面左上に表示された左右の矢印にタッチして（0.5°単位）、傾きを補正します。補正が終わったら〈SET〉を押します。

4. トリミング範囲を確認する



- $\langle \text{○} \rangle$ で $\langle \text{⏏} \rangle$ を選びます。
トリミングされる範囲が表示されます。

5. 保存する



- $\langle \text{○} \rangle$ で $\langle \text{⏏} \rangle$ を選びます。
- [OK] を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2~5を繰り返します。

ⓘ 注意

- 傾き補正の角度によっては、トリミング枠の位置や大きさが変わることがあります。
- トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。
- トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報 (Ⓜ)、ダストデリートデータ (Ⓜ) は付加されません。

リサイズ

撮影したJPEG画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、JPEGの**L/M/S1**で撮影した画像で行うことができます。JPEGの**S2**とRAWで撮影した画像は、リサイズできません。

1. [▶:リサイズ] を選ぶ

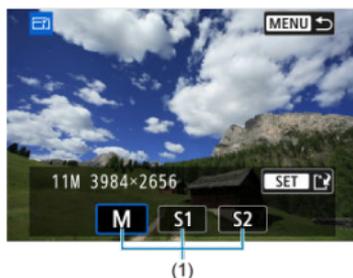


2. 画像を選ぶ



- <◀> <▶> でリサイズする画像を選びます。

3. 画像サイズを選ぶ



- 〈SET〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズ (1) を選びます。

4. 保存する



- [OK] を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2~4を繰り返します。

参考

- リサイズした画像の画像サイズについては、[静止画・記録画素数](#)を参照してください。

レーティング

- ☑ [画像を選択して1枚ずつレーティング](#)
- ☑ [範囲を指定してレーティング](#)
- ☑ [フォルダ内/カード内全画像レーティング](#)

撮影した画像に、5種類のお気に入りマーク ([★]/[☆]/[☆☆]/[☆☆☆]/[☆☆☆☆]) を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。

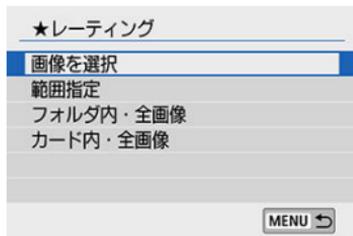
* レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

画像を選択して1枚ずつレーティング

1. [▶:レーティング] を選ぶ



2. [画像を選択] を選ぶ



3. レーティングする画像を選ぶ



- <◀> <▶> でレーティングを行う画像を選びます。

4. レーティングを設定する



- <SET> を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- <▲> <▼> でお気に入りマークを選び、<SET> を押します。
お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

範囲を指定してレーティング

インデックス表示された画像を見ながら、レーティングする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてレーティングすることができます。

1. 「範囲指定」を選ぶ



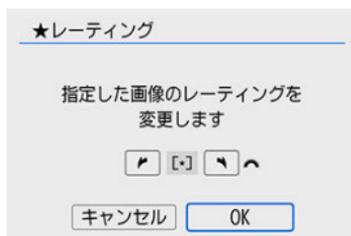
2. 範囲を指定する



- 最初の画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。

3. 〈Q〉ボタンを押す

4. レーティングを設定する



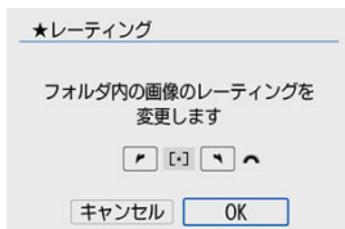
-  お気に入りマークを選び、**[OK]** を選びます。
指定した範囲の画像に対して、まとめて（同一の）レーティングが行われます。

フォルダ内/カード内全画像レーティング

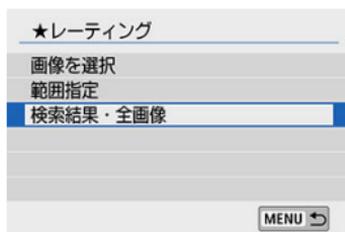
フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてレーティングすることができます。



- [] : レーティング] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像がレーティングされます。



- () でお気に入りマークを選び、[OK] を選びます。
- レーティングを行わないときや、解除するときは [OFF] を選びます。
- [] : 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは ()、表示される内容が [検索結果・全画像] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、指定した内容でレーティングされます。

 参考

- お気に入りマークの横に表示される数値が1000（枚）を超えると「###」と表示されます。
- ：画像検索の条件設定 ：での画像送りで、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。

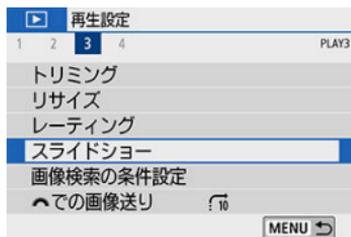
スライドショー

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。

1. 再生する画像を指定する

- カード内の全画像を再生するときは、手順2に進みます。
- スライドショーで再生する画像を指定したいときは、[▶: 画像検索の条件設定] で絞り込みます (🔍)。

2. [▶: スライドショー] を選ぶ

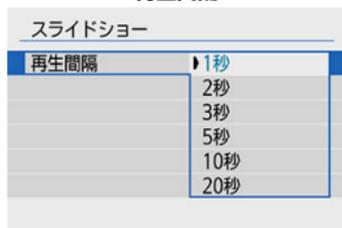


3. 再生内容を設定する

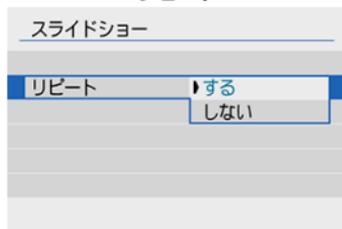


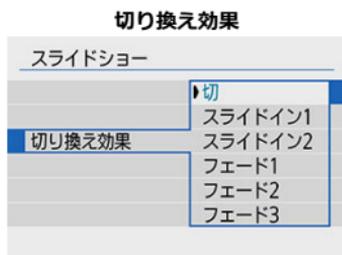
- [設定] を選びます。
- 静止画の [再生間隔] と [リピート] (繰り返し再生)、[切り換え効果] (画像を切り換える際の演出効果) を設定します。
- BGMを流したいときは、[BGM選択] でBGMを選択します (🔊)。
- 設定が終わったら、<MENU> ボタンを押します。

再生間隔



リピート





4. スライドショーを開始する



- [スタート] を選びます。
- [画像読み込み中...] が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5. スライドショーを終了する

- <MENU> ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

参考

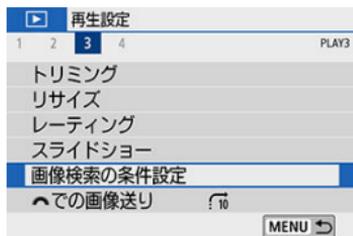
- 一時停止したいときは〈⏸〉を押します。一時停止中は画面左上に [] が表示されます。再度〈⏸〉を押すと再開します。
- 静止画を自動再生しているときに〈INFO〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます (📷)。
- 動画再生中に〈▲〉〈▼〉で、音量を調整することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈◀〉〈▶〉を押すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフは機能しません。
- 画像により表示時間が異なることがあります。

画像検索の条件設定

再生する画像を条件で絞り込むことができます。検索条件を設定して画像を再生すると、条件に該当する画像だけが表示されます。

なお、画像の絞り込みを行った状態で、プロテクト、レーティング、スライドショー、消去などを行うこともできます。

1. [] : 画像検索の条件設定] を選ぶ



2. 検索条件を設定する



(1)

- 〈▲〉 〈▼〉で項目を選びます。
- 〈◀〉 〈▶〉または〈INFO〉ボタンで内容を設定します。
- 項目の左端に [✓] (1) が付きます (検索条件として指定されます)。
- 項目を選び〈INFO〉ボタンを押すと、[✓] が消えます (指定が解除されます)。

項目	内容
★ レーティング	選択した (レーティング) 条件の画像を表示します。
☺ 日付	選択した撮影日の画像を表示します。
📁 フォルダ	選択したフォルダ内にある画像を表示します。
🔒 プロテクト	選択した (プロテクト) 条件の画像を表示します。
📁 ファイルの種類	選択した種類の画像ファイルを表示します。

3. 検索条件を確定する



- 〈SET〉を押して、表示されるメッセージを確認します。
- [OK] を選びます。
検索条件が設定されます。

4. 検索した画像を表示する



(2)

- <[▶]> ボタンを押します。
検索条件に該当する（絞り込まれた）画像だけが再生されます。
絞り込まれた状態で画像が表示されているときは、画面の外側に黄色い枠 (2) が付きます。

検索条件の解除

手順2の画面で <[⏏]> ボタンを押すと、すべての検索条件が解除されます。

⚠ 注意

- 設定した検索条件に該当する画像がないときは、手順3で <[SET]> は押せません。

📖 参考

- 電源やカード、画像編集などに関連した操作を行うと、検索条件の設定が解除されることがあります。
- [▶] : **画像検索の条件設定** の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

メイン電子ダイヤルでの画像送り

1枚表示のときに(⚙️)を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示(ジャンプ表示)することができます。

1. [▶️: ⚙️での画像送り] を選ぶ



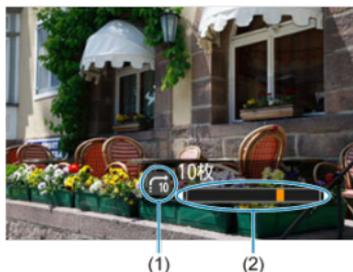
2. ジャンプ方法を選ぶ



📖 参考

- [指定した枚数ごとに画像を表示] を選んだときは、(⚙️) でジャンプする枚数を設定します。
- [指定したレーティングの画像を表示] を選んだときは、(⚙️) でレーティング (★) を指定します。[★] を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。

3. 画像送りをする



- (1) ジャンプ方法
- (2) 再生位置

- 〈▶〉 ボタンを押します。
- 1枚表示の状態で 〈🔄〉 を回します。
設定した方法でジャンプ表示が行われます。

📖 参考

- [📅 : 撮影日を切り換えて画像を表示] は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- [📁 : フォルダを切り換えて画像を表示] は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- [🎞️ : 動画だけを表示] [🖼️ : 静止画だけを表示] は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。

ヒストグラム

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。

1. [] : ヒストグラム] を選ぶ



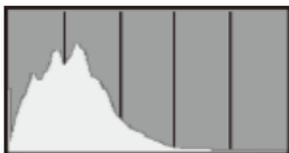
2. 項目を選ぶ



● 【輝度】 表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い



普通の明るさ



明るい成分が多い

● 【RGB】 表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

AFフレーム表示

再生画面に、ピント合わせを行ったAFフレームを赤い枠で表示することができます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数表示されることがあります。

1. [AFフレーム表示] を選ぶ

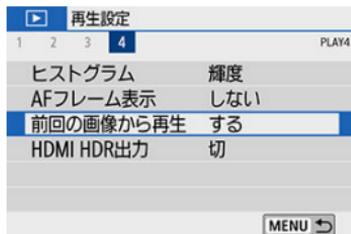


2. [する] を選ぶ

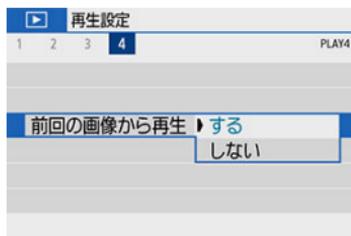


前回の画像から再生

1. [▶: 前回の画像から再生] を選ぶ



2. 項目を選ぶ

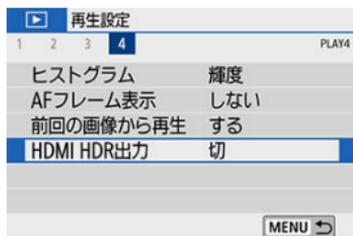


- [する] を選んで画像を再生すると、前回再生したときに最後に表示されていた画像が最初に表示されます（撮影を行ったときを除く）。
- [しない] を選んで電源を入れ直すと、最新の画像が最初に表示されま

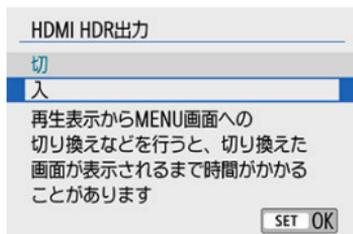
HDMI HDR出力

HDR対応テレビにカメラをつないで、RAW画像をHDR表示で見ることができます。

1. [▶] : HDMI HDR出力] を選ぶ



2. [入] を選ぶ



注意

- HDR表示中は、RAW現像などの画像の操作を行うことはできません。

参考

- HDR対応テレビの設定が、HDR入力になっていることを確認してください。お使いになるテレビの入力の切り換え方法は、テレビの使用説明書を参照してください。
- お使いのテレビによっては、思いどおりの効果で表示されないことがあります。
- HDRテレビに表示しているときは、画像の効果や一部の情報が表示されないことがあります。

無線通信機能

この章では、Bluetooth®機能やWi-Fi®機能を使用して、カメラとスマートフォンやWebサービスなどと無線接続して画像を送信する方法や、パソコンやワイヤレスリモコンでカメラを操作する方法などについて説明しています。

⚠ 注意

必ずお読みください

- このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。
無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。
- 本機は電気通信事業者の通信回線に直接接続することができません。本機をインターネットに接続する場合は、必ずルーター等を経由し接続してください。

- [メニュー目次：無線通信設定タブ](#)
- [Wi-Fi/Bluetooth接続](#)
- [スマートフォンと通信](#)
- [パソコンとWi-Fi接続](#)
- [プリンターとWi-Fi接続](#)
- [Webサービスへ画像を送信](#)
- [アクセスポイントを使用したWi-Fi接続](#)
- [ワイヤレスリモコンと接続](#)
- [2回目以降のWi-Fi接続](#)
- [複数の接続設定の登録](#)
- [Wi-Fi設定](#)
- [Bluetooth設定](#)
- [ニックネーム](#)
- [GPS機器の設定](#)
- [接続設定の変更／削除](#)
- [機内モード](#)
- [無線通信の設定初期化](#)
- [情報表示画面](#)
- [仮想キーボードの操作方法](#)
- [エラー表示の対応](#)
- [無線通信機能での注意事項](#)
- [セキュリティーについて](#)

- [ネットワークの設定を確認する](#)
- [無線通信機能の接続状態](#)

メニュー目次：無線通信設定タブ

無線通信設定1



- (1) [Wi-Fi/Bluetooth接続](#)
- (2) [機内モード](#)
- (3) [Wi-Fi設定](#)
- (4) [Bluetooth設定](#)
- (5) [ニックネーム](#)
- (6) [GPS機器の設定](#)

無線通信設定2



- (1) [無線通信の設定初期化](#)

! 注意

- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、無線通信機能を使用することはできません。
- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。
- カメラにカードが入っていないときは、Wi-Fi接続できません（[] は除く）。また、[] およびWebサービスでは、カードに画像が記録されていないときも、Wi-Fi接続できません。
- カメラの電源を〈OFF〉にしたときや、カードスロットカバーやバッテリー収納部ふたを開けたときは、Wi-Fi接続を終了します。
- Wi-Fi接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

1. [(w) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2. カメラと接続する項目を選ぶ



☑ スマートフォンと通信 (☑)

スマートフォンやタブレット（以降は「スマートフォン」と記載）にWi-Fi接続して、専用アプリケーション「Camera Connect（カメラコネクト）」を使ってカメラをリモート操作したり、カメラ内の画像を見ることができます。

☑ EOS用または専用ソフトウェアと連携 (☑)

パソコンにWi-Fi接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってカメラをリモート操作することができます。また、専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2を使って、カメラの画像をパソコンに自動送信することができます。

☑ Wi-Fi対応プリンターで印刷 (☑)

Wi-Fiで使えるPictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターにWi-Fi接続して、画像を印刷することができます。

Webサービスへ画像を送信

キヤノンユーザーのためのクラウドサービス image.canon（登録無料）にカメラから画像を直接送信することができます。image.canon は送信された画像のオリジナルファイルを30日間、容量無制限で保管し、そこからPCにダウンロードしたり、他のWebサービスに転送することができます。

ワイヤレスリモコンと接続

別売のワイヤレスリモートコントローラー BR-E1とBluetooth接続して、リモコン撮影を行うことができます。

スマートフォンと通信

- ☑ [スマートフォンのBluetooth機能とWi-Fi機能をONにする](#)
- ☑ [スマートフォンにCamera Connectをインストールする](#)
- ☑ [Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続する](#)
- ☑ [Camera Connectの機能](#)
- ☑ [電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続](#)
- ☑ [ペアリングの解除](#)
- ☑ [Bluetooth機能を使用せずWi-Fi接続する](#)
- ☑ [撮影画像の自動送信](#)
- ☑ [カメラからスマートフォンへ画像を送信](#)
- ☑ [Wi-Fi接続の終了](#)
- ☑ [スマートフォンに公開する画像の設定](#)

カメラとBluetooth low energy technology（以降は「Bluetooth」と記載）対応スマートフォンを接続して、以下のことができます。

- スマートフォンのみの操作によるWi-Fi接続 (🔗)
- 電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続 (🔗)
- スマートフォンで取得した位置情報の画像への付加 (🔗)
- スマートフォンをリモコンにしたカメラの操作 (🔗)

また、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続して、以下のことができます。

- スマートフォンでのカメラ内の画像の閲覧および保存 (🔗)
 - スマートフォンでのカメラのリモート操作 (🔗)
 - カメラからスマートフォンへの画像の送信 (🔗)
-

スマートフォンのBluetooth機能とWi-Fi機能をONにする

スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能とWi-Fi機能をONにしておきます。なお、スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。

参考

- アクセスポイントを使用してWi-Fi接続するときは、[アクセスポイントを使用したWi-Fi接続](#)を参照してください。

スマートフォンにCamera Connectをインストールする

AndroidまたはiOSがインストールされたスマートフォンに、専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールします。

- スマートフォンのOSは、最新のバージョンをお使いください。
- Camera Connectは、Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。Google PlayまたはApp Storeは、スマートフォンとのペアリング時やWi-Fi接続時に表示されるQRコードからもアクセスできます。

参考

- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、Android、iOSなどのバージョンアップにより、本書の記載と実際の画面例などが異なることがあります。

カメラ側の操作-1

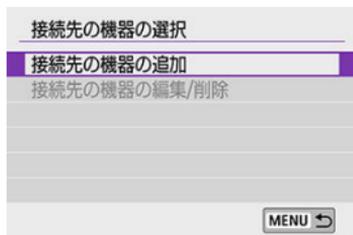
1. [(w) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2. [☑スマートフォンと通信] を選ぶ



3. [接続先の機器の追加] を選ぶ



4. 項目を選ぶ

スマートフォンにCamera Connectをインストールしてください。
ダウンロードサイトのQRコードを表示しますか？

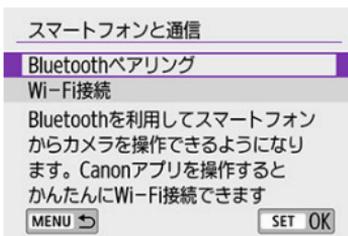
表示しない

Android

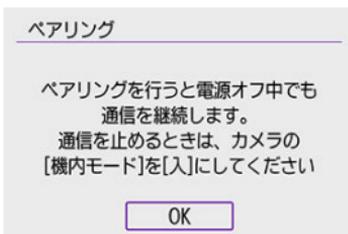
iOS

- Camera Connectをインストール済みのときは**「表示しない」**を選びます。
- Camera Connectがインストールされていないときは、**「Android」**または**「iOS」**を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールします。

5. [Bluetoothペアリング] を選ぶ



- ペアリングが開始されます。



- [OK] を選びます。



- 2台目以降のスマートフォンとペアリングするときは、上記の画面で[OK] を選びます。

スマートフォン側の操作-1

6. Camera Connectを起動する



7. ペアリングするカメラをタッチする



- Androidの場合は手順9に進みます。

8. 【ペアリング】をタッチする (iOSのみ)



カメラ側の操作-2

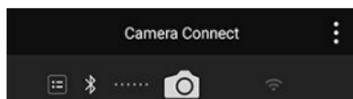
9. [OK] を選ぶ



10. <SET> を押す



- ペアリングが完了して、スマートフォンとBluetooth接続されます。



- Camera Connectのトップ画面にBluetooth接続中の図が表示されます。

注意

- 2台以上の機器と同時にBluetooth接続することはできません。Bluetooth接続するスマートフォンを切り換えるときは、[接続設定の変更／削除](#)を参照してください。
- Bluetooth接続中は、カメラのオートパワーオフ中もバッテリーを消耗するため、カメラを使用するときにバッテリーの残量が少なくなっていることがあります。

ペアリングできないとき

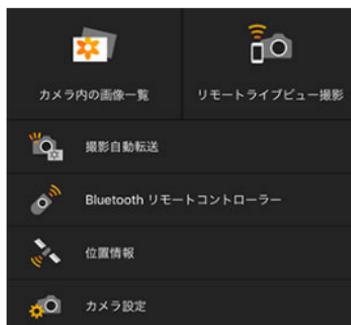
- スマートフォン側に、前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。スマートフォンのBluetooth設定画面で、前回ペアリングしたカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください。

参考

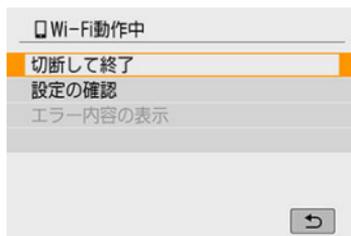
- Bluetooth接続中に、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信できます()。

スマートフォン側の操作-2

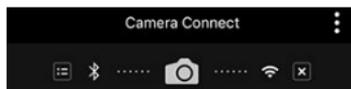
11. Camera Connectの機能をタッチする



- iOSの場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら【接続】をタッチします。
- Camera Connectの機能については[Camera Connectの機能](#)を参照してください。
- Wi-Fi接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。



- カメラのモニターに【Wi-Fi動作中】の画面が表示されます。



- Camera Connectのトップ画面にBluetoothおよびWi-Fi接続中の図が表示されます。

これでBluetooth対応スマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Wi-Fi接続を終了する方法は、[Wi-Fi接続の終了](#)を参照してください。
- Wi-Fi接続を終了するとBluetooth接続に切り換わります。
- 再度Wi-Fi接続するときは、Camera Connectを起動して、使用したい機能をタッチします。

[Wi-Fi動作中] 画面について

切断して終了

- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

カメラ内の画像一覧

- 画像の閲覧、削除、レーティングを行うことができます。
- スマートフォンに画像を保存することができます。
- スマートフォンからRAW画像に効果を付けることができます ([クリエイティブアシスト](#))。

リモートライブビュー撮影

- スマートフォンでライブビュー映像を見ながらリモート撮影することができます。

撮影自動転送

- 撮影画像の自動送信時 (📶) のカメラやアプリケーションの設定を変更することができます。

Bluetoothリモートコントローラー

- Bluetooth接続中のスマートフォンをリモコンにして、カメラの操作を行うことができます。なお、Wi-Fi接続中は使用できません。
- Bluetoothリモートコントローラーの使用中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

位置情報

- このカメラでは使用できません。

カメラ設定

- カメラの設定を変更することができます。

電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続

カメラとスマートフォンがBluetooth接続中であれば、カメラの電源スイッチが〈OFF〉の状態でも、スマートフォンを操作してWi-Fi接続して、カメラ内の画像の閲覧などができます。

電源オフ中にカメラとのWi-Fi接続を行いたくないときは、[機内モード]を[入]にするか、[Bluetooth設定]を[使わない]に設定してください。



ペアリングの解除

スマートフォンとのペアリングを解除するときは、以下の手順で行います。

1. [(w) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ

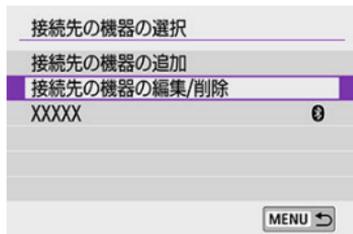


2. [☑スマートフォンと通信] を選ぶ



- 履歴 (☑) が表示されたときは、<◀> <▶> で画面を切り換えます。

3. [接続先の機器の編集/削除] を選ぶ

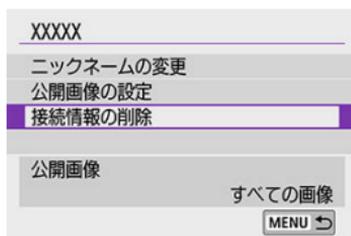


4. ペ어링を解除するスマートフォンを選ぶ



- ペ어링中のスマートフォンは  が表示されます。

5. [接続情報の削除] を選ぶ



6. [OK] を選ぶ



7. スマートフォン側の登録を解除する

- スマートフォンのBluetooth設定画面で、カメラの登録を解除します。

4. 項目を選ぶ

スマートフォンにCamera Connectをインストールしてください。
ダウンロードサイトのQRコードを表示しますか？

表示しない

Android

iOS

- Camera Connectをインストール済みのときは**[表示しない]**を選びます。

5. [Wi-Fi接続] を選ぶ

スマートフォンと通信

Bluetoothペアリング

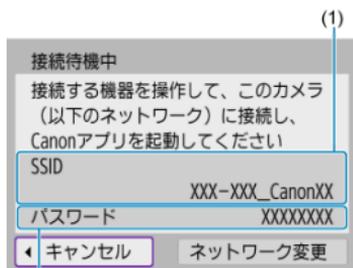
Wi-Fi接続

カメラとスマートフォンの両方を操作して、Wi-Fi接続します

MENU ↩

SET OK

6. SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する



- (2)
- カメラのモニターに表示されるSSID (1) とパスワード (2) を確認します。
 - [Wi-Fi設定] で [パスワード] を [なし] に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります (☑)。

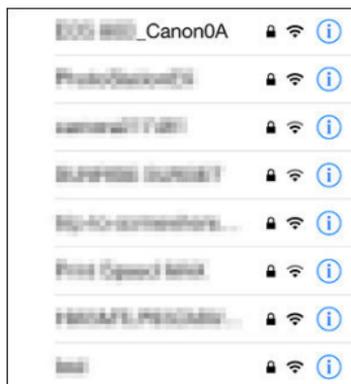
参考

- 手順6で [ネットワーク変更] を選ぶと、アクセスポイント経由でWi-Fi接続することができます (☑)。

スマートフォン側の操作

7. スマートフォンを操作してWi-Fi接続する

スマートフォンの画面例



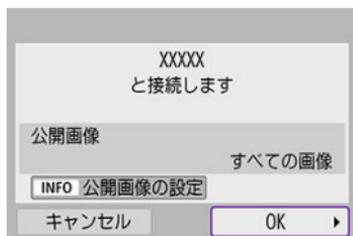
- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、[カメラ側の操作-1](#)の手順6で確認したSSID（ネットワーク名）をタッチします。
- パスワード欄には、[カメラ側の操作-1](#)の手順6で確認したパスワードを入力します。

8. Camera Connectを起動してWi-Fi接続するカメラをタッチする



カメラ側の操作-2

9. [OK] を選ぶ



- 公開する画像を設定するときは、〈INFO〉ボタンを押します。[スマートフォンに公開する画像の設定](#)の手順5を参照して設定してください。



- スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。

これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Camera Connectを使用してカメラを操作します (📷)。
- Wi-Fi接続を終了する方法は、[Wi-Fi接続の終了](#)を参照してください。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、[2回目以降のWi-Fi接続](#)を参照してください。

📱 参考

- Wi-Fi接続中に、再生時のクイック設定画面からスマートフォンに画像を送信できます (📷)。

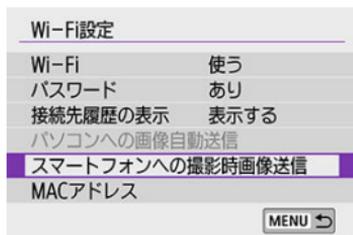
撮影画像の自動送信

撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信することができます。あらかじめ、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続しておきます。

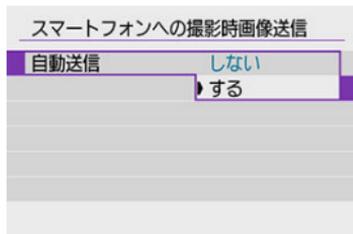
1. [(iP) : Wi-Fi設定] を選ぶ



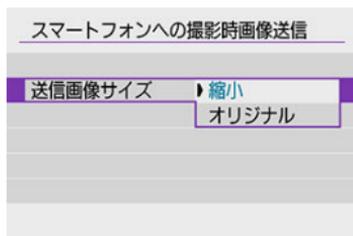
2. [スマートフォンへの撮影時画像送信] を選ぶ



3. [自動送信] で [する] を選ぶ



4. [送信画像サイズ] を設定する



5. 撮影する

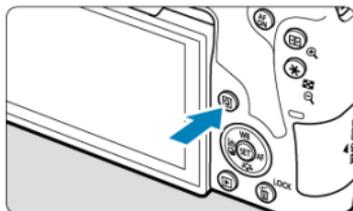
カメラからスマートフォンへ画像を送信

カメラとスマートフォンがBluetooth接続（Androidのみ）またはWi-Fi接続された状態で、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。

1. 画像を再生する



2. <Q> ボタンを押す



3. [スマートフォンへ画像を送信] を選ぶ



- Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、メッセージが表示され、Wi-Fi接続に切り換わります。

4. 送信方法を選んで送信する

(1) 1枚ずつ送信

1. 送信する画像を選ぶ



- <◀> <▶> または (⊙) で送信する画像を選び、<SET> を押しします。
- <⊠> ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

2. [この画像を送信] を選ぶ



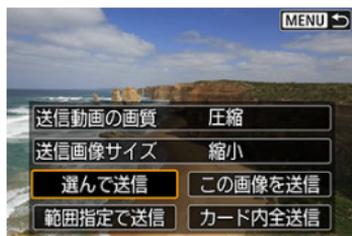
- [送信画像サイズ] で送信する画像サイズを選ぶことができます。
- 動画を送信するときは、[送信動画の画質] で、送信する動画の画質を選ぶことができます。

(2) 複数の画像を選んで送信

1. 〈SET〉を押す



2. [選んで送信] を選ぶ



3. 送信する画像を選ぶ



- <◀> <▶> または <⦿> で送信する画像を選び、<SET> を押します。



- <Q> ボタンを押すと、3枚表示にして選ぶことができます。1枚表示に戻すときは <Q> ボタンを押します。
- 送信する画像の選択が終わったら、<Q> ボタンを押します。

(3) 範囲を指定して送信

1. 〈SET〉を押す



2. 「範囲指定で送信」を選ぶ



3. 画像の範囲を指定する



- 最初の画像（始点）を選びます。
- 最後の画像（終点）を選びます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈SET・Q〉ボタンを押すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

(4) カード内の画像をすべて送信

1. 〈SET〉を押す



2. [カード内全送信] を選ぶ



(5) 検索条件が設定された画像を送信

[画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。[画像検索の条件設定] については、[画像検索の条件設定](#)を参照してください。

1. <SET>を押す



2. [検索結果全送信] を選ぶ

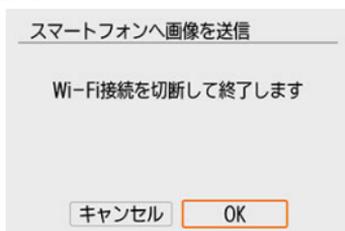


画像の送信の終了

Bluetooth接続中にカメラを操作して画像を送信した場合（Androidのみ）



- 画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。



- [OK] を選ぶと、画像の送信とWi-Fi接続を終了します。

Wi-Fi接続中にカメラを操作して画像を送信した場合



- 画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。
- Wi-Fi接続を終了するときは[Wi-Fi接続の終了](#)を参照してください。

❗ 注意

- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

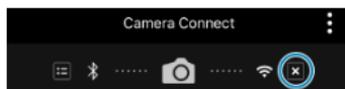
参考

- 画像の送信中に **キャンセル** を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
- 一度に999ファイルまで選択できます。
- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- 静止画を縮小時きは、同時に送信する静止画がすべて縮小されます。なお、**S2** サイズの静止画は縮小されません。
- 動画を圧縮するときには、同時に送信する動画がすべて圧縮されます。なお、フレームレートが **FHD 29.97P (IPB)** または **FHD 25.00P (IPB)** の動画は縮小されません。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

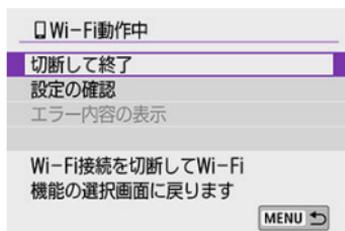
Wi-Fi接続の終了

下記のいずれかの操作を行ってください。

Camera Connectの画面で [X] をタッチする



[Wi-Fi動作中] の画面で [切断して終了] を選ぶ



- [Wi-Fi動作中] の画面が表示されていないときは、[(p) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選びます。
- [切断して終了] を選び、確認画面で [OK] を選びます。

スマートフォンに公開する画像の設定

Wi-Fi接続を終了してから設定します。

1. [(w) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ

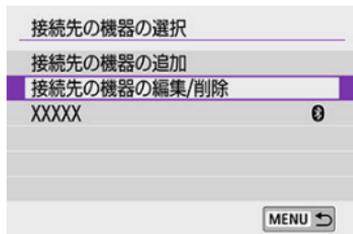


2. [☑スマートフォンと通信] を選ぶ



- 履歴 (📄) が表示されたときは、<◀> <▶> で画面を切り換えます。

3. [接続先の機器の編集/削除] を選ぶ

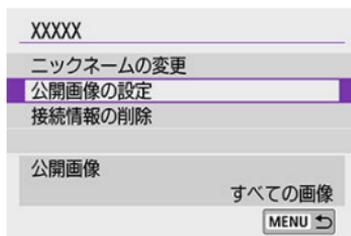


4. スマートフォンを選ぶ

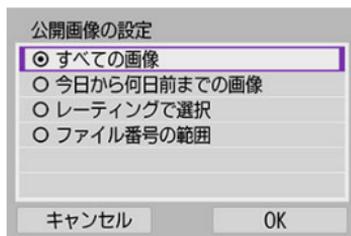


- 画像を公開するスマートフォンの名称を選びます。

5. [公開画像の設定] を選ぶ



6. 項目を選ぶ

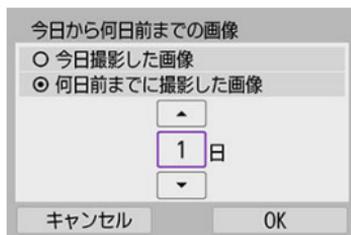


- [OK] を選ぶと、設定画面が表示されます。

[すべての画像]

- カード内のすべての画像を公開します。

[今日から何日前までの画像]



- 撮影日で公開する画像を指定します。最大で9日前までの画像を指定できます。
- [何日前までに撮影した画像] のときは、今日から何日前までに撮影した画像を公開するかを指定します。〈▲〉 〈▼〉で日数を指定し、〈SET〉を押して確定します。
- [OK] を選ぶと、公開する画像が設定されます。

⚠ 注意

- [公開画像の設定] で [すべての画像] 以外を設定しているときは、リモート撮影はできません。

[レーティングで選択]



- レーティングを付加した画像（または付加していない画像）やレーティングの種類で公開する画像を指定します。
- レーティングの種類を選ぶと、公開する画像が設定されます。

[ファイル番号の範囲]（範囲で指定）



- ファイル番号順に並んだ画像の開始と終了の画像を選んで、公開する画像を指定します。
 - 1.<SET>を押して、画像の選択画面を表示します。<◀> <▶>または<○>で画像を選びます。
<☒><Q> ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。
 - 2.始点 (1) の画像を選びます。
 - 3.<▶> で終点 (2) の画像を選びます。
 - 4.<OK> を選びます。

注意

- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときは、動画撮影が継続します。
- スマートフォンとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- スマートフォンへの画像保存中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。また、カメラのモニターが消灯することがあります。

参考

- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。

パソコンとWi-Fi接続

☑ [EOS Utilityでカメラを操作](#)

☑ [カメラ内の画像の自動送信](#)

ここでは、カメラとパソコンをWi-Fi接続してEOS用または専用ソフトウェアと連携する方法について説明しています。パソコンに最新のソフトウェアをインストールしてからWi-Fi接続の設定を行ってください。

パソコンの操作方法については、パソコンの使用説明書を参照してください。

EOS Utilityでカメラを操作

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、カメラ内の画像の取り込みや、カメラの操作などを行うことができます。

カメラ側の操作-1

1. [(w) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2. [EOS Utilityでリモート操作] を選ぶ

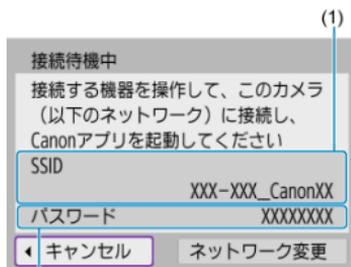


- 履歴 (📄) が表示されたときは、〈◀〉 〈▶〉 で画面を切り換えます。

3. [接続先の機器の追加] を選ぶ



4. SSID (ネットワーク名) とパスワードを確認する



- カメラのモニターに表示されているSSID (1) とパスワード (2) を確認します。
- [Wi-Fi設定] で [パスワード] を [なし] に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります。詳しくは、[Wi-Fi設定](#)を参照してください。

パソコン側の操作-1

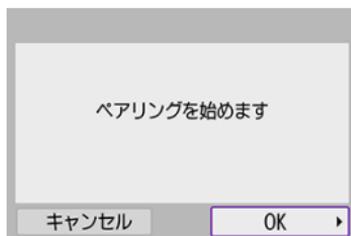
5. SSIDを選んでパスワードを入力する

パソコンの画面例

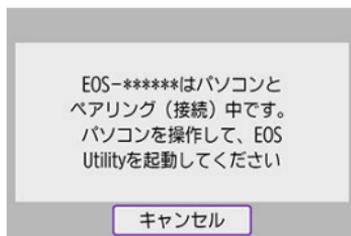


- パソコンのネットワークの設定画面から、[カメラ側の操作-1](#)の手順4で確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、[カメラ側の操作-1](#)の手順4で確認したパスワードを入力します。

6. [OK] を選ぶ



- 下記のメッセージ画面が表示されます。なお、「*****」は、接続しようとしているカメラのMACアドレス下6桁です。



パソコン側の操作-2

7. EOS Utilityを起動する

8. EOS Utilityの [Wi-Fi/LAN接続ペアリング] をクリックする



- ファイアウォールに関するメッセージが表示されたときは、[はい] を選びます。

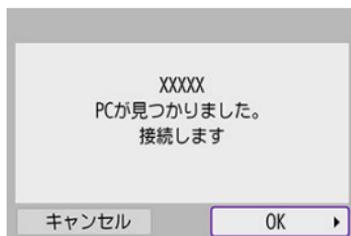
9. [接続] をクリックする



- 接続するカメラを選んで、[接続] をクリックします。

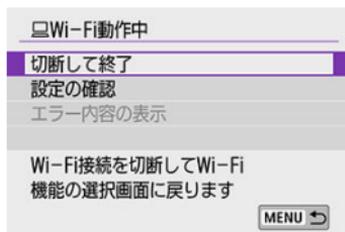
カメラ側の操作-3

10. Wi-Fi接続を確立する



- [OK] を選びます。

【Wi-Fi動作中】画面について



切断して終了

- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

これでパソコンとのWi-Fi接続は完了です。

- パソコンのEOS Utilityでカメラを操作します。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、[2回目以降のWi-Fi接続](#)を参照してください。

注意

- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
 - 電源スイッチが〈OFF〉のときは、動画撮影が継続します。
 - 電源スイッチが〈ON〉のときは、動画撮影が終了します。
- 電源スイッチが〈ON〉のときに、EOS Utilityの操作で動画モードにしたときは、カメラを操作して撮影することはできません。
- EOS UtilityとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- リモートライブビュー撮影では、インターフェーススケールでの接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。

カメラ内の画像の自動送信

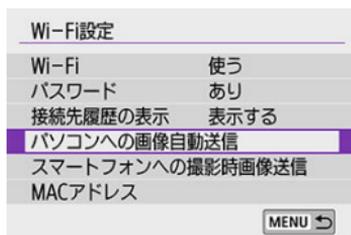
専用ソフトウェアの Image Transfer Utility 2を使って、カメラ内の画像を自動的にパソコンへ送ることができます。

パソコン側の操作-1

1. パソコンとアクセスポイントを接続してImage Transfer Utility 2を起動する
 - はじめてImage Transfer Utility 2を起動したときは、画面の手順にしたがって操作を行うとペアリングを設定する画面が表示されます。

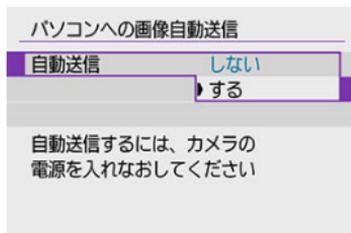
カメラ側の操作-1

2. [パソコンへの画像自動送信] を選ぶ

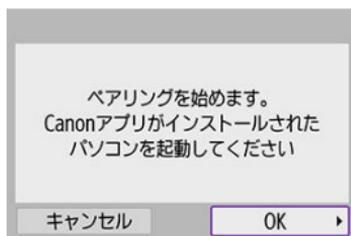


- [(p) : Wi-Fi設定] を選びます。
- [パソコンへの画像自動送信] を選びます。

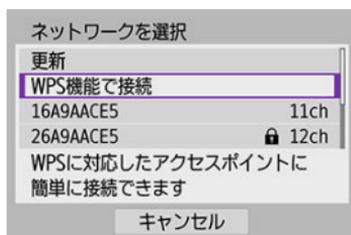
3. [自動送信] で [する] を選ぶ



4. [OK] を選ぶ



5. アクセスポイントとWi-Fi接続する



- パソコンと接続しているアクセスポイントとカメラをWi-Fi接続します。接続方法は[アクセスポイントを使用したWi-Fi接続](#)を参照してください。

6. カメラとペアリングするパソコンを選ぶ



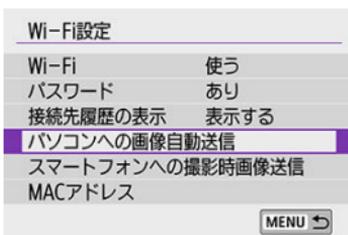
パソコン側の操作-2

7. カメラとパソコンをペアリングする

- カメラを選んで、[ペアリング] をクリックします。

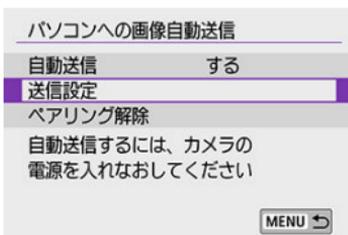
カメラ側の操作-2

8. [パソコンへの画像自動送信] を選ぶ

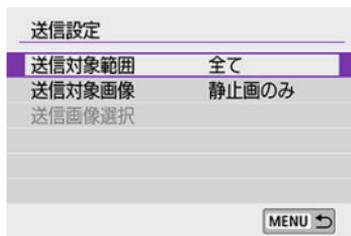


- [(p) : Wi-Fi設定] を選びます。
- [パソコンへの画像自動送信] を選びます。

9. [送信設定] を選ぶ



10. 送信する対象を選ぶ



- [送信対象範囲] で [選択画像のみ] を選んだときは [送信画像選択] の画面で送信する画像を設定します。
- 設定が終了したらカメラの電源を切ります。

パソコンが起動した状態で、アクセスポイントの通信範囲内でカメラの電源を入れると、カメラ内の画像がパソコンに自動送信されます。

⚠ 注意

- 自動送信が始まらないときは、カメラの電源を入れなおしてください。

プリンターとWi-Fi接続

☑ [画像の印刷](#)

☑ [印刷の設定](#)

ここでは、カメラとWi-Fiで使えるPictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターを直接Wi-Fi接続して画像を印刷する方法について説明しています。プリンターの操作方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

1. [(w) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ

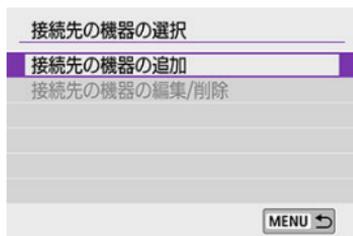


2. [凸Wi-Fi対応プリンターで印刷] を選ぶ

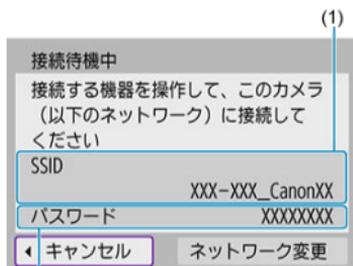


- 履歴 (w) が表示されたときは、<◀> <▶> で画面を切り換えます。

3. [接続先の機器の追加] を選ぶ



4. SSID (ネットワーク名) とパスワードを確認する



- カメラのモニターに表示されているSSID (1) とパスワード (2) を確認します。
- [Wi-Fi設定] で [パスワード] を [なし] に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります (🔒)。

5. プリンターを操作する

- お使いのプリンターのWi-Fiに関する設定メニューから、確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、手順4で確認したパスワードを入力します。

6. プリンターを選ぶ



- 検出されたプリンターの一覧から、Wi-Fi接続するプリンターを選びます。
- 接続したいプリンターが表示されない場合、[再検索]を選択することで表示されることがあります。

参考

- アクセスポイントを使用してWi-Fi接続するときは、[アクセスポイントを使用したWi-Fi接続](#)を参照してください。

1枚ずつ印刷

1. 印刷する画像を選ぶ



- 〈◀〉 〈▶〉 または 〈⊙〉 で印刷する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈☒・Q〉 ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

2. 「この画像を印刷」を選ぶ



3. 印刷する



- 印刷の設定方法は、[印刷の設定](#)を参照してください。
- **[印刷]** を選び、**[OK]** を選ぶと印刷が始まります。

画像を指定して印刷

1. <SET> を押す



2. [印刷指定] を選ぶ



3. 印刷内容を設定する



- 設定方法は、[印刷指定／DPOF](#)を参照してください。
- Wi-Fi接続前に印刷指定をしているときは、手順4に進んでください。

4. [印刷] を選ぶ

- [印刷] は、画像が選択され、印刷できる状態になっていないと選択できません。

5. [用紙設定] の内容を設定する (📄)

6. 印刷する



- [OK] を選ぶと印刷が始まります。

! 注意

- プリンターとWi-Fi接続中は撮影できません。
- 動画は印刷できません。
- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- [フチあり] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。
- RAW画像は [印刷指定] を選んで印刷することはできません。印刷するときは、[この画像を印刷] を選んで印刷してください。

参考

- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、**[印刷]**を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、**[中止]**が表示されている間に **(SE)** を押して **[OK]** を選びます。
- **[印刷指定]** で印刷するときに、途中で印刷を中止してから残りの画像を印刷するときは、**[再開]** を選びます。ただし、次のときは印刷の再開はできません。
 - 再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
 - インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
- 印刷中に問題が発生したときは、[注意事項](#)を参照してください。

印刷の設定

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものがないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

印刷設定画面



- (1) 日付や画像番号の印刷を設定します (☑)
- (2) 印刷効果を設定します (☑)
- (3) 印刷枚数を設定します (☑)
- (4) 印刷範囲を設定します (☑)
- (5) 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します (☑、☑、☑)
- (6) 画像の選択画面に戻ります
- (7) 印刷を開始します
- (8) 設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

* プリンターの機種により、一部の設定項目が選択できないことがあります。

用紙設定



- 【用紙設定】を選びます。

☑ 用紙サイズの設定



- プリンターにセットされている用紙のサイズを選びます。

【】 用紙タイプの設定



- プリンターにセットされている用紙のタイプを選びます。

【】 レイアウトの設定

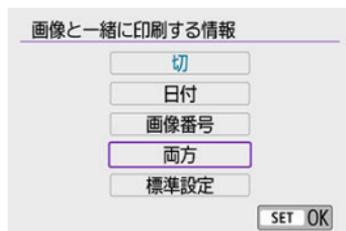


- 印刷レイアウトを選びます。

！ 注意

- 用紙の縦横比と、画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされることがあります。また、解像度が低く印刷されることがあります。

【】 日付／画像番号印刷の設定



- 【】 を選びます。
- 印刷内容を選びます。

[🖨️] 印刷効果（イメージオプティマイズ）の設定



- [🖨️] を選びます。
- 印刷効果を選びます。

⚠️ 注意

- ISO感度「H」で撮影した画像の撮影情報を印刷すると、ISO感度が適切な値で印刷されないことがあります。
- 印刷効果などの選択肢にある【標準設定】は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。【標準設定】の内容は、プリンターの使用説明書を参照してください。

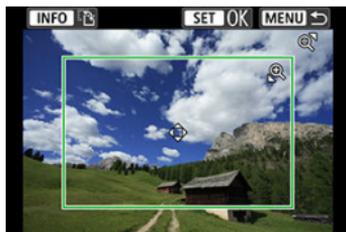
[🖨️] 印刷枚数の設定



- [🖨️] を選びます。
- 印刷枚数を選びます。

トリミング（印刷範囲）の設定

トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、再設定が必要になることがあります。



1. 印刷設定画面で【トリミング】を選ぶ

2. トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、[用紙設定]の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈Q〉 〈Q〉 ボタンで枠の大きさが変わります。

枠を移動する

〈▲〉 〈▼〉 〈◀〉 〈▶〉 で枠が上下左右に移動します。

枠の縦/横を切り換える

〈INFO〉 ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。

3. 〈SET〉を押してトリミングを終了する

- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認できます。

注意

- プリンターの機種により、枠のとおり印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど解像度が低く印刷されます。

プリンターエラー発生時の操作について

- プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、**[続行]**を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

- 印刷中に問題が発生したときは、カメラのモニターにエラーメッセージが表示されます。問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

- 用紙が正しくセットされていることを確認してください。

インクエラー

- インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

- 用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

- 選択した画像は印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

Webサービスへ画像を送信

☑ [image.canonの登録](#)

☑ [画像の送信](#)

ここでは、image.canonに画像を送信する方法について説明しています。

image.canonの登録

カメラをimage.canonに接続して、カメラから直接画像を送信できるようにします。

- インターネットに接続できるパソコンまたはスマートフォンおよびブラウザが必要です。
- パソコンまたはスマートフォンのメールアドレスが必要です。
- image.canonのサービスの使い方、対応している国/地域などは image.canon サイト (<https://image.canon/>) を確認してください。
- プロバイダーとの接続料金、およびプロバイダーのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

カメラ側の操作-1

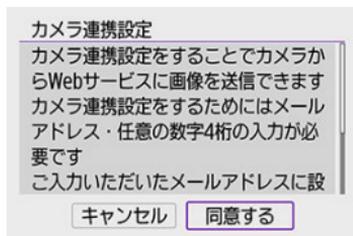
1. [(w)]: Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



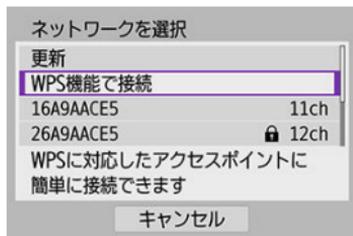
2. [🌩️ Webサービスへ画像を送信] を選ぶ



3. [同意する] を選ぶ



4. Wi-Fi接続する



- アクセスポイントとWi-Fi接続します。[アクセスポイントを使用したWi-Fi接続](#)の手順6に進みます。

5. メールアドレスを入力する

カメラ連携設定

メールアドレスを入力してください
(254文字以内)

キャンセル OK

- メールアドレスを入力して **[OK]** を選びます。

6. 4桁の数字を入力する

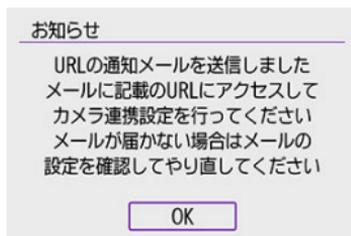
カメラ連携設定

任意の数字4桁を入力してください
カメラ連携設定時に必要です

キャンセル OK

- 任意の4桁の数字を入力し **[OK]** を選びます。

7. [OK] を選ぶ



- [📧] が [📷] になります。



パソコンまたはスマートフォン側の操作

8. カメラ連携を設定する

- 受信した通知メールのURLにアクセスします。
- カメラ連携設定ページの案内にしたがって設定します。

カメラ側の操作-2

9. 「image.canon」を送信先に追加する



- [Cloud] を選びます。
image.canonが追加されます。



image.canonへ画像を送信します。image.canonは送信された画像のオリジナルファイルを30日間、容量無制限で保管し、そこからPCにダウンロードしたり、他のWebサービスに転送することができます。

image.canonとのWi-Fi接続

1. [(P) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2. image.canonを選ぶ



- 履歴 (P) が表示されたときは、<◀> <▶> で画面を切り換えます。

1枚ずつ送信

1. 送信する画像を選ぶ



- <◀> <▶> または <⊙> で送信する画像を選び、<SET> を押します。
- <⊞> ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

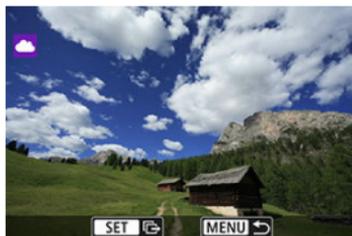
2. [この画像を送信] を選ぶ



- [送信画像サイズ] で送信する画像サイズを選ぶことができます。
- 送信の完了画面で [OK] を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。

複数の画像を選んで送信

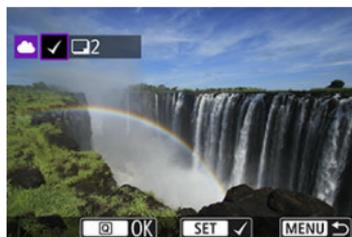
1. 〈SET〉を押す



2. [選んで送信] を選ぶ

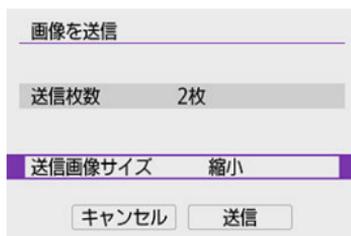


3. 送信する画像を選ぶ



- 〈◀〉 〈▶〉 または 〈⌚〉 で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈📷+Q〉 ボタンを押すと、3画像表示にして選ぶことができます。1枚表示に戻すときは、〈Q〉 ボタンを押します。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈Q〉 ボタンを押します。

4. [送信画像サイズ] を選ぶ



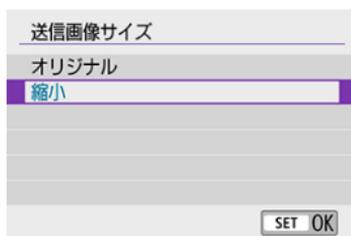
画像を送信

送信枚数 2枚

送信画像サイズ 縮小

キャンセル 送信

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



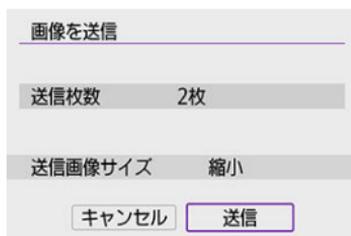
送信画像サイズ

オリジナル

縮小

SET OK

5. [送信] を選ぶ



画像を送信

送信枚数 2枚

送信画像サイズ 縮小

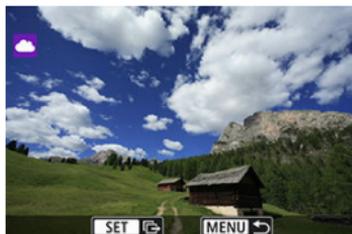
キャンセル 送信

- 送信の完了画面で [OK] を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。

範囲を指定して送信

画像の範囲を指定して、まとめて送信します。

1. 〈SET〉を押す



2. [範囲指定で送信] を選ぶ



3. 画像の範囲を指定する



- 最初の画像（始点）を選びます。
- 最後の画像（終点）を選びます。
画像が選択され、[✓]が表示されます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈-Q〉ボタンを押すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

4. 範囲を確定する

- 〈Q〉 ボタンを押します。

5. [送信画像サイズ] を選ぶ

送信画像を送信

送信枚数 2枚

送信画像サイズ 縮小

キャンセル 送信

- 表示される画面で画像サイズを選びます。

送信画像サイズ

オリジナル

縮小

SET OK

6. [送信] を選ぶ

送信画像を送信

送信枚数 2枚

送信画像サイズ 縮小

キャンセル 送信

- 送信の完了画面で [OK] を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。

カード内の画像をすべて送信

1. 〈SET〉を押す



2. [カード内全送信] を選ぶ



3. [送信画像サイズ] を選ぶ

送信画像サイズ

送信枚数 2枚

送信画像サイズ 縮小

キャンセル 送信

Detailed description: This is a screenshot of a menu titled '画像を送信' (Send Image). Below the title, there is a field for '送信枚数' (Number of images to send) set to '2枚'. The '送信画像サイズ' (Transmit image size) section is highlighted with a purple bar and shows '縮小' (Small) as the selected option. At the bottom, there are two buttons: 'キャンセル' (Cancel) and '送信' (Send).

- 表示される画面で画像サイズを選びます。

送信画像サイズ

オリジナル

縮小

SET OK

Detailed description: This is a screenshot of the '送信画像サイズ' (Transmit Image Size) selection screen. The title is '送信画像サイズ'. Below it, there are three options: 'オリジナル' (Original), '縮小' (Small), and an unlabeled option. The '縮小' option is highlighted with a purple bar. At the bottom right, there is a button labeled 'SET OK'.

4. [送信] を選ぶ

送信画像サイズ

送信枚数 2枚

送信画像サイズ 縮小

キャンセル 送信

Detailed description: This is a screenshot of the same menu as in step 3. The '送信画像サイズ' (Transmit image size) section is still highlighted with a purple bar and shows '縮小' (Small). The '送信' (Send) button at the bottom is now highlighted with a purple border, indicating it is the next step in the process.

- 送信の完了画面で [OK] を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。

検索条件が設定された画像を送信

[画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。[画像検索の条件設定] については、[画像検索の条件設定](#)を参照してください。

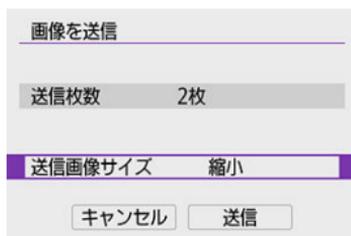
1. <SET>を押す



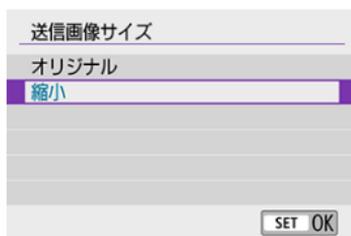
2. [検索結果全送信] を選ぶ



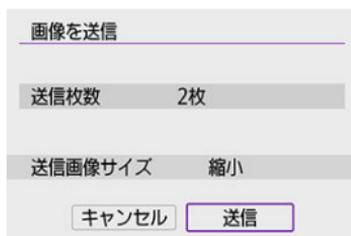
3. [送信画像サイズ] を選ぶ



- 表示される画面で画像サイズを選びます。



4. [送信] を選ぶ



- 送信の完了画面で [OK] を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。

⚠ 注意

- image.canonにWi-Fi接続中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

参考

- [範囲指定で送信]、[カード内全送信]または[検索結果全送信]で、一部の画像が送信できないことがあります。
- 画像を縮小するときは、同時に送信する画像がすべて縮小されます。なお、動画やS2サイズの静止画は縮小されません。
- [縮小]が有効になるのは、このカメラと同じ機種のカメラで撮影された静止画だけです。それ以外のカメラで撮影された静止画は、サイズを縮小せずに送信します。
- image.canonサイトにアクセスすると、送信画像の履歴が確認できます。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

アクセスポイントを使用したWi-Fi接続

[カメラアクセスポイントモード](#)

[IPアドレスの手動設定](#)

ここでは、WPS（PBC方式）に対応したアクセスポイントを利用したWi-Fi接続の方法について説明しています。

あらかじめ、WPS用ボタンの場所と押す時間を確認しておいてください。Wi-Fi接続の開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

1. [(w) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ

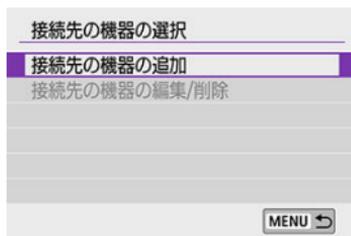


2. 項目を選ぶ



- 履歴 (w) が表示されたときは、<◀> <▶> で画面を切り換えます。

3. [接続先の機器の追加] を選ぶ

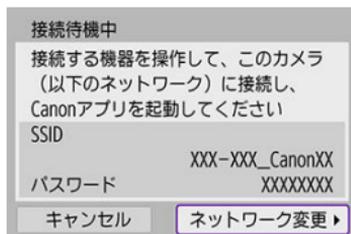


- [📱スマートフォンと通信] を選んだときは下の画面が表示されます。Camera Connectをインストール済みのときは[表示しない]を選びます。



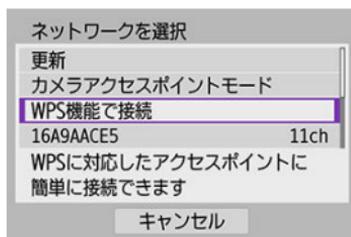
- 次に表示される[スマートフォンと通信]の画面では[Wi-Fi接続]を選びます。

4. [ネットワーク変更] を選ぶ



- [📱] [🖨️] [📺] を選んだときに表示されます。

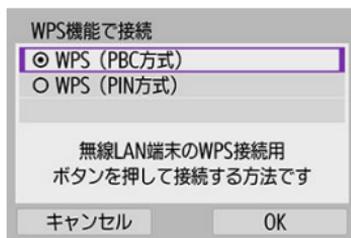
5. [WPS機能で接続] を選ぶ



参考

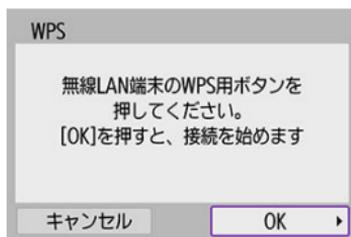
- 手順5の画面で表示される **[カメラアクセスポイントモード]** については、[カメラアクセスポイントモード](#)を参照してください。

6. [WPS (PBC方式)] を選ぶ



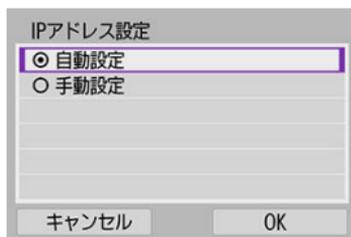
- [OK]** を選びます。

7. アクセスポイントにWi-Fi接続する



- アクセスポイントのWPS用ボタンを押します。
- **[OK]** を選びます。

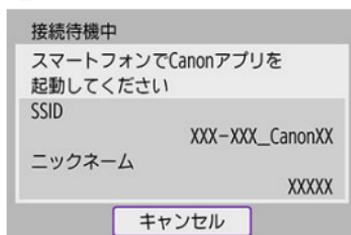
8. **[自動設定]** を選ぶ



- **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi機能に応じた設定画面が表示されます。
- **[自動設定]** でエラーが表示されたときは、[IPアドレスの手動設定](#)を参照してください。

9. Wi-Fi機能に応じた設定を行う

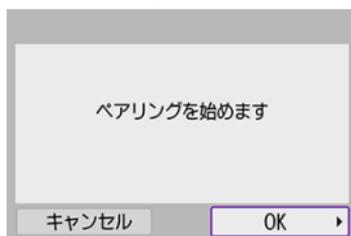
[☐スマートフォンと通信]



- スマートフォンのWi-Fi機能で、モニターに表示されたSSID（ネットワーク名）をタッチして、接続するアクセスポイントのパスワードを入力します。

[Bluetooth機能を使用せずWi-Fi接続する](#)の手順8に進みます。

[☐EOS Utilityでリモート操作]



[パソコン側の操作-2](#)の手順7または手順8に進みます。

[☐Wi-Fi対応プリンターで印刷]

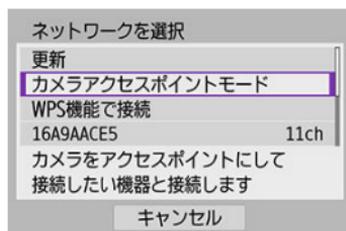


[プリンターとWi-Fi接続](#)の手順6に進みます。

image.canonを登録する

[image.canonの登録](#)の手順5に進みます。

カメラアクセスポイントモード

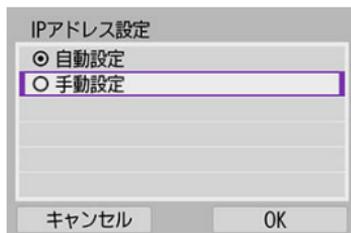


カメラアクセスポイントモードは、カメラと各機器を直接Wi-Fi接続する方法です。[(P) : **Wi-Fi/Bluetooth接続**] で、[] [] [] を選んだときに表示されます。

IPアドレスの手動設定

表示される項目はWi-Fi機能によって異なります。

1. [手動設定] を選ぶ



IPアドレス設定

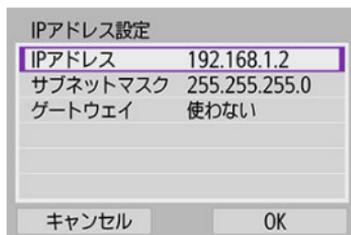
自動設定

手動設定

キャンセル OK

- [OK] を選びます。

2. 項目を選ぶ



IPアドレス設定

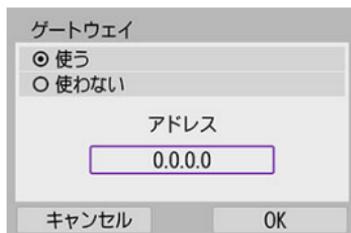
IPアドレス 192.168.1.2

サブネットマスク 255.255.255.0

ゲートウェイ 使わない

キャンセル OK

- 項目を選ぶと、数値の入力画面が表示されます。
- ゲートウェイを使う場合は、[使う] を選んでから [アドレス] を選びます。



ゲートウェイ

使う

使わない

アドレス

0.0.0.0

キャンセル OK

3. 数値を入力する

IPアドレス

192.168.1.3

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

INFO キャンセル MENU OK

- 〈〉で上側の入力場所を選び、〈◀〉 〈▶〉で入力する数値を選びます。〈〉を押すと選んだ数値が入力されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

4. [OK] を選ぶ

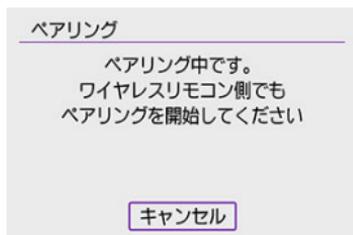
IPアドレス設定

IPアドレス	192.168.1.3
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	使わない

キャンセル OK

- 必要な項目の設定が完了したら [OK] を選びます。
- 設定する内容が分からない場合は、[ネットワークの設定を確認する](#)を参照するか、ネットワーク管理者、またはネットワークに詳しい方に問い合わせてください。

4. ペアリングする



- [ペアリング] の画面が表示されたら、BR-E1の〈W〉ボタンと〈T〉ボタンを同時に3秒以上押しします。
- 「**** (BR-E1の個別名称) と接続しました」が表示されたら、〈SET〉を押します。

5. リモコン撮影できるように設定する

- 静止画撮影時は、ドライブモードで [📷] または [📷2] を選びます (📷)。
- 動画撮影時は、[📷: リモコン撮影] で [する] を選びます。
- このあとの操作は、BR-E1の使用説明書を参照してください。

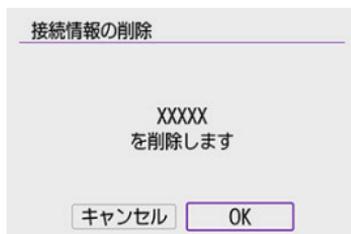
⚠ 注意

- カメラがオートパワーオフのときも、Bluetooth接続中はカメラのバッテリーが消耗します。

📖 参考

- Bluetooth機能を使わないときは、手順1で [使わない] に設定することをおすすめします。

4. [OK] を選ぶ



2回目以降のWi-Fi接続

一度Wi-Fi接続して接続設定が登録された機器やWebサービスに、再度Wi-Fi接続する方法です。

1. [(📶) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- 表示された履歴から、Wi-Fi接続する項目を選びます。表示されていないときは〈◀〉 〈▶〉で画面を切り換えます。
- [接続先履歴の表示] を [表示しない] に設定しているときは履歴は表示されません (🔒)。

3. 接続先の機器を操作する

スマートフォンの場合

- Camera Connectを起動します。
- スマートフォンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。カメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_Canon0A」と表示されます。

パソコンの場合

- パソコンでEOS用ソフトウェアを起動します。
- パソコンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。カメラとパソコンを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_Canon0A」と表示されます。

プリンターの場合

- プリンターの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。カメラとプリンターを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_Canon0A」と表示されます。

複数の接続設定の登録

無線通信機能全体で、接続設定を10個まで登録することができます。

1. [(p) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- 履歴 (Ⓜ) が表示されたときは、<◀> <▶> で画面を切り換えま
す。
- [📱スマートフォンと通信] は[スマートフォンと通信](#)を参照してくだ
さい。
- [💻EOS Utilityでリモート操作] は[パソコンとWi-Fi接続](#)を参照してく
ださい。
- [🖨️Wi-Fi対応プリンターで印刷] は[プリンターとWi-Fi接続](#)を参照して
ください。
- Webサービスへ画像を送信するときは[Webサービスへ画像を送信](#)を参
照してください。

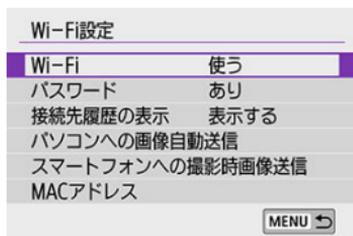
📖 参考

- 接続設定を削除するときは、[接続設定の変更/削除](#)を参照してください。

1. [(*) : Wi-Fi設定] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



● Wi-Fi

飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、**【使わない】** に設定してください。

● パスワード

【なし】 に設定すると、Wi-Fi接続時のパスワードの入力を省略することができます（アクセスポイントとのWi-Fi接続時を除く）。

● 接続先履歴の表示

Wi-Fi接続した機器の履歴を **【表示する】** / **【表示しない】** が設定できます。

● パソコンへの画像自動送信

専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2を使って、カメラ内の画像を自動的にパソコンへ送ることができます (📷)。

● スマートフォンへの撮影時画像送信

撮影した画像をスマートフォンに自動送信することができます (📷)。

● MACアドレス

カメラのMACアドレスの確認ができます。

1. [(p) : Bluetooth設定] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **Bluetooth**
Bluetooth機能を使わないときは**「使わない」**を選びます。
- **接続先情報の確認**
ペアリングした機器の名前や通信状態を確認できます。
- **Bluetoothアドレス**
カメラのBluetoothアドレスを確認できます。

ニックネーム

スマートフォンやカメラで表示される、このカメラのニックネームを変更することができます。

1. [(q): ニックネーム] を選ぶ



2. [仮想キーボードの操作方法](#)で文字を入力する



- 入力が終了したら〈MENU〉ボタンを押します。

GPS機器の設定

[GP-E2](#)

[スマートフォン](#)

[GPS接続表示](#)

GPSレシーバー GP-E2（別売）やBluetooth対応スマートフォンを使用して、位置情報を画像に付加することができます。

GP-E2

1. GP-E2をカメラに取り付ける

- GP-E2をカメラのアクセサリシューに取り付けて電源を入れます。詳しくはGP-E2の使用説明書を参照してください。

2. [(P) : GPS機器の設定] を選ぶ



3. [GPS機器の選択] で [GPSレシーバー] を選ぶ



4. 撮影する

- [設定] について、詳しくはGP-E2の使用説明書を参照してください。

⚠ 注意

GP-E2を使用するときのご注意

- 使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。
- GP-E2のファームウェアをVer.2.0.0以上にアップデートしてください。ファームウェアをアップデートする際は、インターフェースケーブルが必要です。アップデートの方法については、キヤノンのホームページを参照してください。
- このカメラとGP-E2を、ケーブルで接続して使用することはできません。
- このカメラでは撮影方位は記録されません。

スマートフォン

スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connectをインストール (📦) してから設定を行ってください。

1. スマートフォンの位置情報機能をオンにする

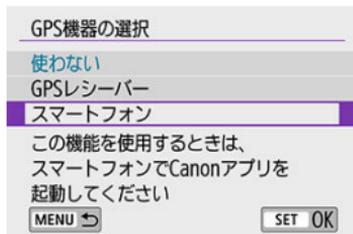
2. Bluetooth接続する

- Camera Connectを起動して、カメラとスマートフォンをBluetooth接続してください。

3. [(📶) : GPS機器の設定] を選ぶ



4. [GPS機器の選択] で [スマートフォン] を選ぶ



5. 撮影する

- スマートフォンが取得した位置情報が画像に付加されます。

GPS接続表示

静止画撮影画面 (📷) または動画撮影画面 (📹) のGPS接続表示で、スマートフォンからの位置情報の取得の状態を確認することができます。

- グレー：位置情報機能がオフの状態
- 点滅：位置情報が取得できない状態
- 点灯：位置情報を取得済

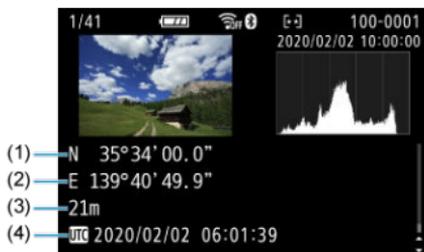
なお、GP-E2使用時のGPS接続表示については、GP-E2の使用説明書を参照してください。

撮影時に位置情報を画像に付加する

GPSアイコンが点灯中に撮影すると、位置情報が画像に付加されます。

画像に付加される位置情報について

撮影情報表示の画面 (📷) で、撮影した画像に付加された位置情報を確認することができます。



- (1) 緯度
- (2) 経度
- (3) 標高
- (4) 協定世界時

注意

- スマートフォンによる位置情報の取得は、カメラとスマートフォンがBluetooth接続しているときのみに行われます。
- 方位情報は取得されません。
- 移動条件やスマートフォンの状態によって、取得される位置情報が正確でない場合があります。
- 電源スイッチを入れてから、スマートフォンの位置情報を取得するまでに、時間がかかることがあります。
- 以下の操作を行うと、位置情報が取得できなくなります。
 - ワイヤレスリモコンとBluetooth接続する
 - カメラの電源を切る
 - Camera Connectを終了する
 - スマートフォンの位置情報機能をオフにする
- 以下の状態になると、位置情報が取得できなくなります。
 - カメラの電源が切れる
 - Bluetooth接続が終了する
 - スマートフォンのバッテリーの残量が少なくなる

参考

- 協定世界時（UTC: Coordinated Universal Time）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。
- 動画撮影のときは、撮影開始時の情報が付加されます。

接続設定の変更／削除

接続設定の変更や削除は、Wi-Fi接続を終了してから行います。

1. [(📶) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ

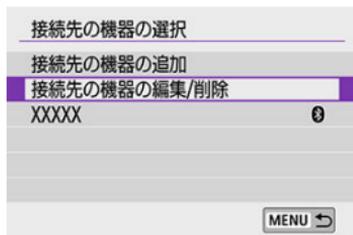


2. 項目を選ぶ



- 履歴 (📄) が表示されたときは、<◀> <▶> で画面を切り換えます。

3. [接続先の機器の編集/削除] を選ぶ

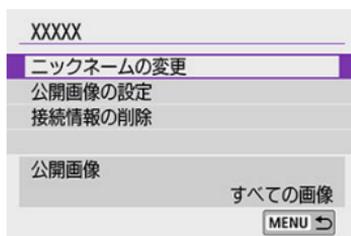


- [(🗑️)] がグレーで表示されたスマートフォンを選ぶと、Bluetooth接続を切り換えることができます。[スマートフォンと通信] の画面が表示されたら [Bluetooth接続] を選び、次の画面で (SET) を押します。

4. 接続設定の変更や削除を行う機器を選ぶ



5. 項目を選ぶ



- 表示される画面で接続設定の変更や削除を行います。

- **ニックネームの変更**

ニックネームを仮想キーボード (📄) で変更できます。

- **公開画像の設定 (📄)**

【📄スマートフォンと通信】を選んだときに表示されます。設定した内容が画面の下側に表示されます。

- **接続情報の削除**

ペアリング中のスマートフォンの接続設定を削除したときは、スマートフォンのカメラの登録も解除してください (📄)

📄 参考

- image.canonの接続設定は、image.canonのサイトで削除します。

機内モード

Wi-Fi機能、Bluetooth機能を一時的にオフにすることができます。

1. [(w) : 機内モード] を選ぶ



2. [入] に設定する



- 画面に [↑] が表示されます。

参考

- ライブビュー撮影時や動画撮影時、再生時は、表示設定によって [↑] が表示されないこともあります。表示されないときは、〈INFO〉ボタンを何度か押して詳細表示画面にします。

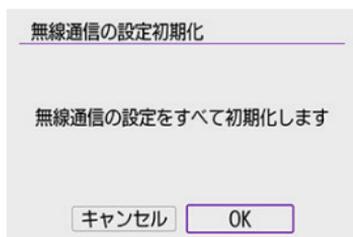
無線通信の設定初期化

無線通信の設定をすべて削除します。カメラを貸与したり譲渡したときに、無線通信の設定情報が流出することを防ぐことができます。

1. [(📶) : 無線通信の設定初期化] を選ぶ



2. [OK] を選ぶ



⚠ 注意

- [(📷) : カメラ設定初期化] を行っても、無線通信の設定情報は削除されません。
- カメラとスマートフォンをペアリングしていたときは、スマートフォンのBluetooth設定画面で、無線通信の設定を初期化したカメラの登録を解除してください。

情報表示画面

エラーの内容とカメラのMACアドレスを確認することができます。

1. [(p) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2. <INFO> ボタンを押す

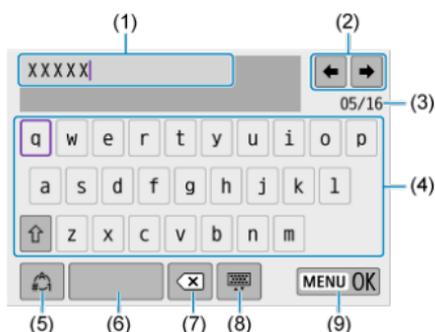


- [情報表示] の画面が表示されます。



- エラーが発生しているときに (SET) を押すと、エラーの内容が表示されます。

仮想キーボードの操作方法



(1) 文字を入力するエリア（入力エリア）

(2) 入力エリアでのカーソルの移動

(3) 入力した文字数/入力できる文字数

(4) キーボード

(5) 入力モードの切り換え

(6) スペース

(7) 入力エリアでの文字の削除

(8) キーボードの種類の変更

(9) 入力の終了

- (2) は  で移動します。
- (4) ~ (8) は     で移動します。
- 入力する文字の決定や、入力モードの切り換えなどを行うときは  を押します。

エラー表示の対応

エラーが発生したときは、下記のいずれかの方法でエラー内容を表示してください。その後、この章の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。

- [情報表示] の画面で **(E)** を押す。
- [Wi-Fi動作中] の画面で [エラー内容の表示] を選ぶ。

11	12	21	22	23	61	63	64
65	66	67	68	69	91	125	126
127	141	142	151	152			

参考

- エラーが発生したときは、[Wi-Fi/Bluetooth接続] の画面の右上に [Err**] と表示されます。カメラの電源を **(OFF)** にすると表示されなくなります。

11：接続先が見つかりません

- **[]** の場合、Camera Connectは起動していますか？
 - Camera Connectから接続操作を行ってください (🔗)。
- **[]** の場合、EOS用ソフトウェアは起動していますか？
 - EOS用ソフトウェアを起動して、再度接続操作を行ってください (🔗)。
- **[]** の場合、プリンターの電源は入っていますか？
 - プリンターの電源を入れてください。
- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
 - 暗号化の認証方式が [オープン] の設定で、パスワードを間違えると、このエラーになります。
大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください (🔗)。

12：接続先が見つかりません

- 接続先の機器とアクセスポイントの電源は入っていますか？
 - 接続先の機器やアクセスポイントの電源を入れて、しばらくお待ちください。それでも接続できないときは、再度接続操作を行ってください。

21 : DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

カメラの確認内容

- カメラの設定がIPアドレス [自動設定] になっています。この設定で間違いありませんか？
 - DHCPサーバーを使用していない場合は、カメラをIPアドレス [手動設定] にして設定を行ってください (🔗)。

DHCPサーバーの確認内容

- DHCPサーバーの電源は入っていますか？
 - DHCPサーバーの電源を入れてください。
- DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？
 - DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
 - DHCPサーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
- DHCPサーバーは正常に機能していますか？
 - DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

カメラの確認内容

- カメラに設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？
 - IPアドレス [手動設定] にして、使用するDNSサーバーと同じIPアドレスをカメラに設定してください (🔗)。

DNSサーバーの確認内容

- DNSサーバーの電源は入っていますか？
 - DNSサーバーの電源を入れてください。
- DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか？
 - DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。
- DNSサーバーは正常に機能していますか？
 - DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- Wi-Fi接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください (🔗、🔗)。
 - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23 : ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します

カメラの確認内容

- **カメラと同じネットワークにWi-Fi接続している機器が、カメラと同じIPアドレスを使用していませんか？**
 - カメラのIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。
 - DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、カメラがIPアドレス [手動設定] の設定になっているときは、IPアドレス [自動設定] の設定にしてください (🔗)。

参考

エラー20番台の対応について

- エラー21～23が表示された場合は、以下の確認も行ってください。
カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
 - 暗号化の認証方式が [オープン] の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください (🔗)。

61 : 同じSSIDの無線LANネットワークが見つかりません

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
 - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動してください (☑)。

カメラの確認内容

- カメラにアクセスポイントと同じSSIDを設定していますか？
 - アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDをカメラに設定してください。

アクセスポイントの確認内容

- アクセスポイントの電源は入っていますか？
 - アクセスポイントの電源を入れてください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは [情報表示] の画面 (☑) で確認できます。

63：無線LANの認証に失敗しました

- カメラとアクセスポイントで、同じ認証方式を設定していますか？
 - カメラで設定できる認証方式は、[オープン]、[共有キー]、[WPA/WPA2-PSK]です。
- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
 - 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは【情報表示】の画面 (🔍) で確認できます。

64：無線LAN端末に接続できません

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
 - カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは【情報表示】の画面 (🔍) で確認できます。

65：無線LANの接続が切れました

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
 - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください。
- 何らかの理由で、Wi-Fi接続が切れ、再接続できない状態になっています。
 - アクセスポイントにほかの端末からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合 (IEEE 802.11b/g/n (2.4GHz帯))、雨天や高温湿度などの影響が考えられます (🔍)。

66：無線LANのパスワードが違います

- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
 - 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください。

67：無線LANの暗号化方式が違います

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
 - カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは [情報表示] の画面 (🔍) で確認できます。

68：無線LAN端末に接続できませんでした。始めからやり直してください。

- アクセスポイントのWPS (Wi-Fi Protected Setup) ボタンは、アクセスポイントで指示されている時間押し続けましたか？
 - WPSボタンをアクセスポイントの使用説明書で指示されている時間押し続けてください。
- アクセスポイントのすぐ近くで接続操作をしていますか？
 - 両方の機器にすぐ手が届く距離で接続操作を行ってください。

69：複数の無線LAN端末を検出したため、接続できませんでした。始めからやり直してください。

- ほかのアクセスポイントがWPS (Wi-Fi Protected Setup) のPBC方式 (プッシュボタン接続方式) で接続操作を行っています。
 - しばらく待ってから接続操作を行ってください。

91：その他のエラー

- エラー11～69以外の異常が発生しました。
 - カメラの電源スイッチを入れ直してください。

125 : ネットワークの設定を確認してください

- ネットワークが接続されていますか？
 - ネットワークの接続状態を確認してください。

126 : サーバーと接続できませんでした

- image.canonがメンテナンス中か、一時的に負荷が集中しています。
 - しばらくしてから接続をやり直してください。

127 : エラーが発生しました

- Webサービスの接続中に、エラー121～126以外の異常が発生しました。
 - image.canonのWi-Fi接続をやり直してください。

141 : プリンターは処理中です。もう一度接続してください

- プリンターが印刷中ではありませんか？
 - 印刷が終わってからWi-Fi接続をやり直してください。
- プリンターにほかのカメラがWi-Fi接続していませんか？
 - ほかのカメラのWi-Fi接続を終了してから、Wi-Fi接続をやり直してください。

142 : プリンター情報の取得に失敗しました。もう一度接続してください

- プリンターの電源は入っていますか？
 - プリンターの電源を入れてから、Wi-Fi接続をやり直してください。

151 : 送信を中止しました

- 何らかの理由で、パソコンへの画像の自動送信が中断されました。
 - カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから再度〈ON〉にすると、自動送信が再開されず。

152 : カードのスイッチが書き込み禁止位置になっています

- カードの書き込み禁止スイッチが、書き込み禁止位置になっていませんか？
 - カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み可能位置にしてください。

無線通信機能での注意事項

- [☑ カメラとスマートフォンとの距離について](#)
- [☑ アクセスポイントのアンテナの設置場所について](#)
- [☑ 近くにある電子機器について](#)
- [☑ カメラを複数使うときの注意](#)

無線通信機能使用時に「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

カメラとスマートフォンとの距離について

カメラとスマートフォンが離れすぎていると、Bluetooth接続は可能でもWi-Fi接続ができないことがあります。その場合は、カメラとスマートフォンを近づけてWi-Fi接続を行ってください。

アクセスポイントのアンテナの設置場所について

- 室内で使用する場合、カメラを使用している部屋に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響でWi-Fiの通信速度が遅くなる時は、電子機器の使用をやめるか、機器から離れた場所で通信を行ってください。

- カメラのIEEE 802.11b/g/nは、2.4GHz帯の電波を使用してWi-Fiの通信を行っています。そのため、同じ周波数帯を使用するBluetooth機器や電子レンジ、コードレス電話機、マイク、スマートフォン、他のカメラなどを使うとWi-Fiの通信速度が遅くなります。

カメラを複数使うときの注意

- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続するときは、カメラのIPアドレスが重複しないよう注意してください。
- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b/g/n (2.4GHz帯) のアクセスポイントが複数あるときは、電波干渉を少なくするために、Wi-Fiのチャンネルを、「1/6/11」、「2/7」、「3/8」というように5チャンネル分、間を開けてください。

セキュリティーについて

セキュリティーに関する設定が適切に行われていないときは、次のような問題が発生する恐れがありますので注意してください。

- 通信の傍受
悪意ある第三者によって無線LANの電波を傍受され、通信内容を盗み見られる恐れがあります。
- ネットワークへの不正アクセス
悪意ある第三者によって、お使いのネットワークに不正に侵入され、情報の盗難・改ざん・破壊をされるといった被害に遭う恐れがあります。また、別の人物を装ってネットワークに不正な情報を流す「なりすまし」通信がされたり、「踏み台」と呼ばれる別の不正アクセスへの中継地点にされたりする恐れもあります。

こうした問題が発生する可能性を少なくするため、ネットワークのセキュリティーを確保するための仕組みや機能を使用することをおすすめします。

ネットワークの設定を確認する

Windowsの場合

Windowsの [コマンドプロンプト] を開き、ipconfig /all と入力して〈Enter〉キーを押します。

パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。

macOSの場合

macOSの [ターミナル] を開き、ifconfig -a と入力して〈Return〉キーを押します。[en0] 項目 [inet] の***.***.***.***がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。[ターミナル] については、macOSのヘルプを参照してください。

なお、[IPアドレスの手動設定](#)でカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。

例) 192.168.1.10

無線通信機能の接続状態

モニターで、無線通信機能の接続状態を確認することができます。

クイック設定画面



- (1) Wi-Fi機能
(2) Bluetooth機能
(3) 電波強度

再生時の情報表示画面



- (1) Wi-Fi機能
(2) Bluetooth機能
(3) 電波強度

通信状態		モニター	
		Wi-Fi機能	電波強度
未接続	Wi-Fi : 使わない	Wi-Fi OFF	消灯
	Wi-Fi : 使う	Wi-Fi OFF	
接続開始		Wi-Fi (点滅)	電波強度 1/4
接続中		Wi-Fi	電波強度 2/4
送信中		Wi-Fi (←→)	電波強度 3/4
接続エラー		Wi-Fi (点滅)	電波強度 1/4

Bluetooth機能の表示

Bluetooth機能	接続状態	モニター
[使わない] 以外	Bluetooth接続中	
	Bluetooth未接続	
[使わない]	Bluetooth未接続	非表示

機能設定

この章では、メニュー機能の「🔧：機能設定タブ」の項目について説明しています。

- ページタイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉モード限定の機能であることを示しています。

- [メニュー目次：機能設定タブ](#)
- [フォルダ選択](#)
- [画像番号](#)
- [縦位置画像回転表示](#)
- [動画縦位置情報の付加](#)
- [カード初期化](#)
- [オートパワーオフ](#)
- [画面の明るさ](#)
- [モニター消灯／点灯](#)
- [日付／時刻／エリア](#)
- [言語](#)
- [ビデオ方式](#)
- [タッチ操作](#)
- [電子音](#)
- [バッテリー情報](#)
- [センサークリーニング](#)
- [ファインダー内表示](#)
- [INFOボタンで表示する内容](#)
- [撮影時のグリッド](#)
- [動画撮影時のシャッターボタンの機能](#)
- [AFフレーム選択ボタンとAEロックボタンの入換](#)
- [HDMI出力解像度](#)
- [マルチ電子ロック](#)
- [カスタム機能 \(C.Fn\)](#) **応用**
- [設定解除](#) **応用**
- [著作権情報](#) **応用**
- [その他の情報](#)

メニュー目次：機能設定タブ

● 機能設定1



- (1) [フォルダ選択](#)
- (2) [画像番号](#)
- (3) [縦位置画像回転表示](#)
- (4) [カード初期化](#)

● 機能設定2



- (1) [オートパワーオフ](#)
- (2) [画面の明るさ](#)
- (3) [モニター消灯/点灯](#)
- (4) [日付/時刻/エリア](#)
- (5) [言語 \(🗨\)](#)

● 機能設定3



- (1) [ビデオ方式](#)
- (2) [タッチ操作](#)
- (3) [電子音](#)
- (4) [バッテリー情報](#)
- (5) [センサークリーニング](#)

● 機能設定4



- (1) [ファインダー内表示](#)
- (2) [INFOボタンで表示する内容](#)
- (3) [設定と*ボタンの入換](#)
- (4) [HDMI出力解像度](#)
- (5) [マルチ電子ロック](#)

● 機能設定5



- (1) [カスタム機能\(C.Fn\)](#) **応用**
- (2) [設定解除](#) **応用**
- (3) [著作権情報](#) **応用**
- (4) [使用説明書・ソフトウェア URL](#)
- (5) [認証マーク表示](#) **応用**
- (6) [ファームウェア](#) **応用**

! 注意

- ライブビュー撮影および動画撮影のときは、[モニター消灯/点灯] [ファインダー一内表示] [INFOボタンで表示する内容] [ファームウェア] は表示されません。

● ライブビュー撮影のときは、[F4] は以下の画面が表示されます。



- (1) [撮影時のグリッド](#)
- (2) [画と*ボタンの入換](#)
- (3) [HDMI出力解像度](#)
- (4) [マルチ電子ロック](#)

- 動画撮影のときは、[F1] は以下の画面が表示されます。



- (1) [フォルダ選択](#)
- (2) [画像番号](#)
- (3) [縦位置画像回転表示](#)
- (4) [縦位置情報の付加](#)
- (5) [カード初期化](#)

- 動画撮影のときは、[F4] は以下の画面が表示されます。



- (1) [撮影時のグリッド](#)
- (2) [動画撮影時シャッターボタンの機能](#)
- (3) [四角ボタンと*ボタンの入換](#)
- (4) [HDMI出力解像度](#)
- (5) [マルチ電子ロック](#)

- **かんたん撮影ゾーン**のときは、**[F5]** は以下の画面が表示されます。



- (1) [使用説明書・ソフトウェア URL](#)

フォルダ選択

☑ [フォルダの作成](#)

☑ [フォルダの選択](#)

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

フォルダの作成

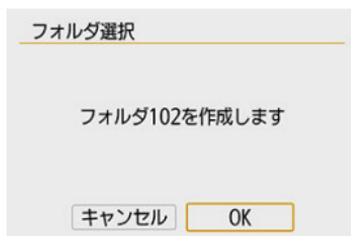
1. [F: フォルダ選択] を選ぶ



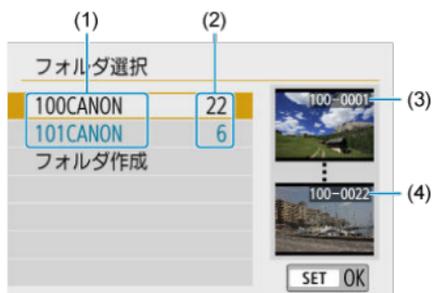
2. [フォルダ作成] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ



フォルダの選択



- (1) フォルダ名
- (2) フォルダ内画像数
- (3) 最小番号画像
- (4) 最大番号画像

- フォルダ選択画面でフォルダを選びます。
- 撮影画像は選択したフォルダに記録されます。

参考

フォルダについて

- 1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット (☑) を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

- カードを開いたところに「DCIM」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「100ABC_D」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

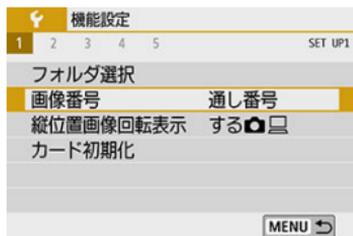
画像番号

- [通し番号](#)
- [オートリセット](#)
- [強制リセット](#)

撮影した画像には0001～9999の順で画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて付け方を変えることができます。

(例)
IMG_0001.JPG
└──┬──
(1)
(1) 画像番号

1. [🔍: 画像番号] を選ぶ



2. 項目を設定する

画像番号

番号の付け方 ▶ 通し番号

オートリセット

- [番号の付け方] を選びます。
- [通し番号] [オートリセット] のいずれかを選びます。

画像番号

番号の付け方 通し番号

強制リセット

MENU ↵

- 画像番号をリセットしたいときは、[強制リセット] を選びます (🔗)。

強制リセット

フォルダ102を作成します。
画像番号を0001から始めます

キャンセル OK

- [OK] を選ぶと、新しいフォルダが作成され、画像番号が0001から始まります。

⚠ 注意

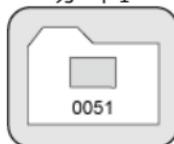
- フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

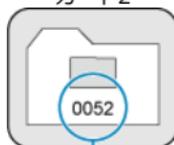
カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001~9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合

カード1



カード2



(1)

(1) 続きの画像番号

フォルダを作成した場合

カード1



カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

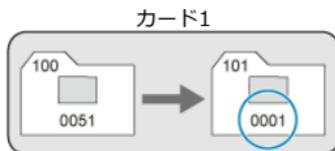
カードを交換した場合



(1)

(1) 画像番号リセット

フォルダを作成した場合



任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

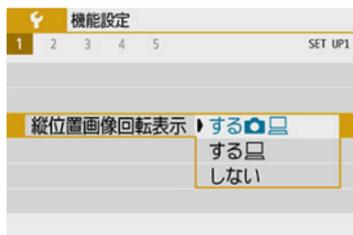
この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。
前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

縦位置画像回転表示



縦位置で撮影した画像を再生または表示するときの自動回転の設定を変更することができます。

1. [📷: 縦位置画像回転表示] を選ぶ



2. 項目を選ぶ

- **する📷**
カメラでの再生とパソコンでの表示で自動回転表示を行います。
- **する**
パソコンでの表示で自動回転表示を行います。
- **しない**

⚠ 注意

- [しない] で撮影した画像は、[する] に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。

 参考

- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われなかったりすることがあります。
- パソコンの画面で自動回転表示しないときは、EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

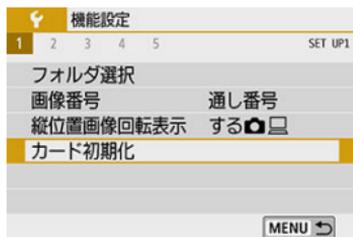
カード初期化

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください。

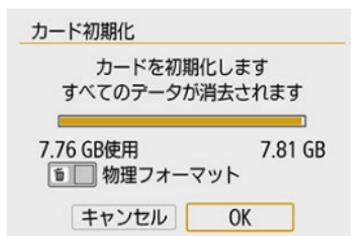
❗ 注意

- カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

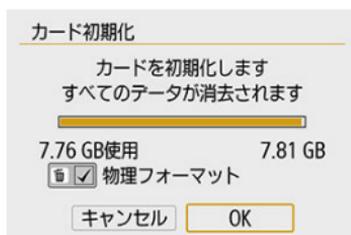
1. [🔧: カード初期化] を選ぶ



2. 初期化する



- [OK] を選びます。



- 物理フォーマットを行うときは、〈〉ボタンを押して、[物理フォーマット] の横に [✓] が付いた状態で [OK] を選びます。

参考

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器はMicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

🔦 カードの初期化が必要な場合

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき
- 画像やデータでカードがいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき

物理フォーマット

- 物理フォーマットは、カードへの書き込み/読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に「キャンセル」を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

カード初期化時のファイルフォーマット

- SD/SDHCカードはFAT32形式、SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされます。
- exFAT形式でフォーマットされたカードを使用して動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、(ファイルが分割されず) 1つの動画ファイルに記録されます (4GBを超える動画ファイルが作成されます)。

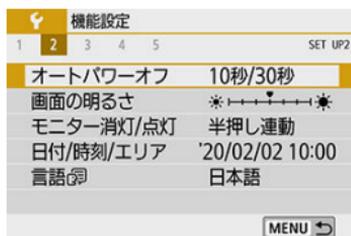
⚠ 注意

- このカメラで初期化したSDXCカードは、他のカメラでは使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSやカードリーダーによっては、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除では完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

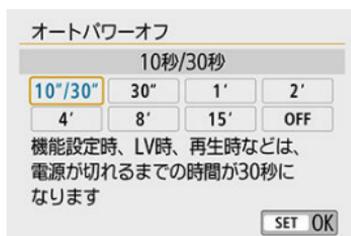
オートパワーオフ

カメラの電源が切れるまでの時間を変えることができます。

1. [F: オートパワーオフ] を選ぶ



2. 項目を選ぶ

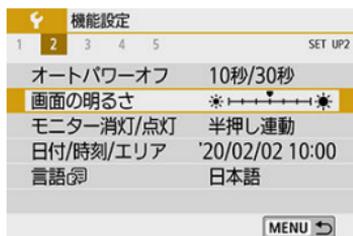


参考

- モニターの表示は、[OFF] に設定しても約30分で消えます。モニターを点灯するときは、〈DISP〉ボタンを押してください。

画面の明るさ

1. [☛ : 画面の明るさ] を選ぶ



2. 調整する



- グレーチャートを参考にして〈◀〉 〈▶〉で調整し、〈SET〉を押します。

参考

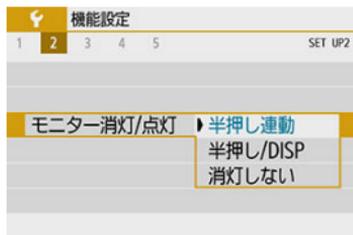
- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム (☑) で確認することをおすすめします。

モニター消灯／点灯

ファインダー撮影時に、モニターの消灯と点灯を、シャッターボタンの半押しと連動させることができます。

1. [🔍：モニター消灯/点灯] を選ぶ

2. 項目を選ぶ



- **半押し連動**
シャッターボタンを半押しすると、モニターが消灯します。指を離すと点灯します。
- **半押し/DISP**
シャッターボタンを半押しすると表示が消え、モニターが消灯します。〈DISP〉ボタンを押すと表示されます。
- **消灯しない**
シャッターボタンを半押ししても、モニターは消灯しません。〈INFO〉ボタンを押すと消灯します。

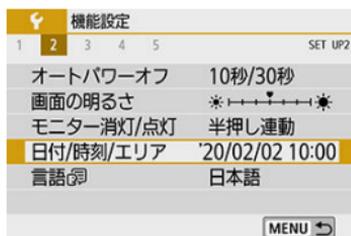
日付/時刻/エリア

初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。

エリアから設定しておく、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付/時刻に変更されます。

撮影画像には撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

1. [🔧: 日付/時刻/エリア] を選ぶ



2. エリアを設定する

日付/時刻/エリア

エリア設定 ±00:00

2020.02.02 10:00:00

年月/日

🌐 ロンドン

▼ ▲ OK キャンセル

- <◀> <▶> で [エリア設定] を選びます。
- <SET> を押します。

エリア/時差設定

2020/02/02 10:00:00

エリア

ロンドン

時差 + 00:00

▼ ▲ OK キャンセル

- <SET> を押します。

エリア設定

2020/02/02 10:00:00

サンパウロ	-03:00
フェルナンド	-02:00
アゾレス諸島	-01:00
ロンドン	±00:00
パリ	+01:00

SET OK

- <▲> <▼> でエリアを選び、<SET> を押します。
- 該当するエリアがないときは、<MENU> ボタンを押して [時差] (協定世界時との時差) で設定します。

エリア/時差設定

2020/02/02 10:00:00

エリア

時差 +09:15

▼ ▲ OK キャンセル

- <◀> <▶> で [時差] の項目 (+-/時/分) を選び、<Ⓢ> を押し
ます。
- <▲> <▼> で設定し、<Ⓢ> を押します。
- エリア/時差の設定が終わったら、<◀> <▶> で [OK] を選び、
<Ⓢ> を押します。

3. 日付/時刻を設定する

日付/時刻/エリア

(2020/02/02)

2020.02.02 10:00:00

年月日

源 ロンドン

▼ ▲ OK キャンセル

- <◀> <▶> で項目を選び、<Ⓢ> を押しします。
- <▲> <▼> で設定し、<Ⓢ> を押しします。

4. サマータイムを設定する

日付/時刻/エリア

サマータイム:切

2020 . 02 . 02 10 : 00 : 00

年/月/日

 ロンドン

  OK キャンセル

- 必要に応じて設定します。
- <◀> <▶> で  を選び、<SET> を押します。
- <▲> <▼> で  を選び、<SET> を押します。
- サマータイムを  にすると、手順3で設定した時刻が1時間進みます。 にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。

5. 設定を終了する

日付/時刻/エリア

(2020/02/02)

2020 . 02 . 02 10 : 00 : 00

年/月/日

 ロンドン

  OK キャンセル

- <◀> <▶> で [OK] を選びます。

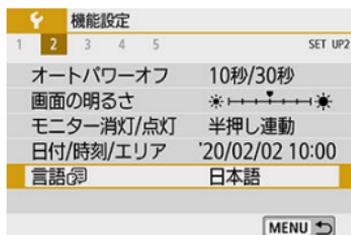
⚠ 注意

- カメラからバッテリーを取り出して保管したときや、カメラのバッテリー残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、[日付/時刻/エリア] の設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- [エリア/時差設定] の内容を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。

 参考

- [📍: 日付/時刻/エリア] の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

1. [🔊: 言語🗨️] を選ぶ



2. 言語を設定する



ビデオ方式

テレビの映像方式を設定します。この設定に応じて、動画撮影時に選択できるフレームレートが変わります。

1. [🔍: ビデオ方式] を選ぶ



2. 項目を選ぶ

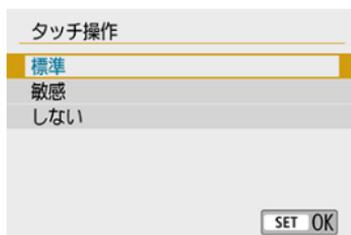


- **NTSC**
テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。
- **PAL**
テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

1. [🔍: タッチ操作] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- [敏感] に設定すると、[標準] に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。
- タッチ操作を禁止するときは、[しない] を選びます。

⚠ 注意

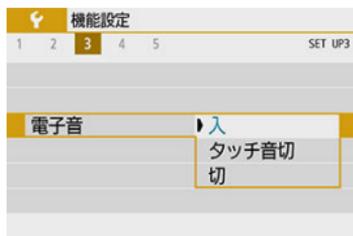
タッチパネル操作時の注意事項

- 爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなる場合があります。
- [敏感] 設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

1. [🔊: 電子音] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- **入**
ピントが合ったときや、タッチ操作時に電子音が鳴ります。
- **タッチ音切**
タッチ操作時の電子音を消します。
- **切**
ピントが合ったとき、セルフタイマー撮影時、タッチ操作時の電子音を消します。

バッテリー情報

使用しているバッテリーの状態を画面で確認することができます。

1. [🔋: バッテリー情報] を選ぶ



- (1) バッテリー位置
- (2) 使用しているバッテリー、または家庭用電源の型式が表示されます。
- (3) バッテリー残量 (🔋) が表示されます。
- (4) バッテリーの劣化状態が3段階で表示されます。

🔋 🔋 🔋 : 劣化していません

🔋 🔋 📦 : 少し劣化しています

🔋 📦 📦 : バッテリーの買い換えをおすすめします

🚫 注意

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E17のご使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

 参考

- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

センサークリーニング

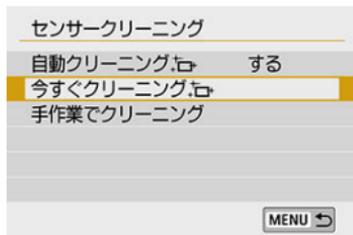
- [今すぐクリーニング](#)
- [自動クリーニング](#)
- [手作業でクリーニング](#) **応用**

今すぐクリーニング

1. [🔍: センサークリーニング] を選ぶ

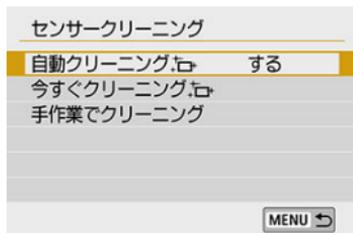


2. [今すぐクリーニング:🔍] を選ぶ



- 確認画面で [OK] を選びます。

1. [自動クリーニング] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



- <◀> <▶> で項目を選び、<SET> を押します。

参考

- 机の上などにカメラを置き、底面が机に付いた状態で行うと、効果的にゴミを除去できます。
- 繰り返してクリーニングしても効果は大きく変わりません。なお、清掃終了直後は、[今すぐクリーニング] が選ばないことがあります。
- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像や撮影画面に「輝点」が生じることがあります。[今すぐクリーニング] を行うと、輝点の発生が改善することがあります (📧)。

自動クリーニングで取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のプロアーなどを使用して、手作業で撮像素子を清掃することができます。

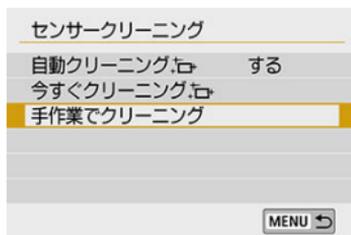
必ずフル充電したバッテリーを使用してください。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ修理受付窓口にお申し付けください。

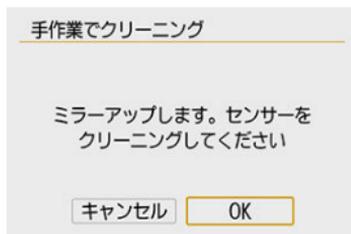
1. [🔍: センサークリーニング] を選ぶ



2. [手作業でクリーニング] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ



4. レンズを取り外して撮像素子を清掃する

5. 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。

参考

- 家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。

注意

- 清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、ミラーが下がるため、撮像素子やシャッター幕、ミラーが損傷する恐れがあります。
 - 電源スイッチを〈OFF〉にする
 - バッテリーを取り出す／入れる
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- プロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- プロアーはレンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中にバッテリーの残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴りません。作業を中止し、清掃を終了してください。
- プロアーで除去できない汚れがあったときは、修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

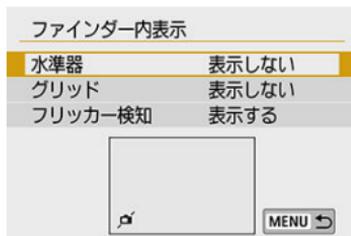
ファインダー内表示

- 水準器
- グリッド
- フリッカー検知 **応用**

1. [F:ファインダー内表示] を選ぶ



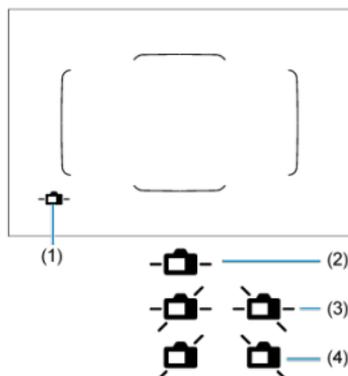
2. 項目を選ぶ



- <▲> <▼> で選び、<SET> を押します。

水準器

シャッターボタンを半押しすると水準器が表示されます。縦位置撮影時も機能します。



- (1) 水準器
- (2) 水平
- (3) 傾き 1°
- (4) 傾き 2° 以上

⚠ 注意

- 傾きの確認は、ともに水平方向のみです（前後方向の傾きは表示されません）。
- $\pm 1^{\circ}$ 程度の誤差が生じることがあります。

📖 参考

- ファインダー内表示が初期状態から変更されているときは、[📷 : ファインダー内表示] の右端に「*」が表示されます。

グリッド

カメラの傾き確認や構図確認に有効なグリッドを、ファインダー内に表示することができます。

フリッカー検知

応用

この機能を設定しておくと、カメラが、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）を検知したときに、ファインダー内に「**Flicker!**」が表示されます。

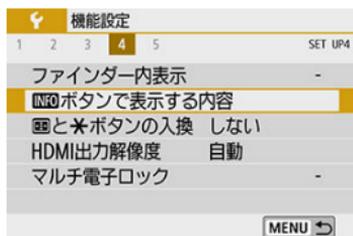
参考

- [📷: フリッカーレス撮影] を [する] に設定すると、フリッカーによる露出への影響が低減された状態で撮影することができます (🔗)。

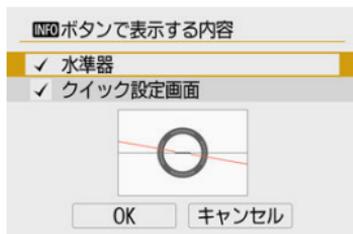
INFOボタンで表示する内容

撮影準備状態で〈INFO〉ボタンを押したとき、モニターに表示する項目を選ぶことができます。

1. [F: INFOボタンで表示する内容] を選ぶ



2. 項目を選ぶ

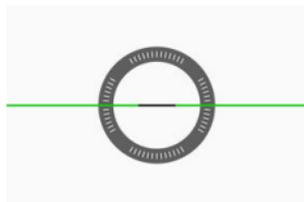
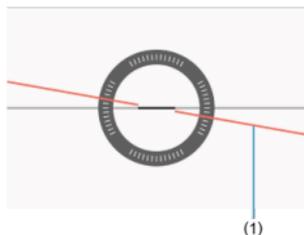


- 表示する項目を選び、[✓] を付けます。
- [OK] を選びます。

水準器

傾きがほぼ補正されると、赤い線が緑色に変わります。

- 傾きの確認は、ともに水平方向のみです（前後方向の傾きは表示されません）。



(1) 水平方向

⚠ 注意

- $\pm 1^\circ$ 程度の誤差が生じることがあります。
- カメラが大きく傾いているときは、誤差が大きくなります。

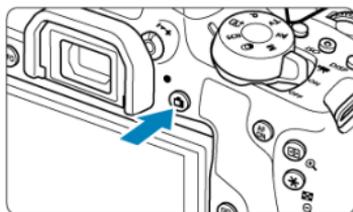
📖 参考

- ライブビュー撮影時に、AF方式が【**Ⓜ+追尾優先AF**】に設定されているときは、水準器は表示されません。
- 【**クイック設定画面**】については、[クイック設定画面（ファインダー撮影）](#)を参照してください。

撮影時のグリッド

ライブビュー撮影時または動画撮影時に、グリッド（格子線）を表示して、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。

1. ライブビュー映像を表示する

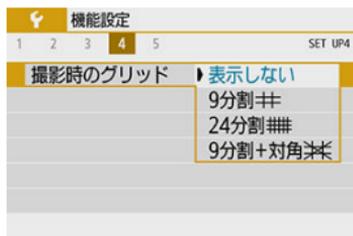


-  ボタンを押します。

2. [📷: 撮影時のグリッド] を選ぶ

機能設定					
1	2	3	4	5	SET UP4
撮影時のグリッド	表示しない				
 と*ボタンの入換	しない				
HDMI出力解像度	自動				
マルチ電子ロック	-				
MENU 					

3. 項目を選ぶ



- **表示しない**
グリッドを表示しません。
- **9分割 井**
画面を9分割にして、水平および垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。
- **24分割 井井井**
画面を24分割にして、水平および垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。
- **9分割+対角線 井井**
格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図で撮影することができます。

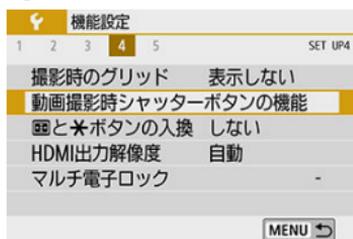
参考

- ライブビュー撮影時に [📷: ダストデリットデータ取得]、および [🔍: センサークリーニング] の [今すぐクリーニング]、[手作業でクリーニング] を選ぶと、ライブビュー撮影が終了します。再開するときは、再度 (📷) ボタンを押してください。

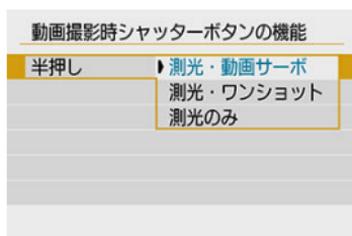
動画撮影時のシャッターボタンの機能

動画撮影時にシャッターボタンを半押し/全押ししたときの動作を設定することができます。

1. [🔧: 動画撮影時シャッターボタンの機能] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



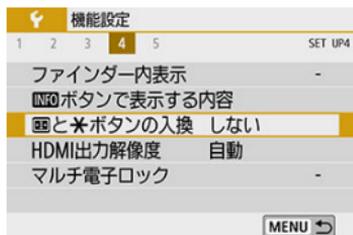
- **半押し**
シャッターボタンを半押ししたときの動作を設定することができます。
- **全押し**
シャッターボタンを全押ししたときの動作を設定することができます。

なお、[全押し]を[動画撮影の開始/終了]に設定すると、動画撮影ボタンのほか、シャッターボタンの全押し、またはワイヤレスリモートコントローラー BR-E1、リモートスイッチ RS-60E3で、動画撮影を開始/終了することができます。

AFフレーム選択ボタンとAEロックボタンの入換

手の大きさやグリップの握り方によって、ボタンの押し方が異なるため、ボタンとボタンの機能を入れ換えることができます。

1. [:]とボタンの入換]を選ぶ



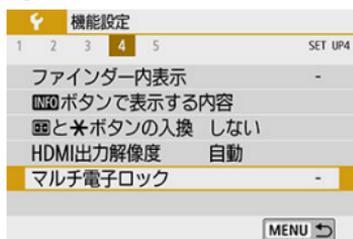
2. 項目を選ぶ



マルチ電子ロック

マルチ電子ロック機能をオンにしたときに操作を禁止する操作部材を設定します。不用意な操作による設定変更を防止することができます。

1. [SET: マルチ電子ロック] を選ぶ



2. 操作を禁止する操作部材を選ぶ



- 〈SET〉を押すと、[✓] が表示されます。
- [OK] を選びます。
- 撮影準備状態に戻り、〈LOCK〉ボタンを押すたびにロックのオン/オフが切り替わります。

参考

- 初期状態から設定が変更されているときは、**[🔒: マルチ電子ロック]** の右端に「*」が表示されます。
- **[🔒: 設定解除]** の **[カメラ設定初期化]** を行うと、設定した内容は初期化されません。
- 下記の状態での撮影準備状態でもロック切り換えが可能です。
 - 水準器表示時
 - モニター消灯時
 - モニターを閉じているとき

- ☑ [カスタム機能の設定方法](#)
- ☑ [カスタム機能一覧](#)
- ☑ [カスタム機能で変更できる内容](#)

カスタム機能の設定方法

1. [F: カスタム機能(C.Fn)] を選ぶ



2. カスタム機能番号を選ぶ



- <◀> <▶> で設定する機能番号 (1) を選び、<SET> を押します。
- 画面の下に並んでいる番号 (2) で、設定状態を確認することができます。

カスタム機能一覧

のカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時、または動画撮影時は機能しません（設定が無効になります）。

● C.Fn I : 露出

		 LV撮影	 動画撮影
(1)	露出設定ステップ	○	○
(2)	ISO感度拡張	○	○
(3)	ISO感度設定ステップ	○	〈M〉モード時
(4)	セーフティシフト	○	
(5)	露出補正の自動解除	○	○

● C.Fn II : AF・ドライブ

		 LV撮影	 動画撮影
(1)	自動選択:EOS iTR AF		
(2)	測距エリア/AF方式の切り換え	○	○
(3)	測距時のAFフレーム表示		
(4)	ファインダー情報の照明		
(5)	ミラーアップ撮影		

● C.Fn III : 操作・その他

		 LV撮影	 動画撮影
(1)	ファインダー内警告の項目		
(2)	電源〈ON〉時のモニター点灯		
(3)	操作ボタン カスタマイズ	設定により異なる	
(4)	電源オフ時のレンズ収納	○	○

カスタム機能で変更できる内容

カスタム機能は、機能ごとに3つのグループ（「C.Fn I：露出」、「C.Fn II：AF・ドライブ」、「C.Fn III：操作・その他」）に分類されています。

C.Fn I：露出

C.Fn 1：露出設定ステップ

シャッタースピードと絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。

- 0:1/3段
- 1:1/2段

参考

- [1:1/2段] 設定時の露出レベル表示は、図のように表示されます。



C.Fn 2：ISO感度拡張

ISO感度を設定するときに、「H」（ISO25600 相当）が選択できるようになります。なお、[カメラアイコン：高輝度側・階調優先]を[する][強]に設定したときは、「H」は選択できません。

- 0:しない
- 1:する

C.Fn 3：ISO感度設定ステップ

ISO感度の手動設定ステップを1段ステップに変更することができます。

- 0:1/3段
- 1:1段

参考

- [1:1段] に設定しても、ISOオート設定時は1/3段ステップで自動設定されます。

C.Fn 4 : セイフティシフト

〈Tv〉 〈Av〉モードで任意に設定したシャッタースピードや絞り数値で標準露出が得られないときは、カメラが自動的にシャッタースピードや絞り数値を変更して、標準露出で撮影することができます。

- 0:しない
- 1:する

C.Fn 5 : 露出補正の自動解除

- 0:する
電源スイッチを〈OFF〉にすると、露出補正の設定が解除されます。
- 1:しない
電源スイッチを〈OFF〉にしても、露出補正の設定は解除されません。

参考

- オートパワーオフのときは、[0:する] に設定していても露出補正の設定は解除されません。

C.Fn II : AF・ドライブ

C.Fn 6 : 自動選択:EOS iTR AF

ファインダー撮影時に、人物を認識してAFを行う機能です。測距エリア選択モードが、[ゾーンAF (ゾーン任意選択)]、[ラージゾーンAF (ゾーン任意選択)]、[自動選択AF] のときに機能します。

- **0:する (顔優先)**

[1:する] よりも顔を優先して、カメラが測距点を自動選択します。

[ワンショットAF] 時は、測距エリアの中にいる、静止している人物の顔にピントが合いやすくなります。

[AIサーボAF] 時は、測距エリアの中にいる、人物の顔にピントが合いやすくなります。一度ピントが合うと、初めにピント合わせをした顔にピントが合い続けるよう、測距点が自動選択されます。

- **1:する**

AF情報と人物の認識情報を基に、カメラが測距点を自動選択します。

[ワンショットAF] 時は、測距エリアの中にいる、静止している人物にピントが合いやすくなります。

[AIサーボAF] 時は、測距エリアの中にいる、人物にピントが合いやすくなります。人物が検知できないときは、最も近距離にある被写体にピントが合います。一度ピントが合うと、初めにピント合わせをした部分の色にピントが合い続けるよう、測距点が自動選択されます。

- **2:しない**

AF情報だけで測距点の自動選択が行われます。

⚠ 注意

- [0:する (顔優先)] または [1:する] 設定時は、[2:しない] に設定したときよりも、ピント合わせにやや時間がかかります。
- [0:する (顔優先)] または [1:する] に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。
- EOS用の外部ストロボから、AF補助光が自動的に投光されるような暗い場所では、AF情報だけで測距点の自動選択が行われます (人物の認識情報を使用したAFは行われません)。

C.Fn 7 : 測距エリア/AF方式の切り換え

● 0: → 測距エリア選択ボタン

ファインダー撮影時に、 または  ボタンを押したあと、 ボタンを押すと測距エリア選択モードが切り換わります。ライブビュー撮影時は  ボタンを押すと、AF方式が切り換わります。

● 1: → メイン電子ダイヤル

 または  ボタンを押したあと、 を回すと、測距エリア選択モードが切り換わります。

参考

- [1:  → メイン電子ダイヤル] 設定時にAFフレームを横方向へ移動するときは、  を操作してください。

C.Fn 8 : 測距時のAFフレーム表示

AFフレーム選択時、AF開始前（撮影準備状態）、AF開始時、AF中、合焦時に、AFフレームを表示するかどうかを設定することができます。

○：表示／×：非表示

測距時のAFフレーム表示	AFフレーム 選択時	AF測距前 (撮影準備状態)	AF測距中	合焦時
0: 選択AFフレーム（常時表示）	○	○	○	○
1: 全AFフレーム（常時表示）	○	○	○	○
2: 選択フレーム（測距前/合焦時）	○	○	×	○
3: 選択AFフレーム（合焦時表示）	○	×	×	○
4: 表示しない	○	×	×	×

C.Fn 9 : ファインダー情報の照明

- **0:自動**
暗い場所や、暗い被写体にピントが合ったときに、自動的に赤く照明されます。
- **1:する**
周囲の明るさに関わらず、赤く照明されます。
- **2:しない**
赤い照明は行われません。

参考

-  または  ボタンを押したときは、この設定に関わらず赤く照明されます。
- ファインダー内に表示されるアスペクト線、水準器、グリッドなども赤く照明されます。

C.Fn 10 : ミラーアップ撮影

超望遠レンズを使用した撮影のときや、近接（マクロ）撮影のときに、カメラ内部の機械的な振動（ミラーショック）によるカメラブレを防止することができます。ミラーアップ撮影については、[ミラーアップ撮影](#)を参照してください。

- **0:しない**
- **1:する**

C.Fn III : 操作・その他

C.Fn 11 : ファインダー内警告の項目

以下の機能が設定されているときに、ファインダー視野内に〈〉を表示することができます ()。

警告表示を行う対象を選び、〈〉を押して [✓] を付けます。[OK] を選ぶと設定されま

● モノクロ設定時

[ : ピクチャースタイル] が [モノクロ] に設定されているときに ()、警告表示が行われます。

● ホワイトバランス補正時

ホワイトバランス補正が設定されているときに ()、警告表示が行われます。

● 設定時

[ : 高感度撮影時のノイズ低減] が [マルチショットノイズ低減機能] に設定されているときに ()、警告表示が行われます。

参考

- [✓] を付けた機能を設定したときは、応用撮影ゾーンの設定画面 () に表示される各設定項目にも [警告アイコン] が表示されます。

C.Fn 12 : 電源〈ON〉時のモニター点灯

● 0:点灯

電源を入れるとクイック設定画面 () が表示されます。

● 1:電源〈OFF〉時の状態を保持

電源を入れたときに、前回電源を切ったときのモニターの表示状態で起動します。そのため、モニターが消えている状態で電源を切ると、次に電源を入れたときには何も表示されませんので、バッテリーの消費を少なくしたいときに有効です。なお、メニュー操作や再生操作は、通常どおり行うことができます。

C.Fn 13 : 操作ボタン カスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。

1. 操作部材を選ぶ



2. 割り当てる機能を選ぶ



- 〈**SET**〉を押すと設定されます。

参考

- 手順1の画面で〈**初期設定**〉ボタンを押すと、設定した内容を解除することができます。[操作ボタン カスタマイズ]の設定は、[カスタム機能(C.Fn)一括解除]を選んで解除されません。

各操作部材に割り当てできる機能の一覧

● AF

機能			AF-ON		DISP	SET
 AF	測光・AF開始	○	○	○		
AF-OFF	AF停止		○	○		

● 露出

機能			AF-ON		DISP	SET
	測光開始	○				
AEL FEL	AEロック/FEロック		○	○		
	AEロック(押している間)	○				
	AEロック		○	○		
FEL	FEロック		○	○		
 	露出補正 (押しながら )					○
	調光補正					○

● 動画

機能			AF-ON		DISP	SET
 SERVO AF	動画サーボAF一時停止				○	

● 画像

機能			AF-ON		DISP	SET
	記録画質選択					○

● 操作

機能			AF-ON		DISP	SET
	モニターの入/切				○	○
	Wi-Fi/Bluetooth接続				○	
	モニターを一時的に明るくする				○	
MENU	メニュー表示					○
	ストロボ機能設定					○
	絞り込み					○
OFF	無効		○	○		○

C.Fn 14 : 電源オフ時のレンズ収納

カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、ギアタイプのSTMレンズ（例：EF40mm F2.8 STM）の繰り出している部分の自動収納を設定することができます。

- 0:する
- 1:しない

注意

- オートパワーオフのときは、設定に関わらずレンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

参考

- [0:する] 設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF/MF）に関わらず機能します。

カメラの撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。この操作は、応用撮影ゾーンで行うことができます。

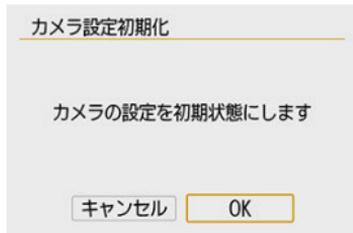
1. [F: 設定解除] を選ぶ



2. [カメラ設定初期化] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ



参考

- [カメラ設定初期化] を行うと、[🔑：マルチ電子ロック] の設定や、〈LOCK〉ボタンでのロック状態も初期化されます。

? こんなときは

- **すべての設定を初期状態に戻したい**

上記操作を行ったあと、[🔑：設定解除] で [カスタム機能(C.Fn)一括解除] を選ぶと、設定されているカスタム機能をすべて解除できます (🔑)。ただし、[操作ボタン カスタマイズ] の設定は解除されません。

[著作権情報の確認](#)

[著作権情報の消去](#)

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。

1. [著作権情報] を選ぶ



2. 項目を選ぶ



3. 文字を入力する



- 〈〉を回して文字を選び、〈〉を押すと入力されます。
- [] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [] を選ぶか、〈〉ボタンを押すと、1文字消去されます。

4. 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

著作権情報の確認

手順2で [著作権情報の表示] を選ぶと、入力した [作成者] [著作権者] の情報を確認することができます。



著作権情報の消去

手順2で **著作権情報の消去** を選ぶと、**作成者** **著作権者** の情報が消去されます。

注意

- 入力した作成者名または著作権者名が長いときは、**著作権情報の表示** を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

参考

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityで、著作権情報を設定・確認することもできます。



● 使用説明書・ソフトウェア URL

[**📄**: 使用説明書・ソフトウェア URL] を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、使用説明書をダウンロードすることができます。また、表示されるURLのWebサイトにパソコンでアクセスして、ソフトウェアをダウンロードすることができます。

● 認証マーク表示 **応用**

[**📄**: 認証マーク表示] を選ぶと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、カメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

● ファームウェア **応用**

[**📄**: ファームウェア] を選ぶと、このカメラまたは使用中のレンズなどの対応アクセサリのファームウェアをアップデートすることができます。

設定変更の頻度の高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

⚠ 注意

- [🔍 : メニュー表示] を [やさしい] に設定しているときは [★] タブは表示されません。[🔍 : メニュー表示] を [標準] に変更してください (🔗)。

- [メニュー目次: マイメニュータブ](#)
- [マイメニューの登録](#)

メニュー目次：マイメニュータブ



- (1) [マイメニュータブの追加](#)
- (2) [マイメニュータブの全削除](#)
- (3) [全項目削除](#)
- (4) [メニュー表示](#)

マイメニューの登録

- [マイメニュータブの追加](#)
- [マイメニュータブに項目を登録](#)
- [マイメニュータブの設定](#)
- [マイメニュータブの全削除/全項目削除](#)
- [メニュー表示](#)

マイメニュータブの追加

1. [マイメニュータブの追加] を選ぶ

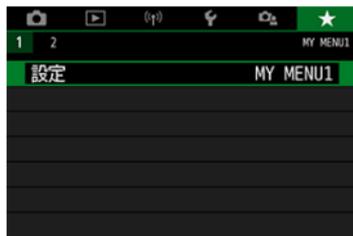


2. [OK] を選ぶ



- 手順1、2を繰り返すと、[MY MENU5] まで作成することができます。

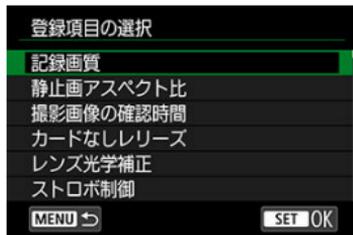
1. [MY MENU* : 設定] を選ぶ



2. [登録項目の選択] を選ぶ



3. 項目を登録する



- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定

タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。



登録項目の並べ替え

登録した項目の並び順を変えることができます。[登録項目の並べ替え]を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。[◆]が表示された状態で〈○〉を回して並び順を変え、〈SET〉を押します。

選択して削除／タブ内の全項目削除

登録した項目を削除することができます。[選択して削除]を選ぶと1項目ずつ削除、[タブ内の全項目削除]を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

タブの削除

現在設定しているタブを削除することができます。[タブの削除]を選ぶと、[MY MENU*]のタブが削除されます。

ⓘ 注意

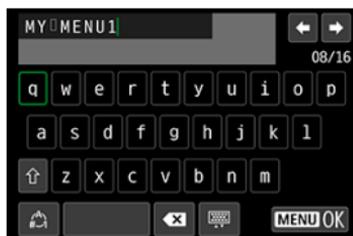
- [タブの削除]を行うと、[タブ名の変更]で設定した名前も削除されます。

タブ名の変更

タブの名称を [MY MENU*] から任意の名称に変更することができます。

1. [タブ名の変更] を選ぶ

2. 文字を入力する



- [X] を選ぶか、〈⏪〉ボタンを押して、不要な文字を消去します。
- 〇を回して文字を選び、〈SET〉を押します。
- [🗨] を選ぶと、入力モードが切り換わります。

3. 入力を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

マイメニュータブの全削除／全項目削除

作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。



マイメニュータブの全削除

作成したタブをすべて削除することができます。[マイメニュータブの全削除] を選ぶと、[MY MENU1] ~ [MY MENU5] のタブがすべて削除され、[★] タブが初期状態に戻ります。

注意

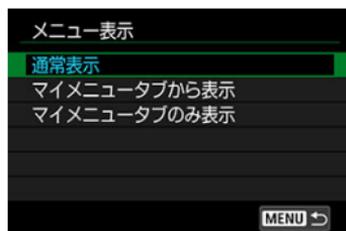
- [マイメニュータブの全削除] を行うと、[タブ名の変更] で設定した名前も削除されます。

全項目削除

[MY MENU1] ~ [MY MENU5] タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。[全項目削除] を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

メニュー表示

[メニュー表示] を選ぶと、〈MENU〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。



- **通常表示**

前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。

- **マイメニュータブから表示**

[★] タブの画面から表示されます。

- **マイメニュータブのみ表示**

[★] タブの画面だけが表示されます ([カメラ] [再生] [(P)] [P] [設定] タブは表示されません)。

この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報などの説明を行っています。

- [パソコンへの画像の取り込み](#)
- [家庭用電源アクセサリ](#)
- [故障かな?と思ったら](#)
- [エラー表示](#)
- [システム図](#)
- [動画撮影時のISO感度](#)
- [情報表示](#)
- [AFセンサーについて](#)
- [使用レンズとAF測距（ファインダー撮影）](#)
- [主な仕様](#)

パソコンへの画像の取り込み

[パソコンとインターフェースケーブル（別売）で接続](#)

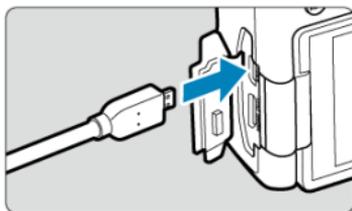
[カードリーダー](#)

[パソコンとWi-Fi接続](#)

EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、3通りあります。

パソコンとインターフェースケーブル（別売）で接続

1. ソフトウェアをインストールする (☑)
2. カメラとパソコンを、インターフェースケーブル（別売）で接続する



- インターフェースケーブルは、IFC-600PCU（別売）が使用できます。
- カメラのデジタル端子（USB Micro-B）にプラグを差し込みます。
- パソコンのUSB端子（USB Type-A）にプラグを差し込みます。

3. EOS Utilityを使って画像を取り込む

- EOS Utility使用説明書を参照してください。

ⓘ 注意

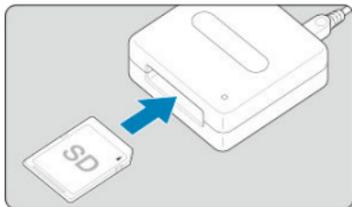
- Wi-Fi接続中に、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しても、パソコンと通信できません。

カードリーダー

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。

1. ソフトウェアをインストールする (📄)

2. カードリーダーにカードを差し込む



3. Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

📄 参考

- EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

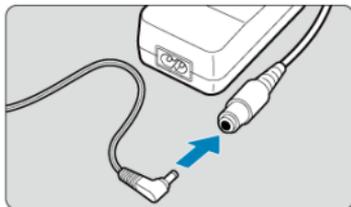
パソコンとWi-Fi接続

カメラとパソコンをWi-Fi接続して、画像をパソコンに取り込むことができます (📄)。

家庭用電源アクセサリ

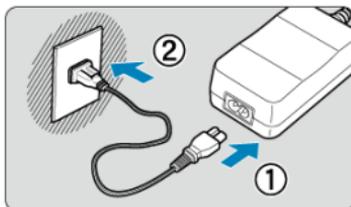
DCカプラー DR-E18（別売）とACアダプター AC-E6N（別売）を使うと、家庭用電源を使用してカメラを使うことができます。

1. DCカプラーのプラグを接続する



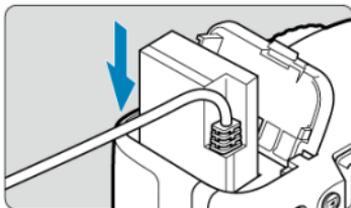
- DCカプラーのプラグを、ACアダプターのソケットに接続します。

2. 電源コードを接続する



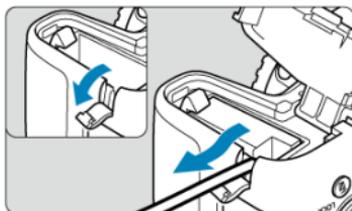
- 電源コードを図のように接続します。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

3. DCカプラーを入れる



- バッテリー収納部ふたを開け、DCカプラーをロック位置までしっかりと入れます。

4. DCコードを通す



- DCコード通し部のカバーを開き、図のようにコードを通します。
- バッテリー収納部ふたを閉じます。

⚠ 注意

- カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたまま、電源コードの抜き差しを行わないでください。

故障かな？と思ったら

- [電源関連](#)
- [撮影関連](#)
- [無線通信機能関連](#)
- [操作関連](#)
- [表示関連](#)
- [再生関連](#)
- [センサークリーニング関連](#)
- [パソコン接続関連](#)

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

バッテリーが充電できない

- バッテリー残量 (🔋) が94%以上のときは、充電は行われません。
- 純正のバッテリーパックLP-E17を使用してください。

充電器のランプが高速点滅する

- (1) 充電器またはバッテリーに異常が発生した場合や、(2) バッテリーと通信できない場合 (純正以外のバッテリー使用時) は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1)の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し/取り付けを行ってから、2~3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けたバッテリーの内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません (消灯)。また、充電中何らかの原因により、バッテリーが高温になった場合は、自動的に充電を停止します (点滅継続)。なお、バッテリーの温度が下がると自動的に充電が始まります。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- バッテリー収納部ふたが閉まっているか確認してください (🔋)。
- バッテリーがカメラに正常に入っているか確認してください (🔋)。
- バッテリーを充電してください (🔋)。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください (🔋)。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯/点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯/点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

【バッテリー通信エラー ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか?】と表示される

- 純正のバッテリーパックLP-E17を使用してください。
- バッテリーの出し入れを行ってください (🔋)。
- バッテリーの接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

バッテリーの消耗が早い

- フル充電したバッテリーを使用してください (🔋)。
- バッテリーの性能が劣化している可能性があります。[🔋: バッテリー情報] でバッテリーの劣化状態を確認してください (🔋)。劣化している場合は、新しいバッテリーをお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
 - シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
 - AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - レンズの手ブレ補正機能を使う
 - モニターを頻繁に使用する
 - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う
 - 無線通信機能を使用する

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、[🔋: オートパワーオフ] を [しない] にしてください (🔋)。
- [🔋: オートパワーオフ] を [しない] に設定していても、カメラを約30分放置すると、節電のためモニターの表示が消えます (カメラの電源は切れません)。

レンズが装着できない

- RFLレンズ、EF-Mレンズは使用できません (🔗)。

ファインダーが暗い

- 充電したバッテリーをカメラに入れてください (🔗)。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください (🔗)。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください (🔗)。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください (🔗、🔗)。
- ワンショットAFでピントを合わせたときに、ファインダー内の合焦マーク(●)が点滅するときや、ライブビュー撮影/動画撮影時にAFフレームがオレンジ色のときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください (🔗、🔗)。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、[取り出し方](#)を参照してください。

カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化したカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

シャッターボタンを2回押さないと撮影できない

- [🔗 : カスタム機能(C.Fn)] の [10: ミラーアップ撮影] を [0:しない] に設定します (🔗)。

画像がボケている／ブレている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にしてください (🔍)。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタン (📷) を静かに押してください (🔇)。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズのときは、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。
- 暗い場所では、シャッタースピードが遅くなることがあります。シャッタースピードを速くする (📷)、ISO感度を上げる (🔍)、ストロボを使用する (📷、📷)、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- [ブレの少ない画像の撮影](#)を参照してください。

AFフレーム（測距点）が少ない／エリアAFフレームの形が異なる

- 使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。

AFフレームが点滅している

- 〈〉または〈〉ボタンを押したときのAFフレームの点灯／点滅については、[AFフレームの点灯／点滅](#)を参照してください。

AFフレームが赤く照明されない

- AFフレームは、暗い場所で撮影するときや、暗い被写体にピントが合ったときに、赤く照明されます。
- 〈P〉 〈Tv〉 〈Av〉 〈M〉モードのときは、ピントが合ったときに、AFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます (🔍)。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください。AIサーボAF/サーボAF、およびAIフォーカスAFでサーボ状態のときは、フォーカスロック撮影はできません (🔍、🔍)。

連続撮影速度が遅い

- 高速連続撮影時の連続撮影速度は、温度、バッテリー残量、フリッカー低減処理、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ライブビュー撮影、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。詳しくは[ドライブモード](#)を参照してください。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、[静止画・ファイルサイズ／撮影可能枚数／連続撮影可能枚数](#)に目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

- 別のカードに変えても（例：高速タイプのカードを使用しても）、表示される連続撮影可能枚数は変わりません。また、[静止画・ファイルサイズ／撮影可能枚数／連続撮影可能枚数](#)の表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています（書き込み速度が高速なカードほど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります）。そのため、表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

-  [オートライティングオプティマイザ](#) を [しない] に設定してください (🔒)。[弱め] [標準] [強め] に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

マニュアル露出 + ISOオート時に露出補正ができない

- [ISOオート設定時の露出補正](#) を参照して露出補正を行ってください。

レンズ光学補正設定時に一部の項目が表示されない

- [デジタルレンズオプティマイザ] が [する] に設定されているときは、[色収差補正] [回折補正] は表示されませんが、ともに [する] の設定で撮影されます。
- 動画撮影時に [デジタルレンズオプティマイザ] [回折補正] [歪曲収差補正] の項目は表示されません。

内蔵ストロボが発光しない

- 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

外部ストロボが発光しない

- カメラに外部ストロボが確実に取り付けられているかどうか確認してください。

外部ストロボがいつもフル発光する

- EL/EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します (🔆)。
- 外部ストロボカスタム機能の [調光方式] が [TTL] (自動調光) に設定されていると、常時フル発光します (🔆)。

外部ストロボの調光補正ができない

- 外部ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除 (ゼロに設定) すると、カメラで設定できるようになります。

リモコン撮影ができない

- 静止画撮影を行うときは、ドライブモードを (📷) または (📷₂) に設定してください (🔆)。動画撮影を行うときは、[📷: リモコン撮影] を [する] に設定してください (🔆)。
- リモコンの撮影タイミング切り換えスイッチの位置を確認してください。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1を使用するときは、[ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1](#)を参照してください。
- リモコンを使用してタイムラプス動画撮影を行うときは、[タイムラプス動画](#)を参照してください。

ライブビュー撮影ができない

- [📷: ライブビュー撮影] を [する] に設定します。

ライブビュー撮影時にシャッター音が2回する

- ライブビュー撮影時にストロボを使用したときは、1回の撮影でシャッター音が2回します。

ライブビュー撮影時に水準器が表示されない

- ライブビュー撮影時に、AF 方式が [📷+追尾優先AF] に設定されているときは、水準器は表示されません。

ライブビュー撮影時に白い🔥と赤い🔥が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い [🔥] が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い [🔥] が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています (🔥)。

静止画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- [📷 : 📷ISO感度に関する設定] で [ISO感度] の設定を確認してください。
- [📷 : 高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

動画撮影時に赤い🔥が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。赤い [🔥] が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています (🔥)。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、[要求カード性能](#)についてを参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが <M> 以外のときは、ISO感度が自動設定されます。<M> モードのときは、ISO感度を任意に設定することができます (🔥)。

動画撮影にすると手動設定したISO感度が変わる

- ファインダー撮影時、ライブビュー撮影時は [📷 : 📷ISO感度に関する設定] の [ISO感度] (🔥)、動画撮影時は [📷 : 📷ISO感度に関する設定] の [ISO感度] (🔥) の設定内容でISO感度が設定されます。

動画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- [📷: 拡張ISO感度に関する設定] で [ISO感度] の設定を確認してください。
- [📷: 高輝度側・階調優先] が [する] に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、ピントがズレることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。〔M〕モードのときは、シャッタースピードを遅くすると、現象が緩和されることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

動画撮影時に静止画が撮影できない

- 動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、ファインダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

スマートフォンとペアリングできない

- Bluetooth Specification Version 4.1以上に対応しているスマートフォンを使用してください。
- スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能をONにしてください。
- スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）インストールしてください (📎)。
- 一度ペアリングしたスマートフォンと再びペアリングするときに、スマートフォン側に前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。そのときは、スマートフォンのBluetooth設定で残っているカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください (📎)。

Wi-Fi機能の設定ができない

- カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、Wi-Fi機能の設定はできません。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください (📎)。

インターフェースケーブルで接続した機器が使えない

- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。Wi-Fi接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。

撮影や再生などの操作ができない

- Wi-Fi接続中は、撮影や再生などの操作ができないことがあります。Wi-Fi接続を終了してから操作を行ってください。

スマートフォンに再接続できない

- 同じカメラとスマートフォンの組み合わせでも、設定を変更したり、異なる設定を選んでいるときは、同じSSIDを選んでも再接続できなくなることがあります。そのときは、スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラとの接続設定を削除してから、接続設定をやり直してください。
- 接続設定をやり直すときに、Camera Connectを起動したままにしていると、接続できないことがあります。そのときは、Camera Connectを一旦終了させてから再起動してください。

〈〉 〈〉で設定を変更できない

- 〈LOCK〉ボタンを押してロックを解除してください (🔗)。
- [: マルチ電子ロック] の設定内容を確認してください (🔗)。

タッチ操作ができない

- [: タッチ操作] が [標準] または [敏感] に設定されているか確認してください (🔗)。
- [: マルチ電子ロック] の設定内容を確認してください (🔗)。

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- [: ] と * ボタンの入換]、[: カスタム機能(C.Fn)] の [測距エリア/AF方式の切り換え]、[操作ボタン カスタマイズ] の設定内容を確認してください (🔗、🔗)。
- 動画撮影時は [動画撮影時シャッターボタンの機能] の設定を確認してください (🔗、🔗)。

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- 撮影モードがかんたん撮影ゾーンのとことや、ライブビュー撮影、動画撮影のときは、一部のタブや項目は表示されません。

【★】マイメニュータブから表示される／【★】タブしか表示されない

- 【★】タブの【メニュー表示】が【マイメニュータブから表示】または【マイメニュータブのみ表示】に設定されています。【通常表示】に設定してください (🔗)。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー (「_」) になる

- [📷: 色空間] を [sRGB] に設定してください。[Adobe RGB] に設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります (🔗)。

ファイル名の先頭文字が「MVI_」になっている

- 動画ファイルです (🔗)。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります (🔗)。

撮影年月日/時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください (🔗)。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください (🔗)。

画像に日付/時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付/時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するとき、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます (🔗)。

【###】が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると【###】と表示されます。

ファインダー内のAFフレームの表示速度が遅い

- 低温下では、AFフレーム表示装置（液晶）の特性上、表示速度が遅くなる場合があります。常温に戻れば表示速度が速くなります。

モニターの表示が不鮮明になる

- モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

画像に赤い枠が表示される

- [▶] : AFフレーム表示] が [する] に設定されています (☑)。

画像再生時にAFフレームが表示されない

- 以下の画像を再生したときは、AFフレームは表示されません。
 - 〈SCN : [目] [窓]〉モードで撮影した画像
 - 〈[太陽] : [HDR] [HDR] [HDR] [HDR]〉モードで撮影した画像
 - マルチショットノイズ低減機能を使って撮影した画像
 - トリミングを行った画像

画像が消去できない

- プロテクトされている画像は消去できません (☑)。

画像（静止画／動画）が再生できない

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

再生できる画像が少ない

- [▶] : 画像検索の条件設定] で再生する画像の絞り込みが行われています (☑)。検索条件を解除してください。

動画を再生すると作動音や操作音がする

- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ/レンズの操作音が一緒に録音されます。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります (☑)。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、**[M]**モードで撮影してください (🔗)。

テレビに映像が表示されない

- **[🔗:ビデオ方式]**の**[NTSC]** **[PAL]**の設定を確認してください (テレビが対応している方式に合わせてください)。
- HDMIケーブルのプラグが根元まで確実に差し込まれているか確認してください (🔗)。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えると、動画ファイルが複数作成されます (🔗)。ただし、SDXCカードをこのカメラで初期化してから撮影したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えても1つのファイルに記録されます。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSにより、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブル (別売) で接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utility (🔗) を使用するか、パソコンとWi-Fi接続 (🔗) して、カメラ内の画像を取り込んでください。

画像をリサイズできない

- JPEGの**S2**とRAW画像は、カメラでリサイズできません (🔗)。

画像をトリミングできない

- RAW画像は、カメラでトリミングできません (🔗)。

画像に輝点が発生する

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点 (白、赤、青など)」が生じることがあります。**[🔗:センサークリーニング]**の**[今すぐクリーニング🔗]**を行うと (🔗)、輝点の発生が改善することがあります。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- [🔧: センサークリーニング] の [今すぐクリーニング] を選んだときは、清掃中にシャッターの作動音がしますが、画像はカードに記録されません (🔒)。

撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈ON〉 〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、<🔧>が表示されないことがあります (🔒)。

パソコン接続関連

パソコンに画像が取り込めない

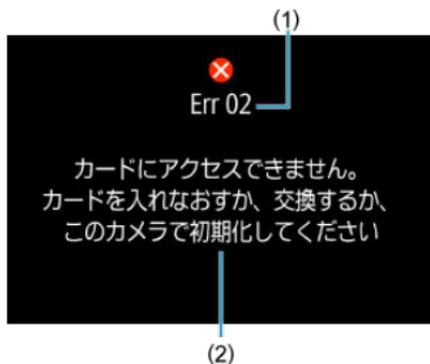
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityをパソコンにインストールしてください (🔒)。
- Wi-Fi接続中は、インターフェースケーブル (別売) を使用してパソコンと通信を行うことはできません。

カメラとパソコンを接続しても通信できない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、[📷: タイムラプス動画] を [しない] に設定してください (🔒)。

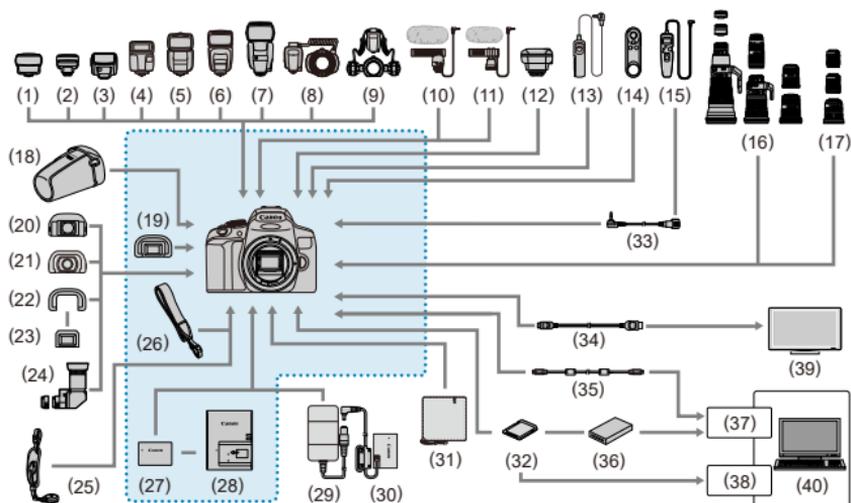
エラー表示

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。問題が解決しないときは、エラー番号（Err xx）を控えて、修理受付窓口へご相談ください。



- (1) エラー番号
- (2) 原因・対処方法

システム図



：主な付属品

- | | |
|------|--------------------------------|
| (1) | スピードライトトランスミッター ST-E2 |
| (2) | スピードライトトランスミッター ST-E3-RT |
| (3) | スピードライト 270EX II |
| (4) | スピードライト EL-100 |
| (5) | スピードライト 430EX III-RT/430EX III |
| (6) | スピードライト 470EX-AI |
| (7) | スピードライト 600EX II-RT |
| (8) | マクロリングライト MR-14EX II |
| (9) | マクロツインライト MT-26EX-RT |
| (10) | 指向性ステレオマイクロホン DM-E1 |
| (11) | ステレオマイクロホン DM-E100 |
| (12) | GPSレシーバー GP-E2*1 |
| (13) | リモートスイッチ RS-60E3 |
| (14) | ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 |
| (15) | タイマーリモートコントローラー TC-80N3 |
| (16) | EFレンズ |
| (17) | EF-Sレンズ |
| (18) | セミハードケース EH26-L/EH27-L |
| (19) | アイカップ*2 |
| (20) | アイピースエクステンダー EP-EX15 II |

- (21) マグニファイヤー MG-Ef
- (22) ラバーフレームEf
- (23) 視度補正レンズ E
- (24) アングルファインダー C
- (25) ハンドストラップ E2
- (26) ストラップ
- (27) バッテリーパック LP-E17
- (28) バッテリーチャージャー LC-E17
- (29) ACアダプター AC-E6N*3
- (30) DCカブラー DR-E18*3
- (31) プロテクティングクロス PC-E1/E2
- (32) SD/SDHC/SDXCメモリーカード
- (33) リモートコントローラーアダプター RA-E3*4
- (34) HDMIケーブル HTC-100 (約2.9m)
- (35) インターフェースケーブル IFC-600PCU (約1.0m) *5
- (36) カードリーダー
- (37) USBポート
- (38) カードスロット
- (39) テレビ/モニター
- (40) パソコン

* 1 : このカメラでは撮影方位を画像に付加できません。また、インターフェースケーブルでの接続には非対応です。

* 2 : アイカップEf (別売) も使用することができます。

* 3 : ACアダプターキット ACK-E18を使用することもできます。

* 4 : 使用できるリモコンはTC-80N3です。他のリモコンは使用できません。

* 5 : カメラ側の端子はUSB Micro-B、パソコン側の端子はUSB Type-Aです。

動画撮影時のISO感度

〈P〉モード時

- ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
- [P: カスタム機能(C.Fn)] の [2: ISO感度拡張] が [1: する] に設定 (☑) されているときは、[C: 'ISO感度に関する設定] の [オートの上限] で [H(25600)] を選択して、自動設定範囲の上限をH (ISO25600相当) まで拡張することができます (☑)。

〈M〉モード時

- ISO感度を [AUTO] に設定したときは、ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
- [P: カスタム機能(C.Fn)] の [2: ISO感度拡張] が [1: する] に設定 (☑) されているときは、ISOオート設定時に [C: 'ISO感度に関する設定] の [オートの上限] で [H(25600)] を選択して、自動設定範囲の上限をH (ISO25600相当) まで拡張することができます (☑)。
- 手動設定のときは、ISO100～12800の範囲で設定することができます。なお、[C: 'ISO感度に関する設定] の [オートの上限] を [H(25600)] に設定すると、手動設定範囲の上限がH (ISO25600相当) まで拡張されます (☑)。

⚠ 注意

- 4K動画撮影、4Kタイムラプス動画撮影では [H(25600)] は設定できません。

情報表示

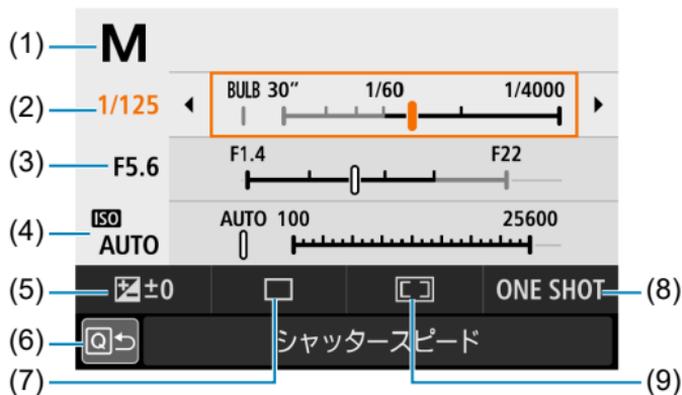
- [クイック設定画面 \(ファインダー撮影\)](#)
- [ライブビュー撮影画面](#)
- [動画撮影画面](#)
- [シーン判別アイコン一覧](#)
- [再生画面](#)

クイック設定画面（ファインダー撮影）

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。

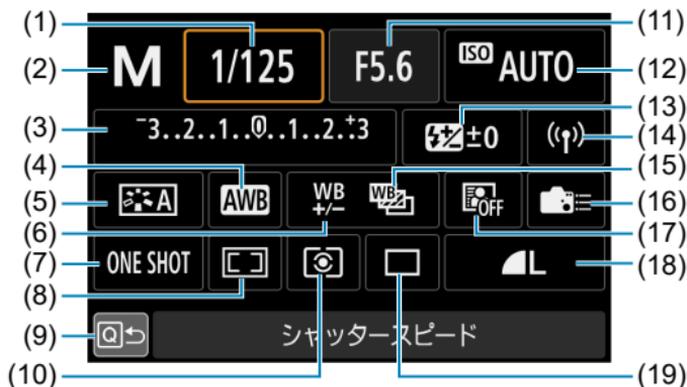
【📷：撮影画面表示：やさしい】設定時



- (1) 撮影モード*
- (2) シャッタースピード
- (3) 絞り数値
- (4) ISO感度
- (5) 露出補正
- (6) 戻る
- (7) ドライブモード
- (8) AF動作
- (9) 測距エリア選択モード

* クイック設定できません。

[📷] : 撮影画面表示 : 標準] 設定時



(1) シャッタースピード

(2) 撮影モード*

(3) 露出補正/AEB設定

(4) ホワイトバランス

(5) ピクチャースタイル

(6) WB補正

(7) AF動作

(8) 測距エリア選択モード

(9) 戻る

(10) 測光モード

(11) 絞り数値

(12) ISO感度

(13) 調光補正

(14) Wi-Fi/Bluetooth接続

(15) ホワイトバランスブラケティング

(16) 操作ボタン カスタマイズ

(17) オートライティング最適マイザ

(18) 記録画質

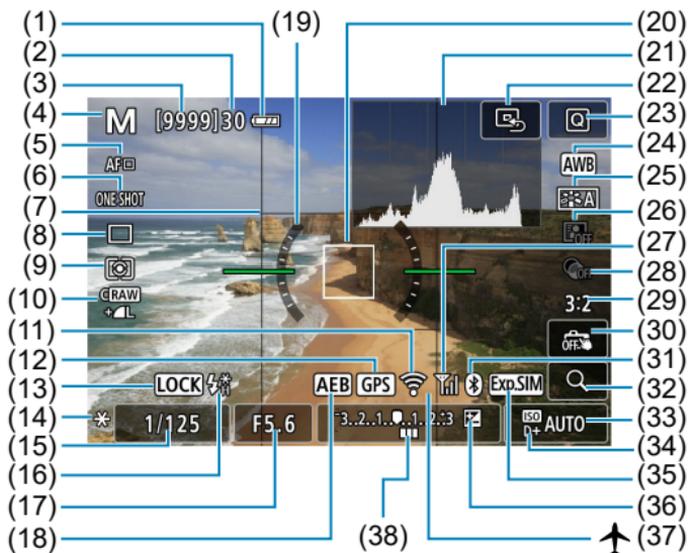
(19) ドライブモード

* クイック設定できません。

ライブビュー撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



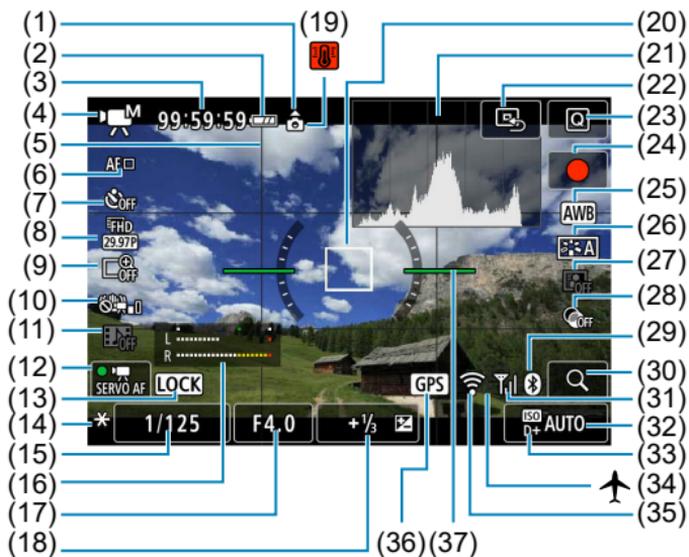
-
- (1) バッテリー残量
 - (2) 連続撮影可能枚数
 - (3) 撮影可能枚数/セルフタイマー撮影秒数
 - (4) 撮影モード/シーン判別アイコン
 - (5) AF方式
 - (6) AF動作
 - (7) グリッド
 - (8) ドライブモード
 - (9) 測光モード
 - (10) 記録画質
 - (11) Wi-Fi機能
 - (12) GPS受信状態
 - (13) マルチ電子ロック
 - (14) AEロック
 - (15) シャッタースピード/マルチ電子ロック警告
 - (16) ストロボ使用勧告(点滅)/ストロボ充電完了(点灯)/FEロック/ハイスピードシンクロ
 - (17) 絞り数値
 - (18) AEB撮影/FEB撮影
 - (19) 水準器
 - (20) AFフレーム(1点AF)
 - (21) ヒストグラム
 - (22) AFフレーム中央戻し
 - (23) クイック設定ボタン
 - (24) ホワイトバランス/WB補正
 - (25) ピクチャースタイル
 - (26) オートライティングオプティマイザ
 - (27) Wi-Fi電波強度
 - (28) クリエイティブフィルター
 - (29) 静止画アスペクト比
 - (30) タッチシャッター
 - (31) Bluetooth機能
 - (32) 拡大ボタン
 - (33) ISO感度
 - (34) 高輝度側・階調優先
 - (35) 露出シミュレーション
 - (36) 露出補正
 - (37) 機内モード
 - (38) 露出レベル表示
-

 参考

- 〈INFO〉 ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます (🔗)。
- [AF方式] が [📷+追尾優先AF] のときや、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



-
- (1) 動画の回転情報
 - (2) バッテリー残量
 - (3) 動画撮影可能時間／撮影経過時間
 - (4) 動画撮影モード
 - (5) グリッド
 - (6) AF方式
 - (7) 動画セルフタイマー
 - (8) 動画記録サイズ
 - (9) デジタルズーム
 - (10) 動画電子IS
 - (11) ビデオスナップ
 - (12) 動画サーボAF
 - (13) マルチ電子ロック
 - (14) AEロック
 - (15) シャッタースピード／マルチ電子ロック警告
 - (16) 録音レベルメーター（マニュアル／ライン入力）
 - (17) 絞り数値
 - (18) 露出補正
 - (19) 温度上昇警告
 - (20) AFフレーム（1点AF）
 - (21) ヒストグラム（マニュアル露出時）
 - (22) AFフレーム中央戻し
 - (23) クイック設定ボタン
 - (24) 動画撮影開始ボタン
 - (25) ホワイトバランス／WB補正
 - (26) ピクチャースタイル
 - (27) オートライティングオブティマイザ
 - (28) クリエイティブフィルター
 - (29) Bluetooth機能
 - (30) 拡大ボタン
 - (31) Wi-Fi電波強度
 - (32) ISO感度
 - (33) 高輝度側・階調優先
 - (34) 機内モード
 - (35) Wi-Fi機能
 - (36) GPS受信状態
 - (37) 水準器
-

注意

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます (🔗)。
- [AF方式] が [📷+追尾優先AF] のときや、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中に水準器、グリッド、ヒストグラムを表示することはできません (表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます)。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

参考

- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

シーン判別アイコン一覧

撮影モードが  のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。

背景	被写体		人物以外の被写体			背景色
	人物	人物	自然や屋外シーン	動いているとき*1	近いとき*2	
明るい						灰色
逆光						
青空を含む						水色
逆光						
夕景	*3				*3	オレンジ色
スポットライト						紺色
暗い						
三脚使用時*1	 *4*5	*3	 *4*5	*3		

* 1: 動画撮影中は表示されません。

* 2: 距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

* 3: 判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

注意

- シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

* 4: 下記の条件が揃ったときに表示されます。

「撮影シーンが暗いとき」「夜景撮影時」「三脚などでカメラを固定しているとき」

* 5: 下記のレンズを使用したときに表示されます。

- EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II
- EF-S55-250mm F4-5.6 IS II
- EF300mm F2.8L IS II USM
- EF400mm F2.8L IS II USM
- EF500mm F4L IS II USM
- EF600mm F4L IS II USM
- 2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ

* 4*5: *4と*5の条件がすべて揃ったときは、シャッタースピードが遅くなります。

静止画の簡易情報表示

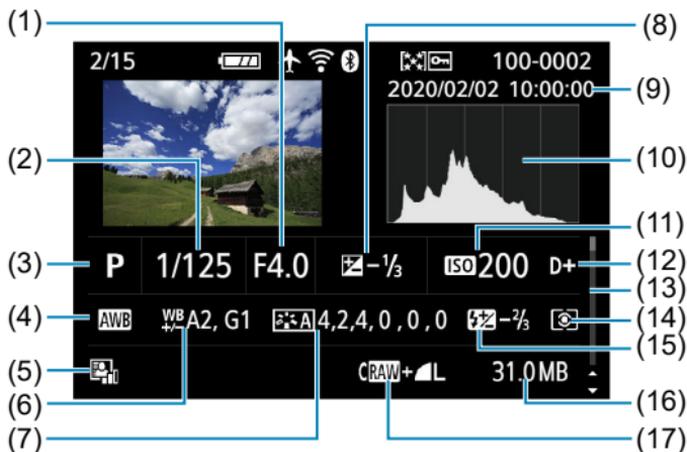


- | | |
|------|---------------------|
| (1) | Bluetooth機能 |
| (2) | Wi-Fi機能 |
| (3) | 機内モード |
| (4) | 再生番号／総記録画像数／検索結果画像数 |
| (5) | バッテリー残量 |
| (6) | シャッタースピード |
| (7) | 絞り数値 |
| (8) | 露出補正量 |
| (9) | レーティング |
| (10) | 画像プロテクト |
| (11) | フォルダ番号-画像番号 |
| (12) | 記録画質／画像加工済み／トリミング |
| (13) | 高輝度側・階調優先 |
| (14) | ISO感度 |

! 注意

- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

静止画の詳細情報表示



- | | |
|------|-------------------------------|
| (1) | 絞り数値 |
| (2) | シャッタースピード |
| (3) | 撮影モード |
| (4) | ホワイトバランス |
| (5) | オートライティング最適マイザ |
| (6) | ホワイトバランス補正量 |
| (7) | ピクチャースタイル/設定内容 |
| (8) | 露出補正量 |
| (9) | 撮影日時 |
| (10) | ヒストグラム (輝度/RGB) |
| (11) | ISO感度 |
| (12) | 高輝度側・階調優先 |
| (13) | スクロールバー |
| (14) | 測光モード |
| (15) | ストロボ調光補正量/バウンス/マルチショットノイズ低減機能 |
| (16) | ファイルサイズ |
| (17) | 記録画質/画像加工済み/トリミング |

* RAW+JPEGで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。

* RAW、RAW+JPEGの設定で、アスペクト比を設定して撮影した画像は、、撮影範囲が線で表示されます。

* トリミング情報が付加された画像は、撮影範囲を示す線が表示されます。

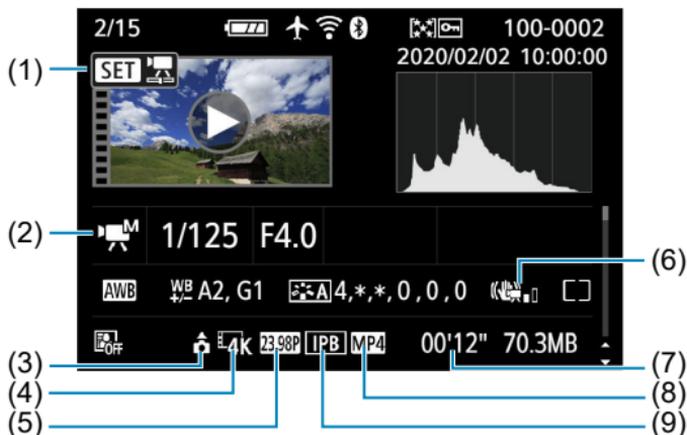
* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、が表示されます。

* バウンス撮影を行った画像は、が表示されます。

* クリエイティブフィルター機能で撮影した画像、RAW現像、リサイズ処理、トリミング、フレーム切り出しを行って保存した画像は、が表示されます。

* トリミングを行って保存した画像は、が表示されます。

動画の詳細情報表示



- (1) 動画再生
- (2) 動画撮影モード/タイムラプス動画/ビデオスナップ
- (3) 動画の回転情報
- (4) 画像サイズ
- (5) フレームレート
- (6) 動画電子IS
- (7) 記録時間
- (8) 動画記録形式
- (9) 動画圧縮方式

* 記載のない項目は静止画の簡易情報表示、静止画の詳細情報表示と共通のため、説明を省いています。

参考

- 動画再生時、[ピクチャースタイル] の [シャープネス] の [細かさ] [しきい値] は、「*、*」と表示されます。

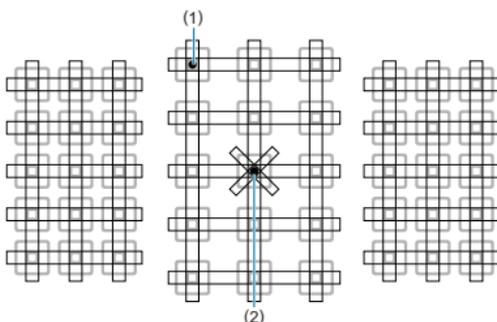
AFセンサーについて

このカメラのAFセンサーは、測距点を45点備えています。各測距点に対する測距センサーのパターンは、図に示すとおりです。開放絞り数値がF2.8までの明るいレンズを使用すると、ファインダー中央の測距点で高精度なAF測距を行うことができます。

注意

- 使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。詳しくは[使用レンズとAF測距（ファインダー撮影）](#)を参照してください。

概念図



- (1) クロス測距：F5.6縦+F5.6横
(一部F8にも対応)
- (2) デュアルクロス測距：F2.8右斜め+F2.8左斜め
F.5.6縦+F5.6横（F8にも対応）

×	開放絞り数値がF2.8までのレンズに対応した、より高精度なピント合わせを行うことができる測距センサーです。斜め配列でクロスしているため、ピントが合いにくい被写体が少なくなっています。中央測距点に配置されています。
	開放絞り数値がF5.6（一部F8）までのレンズに対応した測距センサーです。横配列になっているため、縦線を検出することができます。45点すべての測距点をカバーしています。
	開放絞り数値がF5.6（一部F8）までのレンズに対応した測距センサーです。縦配列になっているため、横線を検出することができます。45点すべての測距点をカバーしています。

使用レンズとAF測距（ファインダー撮影）

- [Aグループ](#)
- [Bグループ](#)
- [Cグループ](#)
- [Dグループ](#)
- [Eグループ](#)
- [Fグループ](#)
- [Gグループ](#)
- [Hグループ](#)
- [レンズのグループ属性](#)

⚠ 注意

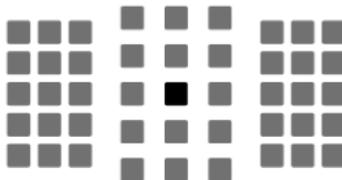
- このカメラは45点のAFフレーム（測距点）を備えていますが、使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なり、A～Hの8グループに分類されます。
- E～Hグループのレンズを使用したときは、測距点が少なくなります。
- [レンズのグループ属性](#)を[レンズのグループ属性](#)に記載しています。使用するレンズのグループ属性を確認してください。
- [静止画アスペクト比](#)の設定により、測距点数が変動します。

参考

- 〈〉または〈〉ボタンを押したときに、「」で示した位置のAFフレームが点滅します（「/」は点灯）。AFフレームの点灯/点滅については、[AFフレームの点灯/点滅](#)を参照してください。
- 「レンズのグループ属性」の最新情報は、キヤノンのホームページなどで確認してください。
- 国や地域によって販売されているレンズは異なります。

Aグループ

45点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



: デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。

: クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

Bグループ

45点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

Cグループ

45点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

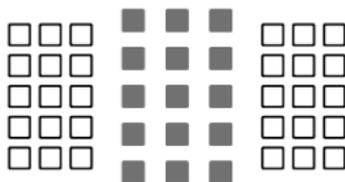


■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

Dグループ

45点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

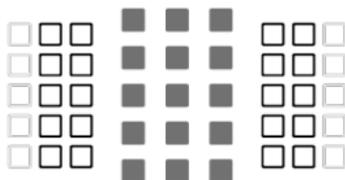


■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

Eグループ

35点でAF測距を行うことができます（45点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、45点自動選択AF時と異なります。



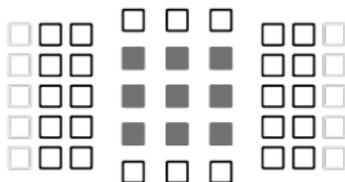
■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線を検出できる測距点です。

□：使用できません（非表示）。

Fグループ

35点でAF測距を行うことができます(45点測距はできません)。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠(エリアAFフレーム)は、45点自動選択AF時と異なります。



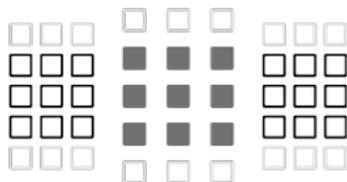
■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：縦線(上/下の横方向の測距点)、または横線(左/右の縦方向の測距点)を検出できる測距点です。

□：使用できません(非表示)。

Gグループ

27点でAF測距を行うことができます(45点測距はできません)。測距エリア選択モードのラージゾーンAF(ゾーン任意選択)は選べません。自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠(エリアAFフレーム)は、45点自動選択AF時と異なります。



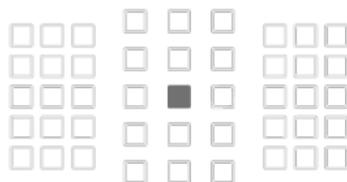
■: クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□: 横線を検出できる測距点です。

□: 使用できません(非表示)。

Hグループ

中央測距点でのみAF測距を行うことができます。



■: クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□: 使用できません(非表示)。

注意

- 開放絞り数値がF5.6よりも暗い(F5.6超~F8までの)ときは、コントラストの低い被写体や低輝度な被写体を撮影するときに、AFでピントが合わないことがあります。
- 開放絞り数値がF8よりも暗い(F8超の)ときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。

レンズのグループ属性

EF-S24mm F2.8 STM	A
EF-S35mm F2.8 Macro IS STM	B
EF-S60mm F2.8 Macro USM	B
EF-S10-18mm F4.5-5.6 IS STM	D
EF-S10-22mm F3.5-4.5 USM	B
EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USM	B
EF-S17-55mm F2.8 IS USM	A
EF-S17-85mm F4-5.6 IS USM	B
EF-S18-55mm F3.5-5.6	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 USM	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 II	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 II USM	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 III	B
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II	B
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS STM	B
EF-S18-55mm F4-5.6 IS STM	D
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS	B
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM	B
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STM	B
EF-S18-200mm F3.5-5.6 IS	B
EF-S55-250mm F4-5.6 IS	B
EF-S55-250mm F4-5.6 IS II	B
EF-S55-250mm F4-5.6 IS STM	B
EF14mm F2.8L USM	A
EF14mm F2.8L II USM	A
EF15mm F2.8 Fisheye	A
EF20mm F2.8 USM	A
EF24mm F1.4L USM	A

EF24mm F1.4L II USM	A
EF24mm F2.8	A
EF24mm F2.8 IS USM	A
EF28mm F1.8 USM	A
EF28mm F2.8	A
EF28mm F2.8 IS USM	A
EF35mm F1.4L USM	A
EF35mm F1.4L II USM	A
EF35mm F2	A
EF35mm F2 IS USM	A
EF40mm F2.8 STM	A
EF50mm F1.0L USM	A
EF50mm F1.2L USM	A
EF50mm F1.4 USM	A
EF50mm F1.8	A
EF50mm F1.8 II	A
EF50mm F1.8 STM	A
EF50mm F2.5 Compact Macro	B
EF50mm F2.5 Compact Macro + LIFE SIZE Converter	B
EF85mm F1.2L USM	A
EF85mm F1.2L II USM	A
EF85mm F1.4L IS USM	A
EF85mm F1.8 USM	A
EF100mm F2 USM	A
EF100mm F2.8 Macro	B
EF100mm F2.8 Macro USM	E
EF100mm F2.8L Macro IS USM	B
EF135mm F2L USM	A
EF135mm F2L USM + Extender EF1.4x I/II/III	A
EF135mm F2L USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF135mm F2.8 (Softfocus)	A
EF180mm F3.5L Macro USM	B
EF180mm F3.5L Macro USM + Extender EF1.4x I/II/III	F

EF200mm F1.8L USM	A
EF200mm F1.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	A※
EF200mm F1.8L USM + Extender EF2x I/II/III	B※
EF200mm F2L IS USM	A
EF200mm F2L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	A
EF200mm F2L IS USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF200mm F2.8L USM	A
EF200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF200mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF200mm F2.8L II USM	A
EF200mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF200mm F2.8L II USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF300mm F2.8L USM	A
EF300mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※
EF300mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	B※
EF300mm F2.8L IS USM	A
EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF300mm F2.8L IS II USM	A
EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF300mm F4L USM	B
EF300mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF300mm F4L USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF300mm F4L IS USM	B
EF300mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF300mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF400mm F2.8L USM	A
EF400mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※
EF400mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	B※
EF400mm F2.8L II USM	A
EF400mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※
EF400mm F2.8L II USM + Extender EF2x I/II/III	B※

EF400mm F2.8L IS USM	A
EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF400mm F2.8L IS II USM	A
EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF400mm F2.8L IS III USM	A
EF400mm F2.8L IS III USM + Extender EF1.4x	B
EF400mm F2.8L IS III USM + Extender EF1.4x II	B
EF400mm F2.8L IS III USM + Extender EF1.4x III	B
EF400mm F2.8L IS III USM + Extender EF2x	B
EF400mm F2.8L IS III USM + Extender EF2x II	B
EF400mm F2.8L IS III USM + Extender EF2x III	B
EF400mm F4 DO IS USM	B
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF400mm F4 DO IS II USM	B
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF400mm F5.6L USM	B
EF400mm F5.6L USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)
EF500mm F4L IS USM	B
EF500mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF500mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF500mm F4L IS II USM	B
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF500mm F4.5L USM	B
EF500mm F4.5L USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)※
EF600mm F4L USM	B
EF600mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※
EF600mm F4L USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)※
EF600mm F4L IS USM	B

EF600mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF600mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF600mm F4L IS II USM	B
EF600mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF600mm F4L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF600mm F4L IS III USM	B
EF600mm F4L IS III USM + Extender EF1.4x	B
EF600mm F4L IS III USM + Extender EF1.4x II	B
EF600mm F4L IS III USM + Extender EF1.4x III	B
EF600mm F4L IS III USM + Extender EF2x	H
EF600mm F4L IS III USM + Extender EF2x II	H
EF600mm F4L IS III USM + Extender EF2x III	H
EF800mm F5.6L IS USM	E
EF800mm F5.6L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)
EF1200mm F5.6L USM	E
EF1200mm F5.6L USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)※
EF8-15mm F4L Fisheye USM	B
EF11-24mm F4L USM	C
EF16-35mm F2.8L USM	A
EF16-35mm F2.8L II USM	A
EF16-35mm F2.8L III USM	A
EF16-35mm F4L IS USM	B
EF17-35mm F2.8L USM	A
EF17-40mm F4L USM	B
EF20-35mm F2.8L	A
EF20-35mm F3.5-4.5 USM	C
EF22-55mm F4-5.6 USM	F
EF24-70mm F2.8L USM	A
EF24-70mm F2.8L II USM	A
EF24-70mm F4L IS USM	B
EF24-85mm F3.5-4.5 USM	D
EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM	B
EF24-105mm F4L IS USM	B

EF24-105mm F4L IS II USM	B
EF28-70mm F2.8L USM	A
EF28-70mm F3.5-4.5	E
EF28-70mm F3.5-4.5 II	E
EF28-80mm F2.8-4L USM	B
EF28-80mm F3.5-5.6	E
EF28-80mm F3.5-5.6 USM	E
EF28-80mm F3.5-5.6 II	E
EF28-80mm F3.5-5.6 II USM	E
EF28-80mm F3.5-5.6 III USM	E
EF28-80mm F3.5-5.6 IV USM	E
EF28-80mm F3.5-5.6 V USM	E
EF28-90mm F4-5.6	B
EF28-90mm F4-5.6 USM	B
EF28-90mm F4-5.6 II	B
EF28-90mm F4-5.6 II USM	B
EF28-90mm F4-5.6 III	B
EF28-105mm F3.5-4.5 USM	B
EF28-105mm F3.5-4.5 II USM	B
EF28-105mm F4-5.6	F
EF28-105mm F4-5.6 USM	F
EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM	B
EF28-200mm F3.5-5.6	B
EF28-200mm F3.5-5.6 USM	B
EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM	B
EF35-70mm F3.5-4.5	E
EF35-70mm F3.5-4.5A	E
EF35-80mm F4-5.6	F
EF35-80mm F4-5.6 PZ	E
EF35-80mm F4-5.6 USM	F
EF35-80mm F4-5.6 II	E
EF35-80mm F4-5.6 III	F
EF35-105mm F3.5-4.5	B

EF35-105mm F4.5-5.6	H
EF35-105mm F4.5-5.6 USM	H
EF35-135mm F3.5-4.5	B
EF35-135mm F4-5.6 USM	C
EF35-350mm F3.5-5.6L USM	D
EF38-76mm F4.5-5.6	E
EF50-200mm F3.5-4.5	B
EF50-200mm F3.5-4.5L	B
EF55-200mm F4.5-5.6 USM	D
EF55-200mm F4.5-5.6 II USM	D
EF70-200mm F2.8L USM	A
EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※※
EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	B※※
EF70-200mm F2.8L IS USM	A
EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF70-200mm F2.8L IS II USM	A
EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF70-200mm F2.8L IS III USM	A
EF70-200mm F2.8L IS III USM + Extender EF1.4x	B
EF70-200mm F2.8L IS III USM + Extender EF1.4x II	B
EF70-200mm F2.8L IS III USM + Extender EF1.4x III	B
EF70-200mm F2.8L IS III USM + Extender EF2x	B
EF70-200mm F2.8L IS III USM + Extender EF2x II	B
EF70-200mm F2.8L IS III USM + Extender EF2x III	B
EF70-200mm F4L USM	B
EF70-200mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF70-200mm F4L USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF70-200mm F4L IS USM	B
EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF70-200mm F4L IS II USM	B

EF70-200mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x	B
EF70-200mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x II	B
EF70-200mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x III	B
EF70-200mm F4L IS II USM + Extender EF2x	H
EF70-200mm F4L IS II USM + Extender EF2x II	H
EF70-200mm F4L IS II USM + Extender EF2x III	H
EF70-210mm F3.5-4.5 USM	B
EF70-210mm F4	B
EF70-300mm F4-5.6 IS USM	B
EF70-300mm F4-5.6 IS II USM	B
EF70-300mm F4-5.6L IS USM	B
EF70-300mm F4.5-5.6 DO IS USM	B
EF75-300mm F4-5.6	B
EF75-300mm F4-5.6 USM	C
EF75-300mm F4-5.6 II	B
EF75-300mm F4-5.6 II USM	B
EF75-300mm F4-5.6 III	B
EF75-300mm F4-5.6 III USM	B
EF75-300mm F4-5.6 IS USM	B
EF80-200mm F2.8L	A
EF80-200mm F4.5-5.6	D
EF80-200mm F4.5-5.6 USM	E
EF80-200mm F4.5-5.6 II	E
EF90-300mm F4.5-5.6	D
EF90-300mm F4.5-5.6 USM	D
EF100-200mm F4.5A	B
EF100-300mm F4.5-5.6 USM	C
EF100-300mm F5.6	B
EF100-300mm F5.6L	B
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM	B
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM	B
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM + Extender EF1.4x I/II	H (F8)

EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM + Extender EF1.4x III	G (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x	B
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x	B
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF2x I/II	H (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF2x III	G (F8)
TS-E17mm F4L	B
TS-E24mm F3.5L	B
TS-E24mm F3.5L II	B
TS-E45mm F2.8	A
TS-E50mm F2.8L Macro	B
TS-E90mm F2.8	A
TS-E90mm F2.8L Macro	B
TS-E135mm F4L Macro	B

注意

- EF180mm F3.5L Macro USMにExtender EF2x (I/II/III型) を装着したときは、AFを行うことはできません。
- 表内に「※」が付いたレンズとExtender EF1.4x III/EF2x IIIの組み合わせのときや、「※※」が付いたレンズとエクステンダーの組み合わせのときは、AFでピントが正確に合わないことがあります。そのときは、使用するレンズやエクステンダーの使用説明書を参照してください。

参考

- TS-Eレンズ使用時は手動ピント合わせになります。グループ分類はティルト/シフトなしの条件です。

主な仕様

形式

型式：デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ

レンズマウント：キヤノンEFマウント

使用レンズ：キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズ含む、EF-Mレンズ除く）

レンズ焦点距離：レンズ表記焦点距離の約1.6倍に相当

撮像素子

型式：CMOSセンサー

画面サイズ	約22.3 × 14.9mm
カメラ部有効画素数*	約2410万画素
デュアルピクセルCMOS AF	対応

* 1万の位を四捨五入

記録方式

記録画像形式：DCF2.0、Exif2.31*に準拠

* 時差情報に対応

記録画像タイプと拡張子

記録画像タイプ		拡張子
静止画	JPEG	JPG
	RAW	CR3
	C-RAW	

静止画記録

静止画・記録画像タイプ

記録画質		記録画素数 (画素)
JPEG	 L /  L	2400万 (6000 × 4000)
	 M /  M	約1060万 (3984 × 2656)
	 S1 /  S1	約590万 (2976 × 1984)
	S2	約380万 (2400 × 1600)
RAW	 RAW /  CRAW	2400万 (6000 × 4000)

静止画・記録画素数

記録画質	記録画素数			
	アスペクト比			
	3:2	4:3	16:9	1:1
 L /  L	2400万 (6000×4000)	約2130万* (5328×4000)	約2020万* (6000×3368)	1600万 (4000×4000)
 M /  M	約1060万 (3984×2656)	約950万 (3552×2664)	約890万* (3984×2240)	約710万 (2656×2656)
 S1 /  S1	約590万 (2976×1984)	約530万 (2656×1992)	約500万* (2976×1680)	約390万 (1984×1984)
S2	約380万 (2400×1600)	約340万* (2112×1600)	約320万* (2400×1344)	約260万 (1600×1600)
 RAW /  CRAW	2400万 (6000×4000)			

* 記録画素数は、1万の位を四捨五入した値

* JPEGは、設定したアスペクト比の画像を生成

* RAW/C-RAWは、[3:2]の画像を生成し、設定したアスペクト比情報を画像に付加

* 「*」印の付いた画像サイズは、正確な比率にならない

* リサイズ処理時も、上記アスペクト比 (M、S1、S2) と画素数が適用される

静止画・ファイルサイズ/撮影可能枚数/連続撮影可能枚数

記録画質	ファイルサイズ (約・MB)	撮影可能枚数 (約・枚)*1	連続撮影可能枚数 (約・枚)*1
 L	8.4	3600	170
 L	4.5	6610	170
 M	4.6	6480	167
 M	2.6	11400	167
 S1	3.1	9690	163
 S1	1.8	16010	163
S2	1.8	16340	164
RAW	27.2	1120	40
CRAW	15.8	1930	75
RAW +  L	35.6	850	35
CRAW +  L	24.2	1250	57

* 1:撮影可能枚数、連続撮影可能枚数（標準）は、キヤノン試験基準UHS-I対応32GBカード使用時の枚数、ファインダー撮影時

* ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、撮影条件（被写体、メモリーカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能など）により異なる

動画記録

動画・記録形式：MP4

記録時間と映像ビットレート、ファイルサイズの目安

動画記録サイズ			カードごとの総記録時間（約）			映像ビットレート ファイルサイズ
			8GB	32GB	128GB	
4K UHD	23.98fps 25.00fps	IPB（標準）	8分	35分	2時間21分	約120Mbps 約861MB/分
フルHD	59.94fps 50.00fps	IPB（標準）	17分	1時間10分	4時間43分	約60Mbps 約432MB/分
	29.97fps 23.98fps 25.00fps	IPB（標準）	35分	2時間20分	9時間23分	約30Mbps 約217MB/分
	29.97fps 25.00fps	IPB（軽量）	1時間26分	5時間47分	23時間11分	約12Mbps 約88MB/分
HD	59.94fps 50.00fps	IPB（標準）	40分	2時間42分	10時間49分	約26Mbps 約188MB/分

動画記録の注意事項

- * ビットレートの数値は、映像のみで、音声は含まない
- * ファイルサイズ・時間は映像 + 音声の数値
- * ：動画電子IS を [しない] に設定時
- * 記録時間が29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了する

要求カード性能

動画記録サイズ			要求カード性能
4K UHD	23.98fps / 25.00fps	IPB（標準）	UHS-I/UHSスピードクラス3以上
フルHD	59.94fps / 50.00fps	IPB（標準）	SDスピードクラス10以上
	29.97fps / 23.98fps / 25.00fps	IPB（標準）	SDスピードクラス6以上
	29.97fps / 25.00fps	IPB（軽量）	SDスピードクラス4以上
HD	59.94fps / 50.00fps	IPB（標準）	SDスピードクラス4以上
4K UHDタイムラプス動画	29.97fps / 25.00fps	ALL-I	読み出し速度が40MB/秒以上のカード
フルHDタイムラプス動画	29.97fps / 25.00fps	ALL-I	読み出し速度が20MB/秒以上のカード

- * ：動画電子IS を [しない] に設定時

録音マイク

内蔵マイク：ステレオマイク

外部マイク端子：Φ3.5mmステレオミニジャック

記録メディア

記録媒体：SD、SDHC、SDXCメモリーカード

SDスピードクラス	対応
UHSスピードクラス	対応
UHS-I	対応 * 高速書き込みに対応

ファインダー

型式：ペンタダハミラー使用、アイレベル式一眼レフレックスタイプ

フォーカシングスクリーン：固定式

視野率：上下/左右：約95%

* アイポイント：約19mm

* 使用レンズ：EF50mm F1.8 STM

倍率/視野角：約0.82倍/約23.2°

* 使用レンズ：EF50mm F1.8 STM・∞

* 視度： -1m^{-1}

視度調整範囲：約 $-3.0\sim+1.0\text{m}^{-1}$ (dpt)

アイポイント：約19mm (視度： -1m^{-1} 時/接眼レンズ最後尾から)

モニター

型式：TFT式カラー液晶モニター

画面サイズ：3.0型 (3:2)

ドット数：約104万ドット

視野角：上下/左右ともに約170°

輝度調整：7段階に調整可能

タッチパネル検出方式：静電容量方式

HDMI

HDMI映像/音声出力：HDMIミニ出力端子 (タイプC) /CEC非対応

HDMI出力解像度：自動/1080p

光学ファインダー撮影（静止画）のオートフォーカス

フォーカス方式：専用AFセンサーによるTTL二次結像位相差検出方式

フォーカス動作

オートフォーカス	ワンショットAF
	AIフォーカスAF *ワンショットAF/AIサーボAF自動切り換え
	AIサーボAF
手動ピント合わせ	対応

ライブビュー撮影（静止画）・動画撮影のオートフォーカス

項目	ライブビュー撮影（静止画）	動画撮影
焦点検出方式	デュアルピクセルCMOS AF方式	<ul style="list-style-type: none">デュアルピクセルCMOS AF方式コントラスト検出方式* * 4K UHD動画・4K UHDタイムラプス動画撮影時
測距エリア	約88%（横）× 100%（縦） 約80%（横）× 80%（縦） *使用するレンズにより異なる	約88%（横）× 100%（縦） 約80%（横）× 95%（縦） *使用するレンズにより異なる
自動選択時AF エリア分割数	最大143分割	最大117分割
AFフレーム選択可能ポジション	最大3975ポジション	最大3375ポジション
瞳AF	可能	可能
測距輝度範囲	EV- 4～18（中央測距点） *常温・F1.2・ISO100・ワンショットAF	EV -2～18（中央測距点） *常温・F1.2・ISO100・ワンショットAF * 23.98fps時

露出制御

各撮影状態の測光機能

項目	静止画撮影		動画撮影
	光学ファインダー	ライブビュー	
測光方式	約22万画素RGB+IR測光センサーによる216分割 (18 × 12) TTL開放測光	撮像素子の出力信号による384分割 (24 × 16) 測光	
評価測光	可能		可能 * [L]+追尾優先AFで顔認識時
部分測光	可能：画面の約6.5%	可能：画面の約5.8%	-
スポット測光	可能：画面の約2.0%	可能：画面の約2.9%	-
中央部重点平均測光	可能		可能 * 顔認識していないとき
測光輝度範囲 * 常温・ISO100	EV 1~20	EV -2~20	EV 0~20

各撮影状態の露出制御（応用撮影ゾーン）

項目	静止画撮影	動画撮影
シャッタースピード	1/4000~30秒、バルブ	1/4000~1/8秒
ISO感度（推奨露光指数）	ISO100*1~25600*2 (1/3段ステップ)	<ul style="list-style-type: none"> 4K UHD：ISO100*1~6400 (1/3段ステップ) フルHD/HD：ISO100~12800*3 (1/3段ステップ)
ISOオート（推奨露光指数）	<ul style="list-style-type: none"> ストロボ非発光：ISO100*1~25600*4 ストロボ発光：ISO100*1~1600*4*5 バルブ撮影：ISO400 	<ul style="list-style-type: none"> 4K UHD：ISO100*1~6400 フルHD/HD：ISO100*1~12800*3*4*6
ISOオートの上限定	ISO400~25600 (1段ステップ)	ISO6400~12800*3 (1段ステップ)

* 1: [📷: 高輝度側・階調優先] を [する] [強] に設定時: ISO200

* 2: [🔧: カスタム機能(C.Fn)] の [2: ISO感度拡張] を [1: する] に設定時: H (ISO51200相当)

* 3: [🔧: カスタム機能(C.Fn)] の [2: ISO感度拡張] を [1: する] に設定時: H (ISO25600相当)

* 4: [オートの上限定] の設定による

* 5: E-TTL ISOオート上限可変制御によって設定したISO感度より上限が低くなる場合がある。

* 6: デジタルズーム設定時: ISO6400

内蔵ストロボ

型式：ペンタ部内蔵リトラクタブル式ストロボ

リトラクタブル方法：手動

ガイドナンバー：GNo. 約12 (ISO100・m) / 39.4 (ISO100・feet)

外部ストロボ

シンクロ接点：アクセサリシュー部：X接点

* 最高同調シャッタースピード：1/200秒

発光モード：E-TTL II自動調光

ドライブ

ドライブモードと連続撮影速度

ドライブモード	ファインダー撮影	ライブビュー撮影
1枚撮影	○	
高速連続撮影*1	最高約7.0コマ/秒	最高約7.5コマ/秒
低速連続撮影	最高約3.0コマ/秒	最高約3.0コマ/秒
セルフタイマー：10秒/リモコン*2	○ (BR-E1：対応/RC-6：非対応)	
セルフタイマー：2秒/リモコン*2	○ (BR-E1：対応)	
セルフタイマー：連続撮影	○ (2~10コマ)	

* 1:シャッタースピード：1/1000秒以上、使用レンズ：EF50mm F1.8 STM、絞り：開放、フル充電のバッテリーパックLP-E17使用、常温（+23°C）の条件

* 2:BR-E1接続時のみリモコン [] を表示する

再生機能

項目	静止画	動画
拡大表示	1.5~10倍 *ダブルタップ操作が可能	-
AFフレーム表示	可能	-
ハイライト警告表示	可能 *詳細情報表示のみ	
レーティング	OFF/★~★★★★★ 画像を選択/範囲指定/フォルダ内・全画像/カード内・全画像	
画像検索	検索条件：レーティング/日付/フォルダ/プロテクト画像/ファイルの種類	
プロテクト	画像を選択/範囲指定/フォルダ内・全画像/フォルダ内・全解除/カード内・全画像/カード内・全解除	
カメラ内RAW現像	可能	-
リサイズ	可能	-
トリミング	可能	-

印刷指定 (DPOF)

方式：DPOF Version 1.1準拠

カスタマイズ機能 (C.Fn)

カスタムファンクション：14種類を設定可能

外部インターフェース

デジタル端子

端子形状	Micro-B
通信	Hi-Speed USB (USB2.0)
用途	パソコン通信用

HDMIミニ出力端子：タイプC（解像度自動切り換え）

外部マイク入力端子：Φ3.5mmステレオミニプラグ対応

リモコン端子：リモートスイッチRS-60E3対応端子

電源関連

使用電池：バッテリーパックLP-E17、1個使用

AC電源

ACアダプター	AC-E6N
DCカプラー	DR-E18

撮影可能枚数

撮影方法	温度	撮影条件	
		AE : 100%	AE : 50%/FA : 50% * CIPA試験基準
ファインダー撮影	+23°C	約1240枚	約800枚
	0°C	約1120枚	約730枚
ライブビュー撮影	+23°C	約360枚	約310枚
	0°C	約330枚	約290枚

* フル充電のLP-E17使用時

動画撮影可能時間

使用条件		温度	動作可能時間	
動画撮影可能時間	4K UHD、23.98fps、IPB（標準）	+23°C	約1時間45分	
		+23°C	約2時間30分	
	フルHD、29.97fps、IPB（標準）	0°C	約2時間20分	
タイムラプス動画撮影可能時間	フルHD 撮影間隔：5秒	モニター：点灯	+23°C	約2時間30分
		モニター：消灯	+23°C	約2時間50分

* フル充電のLP-E17使用時

バッテリー情報

バッテリー残容量	4段階表示
劣化度	3段階表示

Wi-Fi

準拠規格

Wi-Fi準拠規格	伝送方式
IEEE802.11b	DS-SS変調方式
IEEE802.11g	OFDM変調方式
IEEE802.11n	

送信周波数（中心周波数）

周波数	2412～2462MHz
チャンネル	1～11ch

接続方式と認証方式、データ暗号化方式

接続方式	認証方式	暗号化
カメラアクセスポイント	WPA2-PSK	AES
	オープン	しない
インフラストラクチャー	オープン	WEP
		しない
	共有キー	WEP
	WPA-PSK	TKIP AES
WPA2-PSK		

Bluetooth

準拠規格 : Bluetooth Specification Version 4.1準拠（Bluetooth low energy技術）

伝送方式 : GFSK変調方式

大きさ・質量

大きさ	約131.0 (幅) × 102.6 (高さ) × 76.2 (奥行) mm
質量	約515g (バッテリー、カードを含む) / 約471g (本体のみ)

動作環境

使用可能温度	0～+40°C
使用可能湿度	85%以下

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、質量はCIPAガイドラインによります (カメラ本体のみの質量を除く)。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標・ライセンスについて

- [☑ 商標について](#)
- [☑ MPEG-4使用許諾について](#)
- [☑ アクセサリーについて](#)
- [☑ 修理対応について](#)

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- App Store、macOSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Google PlayおよびAndroidはGoogle LLCの商標です。
- IOSは、Ciscoの米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- QRコードは、株式会社デンソーウェブの商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、(社) 電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

* DCFは、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された(社) 電子情報技術産業協会 (JEITA) の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.mpegla.com)

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーについて

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

❗ 注意

- バッテリーパック LP-E17は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。